対馬市告示第42号

平成18年第3回対馬市議会定例会を次のとおり招集する

平成18年9月12日

市長 松村 良幸

1 期 日 平成18年9月19日

2 場 所 対馬市議会議場

開会日に応招した議員

小西 明範君	永留 邦次君
小宮 教義君	阿比留光雄君
三山 幸男君	小宮 政利君
初村 久藏君	吉見 優子君
糸瀬 一彦君	桐谷 徹君
宮原 五男君	大浦 孝司君
小川 廣康君	大部 初幸君
兵頭 榮君	上野洋次郎君
作元 義文君	黒岩 美俊君
島居 邦嗣君	武本 哲勇君
中原 康博君	桐谷 正義君
扇 作工門君	畑島 孝吉君
波田 政和君	

9月20日に応招した議員

9月21日に応招した議員

9月28日に応招した議員

9月19日に応招しなかった議員

平間 利光君

9月20日に応招しなかった議員

平間 利光君

9月21日に応招しなかった議員

小宮 政利君

桐谷 徹君

平間 利光君

9月28日に応招しなかった議員

平間 利光君

平成18年 第3回 対馬市議会定例会会議録(第1日)

平成18年9月19日(火曜日)

議事日程(第1号)

平成18年9月19日 午前10時00分開会

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 議長の諸般の報告
- 日程第4 市長の行政報告
- 日程第5 随時監査(工事監査)における結果報告
- 日程第6 産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告
- 日程第7 総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告
- 日程第8 イノシシ等被害対策特別委員会の閉会中の調査報告
- 日程第9 陳情第4号 市有地貸付反対陳情について(厚生常任委員会に付託された閉会中の継続審査報告)
- 日程第10 報告第5号 平成17事業年度長崎県市町村土地開発公社経営状況報告について
- 日程第11 報告第6号 平成17事業年度財団法人厳原愛育会経営状況報告について
- 日程第12 報告第7号 平成17事業年度株式会社まちづくり厳原経営状況報告について
- 日程第13 報告第8号 平成17事業年度財団法人美津島町振興公社経営状況報告について
- 日程第14 報告第9号 平成17事業年度株式会社対馬物産開発経営状況報告について
- 日程第15 報告第10号 平成17事業年度財団法人美津島町担い手公社経営状況報告について
- 日程第16 報告第11号 平成17事業年度財団法人豊玉町振興公社経営状況報告について
- 日程第17 報告第12号 平成17事業年度財団法人峰町総合開発公社経営状況報告について

- 日程第18 報告第13号 平成17事業年度財団法人上県町産業開発公社経営状況報告について
- 日程第19 報告第14号 平成17事業年度財団法人上対馬町振興公社経営状況報告について
- 日程第20 報告第15号 平成17事業年度株式会社カミレイ経営状況報告について
- 日程第21 報告第16号 平成17事業年度株式会社対馬国際ライン経営状況報告について
- 日程第22 認定第1号 平成17年度対馬市一般会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第23 認定第2号 平成17年度対馬市診療所特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第24 認定第3号 平成17年度対馬市公共用地先行取得特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第25 認定第4号 平成17年度対馬市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第26 認定第5号 平成17年度対馬市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第27 認定第6号 平成17年度対馬市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第28 認定第7号 平成17年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第29 認定第8号 平成17年度対馬市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第30 認定第9号 平成17年度対馬市集落排水処理施設特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第31 認定第10号 平成17年度対馬市旅客定期航路事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第32 認定第11号 平成17年度対馬市風力発電事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第33 認定第12号 平成17年度対馬市水道事業会計決算の認定について
- 日程第34 認定第13号 平成17年度長崎県市町村議会議員公務災害補償等組合会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第35 議案第112号 平成18年度対馬市一般会計補正予算(第3号)

- 日程第36 議案第113号 平成18年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）
- 日程第37 議案第114号 平成18年度対馬市老人保健特別会計補正予算（第1号）
- 日程第38 議案第115号 平成18年度対馬市介護保険特別会計補正予算（第1号）
- 日程第39 議案第116号 平成18年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第1号）
- 日程第40 議案第117号 平成18年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）
- 日程第41 議案第118号 平成18年度対馬市水道事業会計補正予算（第1号）
- 日程第42 議案第119号 対馬市厳原自動車教習場条例の一部を改正する条例について
- 日程第43 議案第120号 対馬市地域審議会の設置に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第44 議案第121号 対馬市国民健康保険条例の一部を改正する条例について
- 日程第45 議案第122号 対馬市消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第46 議案第123号 対馬市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定について
- 日程第47 議案第124号 対馬市支援費支給条例の廃止について
- 日程第48 議案第125号 辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について
- 日程第49 議案第126号 財産の取得について
- 日程第50 議案第127号 対馬市交流センター駐車場の指定管理者の指定について
- 日程第51 議案第128号 あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（久田地区）
- 日程第52 議案第129号 漁港区域内公有水面の埋立てについて（鴨居瀬漁港）
- 日程第53 請願第2号 厳原測候所を存続させ、機能拡充を求める請願について
- 日程第54 陳情第8号 「集配局の廃止再編計画に反対する意見書」採択に関する陳情について
- 日程第55 陳情第9号 じん肺根絶を国に求める意見書の提出に関する陳情について
- 日程第56 陳情第10号 対馬沿岸および浅茅湾内の地先において外国人が夜間釣りをする事を禁止する陳情について

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 議長の諸般の報告
- 日程第4 市長の行政報告
- 日程第5 随時監査（工事監査）における結果報告
- 日程第6 産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告
- 日程第7 総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告
- 日程第8 イノシシ等被害対策特別委員会の閉会中の調査報告
- 日程第9 陳情第4号 市有地貸付反対陳情について（厚生常任委員会に付託された閉会中の継続審査報告）
- 日程第10 報告第5号 平成17事業年度長崎県市町村土地開発公社経営状況報告について
- 日程第11 報告第6号 平成17事業年度財団法人厳原愛育会経営状況報告について
- 日程第12 報告第7号 平成17事業年度株式会社まちづくり厳原経営状況報告について
- 日程第13 報告第8号 平成17事業年度財団法人美津島町振興公社経営状況報告について
- 日程第14 報告第9号 平成17事業年度株式会社対馬物産開発公社経営状況報告について
- 日程第15 報告第10号 平成17事業年度財団法人美津島町担い手公社経営状況報告について
- 日程第16 報告第11号 平成17事業年度財団法人豊玉町振興公社経営状況報告について
- 日程第17 報告第12号 平成17事業年度財団法人峰町総合開発公社経営状況報告について
- 日程第18 報告第13号 平成17事業年度財団法人上県町産業開発公社経営状況報告について
- 日程第19 報告第14号 平成17事業年度財団法人上対馬町振興公社経営状況報告について

- 日程第20 報告第15号 平成17事業年度株式会社カミレイ経営状況報告について
- 日程第21 報告第16号 平成17事業年度株式会社対馬国際ライン経営状況報告について
- 日程第22 認定第1号 平成17年度対馬市一般会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第23 認定第2号 平成17年度対馬市診療所特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第24 認定第3号 平成17年度対馬市公共用地先行取得特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第25 認定第4号 平成17年度対馬市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第26 認定第5号 平成17年度対馬市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第27 認定第6号 平成17年度対馬市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第28 認定第7号 平成17年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第29 認定第8号 平成17年度対馬市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第30 認定第9号 平成17年度対馬市集落排水処理施設特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第31 認定第10号 平成17年度対馬市旅客定期航路事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第32 認定第11号 平成17年度対馬市風力発電事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第33 認定第12号 平成17年度対馬市水道事業会計決算の認定について
- 日程第34 認定第13号 平成17年度長崎県市町村議会議員公務災害補償等組合会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第35 議案第112号 平成18年度対馬市一般会計補正予算(第3号)
- 日程第36 議案第113号 平成18年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)
- 日程第37 議案第114号 平成18年度対馬市老人保健特別会計補正予算(第1号)
- 日程第38 議案第115号 平成18年度対馬市介護保険特別会計補正予算(第1号)

- 日程第39 議案第116号 平成18年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計補正予算(第1号)
- 日程第40 議案第117号 平成18年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)
- 日程第41 議案第118号 平成18年度対馬市水道事業会計補正予算(第1号)
- 日程第42 議案第119号 対馬市厳原自動車教習場条例の一部を改正する条例について
- 日程第43 議案第120号 対馬市地域審議会の設置に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第44 議案第121号 対馬市国民健康保険条例の一部を改正する条例について
- 日程第45 議案第122号 対馬市消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第46 議案第123号 対馬市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定について
- 日程第47 議案第124号 対馬市支援費支給条例の廃止について
- 日程第48 議案第125号 辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について
- 日程第49 議案第126号 財産の取得について
- 日程第50 議案第127号 対馬市交流センター駐車場の指定管理者の指定について
- 日程第51 議案第128号 あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について(久田地区)
- 日程第52 議案第129号 漁港区域内公有水面の埋立てについて(鴨居瀬漁港)
- 日程第53 請願第2号 厳原測候所を存続させ、機能拡充を求める請願について
- 日程第54 陳情第8号 「集配局の廃止再編計画に反対する意見書」採択に関する陳情について
- 日程第55 陳情第9号 じん肺根絶を国に求める意見書の提出に関する陳情について
- 日程第56 陳情第10号 対馬沿岸および浅茅湾内の地先において外国人が夜間釣りをする事を禁止する陳情について

出席議員(25名)

1番 小西 明範君	2番 永留 邦次君
3番 小宮 教義君	4番 阿比留光雄君

5番 三山 幸男君	6番 小宮 政利君
7番 初村 久藏君	8番 吉見 優子君
9番 糸瀬 一彦君	10番 桐谷 徹君
11番 宮原 五男君	12番 大浦 孝司君
13番 小川 廣康君	14番 大部 初幸君
15番 兵頭 榮君	16番 上野洋次郎君
17番 作元 義文君	18番 黒岩 美俊君
19番 島居 邦嗣君	20番 武本 哲勇君
21番 中原 康博君	22番 桐谷 正義君
24番 扇 作工門君	25番 畑島 孝吉君
26番 波田 政和君	

欠席議員（1名）

23番 平間 利光君

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	大浦 義光君	次長	永留 徳光君
参事兼課長補佐	豊田 充君	副参事兼係長	三原 立也君

説明のため出席した者の職氏名

市長	松村 良幸君
助役	永尾一二三君
総務部長	中島 均君
政策部長	松原 敬行君
市民生活部長	山田 幸男君
福祉課長	阿比留保則君
保健部長	阿比留輝雄君
農林水産部長	神宮 忠彌君
建設部長	清水 達明君
観光商工部長	長 信義君

水道局長	齊藤 清榮君
総務部次長	齊藤 勝行君
教育長	米田 幸人君
教育次長	日高 一夫君
美津島支所長	松村 善彦君
豊玉支所長	松井 雅美君
峰支所長	阿比留博幸君
上県支所長	山本 輝昭君
上対馬支所長	梅野 茂希君
消防長	阿比留仁志君
代表監査委員	中島 孝欣君
監査委員事務局長	阿比留博文君
農業委員会事務局長	瀬崎万壽喜君

午前10時00分開会

議長（波田 政和君） おはようございます。報告いたします。平間利光君より欠席の申し出が
あっております。

ただいまから平成18年第3回対馬市議会定例会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。

・ ・

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（波田 政和君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第81条の規定により、兵頭榮君及び上野洋次郎君を指名します。

・ ・

日程第2．会期の決定

議長（波田 政和君） 日程2、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、お手元に配付しておりますとおり、会期の日程表どおり、
本日から9月28日までの10日間とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、本定例会の会期は、本日から9月
28日までの10日間に決定しました。

・ ・

日程第3．議長の諸般の報告

議長（波田 政和君） 日程第3、議長の諸般の報告を行います。

諸般の報告は、お手元に配付のとおりであります。

以上で諸般の報告を終わります。

日程第4．市長の行政報告

議長（波田 政和君） 日程第4、市長の行政報告を行います。

市長から行政報告の申し出がありましたので、これを許します。市長、松村良幸君。

市長（松村 良幸君） おはようございます。本日、ここに平成18年第3回対馬市議会定例会を招集いたしましたところ、議員諸兄におかれましては御健勝にて御参会をいただき、厚くお礼を申し上げます。

本定例会におきまして御審議願います案件は、報告案件12件、認定案件13件、平成18年度一般会計補正予算等7件、条例の制定及び一部改正案等6件、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画等5件など、合わせて43件の議案につきまして御審議をお願いするものであります。

議案の内容につきましては、後ほど担当部長等に説明をさせたいと存じますので、何とぞよろしく御審議を賜りまして、適正なる御決定をいただきますようお願いを申し上げます。

なお、6月定例会以降の主な事項について、概略御報告申し上げたいと思います。

まず初めに、「対馬・福岡間の航路運賃の改定」についてであります。

去る6月22日、九州郵船の竹永社長、龍造寺常務が来庁され、一昨年からの原油価格の高騰による燃料費の増加、加えて旅客の減少や公共事業の削減によります物流の停滞に伴う収入減により、フェリー、あるいはジェットfoilに係るすべての航路運賃を上限で20%程度値上げをしたい旨の申し入れがっております。

運賃値上げは、平成18年11月より行いたいとの意向であります、九州運輸局と協議中であり、まとめ次第、九州郵船から市に対して再度申し入れがある予定であります。

市といたしましても、九州郵船に対しまして、市民の皆様へのサービス・利便性向上について申し入れるなど、今後も引き続き協議を進めてまいりたいと思います。

2点目は、「対馬クリーンセンター・最終処分場の雨水の流出」についてであります。

対馬クリーンセンター・最終処分場の雨水は、中間堰下部の埋め立て部分については、焼却施設で再利用水として利用いたしまして、中間堰上部については、放流することで当初計画がなされていましたが、平成17年に台風が多く発生いたしましたことはもう御承知のとおりでありまして、集中的豪雨があったために、中間堰下部の雨水が「堰」を越えまして、中間堰上部に流れ込み、雨水を放流できなくなりました。そのため、最終処分場の全体に降った雨を受けてしまい

まして、計画処理量より雨量が多くなりまして、水位が上昇する結果を呈しております。

平成18年の梅雨を迎える前に、蒸発処理設備を導入して水位を下げていく計画でありましたが、梅雨に入ったことと台風が重なりまして、降雨量が膨大になったため、7月4日、最終処分場の雨水が流出していくという事態が発生いたしました。

こういった事態を踏まえ、直ちに安神地区と協議の上、緊急対策といたしまして、雨水が漏水しないように「土のう積み工事」を行いまして、安神湾内等の3カ所の水質検査を住民の皆さん立ち会いのもと実施をしたところ、「異常なし」との結果が出ております。

現在、焼却施設に冷却塔を増設いたしまして、蒸発処理をする方法と最終処分場の防水シートを張った方面へ雨水を流し込むと、こういった蒸発面積をふやす方法で処理をいたしているところであります。

3点目は、「対馬・福岡航空路線10月以降の運航計画」についてであります。

対馬・福岡間の使用機材の件でございますが、7月19日付で、全日本空輸株式会社より、平成18年10月から平成19年3月までの運航計画についての報告がありました。10月以降につきましても、私どもの要望どおり、引き続き、ジェット便3往復、プロペラ便3往復の運航を行うとの連絡が来ております。

市といたしましては、引き続き、平成19年4月以降の運航につきましても、全日空側に対しまして、ジェット便運航存続の要望を行ってまいりたいと考えております。

4点目は、「第46回長崎県乾しいたけ品評会」についてであります。

去る7月21日から23日の3日間、長崎県しいたけ振興対策協議会主催の対馬しいたけフェア・第46回長崎県乾しいたけ品評会が、「長崎駅かもめ広場」を主会場に開催されました。

今回は、島外では初めての試みといたしまして、長崎・福岡のバイヤーを招待し、販路の新規開拓を図るため、「対馬しいたけ」の商談会がメイン行事として実施されました。商談会には20数社の参加をいただき、現在、対馬農協との間で13社との商談が進められるなど、新たな需要拡大につながるものと期待をいたしております。

また、品評会会場では、40名を超える生産者も参加いたしまして、「対馬しいたけ」の消費拡大に向けたPR活動を行ってまいりまして、品評会受賞作品の展示等、各種イベントも開催をされ、田中副知事を初め多数の来賓の出席をいただきまして、盛会のうちに終了いたしました。

5点目は、「にぎわい・やすらぎのまちづくり推進事業」についてであります。

この事業は、長崎県が18年度新規事業といたしまして、合併した新市町の中からモデル地区を選定し、県と市町、地域住民代表によります研究会を設け、各地区の将来像を描いた「まちづくり協働プラン」を作成いたしまして、事業の具現化を図ることを目的とするものであります。

去る7月に、上対馬町の比田勝地区を中心に「対馬・北の玄関口地区まちづくり研究会」を立

ち上げ、自分たちの住むまちの現状を把握した上で、望ましい将来像を想定し、それを実現するための施策について、住民・行政協働のワークショップを開催し、検討を行っているところであります。

6点目は、「国境マラソンIN対馬」の開催についてであります。

去る7月2日、第10回国境マラソンIN対馬が、日本のなぎさ100選の一つ、三宇田浜海水浴場をメイン会場として、ことしも開催されました。

ことしは、天候にも恵まれて、韓国からの65名を含む1,138名の選手と447名のボランティアの参加がありました。また、10周年を記念いたし、これまでの大会写真の展示や前夜祭も開催されるなど、盛会のうちに終了いたしました。

7点目は、「厳原港まつり対馬アリラン祭り」の開催についてであります。

去る8月5日、6日の両日、43回目を迎えた厳原港まつり対馬アリラン祭りが、厳原港東浜をメイン会場に開催をされました。

祭りのメインであります朝鮮通信使行列には、韓国より国会議員の鄭義和(チョン・ウィファ)氏を正使として迎え、ペギンセ舞踊団、釜山情報女子高等学校宮中吹打隊など、韓国からの100人を初めとする約500人に参加をいただきました。また、関西と釜山の小中学生50人で構成する日韓子ども通信使が交流行事を行いまして、行列にも参加をいたしました。

ことしは、2日間で3万1,000人の観客にお越しをいただきまして、対馬を代表するイベントとしてにぎわったところであります。

8点目になりますが、「県消防ポンプ操法大会」についてであります。

去る8月6日、第28回長崎県消防ポンプ操法大会が県消防学校において開催され、全国大会の出場権を目指して、猛暑の中、熱戦が繰り広げられたところであります。

本市からは、ポンプ車操法の部に美津島第1分団、小型ポンプ操法の部に美津島第10分団が出場し、ポンプ車操法の部で、美津島第1分団チームが見事、準優勝に輝きました。

また、昨年、横浜市で開催された全国婦人消防ポンプ操法大会に長崎県代表として出場した鶏知地区婦人消防隊が、軽可搬ポンプ操法の模範演技を披露し、称賛を受けたところであります。

9点目は、「新エネルギー関連事業」についてであります。

去る8月25日、対馬市における地域新エネルギービジョンを策定するに当たり、広く市民及び有識者の意見を聞くため、第1回対馬市地域新エネルギービジョン策定委員会を開催いたしております。

本委員会は、学識経験者、各種産業団体、エネルギー供給者、女性団体代表者、国、県、市の行政職員で構成され、委員長には、バイオマスエネルギーにおけるメタノール研究の国内第一人者でもあります長崎総合科学大学の坂井正康教授に就任いただいております、本市における木

質バイオマス活用に大きな力となっていたいただけるものと確信をいたしております。

今後は、残り3回の委員会を開催いたしまして、来年2月初旬をめどに、「対馬市地域新エネルギービジョン」を策定してまいりたいと考えております。

また、本ビジョン策定とともに、「対馬市バイオマスタウン構想策定事業」等の事業を実施いたしまして、将来における本市の環境保全及びエネルギーについての基本的方向性を定め、新エネルギー分野に対する取り組みの第一歩といたしたいと考えております。

今回の新エネルギー事業につきましては、地球環境の保全はもちろんのことですが、本市における社会経済の活性化につなげるべく、事業を推進してまいりたいと考えております。

10点目は、「対馬ちんぐ音楽祭」についてであります。

ことし第11回目を迎えた「対馬ちんぐ音楽祭」は、去る8月26日、対馬グリーンパークで開催されました。

ことしは、韓国から2組、国内から4組、そして5月に釜山広域市で開催されました日本歌謡大会の受賞者1組が出演し、2,200人の観客を魅了し、盛会のうちに終了をいたしました。

以上でございます。どうぞよろしくお願いたします。

議長（波田 政和君） 以上で行政報告を終わります。

暫時休憩します。

午前10時14分休憩

.....
午前10時15分再開

副議長（畑島 孝吉君） 再開いたします。

.....
日程第5 . 随時監査（工事監査）における結果報告

副議長（畑島 孝吉君） 日程第5、随時監査（工事監査）における結果報告についてを議題とします。

地方自治法第117条の規定によって、議長、波田政和君の退場を求めます。

〔26番 波田 政和君 退場〕

副議長（畑島 孝吉君） 本件について代表監査委員の報告を求めます。代表監査委員、中島孝欣君。

代表監査委員（中島 孝欣君） 随時監査（工事監査）における結果報告について、地方自治法第199条第5項の規定により随時監査（工事監査）を実施いたしましたので、同条第9項の規定により監査結果に関する報告書を対馬市長及び対馬市議会議長に提出いたしましたので、その内容を説明いたします。

本監査は、平成16年度施行の水道工事に関して、孫請を請け負ったとされる業者より不正工事を行ったという告発を受けたことから、水道局に真意の確認をしたところ、一部不正工事を確認しているとの回答であったので、全容解明のため、地方自治法第199条第5項の規定により随時監査を実施したものであります。

監査は、平成16年度施工の安神統合簡易水道整備工事第1工区・第3工区及び大調統合簡易水道整備工事の第1工区を対象とし、関係者、水道局の職員、アビル住設、有限会社マル八を参考人に求め、工事請負契約及び工事施工等、関係法令等に基づいて適正に行われているかに着眼点を置き、契約は適正に行われていたか（一括下請禁止の遵守）、設計図書どおり施工されていたか、工事管理、施工管理は適正に行われていたか等について関係者の説明を受けながら、帳簿、書類、その他について、平成18年6月8日から7月11日までの間、現地監査を含めて実施いたしました。

水道局に提出を求めた書類による工事の概要、契約書は、2ページの表に記載のとおりである。また、関係者、参考人よりの聞き取りについては、3ページから4ページに主な内容を記載いたしております。

以上、各提出資料、関係者等の事情聴取及び現地監査の結果を踏まえ、次のとおり判断をいたします。

工事報告書の4ページを開いていただきたいと思えます。

表1、（マル八、大石氏の主張する契約内容）、工事名、安神統合簡易水道整備工事第1工区、当初契約金額は808万5,000円、変更契約は1,353万6,600円、最終契約金額は2,162万1,600円であります。契約の内容は、土木工事が808万5,000円、追加土木工事が933万6,600円、追加水道工事が420万、この追加水道工事全額をアチーブに再下請させております。アビル住設からの入金が2,162万1,600円で、最終契約金額と一致します。

安神統合簡易水道整備工事第3工区、当初の契約は480万、変更契約は298万6,800円、最終契約金額が778万6,000円、契約の内訳は、土木工事が480万円、追加土木工事が88万6,800円、追加水道工事が210万円、この210万円をアチーブに再下請させております。アビル住設からの入金が778万6,000円であります。

大調統合簡易水道整備工事第1工区、当初の契約金額は840万、契約の内訳が、土木工事が945万円、このうち桐谷建設に430万円が再下請がなされております。アビル住設からの入金額が2回の945万円であります。

3、水道局における未提出書類、契約関係でございますが、下記の点について水道局への書類提出がなされていない。アビル住設（有）がマル八と交わしたとされる下請契約の変更契約書、

安神工区での(有)マル八が(株)アチーブと交わしたとされる再下請契約書、上記変更契約を加味した施工体制台帳。

4、変更契約請書について、参考人、大石氏が契約書写しの提出を拒否されたので、閲覧し、転記することとなった。

提示された変更契約書について、次のような疑問及び矛盾点がある。安神第3工区の契約書で工事完了日が3月9日であるにもかかわらず、契約月日が工事完了後の3月22日になっていること、安神第3工区の契約書で、金額はすべて税込み金額で記入されていたのに、当初契約金額は480万円となっていること(事前に水道局に提出されている契約書では税込み金額は504万円)、契約書の印紙が張られていないこと。

なお、上記の点について、アビル住設、阿比留厚氏に確認を求めたが、契約書は保管していない(福岡の娘のところにあるのでわからない)との回答であったと。

次は、5ページに移ります。

各提出資料、関係人等の事情聴取及び現地調査の結果、次のとおり判断する。

契約は適正に行われていたか(一括下請の禁止の遵守)について、一括下請負は、発注者が建設工事の請負契約を提出するのに際して建設業者に寄せた信頼を裏切ることとなること等から、建設業法第22条において禁止されております。

また、平成4年12月に建設省(現国土交通省)から「一括下請負の禁止に関して」の建設省経済局長通知が、その後、平成13年3月30日付で「施工体制の適正化及び一括下請負の禁止の徹底等について」の国土交通省総合政策局長通知がなされており、その中で、元請負人がその下請負工事に実質的に関与していれば一括下請負に該当しないと規定している。

さらに、その実質的関与とは、元請負人がみずから総合的に企画、調整及び指導、(施工計画の総合的な企画、工事全体的的確な施工を確保するための工程管理、工事目的物、工事仮設物、工事用資材等の品質管理、下請負人間に施工の調整、下請負に対する技術指導、監督等)を行うことをいうと規定し、単に現場に技術者を置いているだけでは、これに該当しないとされている。

(1)安神統合簡易水道工事第1工区、本工事は、関係者の証言や関係書類等から総合的に判断をすれば、現場の施工は下請以下の業者が主体的に行い、元請負業者であるアビル住設の主任技術者は一労働者として従事しており、実質的に関与はしていなかったと思われる。また、資材の大半が孫請業者とする(株)アチーブで納品されていること、水道局との契約金額である2,182万2,150円(税込み)の99%の金額で下請負契約をしていること、変更契約を本工事完了日である3月22日に行っていること等、疑問を感じざるを得ない。

(2)安神統合簡易水道整備工事第3工区、本工事については、アビル住設の主任技術者の実質的関与については定かではないが、1工区同様に、資材の大半が孫請業者とする(株)アチーブ

ブで納品されていること、水道局との契約金額である799万6,800円(税込み)の97%の金額で下請負契約をしていること、変更契約を本工事完了日である3月9日以降の3月22日に行っていること等、疑問を感じざるを得ない。

(3)大調統合簡易水道整備工事第1工区、阿比留厚氏、大石幸人氏の聴取によれば、契約書どおり土木工事のみ(有)マルハが施工したと両名の主張は一致している。また、下請負人への工事代金の支払い及び(有)マルハが長崎県へ提出した平成18年度建設工事入札参加資格審査申請書(工事経歴書)の請負代金の額が下請負工事代金にほぼ等しいことから、水道局へ提出された書類どおりであり、契約は適正にされたものと認められる。

なお、一括下請については、長崎県所管部署での判断と裁量の範囲にあると思考するため、事実確認と意見のみにとどめる。

次は、6ページに移ります。

設計図書どおり施工されていたか。

(1)安神統合簡易水道整備工事第1工区、水道局からの経緯説明、平成18年3月12日付で(株)アチーブの岡本茂氏からの不正工事の告発書を受け、3月16日にアビル住設、阿比留厚氏の事情聴取を実施し、阿比留氏立ち会いのもと調査した結果、安神第1工区の場合内配管の一部に鋳鉄管及び鋼管で布設すべき箇所にビニール管で布設されていることが発覚しました。その後、4月7日、8日に場内の試掘を行い、ろ過池から浄水井までの配管及び調整室内の一部の配管において、指定外のビニール管が使用されていることを確認した。

アビル住設に指示し、4月11日、12日に新ろ過池から浄水井までの配管がえを行い、4月28日に既設ろ過池から浄水井までの配管がえを実施している。5月中にすべての改修が完了予定であったが、一部材料の発注がおくれたため、今現在に至っている。

現地確認の結果、上記の経緯を踏まえて現地を調査した結果、不正工事箇所は、別紙1から4のとおりであることを確認した。

水道局に、本工事の設計図書の数量、規格と資材の発注先、対馬機工から提出された得意先元帳(品名明細)との突合を指示した結果、対馬機工から(株)アチーブに納入された材料、安神統合簡易水道工事第1工区材料調査表は、ほぼ設計図書どおりの納品がされていた。にもかかわらず、その納入された鋳鉄管及び鋼管を使用せず、塩化ビニール管で布設したのが疑問が残った。

しかし、(株)アチーブが使用したとされる資材置き場から納品されたと見られる鋳鉄管及び鋼管が発見され、その資材と修補により取りかえた部分を比較したところ、多少の規格(長さ等)の違いがあった。したがって、改めて資材の発注をすると工期に間に合わないため、手軽に入手、加工できる塩化ビニール管で施工したのではないかと推測される。

なお、水道局は、工事請負契約書第46条に規定する瑕疵担保の条項により、元請業者である

アビル住設代表阿比留厚氏に対して、不正工事に係る修補を請求しており、アビル住設側も修補に応じていることをつけ加える。

(2) 安神統合簡易水道整備工事第3工区、本工事は、導水管L = 592メートルを布設する単純な工事である。水道局に、設計図書の数量、規格と資材の発注先、対馬機工から提出された得意先元帳、品名明細との突合を指示した結果、対馬機工から(株)アチーブに納入された材料、安神統合簡易水道整備工事第3工区資材調査表はほぼ一致しており、また、工事記録、工事写真等の閲覧、現場視察等により、設計図書どおり施工されているものと認められる。

次、7ページに移ります。

(3) 大調統合簡易水道整備工事第1工区、水道局に、設計図書の数量、規格と資材の発注先、鈴木産業から提出された得意先元帳(品名明細)との突合を指示した結果、鈴木産業から(株)アチーブに納入された材料、大調統合簡易水道整備工事第1工区材料調査表はほぼ一致しており、また、工事記録、工事写真等の閲覧、現場視察等により、設計図書どおり施工されているものと認められる。

工事管理、施工管理は適正に行われていたか。

1、施工体制台帳の点検について、請負業者のモラル等の根本的な問題もあると思うが、安神の両工区においては、アビル住設から提出された施工体制台帳及び下請人報告書では、マルハは土木工事のみの下請であり、(株)アチーブの再下請は提出されていないにもかかわらず、工事写真には管工事を施工しているマルハのヘルメットをかぶった職員、(株)アチーブの作業箱等、写真が添付されており、現場において施工体制台帳の点検、指導等が随時適正に行われていれば、一括下請についての疑義等は防ぐことができたものと考えられる。

2、資材検査について、担当職員の聴取によれば、本工事において材料検査を2回実施しているが、その材料検査資料では、施工済み、納品確認、未納品の3種類で区別し検査されており、対馬市建設工事施行規則第23条、同規則第28条、対馬市水道事業会計規程第126条の規定が守られていない。

3、竣工検査、水道局の聴取によれば、今回の不正工事が行われた場内配管及び調整室部分の竣工検査では、埋設部分については写真で判断し、見える部分については目視により材料を確認したということであるが、現地確認したところ、調整室内は暗く、配管の一部は水中にあるため、明視することは不可能と思える。埋設部分については、写真判断のみでなく、施工時に監督員が立ち会い、確認するべきものとする。

本工事の施工における監督管理について、以前からの慣行で別段不合理とも感ぜず執行していたと思われるが、施工管理の不備及び必要な書類等が提出されていないという事実が明らかである。

以上の結果に基づき、対馬市長あてに8ページ記載の指摘事項及び改善事項を求めており、こ

のことについては平成18年7月31日付及び同年8月28日付で2回に分けて回答を受けております。

以上が今回随時監査を行った概要及び結果でございます。なお、このことは報告と同時に公表していることを申し添えます。

以上で終わります。

副議長（畑島 孝吉君） これから結果報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。桐谷徹君。

議員（10番 桐谷 徹君） 監査委員には、立派な報告書、御苦労さまでした。

産建の方でも、いろいろこの問題については調査をしてきましたけど、参考人の出席がなく、このような立派な報告書を提出するようなことはできませんみたいですが、二、三、そのときにアビル住設さんの方に私たちが質問したことをお尋ねいたします。

まず、3ページ、マル八の大石さんからの下請の問題ですね。産建のときには、アビル住設さんの社長の話では、マル八の方から一括で仕事をさせてくださいというお願いがありましたから、ではお願いしようということで返事をしましたという報告なんです。そして、丸投げではないと。それが、本人は丸投げの意味をよく御存じではなかったみたいですが、多少の金額を頭から何十万円ももらっているから、工事は全部はしてもらっているけど、丸投げではありませんという報告をされたんですが、その辺は監査委員のときには大石さんはどういうふうにあビル住設の社長と大石さんと根本的に意見が違うんですね。その辺はどういうふうな判断をされましたでしょうか。

副議長（畑島 孝吉君） 代表監査委員。

代表監査委員（中島 孝欣君） アビル住設さんの阿比留厚氏は、このことについては、1工区については何を言われても弁解の余地はございませんということをはっきり申し上げておられます。

そして、大石氏は、この3ページの後段の方に書いてありますが、1工区の工事については、アビル住設さんの話では4,000万円近くのコストがかかったと聞いておりますと、そのうちの約2,000万円を下請することが丸投げとは思っていないというような回答でございました。

実際は、工事分99.何%、先ほど説明したとおりの施工になっておるわけでございます。

副議長（畑島 孝吉君） 桐谷徹君。

議員（10番 桐谷 徹君） 言われる意味はよくわかるんですが、では、その4,000万円、この問題について、対馬市とアビル住設が契約をしてるのは、最終的には2,182万2,150円なんです。ということは、アビル住設は4,000万円この工事に金をかけたということなんです。頭から1,800万円赤字になる仕事をしとるということなんです。これは、

設計は4,000万円で、そして本人の意思のもとで二千百何十万円で落札してるなら、1,800万円赤字でも、それは構いませんが、設計の段階で2,180万円前後のものを4,000万円かかったというものは、これは拾い出しのミスになるんですかね。どう思われますか。

副議長（畑島 孝吉君） 代表監査委員。

代表監査委員（中島 孝欣君） お答えをいたします。

地方自治法第199条第11項の規定により、議選の桐谷委員と合議の上、この報告書を提出いたしておりますので、今後の質問に対する答弁は桐谷委員の方から行います。

副議長（畑島 孝吉君） 休憩します。

午前10時43分休憩

.....
午前10時44分再開

副議長（畑島 孝吉君） 再開いたします。

桐谷正義君。

議員（22番 桐谷 正義君） この件につきましては、3ページに書いてあることは、真実かどうかは別として、大石幸人君が述べたとおりに書いておるわけであります。そのことがどうだとかということは、私が大体この大石幸人君には質問、いろいろ聞く番でございましたので、詳しく述べますと、この4,000万円ということは、監査としてこの発言は認められないと、あくまでも入札は、アビル住設が落とした金額は2,000幾らですから、そのことに対してどう元請、下請があったのかということで、本人が述べました4,000万近くぐらいかかったということは、監査としては、そういう発言はありましたが、監査としては丸投げでないということを確認するために単なる発言をしたんだろうというふうに解釈しておりますので、この本人が言ったことを監査の判断に対しまして、これは、このこと、4,000万に関しては参考にはしておりません。

以上です。それでよろしゅうございますか。

副議長（畑島 孝吉君） 桐谷徹君。

議員（10番 桐谷 徹君） いやいや、御立派な御答弁で、ありがとうございます。そこを聞きたかったんですが、この報告書の中には、金額的に、丸投げと丸投げではないというところ、非常に大事なところが書かれてあるんです。だから、そこを念を押して、例えば安神の1工区、3工区、このあたりは特に丸投げではなかろうかと思われるところが多々ありますから、そこを念を入れて代表監査に尋ねたわけですから、その辺のところの御理解をよろしく願います。

以上です。

副議長（畑島 孝吉君） 宮原五男君。

議員（11番 宮原 五男君） それでは、1点目が5ページ、18年度建設工事入札参加資格審査申請書の請負代金の額が下請負工事代金にほぼ等しいことから、水道局へ提出された書類どおりであるって、契約は適正にされたものと認められるという文が入っておりますが、この工事入札参加資格審査申請書、これは県に提出されたものですかね。これは、指名願の分に提出された申請書の中の金額が下請金額の金額と一緒にということで報告されておりますが、それは間違いありませんか。

それで、私の質問が3回ですので、私の産建で調べた資料の中には、これが大調 安神ですか、安神簡易水道整備工事第1工区は、請負代金の額が2,059万2,000円という工事経歴書の中に書かれておるわけですね。それと、配置技術者氏名が波田政和、このふうになっておりますが、これは確認されて、この分がつくられたんですかね。そのところをちょっとお聞かせください。

副議長（畑島 孝吉君） 桐谷正義君。

議員（22番 桐谷 正義君） ちょっと1点目の5ページの質問で、水道局へ提出された書類どおりであり、契約は適正にされたものと認められるというのは、大調統合簡易水道整備工事の第1工区の件に関してそう書いておるわけでありまして、安神統合簡易水道整備工事は、1番の件で疑問を感じざるを得ないという表現になっておりますので、その辺を御理解していただきたいと思います。

それから、今、県に経営診断で提出されたその分は確認はしておりますが、一応監査の方で確認はしてはしましたが、今回の監査の対象範囲を超えておったので、一応認識はしてはしましたが、その件に関して、どちらが正しくて、どうだったかというのは、県の経営審査に出された波田政和の方が間違っておるという認識を持っております。よく御理解 市の方に提出されておるのは、あくまでも名前は、マル八の方は主任技術者は仁位正博氏であります。経営診断で県に出されておるのは波田政和となっておりますが、その辺は、県に出されたのが間違っておるのではないかという認識はいたしておりますが、監査の対象から外しておりますので、ここで一応報告はいたしております。

以上です。

副議長（畑島 孝吉君） 宮原五男君。

議員（11番 宮原 五男君） 次に移りたいと思いますが、6ページに、6ページの鋳鉄管ですか、鋳鉄管及び鋼管が発見され、その資材と修補により取りかえた部分を比較したところ、多少の規格の違いがあったと、多少の規格の違いがあった。したがって、改めて資材の発注すると工期に間に合わないため、手軽に入手できる塩化ビニール管で施工したのではないかと推測さ

れるとありますが、この塩化ビニールに対して黒いテープを巻いてあるわけですね、私たちが行ったときに確認した中では。

この黒いビニールテープを巻かれた。なぜこの黒いビニールテープを巻かなければならなかったのかと、その意図は何であるかということ、そのアビル住設さんなりマル八の大石さんにそれは確認したわけですか。普通やったら、そのまだまだいいですけど、ビニールテープを巻かなくても、資材が来るまで、これまで、その時点で取りかえますというのが普通やないですかね、そのちょっと規格が違った場合は。そういうふうな状態に置いとけばいいのに、わざわざ黒いビニールテープで巻いて、その塩化ビニールを隠すために意図的にやったということが、これは見受けられるんじゃないですか、はっきりと。

そこのところを本人たちに、我々産建委員では、本人、向こうに事情聴取したいという事情聴取じゃなくても、参考人で招集かけたんですが、見えなかったんで、そういう内容を聞けなかった。そこを監査委員の皆さんが聞いてくれるもんやと私たちも思っておりましたので、そのところはどのような状況になっておりますか、ちょっと教えていただきたい。

副議長（畑島 孝吉君） 桐谷正義君。

議員（22番 桐谷 正義君） 今質問があったところは、この間違ったところの図面で調整室内の中のナンバー99と書いてあるところだろうと思うんですが、ここが白い部分がありますが、実際はビニールテープで巻いてあった分を全部はがしましたら、この白い部分だけがビニールパイプにしてあったんですが、テープはこの全部、その1メートルぐらいの長さ全部がビニールテープで巻いてあったということだろうと思うんです。

これは、アビル住設も、この巻いてあったところ全部に関して、アビル住設もマル八の大石君も、それは全くビニールテープで巻いてあったことは認識してないと、知らなかったという答弁でありました。

だから、それで、確かに言われるとおりに、ビニールテープで巻いとったということは、ごまかしたということだろうと思うんです。そのビニールテープ、今ここで報告しとるのは、最初から故意にビニール、そういう工事をしようと思ったのか、あるいは途中でそういう気になったとかというところの判断で、この部品はほとんど対馬機工に発注がされておりましたので、最初、工事に着工する前に、部品は鋳鉄管とか鋼管が発注されておりましたので、その鋳鉄管、鋼管が現場に来ておって、使っていないという状況があったので、このように結局合わなかったんで、ビニール管で、塩化ビニール管で間に合わせたんだらうという、これはもう本当にあってはならないことですが、そういう判断に立って、最初からこれを手抜き工事してごまかすつもりだったかどうかという判断のために、そういう解釈を、判断を監査としてしたということで御理解していただきたいと思います。

確かに、御指摘のように、そういうビニール等を巻いて隠したということは、全くの事実でありまして、ただ、それをアチーブがしたことであって、監督であるアビル住設もマルハの大石君もこれを全く認識していなかったというのは、本当に監督不行き届きの何物でもないと思いますが、そういうことで認識をしていただき、御理解していただければいいと思います。

以上です。

副議長（畑島 孝吉君） 宮原五男君。

議員（11番 宮原 五男君） 今、孫請にアチーブという株式会社の名前が出まして、アチーブが今施工して、それをアチーブがやったということで、マルハの大石さんあたり、アビル住設さんあたりは、アチーブさんの責任と言いたいというような話ですが、監査の皆様方は、その株式会社アチーブに対して何か連絡をとられて、それなりの話を聞かれたか。どういうふうなアチーブさんが施工された内容を御存じですが、アチーブさんとの連絡はとられたんですかね。それで、アチーブさんとはどういう内容まで話されたか、ここに記載されていないんですね。

それと、対馬機工の材料関係を、対馬機工からアチーブさんが注文してとられている材料を確認されたっていいんですが、アチーブさんと対馬機工の材料の取引関係に何か支障があるような話を私も聞いておりますが、その中で、そのアチーブさんの確認を得て、その材料を確認されて点検したのか、監査委員として、そのところを詳しく教えてください。

副議長（畑島 孝吉君） 桐谷正義君。

議員（22番 桐谷 正義君） アチーブという会社は、当時倒産をしておるといこと等もありまして、一応監査としてはアチーブとの連絡はいたしておりません。これは、対馬機工とアチーブとの関係は、対馬機工の会長である方からいろいろな意見は聞きましたが、このアチーブが対馬機工に発注したということは対馬機工から確認はいたしております。そのいろいろなトラブルたいろいろの内容については、私も一応聞き及んでおりますが、監査の対象にはないということで、ここで記載はいたしておりません。

以上です。

副議長（畑島 孝吉君） ほかに質疑はありませんか。中原康博君。

議員（21番 中原 康博君） 2ページの下請はマルハさんとなっておりますが、その再下請は傍線で引っ張ってあります。後々、株式会社アチーブが出てまいります。そのアチーブという会社は、この役所には届け出はなかったわけですね。まず1点ですね、それが。

そして、その監査委員さんは、瑕疵保証で、瑕疵担保で仕事をやりかえさせてあります。その瑕疵担保の意味合いは、見解の相違じゃないかなと思うんですよね。要するに、瑕疵は、きずとか欠点とか過ちとか、必要な品質や条件が欠けていることという、瑕疵という要項はなっておりますが、要するに、設計図書にうたわれてないものを使ってあったわけですから、それは瑕疵で

はないんじゃないかなと私は思うんですが、その2点、ちょっと伺います。

副議長（畑島 孝吉君） 桐谷正義君。

議員（22番 桐谷 正義君） このアチーブという会社は、先ほど代表監査が説明したとおりに、水道局との契約の中では一切孫請とかしたとは出ておりません。この今、マルハの大石君が見せてもらったというのは、あくまでもマルハとアチーブとの契約の云々であって、水道局、市当局の水道局には、あくまでもその水道管の埋設はアビル住設がすると、マルハは土木工事だけという契約しか出ておりませんので、一切水道局には、アチーブとか、その配管でマルハとかアチーブがするという変更契約書等は一切出ていないということを確認していただきたいと思えます。そのように報告はしておると思いますが。

それから、瑕疵ということに関して、どういうふうに理解したとかと、設計書どおりに、市が発注する設計書どおりに工事がなされてないものは、契約書の中に瑕疵担保を水道局はとっておるわけですが、瑕疵ある工事だということで、原状に、設計どおりに復帰させるという認識をいたして、そういう監査報告をしたということで御理解いただきたいと思えます。

以上です。

副議長（畑島 孝吉君） 中原康博君。

議員（21番 中原 康博君） そういった下請、再下請の書類が出ないのに工事をさせたということは、役所の大きな落ち度であろうかと思えます。いろいろと話を聞いておりますが、旧厳原町の検査自体は、かなり、何といいますが、検査不十分という話も聞いております。

監査委員も今後の改善事項に指摘されてありますが、次に、4ページの一番下のそのアビル住設に契約書の確認を求めたけど、保管していない、福岡の娘さんのところにあるということでしたけれども、監査委員さん方もここまでしてあるのに、その娘さんから1日か2日に来る契約書は、なぜ取り寄せられて確認がされなかったのかなと、ちょっと残念に思えます。その点もお尋ねをしたいと思います。

それと、要するに、8ページの最後の措置の要求につきまして、1工区の修補がまだ終わっていないということでございます。これは現在どうなっておるのか、お尋ねをしたいと思います。

副議長（畑島 孝吉君） 桐谷正義君。

議員（22番 桐谷 正義君） 一応、アビル住設の娘さんである方から、なぜその書類をとらなかつたかということですが、それはアビル住設の社長に要求をいたしましたけれども、それは娘さんから いろいろなことを要求したわけですが、それは拒否されましたということで、書類はもらっておりません。

それから、最後の現在は、これは随時監査報告書を提出した段階のことで、現在はその修補はすべて完了をなされております。この監査報告書を提出した時期にはできていなかったわけです。

が、その後、完了はされて、今、当たり前前にアビル住設にすべてさせていただいて、完了はしております。

それから、参考までに申し述べますと、監査としては、いろいろなものを要求したわけですが、強制力がないので、本人が本当を言ったか、うそを言ったかもわかりません。だから、真実というものは、どうしてもこれをしたいということになれば、100条の調査権を発動しなければ、その真実かどうかわかりませんので、監査としては、強制権が、その出席も強制はされませんので、任意の段階で阿比留厚、あるいはマル八の大石幸人氏が言ったそのままを書いて、事実かどうかというのは別個に我々としては判断をせざるを得なかったということで、若干の推測も入っておると思いますが、監査としてはその辺が限界であったということは認識していただきたいと思います。

以上です。

副議長（畑島 孝吉君） ほかに質疑はありませんか。糸瀬一彦君。

議員（9番 糸瀬 一彦君） ちょっとお尋ねしたいと思います。

4ページですかね。4ページに、当初計画、安神の1工区で例をとっていいますと、808万5,000円となっております。それから、変更が1,353万6,000円、これは素人的に考えますと、変更というのは、現場の都合によって少し変更するとか、土地の契約がまだ済んでないとか、いろんな状況があっただろうとは思われますが、その変更で1,300万も出さざるを得ないのは妥当だったのかどうなのか、それが1点。

あと、全部この報告書を見てみますと、行政の初歩的な材料の検査、検収、こういうものが全然私にしてみればできていないんじゃないか、本当に行政にこれは責任があって、起こるべくして起こったと、こういうことを考えますと、その後の体制、いわゆる監査委員として、水道だけじゃなくて、一般の公共事業についても、厳しく指摘を口頭でもいいんですけど、されましたでしょうか、2点だけお尋ねします。

副議長（畑島 孝吉君） 桐谷正義君。

議員（22番 桐谷 正義君） ちょっと1問目は、契約の変更が1,353万6,600円については、これはアビル住設と安神1工区に関してはマル八との変更契約で、本当の水道局との変更契約ではありません。これは、水道局との契約は145万2,150円が変更契約であります。2ページに書いてあります。この件は、最初の808万5,000円に関しましては、土木工事だけをマル八がアビル住設との契約でした金額で、下の1,353万6,600円というのは、その配管工事、そういう水道パイプ工事、埋設をアビル住設から請け負った、その金額で変更しておると認識、御理解をいただきたいと思います。

それから、水道局に対する管理監督体制については、ここでも文書等でも記載をしております

が、口頭でも、非常に調査をする段階で種々の書類の不備とか、いろいろな問題がありました。その点は厳しく指摘をいたしております。

以上です。

副議長（畑島 孝吉君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

副議長（畑島 孝吉君） これで質疑を終わります。

以上で随時監査（工事監査）における結果報告についてを終わります。

休憩いたします。25分から再開します。

午前11時08分休憩

.....
午前11時22分再開

副議長（畑島 孝吉君） 再開いたします。

日程第6．産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

副議長（畑島 孝吉君） 日程第6、産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告を行います。

産業建設常任委員長の報告を求めます。産業建設常任委員長、大部初幸君。

議員（14番 大部 初幸君） 産業建設常任委員会所管事務調査報告をいたします。

平成18年第1回定例会において、会議規則第98条の規定により事務調査の承認を得ておりました当委員会の調査の内容とその概要を同規則第103条の規定により報告いたします。

当委員会は、9月6日に豊玉支所3階会議室にて、全委員出席、説明員として市長部局より永尾指名審査委員長、斉藤水道局長、担当課長を初め関係職員出席のもと、事務調査を行いました。

まず、安神統合簡易水道整備工事について、6月の第2回定例会で不正工事があったことを報告していましたが、その後の経過について調査しましたので報告いたします。

安神第1工区において不正な工事が施工されていた箇所については、対馬市建設工事執行規則第53条（かし担保責任）の規定に基づいた修補が7月14日に完了し、納品されております。

しかし、この安神統合簡易水道整備工事の契約者であるアビル住設は、土木工事に限り有限会社マルハと下請契約をしていますが、実際は全体的にアビル住設が施工せずに下請させているため、一括下請負による建設業法違反の疑いがあり、現在、監督官庁である県の方で事実確認をするため、調査をしている最中であります。

万一、建設業法に違反しているとなれば、何らかの監督処分が行われます。市においても、県の結果に基づき、指名審査委員会で審議して、適切な対応をするとのことであります。

また、今回の不正工事を検査の段階で見落としとして、市の職員2名が戒告処分を受けております。

当委員会としましては、このような事態の再発防止のため、市において監督管理体制の徹底を図り、公共工事が適正かつ公正に執行されることを強く要望し、安神統合簡易水道整備工事に関する調査を終了いたします。

次に、電磁波冷凍技術CAS（キャス）について報告いたします。

CASとは、素材の細胞を壊さない冷凍技術のことで、既存の急速冷凍庫に取りつけるだけでバージョンアップでき、素材の鮮度を保つことが可能となります。

先日、この技術によって1年前に冷凍されたイカ、サンマ、マグロなどを解凍し、実際に食した委員の話では、素材の鮮度が落ちていない「生」の状態が保たれていて、味もよかったとのこととあります。

対馬の漁業の大半を占めるイカ釣り漁業者や対馬ブランドとして期待をされているマグロの養殖業者にとりまして、大変興味深い話ではないかと思われまます。

当委員会としまして、対馬の水産業発展のため、電磁波冷凍技術について前向きに調査研究をしていくつもりです。

以上で産業建設常任委員会の委員長報告を終わります。

副議長（畑島 孝吉君） これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

副議長（畑島 孝吉君） これで質疑を終わります。

暫時休憩いたします。

午前11時28分休憩

午前11時29分再開

〔26番 波田 政和君 入場〕

議長（波田 政和君） 再開します。

日程第7．総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

議長（波田 政和君） 日程第7、総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告を行います。

総務文教常任委員長、小川廣康君。

議員（13番 小川 廣康君） 総務文教常任委員会の所管事務調査の報告を申し上げます。

平成18年第1回定例会において、閉会中に当委員会に調査付託されておりました公有財産の管理状況の調査について、会議規則第103条の規定により、次のとおり報告をいたします。

当委員会は、7月5日、本庁別館会議室において、委員全員出席のもと委員会を開催し、調査項目、調査施設及び日程等について協議をいたしました。

対馬市が誕生し2年経過した今日、財政的に非常に厳しく、行財政改革が積極的に推進されております。委員会としても、現状を認識し、一体となり取り組まなければなりません。これらの観点から、多く存在するであろう不稼働公有財産の状況を把握し、その有効利用を図るために、管理状況を含め、現況を調査することに決定をいたしました。

理事者側に対し、現在未利用の公有財産の状況について資料を求めることを決定し、当日の委員会を閉会いたしました。

8月8日、提出された資料をもとに、豊玉支所3階会議室において委員会を開催いたしました。

当日は、兵頭榮委員が欠席でありましたが、資料をもとに、利活用の可能な箇所を優先的に抽出することに決定いたしました。なお、今回は、提出された資料の中から、上対馬、上県、峰の3支所管内を調査することに決定し、地元選出委員の意向を優先しながら調査箇所の選定をいたしました。

8月31日から9月1日にかけて現地調査をいたしましたので、その概要を報告いたします。

8月31日、豊玉支所3階会議室において、兵頭榮委員、小西明範委員は欠席でありましたが、中島総務部長、斉藤総務課長、財産管理班の主藤課長補佐、神宮主任の出席を求め、委員会を開会し、調査内容と方法を確認し、現地調査に入りました。

まず、上対馬支所管内であります。現地にて長谷川地域振興課長、春日亀課長補佐も同行し、旧舟志小学校跡地、大増の市有林、旧浜久須小学校跡地、旧上対馬町役場庁舎跡地、比田勝港湾駐車場、三宇田浜駐車場用地、三宇田浜ホテル用地、旧豊小中学校跡地を、それぞれの担当者から説明を求めながら調査をいたしました。

上県支所管内は、武田地域振興課長と春日亀課長補佐の案内のもと、旧福祉事務所長住宅用地、情報プラザ建設用地の現地を調査いたしました。

翌9月1日、同委員と中島総務部長、主藤課長補佐、神宮主任に出席を求め、また、峰支所、阿比留支所長、多田地域振興課長の案内のもと、佐賀から櫛に至るリゾート用地、旧三根小学校跡地を調査いたしました。

現地調査後、峰支所2階会議室において会議を開き、検討、協議を行いました。特に、今回の調査目的である不稼働市有地の処分を含め、有効利用を探る観点から、その地域、あるいは近隣の状況も加味しながら検討する必要があります。また、本市が目指す将来の基本計画とこれらの市有地のかかわりを視野に入れて検討することが重要であります。

よって、本件については、今後、下3支所管内（厳原・美津島・豊玉）の現地調査を含め、それらの計画を見据えながら調査することで一致しましたので、委員会は、さらに本件を継続審査

とすることに決定をいたしました。

なお、早急なる対処を望む箇所は、旧上対馬町役場庁舎であります。既に廃墟化し、極めて危険な状況にあります。解体には相当の経費を要すると思慮されますが、その間、外部から侵入できないようなフェンス等の構築が必要であります。

以上、閉会中に総務文教常任委員会に付託されています所管事務調査、公有財産管理状況についての報告といたします。

議長（波田 政和君） これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

日程第 8 . イノシシ等被害対策特別委員会の閉会中の調査報告

議長（波田 政和君） 日程第 8、イノシシ等被害対策特別委員会の調査報告を行います。

イノシシ等被害対策特別委員長の報告を求めます。イノシシ等被害対策特別委員長、小西明範君。

議員（1番 小西 明範君） イノシシ等被害対策特別委員会調査報告書の報告をいたします。

閉会中の継続調査となっておりました本特別委員会の調査研究等の経過状況を会議規則第 103 条の規定により、下記のとおり御報告いたします。

当委員会は、8月24日、豊玉支所3階会議室において、全委員出席並びに事務局担当職員、対馬猟友会役員4名、説明員として農林水産部職員4名、計15名の出席を得て開催いたしました。

今回の委員会開催の主な目的としまして、実際に有害獣駆除に携わる対馬猟友会役員からいろいろ意見を聞くことで、駆除の現状及びこれからの効果的な駆除のあり方を検討する参考となるよう実施したものであります。

以下、主な意見を列挙します。

猟友会長、現在、銃による捕獲とわなによる捕獲を実施しているが、わなの方が実績が上がっている。また、昨年は市と協議して、イノシシに限り猟期の延長を要望し、1カ月間延長が認められた。蔵原町では、区長を中心に各集落で免許取得を推進し、駆除従事者の確保に努めている。しかし、わなの不足が著しく、思うような実績を上げられない。年次的なわなの増設を望む。捕獲頭数は増加しているが、残念ながら、被害状況も増加している。また、農家も被害になれ、行政に対し被害報告をしない人もふえている。

理事、下地区の猟友会会員は現在80名いるが、そのうち実際駆除に従事している者は半数程

度である。今後は、80%程度まで従事できるようにしたい。

副会長、上地区の場合は、下地区ほどの被害は発生していないが、今のうちに芽を摘んでおく必要がある。また、本格的被害が発生する前に、農家等に対する勉強会を実施して対応すべきだ。

委員からの質問です。

委員、猟友会には縄張り意識があるのではないか。上地区、下地区一緒になって駆除に取り組むべきだ。駆除は、地域に重点を置いて効果の上がるものでなければならない。

行政は情報提供の対応ができるのか。農家からの情報提供、行政、駆除代表の流れで対応している。

猟友会だけの駆除では、イノシシの増殖に歯どめがきかない。猟友会としては、若年層の従事者の養成に努める。また、登録会員の駆除への参加要請もあわせて行う。

委員から、上、下の地区境界を取り払うことで何か弊害があるのか。一元化に向けて話し合いをしていく。理事会としても、今後の課題として、近く結論を出したい。弊害はない。

その他、食肉化等に関する意見などが出され、次回の委員会開催日を9月定例会以降とすることで決定し、12時20分に閉会いたしました。

なお、農作物の収穫期を間近に控え、イノシシの活動も活発になることから、被害を未然に防ぐための啓蒙活動等の必要性を指摘します。

今後も引き続き調査研究を実施することとし、委員長報告といたします。

以上です。

議長（波田 政和君） これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

日程第9 陳情第4号

議長（波田 政和君） 日程第9、陳情第4号、市有地貸付反対陳情についてを議題とします。

厚生常任委員長の報告を求めます。厚生常任委員長、作元義文君。

議員（17番 作元 義文君） 厚生常任委員会の審査報告をいたします。

平成18年第2回定例会において、会議規則第37条の規定により当委員会に付託され、閉会中の継続審査とされておりました陳情第4号、市有地貸付反対陳情について、会議規則第103条の規定により報告をいたします。

当委員会は、平成18年7月14日金曜日、豊玉支所3階会議室において、平間利光委員は欠席でありましたが、委員会を開催いたしました。

さきの委員会において、陳情者に委員会に出席を願い、陳情内容について精査する必要がある

とされたことと、また、陳情者の代表からぜひ委員会で詳しい内容を説明させていただきたいということがありましたので、そこで、陳情代表者の上県町佐須奈、(有)寿恵会、若松久氏に出席を求めたところ、美津島町根緒、(有)慈恵会、黒岩洋一氏についても出席をさせていただきたいとの申し出がありましたので、委員会では出席を認め、陳情者の兩人から陳情書の提出された経緯について説明を受けたところであります。

陳情者の説明によると、グループホームの新設について市当局へ要望を出したが、対馬市高齢者保健福祉計画第4期の介護保険事業計画見直しがあるまでは難しいということでありましたが、本土から参入してくる業者があると聞いているが、どのような状況であるのか、また、企業誘致として市有地の貸与をするのは異議はないが、市内にも参入したい業者がいるのではないかと、いろいろの説明をされたところであります。

次に、陳情内容に対する理事者側の現状等の説明を受けるために、総務部の中島部長、観光商工部の長部長及び武田課長、福祉部の勝見部長、阿比留課長及び多田課長補佐の出席を求めました。

理事者側の説明によると、平成18年度から平成20年度におけるケアハウスの対馬市創設整備枠については、本年の3月に長崎県福祉保健審議会において50床が決定され、6月28日付をもってその内容が対馬市へ通知をされ、6月30日付で対馬市が受け付けたところであります。

それを受け、対馬市としては、社会福祉法人または新たに社会福祉法人設立予定者が応募資格であることから、7月6日付をもって公募の公告を各支所において行っており、社会福祉法人の島内8法人についても公募の内容を送付しているとのことでありました。

また、長崎県への提出期限が8月25日までとなっていることから、協議書の受け付けについては、本年の8月1日から8月18日までの受け付け期間としているとの説明であります。

したがって、当委員会の審査報告が9月定例会での報告となり、そのときは既に長崎県へ協議書が提出された後の報告となることから、本陳情に対する閉会中の審査結果といたしましては、「不採択」とするものと決定をいたしました。

ケアハウスの企業誘致の問題が、このような陳情書提出の引き金になっていると思われるので、市内の業者への周知徹底を強く要望しておきます。

以上で厚生常任委員会委員長の審査報告とします。議員各位の御賛同をよろしくお願いいたします。

つけ加えて申し上げますが、25日前となっていることから、申請法人が3法人あっております。社会福祉法人あすか福祉会、社会福祉法人梅仁会、社会福祉法人如水会、9月8日、長崎県の現地ヒアリング実施済みと、年内に決定がおりる予定であります。ということでありませ

以上でございます。

議長（波田 政和君） これから委員長報告に対する質疑を行います。12番、大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） 委員長報告は、経過がよくわかりました。この中に最終的な不採択の判断は、協議書の提出が県に送るのが8月25日のことだから、9月定例会の報告に審査の影響がないから不採択、こういうふうな発言でございましたが、経過を確認しますと、陳情書の提出は5月8日に4名の地元対馬の社会福祉法人から熱のこもった文書で、ただただ島内の企業誘致というふうなことで土地の貸しつけをやめてくださいということだけやない内容の陳情書になっております。見られればよくわかりますが。

島民からそういうふうな議会に要請があって、仮に肯定できない結果が出ると、あるいは、行政に注文をさすような議会の厚生常任委員会の結論が仮に出たとしても、私はそれでも委員会の役目としては十分必要であるというふうに一個人議員としては思います。

その辺が、日にちが間に合わんから不採択ということでは私はないと思いますが、委員長、その辺の委員会としての空気と言いますか、今さら委員長報告をどうもこうも言うわけじゃないんですが、その辺の考えを率直に伺いたいと思います。それだけでございます。

議員（17番 作元 義文君） 6月議会で継続審査といたしましたときは、6月30日に市の方に県の方からおりてきたわけです。それで審査が間に合わずに、陳情者の2名の出席をいただいて、陳情者の説明を受ける中で、委員会でこれだけ我々の話を聞いていただければこれで十分だと、陳情者は、取り下げてもいいですよという発言まで陳情者の中からもあったわけでございますけれども、陳情書を提出しても間に合わないと、そのときは不採択という全員一致で決定をいたしましたので、その陳情者の方々も、陳情書は取り下げ、今度グループホームの第4期のときにもう1回陳情書を改めて出してくださいという話もいたしております。

以上です。

議員（20番 武本 哲勇君） 議長、20番。

議長（波田 政和君） 武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） 私も大浦議員の意見に同じなんですけれども、やっぱり住民がこういう陳情なり請願なりされた場合は、議会としての筋を通して判断する、それが基本でなければならないというふうに思います。

その委員長にお尋ねしますが、この陳情にもありますように、佐賀県の医療法人から申請があつておるということですが、この件についてはどのような話し合いをされたのか、お願いします。

議長（波田 政和君） 作元委員長。

議員（17番 作元 義文君） 佐賀県の医療法人の方からは、申請が市の方にあつてると、これは佐賀県の方から県の方に逐次ケアハウスの申請がされていたようでございます、今までの

間に。それで、市の方も、企業誘致ということでそれを認めていたというふうな経過でございます。

議長（波田 政和君） 武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） 県がそれを認可すれば、今、市内から申請が出ています3件については却下されるということになるのか、多分県を認可して、市の方もまた認可するということは物理的に多分できないと思いますが、それについては委員長はどのような判断をしておられますか。

議長（波田 政和君） 作元委員長。

議員（17番 作元 義文君） 市の社会福祉法人から2件と、如水会というのは佐賀県の法人で、その3件が申請をされて、県が3件を対象に審査をするということになりますので、どこが決定されるかわかりません。県の方で審査があることになる。

議長（波田 政和君） 武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） 私は、この福祉施設にしても、あるいは公共土木にしても、市内の、島内の業者を優先すべきだと、これがどうもはっきりしていない。なぜ佐賀県の方から申請が、市にあったわけじゃないでしょうけれども、もしそういう話があれば、市としては強く県に働きかけるべきだ、これは大きな基本的な問題だというふうに考えるわけです。

ですから、私は、この委員長報告でも、そういう問題を指摘し、理事者に強く要望すべきだというふうに思います。それが非常に弱いということを申し上げておきたいと思います。

議長（波田 政和君） 作元委員長。

議員（17番 作元 義文君） それは委員会の中で強く市の業者を優先するように、市の業者がわからずに、佐賀県の業者だけがわかっててということがないように強く要望を委員会ではいたしております。

以上。

議長（波田 政和君） ほかにありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから陳情第4号、市有地貸付反対陳情についてを採決します。この採決は起立によって行います。この陳情に対する委員長の報告は不採択です。陳情第4号、市有地貸付反対陳情についてを採択することに賛成の方は起立願います。（発言する者あり）

暫時休憩します。

午前11時55分休憩

.....
午前11時55分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

陳情第4号、市有地貸付反対陳情についてを採択することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（波田 政和君） 起立少数です。したがって、陳情第4号、市有地貸付反対陳情については不採択とすることに決定しました。

昼食休憩します。再開は13時から。よろしく願います。

午前11時57分休憩

.....
午後1時00分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

.....
.
.
日程第10．報告第5号

日程第11．報告第6号

日程第12．報告第7号

日程第13．報告第8号

日程第14．報告第9号

日程第15．報告第10号

日程第16．報告第11号

日程第17．報告第12号

日程第18．報告第13号

日程第19．報告第14号

日程第20．報告第15号

日程第21．報告第16号

議長（波田 政和君） 日程第10、報告第5号、平成17事業年度長崎県市町村土地開発公社経営状況報告についてから日程第21、報告第16号、平成17事業年度株式会社対馬国際ライン経営状況報告についてまでの12件を一括して議題とします。

各案について提案理由の説明を求めます。総務部長、中島均君。

総務部長（中島 均君） 議案の説明に入る前に、お手元に正誤表をお配りしておりますので、

よろしくお願いたします。

それでは、ただいま一括議題となりました12件の提案理由の御説明をいたします。

報告第5号、平成17事業年度長崎県市町村土地開発公社経営状況報告についてであります。本社は、公有地の先行取得、造成事業、また、これに対する償還事務等が主な事業であります。平成17年度は公有地の取得、造成はなく、償還事務が主な事業となっております。

次に、報告第6号、平成17事業年度財団法人厳原愛育会経営状況報告についてであります。厳原愛育は、阿連僻地保育所、久根僻地保育所、佐須僻地保育所及び豆敷僻地保育所の4保育所についての受託運営を行っております。この受託事業に係る経営状況報告でございます。

報告第7号、平成17事業年度株式会社まちづくり厳原経営状況報告についてであります。まちづくり厳原は、厳原地区の中心市街地の再発事業における商業に関することを行っており、17年度は対馬市交流センターの出店テナントに係る個別説明会、テナント予約契約の締結、高度化融資事業に係る県協議等の事業内容でございます。

次に、報告第8号、平成17事業年度財団法人美津島町振興公社経営状況報告についてであります。本社は、美津島町総合公園あそびパーク等の市の施設の管理を受託しております。これらの施設の管理並びに施設の有効利用が主な事業内容でございます。

報告第9号、平成17事業年度株式会社対馬物産開発経営状況報告についてであります。対馬物産開発は、商品の加工販売、販路の拡大等の事業に係る経営状況の報告でございます。

次に、報告第10号、平成17事業年度財団法人美津島町担い手公社経営状況報告についてであります。本社は、カンショ、トウモロコシ、そば等の作付、パーク堆肥の製造販売、また、市の受託事業等を行っております。

報告第11号、平成17事業年度財団法人豊玉町振興公社経営状況報告についてであります。本社は、水産物の加工販売を主な事業としており、また、新商品開発、新規取引業者の開拓等にも取り組んでおります。

報告第12号、平成17事業年度財団法人峰町総合開発公社経営状況報告についてであります。本社の事業といたしましては、農作業受託、市の施設の管理受託、赤牛の肥育事業、堆肥製造販売が主な内容でございます。

報告第13号、平成17事業年度財団法人上県町産業開発公社経営状況報告についてであります。本社の事業といたしましては、そば道場事業、農作業受託、市の施設清掃管理作業等が主なものでございます。

報告第14号、平成17事業年度財団法人上対馬町振興公社経営状況報告についてであります。本社は、国民宿舎上対馬荘及び平成16年2月にオープンした上対馬温泉渚の湯の管理運営を行っております。

報告第15号は、平成17事業年度株式会社カミレイ経営状況報告についてであります。カミレイにつきましては、上対馬冷凍冷蔵庫の冷凍事業と、放流用アワビの種苗生産事業を行っております。

報告第16号、平成17事業年度株式会社対馬国際ライン経営状況報告についてであります。対馬国際ラインは比田勝釜山間の出入国事務の代行委託事務が主なもので、シーフラワー号、JRビートルの出入国に係る国際航路の窓口となっております。また、比田勝港国際ターミナルの管理も受託しております。

以上、12件の決算につきまして、地方自治法第243条の3第2項の規定により、別冊のとおり議会に提出するものでございます。

なお、経営状況の質問等につきましては、その都度、担当部長、または当社所在地の支所長より説明いたします。よろしくお願いいたします。

議長（波田 政和君） これから各案に対する質疑を行います。12番、大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） 報告8号と9号について質問をいたします。

8号の美津島町振興公社、これについて、平成18年度の収支の予算計画、これ6ページになります。報告8号の6ページ。当初の決算総会において、市の財政の調整上、昨年度より940万円そこらが一応財源不足で、非常に管理に一般財源の投入とすることで苦しい立場がよくわかるわけですが。

この中身を見ますと、一般管理費がゼロで、予算上、事務局の都合でゼロできております。いずれにしる途中で補正を組んでくると思いますが、6月の定例会までにその対応をなされておられません。9月の定例会の観光の管理費で450万円相当が計上されておりますが、この一部が充当されるのか、その辺を1点確認したいと思います。わかりますでしょうか。

昨年4,700万円相当の財源対応をしておったわけですが、本年度940万円相当の減額措置をしております。この中身見ますと、支出の部で、いわゆる一般管理費がゼロになっております、すべて。そういうふうな事務局の給与についても対応なされておらないというふうな予算の組み方をしておりますが、この9月の時点で、その後どうなっているかという質問をしております。その点、1点お尋ねいたします、まず。

議長（波田 政和君） 松村支所長。

美津島支所長（松村 善彦君） お答えいたします。

今の18年度の収支予算の件ですが、これは、今回も御存じのとおり補正をお願いをしているようなところでございます。第1号補正で223万4,000円、今回の補正で320万7,000円をお願いしているところです。そういうところで一般管理費は一応役員報酬という形で5万6,000円を予算計上するところでございます。

議長（波田 政和君） 12番、大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） そういうことでいいですね。

次に進みます。報告の第9号、物産開発、これについてお尋ねをしたいわけですが、その4ページ、これが損益計算書の中の一番ちょっと真ん中より上の期末の棚卸高、これが2億3,500万円相当が計上されております。昨年の決算においてやはり2億3,000万円相当の金額が計上されております。

私もよくわからないというか、中身を教えてほしいわけですが、ヒジキはこの会社の戦略物資ということでこの報告の内容に書かれております。これが3月の末日の決算でございますから、恐らくこれらの原料が余った状態での決算を書かれたと、こう思いますが、その点が昨年の段階と今年度の数字がほとんど変わらんということは、1年間の在庫のことでなくて、引きずった状態だと私は感じますが、その辺は単年度の在庫の残高なのか、あるいは過去の積み上げの在庫の残高なのか、この辺をひとつわかりましたらまずお聞きしたいと思います。

議長（波田 政和君） 長部長。

観光商工部長（長 信義君） お答えをいたします。

御質問の内容は、単年度分なのか、過去の年度も入っているのかという御質問でございますが、両方でございます。

議長（波田 政和君） 大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） 大きくシェアが、17年度分の在庫と過年度分の在庫のシェア、割合は頭の中にございますか。おおむね。

議長（波田 政和君） 長部長。

観光商工部長（長 信義君） 今の御質問は、シェアはちょっと頭の中に入っておりませんが、御承知のように、この原藻の買い入れ時期というのが大体4月、5月、6月の3カ月間でございます。したがって、今回の決算は3月末までの決算でございますので、大体このあたりで通常大体9,000万円ぐらいの原藻の買い入れをいたします。

ただし、原藻を地元の原藻が手に入れば、特に18年度につきましては例年よりも少し原藻がたくさん手に入りましたので、そういう面では原藻が手に入ると、いわゆる地元産が手に入るといときには、できるだけ多くの原藻を買い入れをするというふうにいたしております。

ただ、御質問の内容とちょっとかけ離れますが、当該年度に買った分と、それから過去の分という分につきましては、そのあたりが割合的にどのくらいかということにつきましては、ちょっとお答えできません。申しわけございません。

議長（波田 政和君） 12番。最後にもう1回だけよろしいですか。それで最後にします。

議員（12番 大浦 孝司君） その内訳書を、できれば入手していただきたいと思います。

それと、この中の監査役、昨年の資料も一緒ですが、2名おられて1人は御病気でございます。にもかかわらずそのままの役員の続行というのは適当でないというふうに私は思いますが、その辺いかがでしょうか。連続して対馬市になってからです。その辺は私はしっかりした方がいいと思います。その辺どう考えておりますか。

議長（波田 政和君） 長部長。

観光商工部長（長 信義君） お答えをいたします。

実は、御指摘のように伊藤浩監査委員さんが病氣療養中で、長期入院でございまして、伊藤さんのこの子供さん浩一郎さんとお話をしまして、そのあたり、監査していただけるだろうかというふうな問い合わせをしたわけでございますけども、ちょっとそれが無理だということでございまして、今回はお一人だけの監査をしていただいておりますが。

今後につきましては、一応、さきの6月でございましたが、6月の役員会総会におきまして新たな監査委員を選出をいたしております。したがって、次の18会計年度の報告につきましては、2人の監査委員をお願いをできるということにいたしております。

以上です。

議長（波田 政和君） ほかにございせんか。21番、中原康博君。

議員（21番 中原 康博君） 峰の支所長にちょっとお尋ねをいたします。

峰町総合開発公社の事業経過報告につきまして見ておりますが、鹿牧場、鹿を早くから峰町では飼っておりましたが、現在の鹿の状況を教えていただいて、旧峰町のときからもやめたらどうかという話もあっておりましたが、その検討はなされたものかどうか説明をお願いしたいと思います。

議長（波田 政和君） 阿比留支所長。

峰支所長（阿比留博幸君） お答えをいたします。

鹿は4頭、はっきり覚えていないんですが、4頭ぐらいしかいないと思います。対馬市の方からも行革の方で廃止の意向がっておりますが、現在おる鹿をどうするのかということはまだ決定をいたしておりません。

議長（波田 政和君） ほかにございせんでしょうか。11番、宮原五男君。

議員（11番 宮原 五男君） 対馬物産開発についてちょっと、この海藻類、イカ類、これは原産地はどこになるわけですか。これは地元産で全部出してあるとですか。そのところ比率を、どういうふうになっているか教えていただきたい。

議長（波田 政和君） 長部長。

観光商工部長（長 信義君） お答えをいたします。

地元産だけではございせん。韓国産も入っております。比率ということでございますが、現

時点では大体半分半分というふうに考えております。イカにつきましては、これは、大半は地元産でございます。

議長（波田 政和君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これで、報告第5号から報告第16号までを終わります。

日程第22．認定第1号

日程第23．認定第2号

日程第24．認定第3号

日程第25．認定第4号

日程第26．認定第5号

日程第27．認定第6号

日程第28．認定第7号

日程第29．認定第8号

日程第30．認定第9号

日程第31．認定第10号

日程第32．認定第11号

日程第33．認定第12号

日程第34．認定第13号

議長（波田 政和君） 日程第22、認定第1号、平成17年度対馬市一般会計歳入歳出決算の認定についてから日程第34、認定第13号、平成17年度長崎県市町村議会議員公務災害補償等組合会計歳入歳出決算の認定についてまでの13件を一括して議題とします。

各案について提案理由の説明を求めます。総務部長、中島均君。

総務部長（中島 均君） まことに申しわけございませんけど、議案の説明に入ります前に、お手元の正誤表をお配りしておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、ただいま一括議題となりました認定第1号、平成17年度対馬市一般会計歳入歳出決算の認定について、認定第2号、平成17年度対馬市診療所特別会計歳入歳出決算の認定について、認定第3号、平成17年度対馬市公共用地先行取得特別会計歳入歳出決算の認定について、認定第4号、平成17年度対馬市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について、認定第5号、平成17年度対馬市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について、認定第6号、平成17年度対馬市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について、認定第7号、平成17年度対馬

市特別養護老人ホーム特別会計歳入歳出決算の認定について、認定第10号、平成17年度対馬市対馬市旅客定期航路事業特別会計歳入歳出決算の認定について、認定第11号、平成17年度対馬市風力発電事業特別会計歳入歳出決算の認定について、以上9件の決算につきまして、地方自治法第233条第3項の規定により、別紙監査委員の意見をつけて議会の認定を求めるところでございます。

決算の概要説明につきましては、別冊の主要施策の成果説明書をもって省略させていただきます。

決算内容の御質問等につきましては、その都度、担当部長が御説明いたします。よろしくお願いいたします。

続きまして、認定第13号、平成17年度長崎県市町村議会議員公務災害補償等組合会計歳入歳出決算の認定について提案理由の御説明を申し上げます。

本組合につきましては、去る平成18年3月31日をもって解散したところではありますが、解散に伴う平成17年度決算につきましては、地方自治法第292条において準用する地方自治法施行令第5条第3項の規定により、構成団体の長が監査委員の審査意見書をつけて議会の認定に付さなければならないとされております。よって、別紙監査委員の意見書をつけて議会の認定をお願いするものでございます。

以上、簡単ではございますが、議題となりました10件の説明を終わります。よろしく御審議のほどを申し上げます。

議長（波田 政和君） 水道局長、斉藤清榮君。

水道局長（斉藤 清榮君） ただいま一括議案となりました認定第8号、認定第9号、認定第12号の3件は、いずれも水道局所管の事業に係る議案でございますので、続けて御説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

認定第8号、平成17年度対馬市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定については、特別会計決算書中159ページからで、巖原地区を除きます5支所管内の簡易水道事業の特別会計であります。

認定第9号、平成17年度対馬市集落排水処理施設特別会計歳入歳出決算の認定については、特別会計決算書中183ページからで、巖原町阿連地区の集落排水処理施設事業の特別会計であります。それぞれ地方自治法第233条第3項の規定に基づき、監査意見書並びに主要施策の成果説明書を添えて議会の認定に付すものでございます。

次に、別冊の決算書ではありますが、認定第12号、平成17年度対馬市水道事業会計の認定については、公営企業会計で運営をいたしております巖原地区の水道事業会計で、3月31日付をもって出納閉鎖をし、地方公営企業法第30条4項の規定に基づき、監査意見書並びに事業報告

書等、関係書を添えて議会の認定に付すものでございます。

以上、簡単でございますが、認定第8号、認定第9号、認定第12号についての提案理由の説明を終わります。今後とも各事業経営の健全化を図りながら市民サービスの向上に向けてさらに努力を怠らない所存でございます。よろしく御審議の上、御認定くださいますようお願い申し上げます。

議長（波田 政和君） これから各案に対する一括質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。認定第1号、平成17年度対馬市一般会計歳入歳出決算の認定については、委員会条例第6条の規定によって、一般会計決算審査特別委員会を設置し、付託の上、閉会中の継続審査にしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、認定第1号は、一般会計決算審査特別委員会を設置し、付託の上、閉会中の継続審査にすることに決定しました。

再度お諮りします。ただいま設置されました一般会計決算特別委員会の委員については、委員会条例第8条第1項の規定によって、議長を除く25名を指名したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、議長を除く25名を一般会計決算審査特別委員に選任することに決定しました。

委員長及び副委員長の互選のため、委員会条例第10条の規定により、一般会計決算審査特別委員会を議員控え室にて招集いたします。

暫時休憩します。

午後1時27分休憩

.....
午後1時38分再開

議長（波田 政和君） 再開します。休憩前に引き続き会議を開きます。

一般会計決算審査特別委員会の委員長及び副委員長が決定した旨、通知を受けましたので報告します。委員長に兵頭榮君、副委員長に糸瀬一彦君。以上のとおりです。

なお、会議規則第44条第1項の規定によって、11月30日までに審査を終了するよう期限をつけたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、11月30日までに審査を終了するよう期限をつけることに決定しました。

次に、認定第2号から認定第13号までの12件を、会議規則第37条第1項の規定により、お手元に配付の決算審査付託表のとおり各常任委員会に付託します。

なお、審査は閉会中の継続審査とし、会議規則第44条第1項の規定によって、11月30日までに終了をするよう期限をつけたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、11月30日までに審査を終了するよう期限をつけることに決定しました。

お諮りします。各会計の審査につきましては、特別委員会及び常任委員会に地方自治法第98条第1項の権限を付与したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、各会計の審査につきましては、地方自治法第98条第1項の権限を付与することに決定しました。

日程第35．議案第112号

議長（波田 政和君） 日程第35、議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。総務部長、中島均君。

総務部長（中島 均君） ただいま議題となりました議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

今回の補正は、生活保護世帯の増による生活保護費、厳美清華苑の汚泥運搬処理業務委託料、燃油高騰による対馬クリーンセンターの燃料費、イノシシ捕獲補助金等を増額しております。

また、歳入におきましては、普通交付税の額が決定いたしましたので、基金からの繰入金を減額いたしております。1ページをお願いいたします。

平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）は次に定めるところによることを規定し、第1条第1項、歳入歳出予算の補正は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ3億4,600万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ339億4,900万円とするものであります。

第2項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、2ページから5ページにかけての第1表歳入歳出予算補正によるものとするものであります。

第2条、地方債の補正は、地方債の廃止及び変更を6ページから7ページにかけて、第2表地方債補正によることを定め、地方債の限度額を52億3,140万円に変更いたしております。

次に、歳入歳出補正予算の内容について、主なものを御説明いたします。

まず、歳入であります。12ページをお願いいたします。9款地方特例交付金1項地方特例交付金は、額の決定により1,920万1,000円を増額しております。

10款地方交付税1項地方交付税は、普通交付税を5億3,680万2,000円増額しております。

12款分担金及び負担金1項分担金は、自然災害防止事業分担金30万円が主なもので、2項負担金は、身体障害者訪問入浴サービス事業の負担金を減額しております。

13款使用料及び手数料1項使用料は、保育料84万4,000円の増が主なものでございます。

次に、14ページをお願いいたします。14款国庫支出金1項国庫負担金は5,196万円を増額しております。社会福祉費負担金は、障害者自立支援法に基づく制度の改正により、項目の組み替えと負担金の増額分を計上いたしております。生活保護費負担金3,354万4,000円は、保護世帯の増によるものでございます。

2項国庫補助金は841万2,000円を減額いたしております。社会福祉費補助金460万4,000円、住宅費補助金の町並み環境整備事業補助金398万5,000円の減額であります。

次に、16ページをお願いいたします。社会教育費補助金の文化財保存整備事業補助金220万円の減が主なものでございます。

15款県支出金1項県負担金は、社会福祉費負担金に自立支援費負担金を5,331万7,000円計上いたしております。

2項県補助金は、1,595万9,000円を増額いたしております。ながさき「食と農」支援事業補助金1,104万5,000円、元気な地域づくり整備交付金1,100万1,000円などの農業費補助金が主な増でございます。

次に、18ページをお願いいたします。16款財産収入1項財産運用収入は、教職員住宅貸付収入を98万7,000円減額し、2項財産売り払い収入は、家畜導入牛売り払い収入など58万8,000円増額いたしております。

20ページをお願いいたします。18款基金繰入金2項基金繰入金は、3億3,394万6,000円を減額いたしております。財政調整基金繰入金1億3,700万円の減、減債基金2億円の減が主なものでございます。

19款繰越金1項繰越金は、17年度剰余金の残1,979万5,000円を計上いたしております。

20款諸収入5項雑入は、コミュニティー助成事業補助金など180万6,000円を増額いたしております。

22ページをお願いいたします。21款市債1項市債につきましては1,290万円を減額いたしております。臨時財政対策債、減税補てん債で2,080万円の減、そのほかは事業費の増減による起債額を変更いたしております。

続きまして、歳出について御説明いたします。24ページをお願いいたします。

1款議会費1項議会費は、旅費など166万2,000円を増額いたしております。

2款総務費1項総務管理費は、4,566万7,000円を増額しております。

5目財産管理費、26ページをお願いいたします。13節委託料の美津島支所の移転に伴います調査設計委託料、15節工事請負費の庁舎等の改修工事、7目企画費12節役務費のCATV事業に伴います電柱共架申請手数料2,119万6,000円及び事業内容の決定による組み替え等が主な内容でございます。

次に、30ページをお願いいたします。3款民生費1項社会福祉費は3,166万8,000円を増額いたしております。1目社会福祉総務費の20節扶助費2,360万円が主なもので、障害者自立支援法に基づく制度の改正により、組み替え及び増によるものでございます。

32ページの下段から34ページにかけてですが、2項児童福祉費は1,463万6,000円を増額しております。4目母子福祉費の乳幼児福祉医療費等の扶助費850万4,000円の増が主なものでございます。3項生活保護費は、生活保護者世帯の増により、扶助費を4,626万3,000円増額いたしております。

4款衛生費1項保健衛生費は36ページをお願いいたします。保健師等養成奨学資金貸付金、診療所用備品購入費等509万3,000円を増額いたしております。2項清掃費は6,491万9,000円増額いたしております。2目の塵芥処理費は、燃油の高騰による燃料費など2,976万2,000円の増額、3目のし尿処理費は、厳美清華苑の島外への汚泥運搬処分業務委託料2,950万5,000円を、急を要したため流用で対応いたしました分を今回計上いたしております。

38ページをお願いいたします。6款農林水産業費1項農業費は4,120万2,000円を増額いたしております。3目農業振興費のイノシシ捕獲補助金、ながさき「食と農」支援事業の養鶏施設整備事業補助金が主なものでございます。

40ページをお願いいたします。2項林業費は、五根緒地区、豆酸地区の自然災害防止工事など631万7,000円を増額いたしております。3項水産業費は486万3,000円を増額いたしております。県事業の海藻バンク設置事業負担金350万円が主なものでございます。

次に、42ページをお願いいたします。7款商工費1項商工費は、観光施設の修繕料、管理委

託料等1,157万4,000円を増額いたしております。

44ページをお願いいたします。8款土木費2項道路橋りょう費は1,854万9,000円を増額いたしております。事業内容の変更による予算の組み替え及び国県道整備工事の負担金840万円が主な内容でございます。

46ページをお願いいたします。4項港湾費は、港湾県工事負担金1,305万円を増額いたしております。

48ページをお願いいたします。6項住宅費は291万5,000円を減額いたしております。3目町並み環境整備費の事業費の減によるもので、また、事業内容の変更により予算の組み替えを行っております。

9款消防費は、対馬市分会補助金、消火栓設置工事負担金など1,062万8,000円を増額いたしております。

50ページをお願いいたします。10款教育費1項教育総務費は、事務費及び教職員住宅修繕料など336万4,000円を増額いたしております。

52ページをお願いいたします。2項小学校費は472万8,000円を増額いたしております。1目学校管理費の修繕料500万4,000円の増が主なものでございます。3項中学校費は288万8,000円を増額いたしております。1目学校管理費の修繕料168万2,000円、2目教育振興費の久田中学校スクールバス待合所建設費120万円、義務教育振興備品購入費104万4,000円が増の主なもので、通学バス運行委託料144万円を減額いたしております。

54ページをお願いいたします。5項社会教育費は780万5,000円増額いたしております。2項公民館費の維持補修工事費356万9,000円、3目文化財保護費の保存修理工事費213万2,000円が主なものでございます。

56ページをお願いいたします。6項保健体育費は691万4,000円を増額いたしております。2目体育施設費の施設の修繕料210万9,000円、3目学校給食費の学校給食会委託料491万円が主なものとなっております。

60ページは補正予算給与費明細書であります。

以上、簡単ではございますが、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議くださいますようお願いいたします。

議長（波田 政和君） これから質疑を行います。21番、中原康博君。

議員（21番 中原 康博君） 市長に尋ねます。

イノシシの対策特別委員の委員長も報告しておりましたけれども、私も初めて今回自分で柵などをしまして、そして、芋がやられました、イノシシから。非常に腹立たしく、自分で頑張った

のも余計ありますが。

市長、約300年前に陶山訥庵という人が頑張っておられ、30万人の人力まで雇われイノシシを全滅されたという経過があります。今回も平成6年ごろからイノシシが出てきてから今日まで至っておりますが、どのように市長として今後このイノシシ対策に取り組んでいかれるのかお尋ねをしたいと思います。

また、1回でもそういった現場を視察になられたかどうか、お尋ねをしたいと思います。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 現場の視察は随時、その都度行けるところには行ってきましたが、おっしゃるように300年前ということですが、あの將軍綱吉公の犬公方といわれた生類憐みの令の出た当時のことをごさいますて、御指摘のとおりであります。

1週間ほど前でしたか、10日ぐらいになりますか、猟友会の何人かの人に話をいたしております。結局こういった防護柵、あるいは電気柵、金網、後追い後追いをしているわけですが、それ以上にどんどん繁殖をいたしております。どんどんふえているということも事実ですし、1,500頭今度もとっておるようですが、1,500頭の中でもいろんな話もいろいろいたしました。

写真判定というのがいかなものかというようなことも出ましたし、あるいはククリワナ、箱ワナにいたしましてもいろんな話が出ております。名義を貸して折半をしたという話も聞き、いろんな話がいろいろ出てくるわけでございますが。

そういったことはともかくとして、300数十年前に第5代の綱吉公のときにそういったことが、約9年かかっております。10年と言っていますが。その間イノシシを追い詰め、猪鹿の追い詰めということでやったんですが、どうしてできて、私どもにできないんだろうということを私ども反省しきりなんです。

やはり抜本的に根幹を絶たない限り難しいと思いますので、これがやっぱり猟友会の皆さんに理解をしていただくことによっていろんなことができるんじゃないかということで、猟友会の皆さんとよく相談していただきたいと思っておりますと、私どもできることはいたしましようということで、平成の陶山訥庵になってもらうわけいきませんかというような話を何人かにいたしました。

結局、御指摘のとおり、今、対馬の猟友会でいろんな努力をいただいているわけですが、やっぱり鹿追の犬とイノシシの犬は当然違うわけですし、鹿追の犬では対応できませんし、なかなか効果が上がらない。ということになれば、むしろ全国にネットで開放することによって、ハンターの人を対馬に呼び込むということも一つの手でしょうし、2万、3万逆に入島税払ってでもうちに来られるかたはたくさんおるようになります。

そういったものを猟友会の皆さんがどう考えられるのか、これは対馬の猟友会の皆さんと、そ

のための一つとしてのこの猟期を長くするというのもその一つでしょうし、まだ必要であればそうすればいいでしょうし、あるいは、どの地区から追い込んでいくのか、猪垣に当たるものを何でやっていくのか、あるいは農家の人との1カ月、2カ月という山に入らない時期をどうするのか、そういったものを抜本的にやっついていかなければ後追いゲームでどんどんふえていくばかりだと思っております。

そういったことで、抜本的なやっぱりこの解決策は猟友会抜きにはできないわけですから、対馬猟友会の皆さんと下上という話も出ておりましたけども、とにかく平成の陶山訥庵という形で、皆我々がともにその気持ちでやらんとこの撲滅はできないと思っておりますので、抜本的にいろんな協議を進めていきたいと思っております。

以上です。

議長（波田 政和君） 中原康博君。

議員（21番 中原 康博君） 抜本的はわかりますが、どのような抜本的にされるのか、やはり、元禄の陶山訥庵ではありません。ひとつ市長が陣頭指揮に立っていただいて、これは猟友会だけでは本当どうもなりません。箱ワナとかいろんなワナをかけられても到底追いつくものではありません。

毎年1,500頭余りってありますけれども、やはり保健所と協議されてでも、毒殺でも考えていかなければ先に進んでいかないんじゃないかなと思います。ただ捕獲、とるくらいでは追いついていきません。どうかその辺を考えていただきたいと思います。

そしてまた、この2,600万円今年度予算組まれましたが、どのような使い方をされるのか、担当部長、説明をお願いいたします。

それともう一つ、巖美清華苑に今回2,900万円、6月のときには約1,400万円出されております。4,500万円の一般財源を使うことになります。市長、このことにつきましてどのように感じておられるのか。あなたは美津島町時分に副管理者としてやってこられた経緯があります。ただメーカーに問い詰めてそのまま済まされるのか、議会等に説明をお願いしたいと思います。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） どのような方策があるのかと、先ほど申しましたように、例えばという話をしました。これは、それを私がわかっていても簡単にできるわけですが、皆さんとやっぱり英知を結集して、周知はせないかんわけですから。例えば、さっき言いましたように、これも協議をしていかな、全国のハンターに開放するのも一つの手でしょうし、さっき言ったとおりでして、何をどうするのかじゃない、そういったこともあるし、これはよく協議をせないけませんということですから。

それが早くできてから、わかっていたらできるんですが、なかなかそうもまいらんようございまして、猟友会の考え方も大分変わってきているということも聞いておりますし、だから、猟友会の皆さんと、まずそれが第一だと思います。それから後いろんなものが付随して出てくる、予算の問題も出てくるでしょうし。

それから、巖美清華苑4,000数百万ということですが、これは今までずっと議会で問題になっていたとおりでございまして、恐らく、いろんなことがありましたからおくれたと思いますが、監査委員の方も監査委員の職権として随時監査をされるでしょうし、巖美清華苑につきましては、美津島の町長、副管理者としてどう思うかと、私は副管理者やありません。一議員でありました。それは訂正をしておきます。

このことにつきましては、大変異常に思っておりますし、このことは12月にはいろんな形で精査して報告をし、どうするかということも、これは皆さんに御報告をします。精査して報告するといって、これはこの前中間報告をいたしました、まだ基本的に施設としてよくない施設があります。最初から、60トンというのが、し尿が53キ口、60キ口です。それから、汚泥が7キ口、こういったことで、そもそも実績として全体で7,000キ口は超えていたはずで。

しかし、1日7キ口ということになりますと、360を掛けたらわかりますが、2,555キ口、これじゃ到底足りないことはわかっておる。この足りないものを多重円盤型とかいう形であいつたふうにしているわけです。それが隠されていた。この前やっと90人の議会のとき最初にこういったしおりが出てきましたことわかったように、多重円盤型で今120%、130%がよくわかりませんが、100%以上のものをやっけてきている。そういったことに問題があっているわけでした。

要は汲み取りに問題がある。いろいろ前の小島三廣議員が言っておりましたように、くみ取りは上と下を残して真ん中をくみ取るんだと、それは確かにそうでしょうけど、基本的にそんな真ん中をとるなんて、上の水と下の水を残して真ん中をとるなんて、そんなことはできるはずがないわけですが、それができれば一番いいわけなんですけど。

ということは、みんなくみ取ってしまうとバクテリアがなくなる。そうすると、それで能力ができないということですから、くみ取る維持管理にも問題があるし、基本的に汚泥脱水処理でやっていたのが約5,000キ口を超えていたわけですから、2,555キ口じゃ到底違うわけです。それにちょうど2,555キ口、それは脱水処理場の恐らく積算が抜けていたんじゃないかと思えます。当然7千何百になるとわかるわけです。

だからオープンした途端にし尿くみ取り業者の持ち込み台数制限が出てきたわけでありまして、このことにつきましては、今ここでいろいろ言うよりも、恐らく監査委員のお二人で大変だろうと思うんですが、この問題提起はされているわけですが、監査委員の職権として随時監査が行わ

れるものと思っております。

そういったことで、全容は12月に、どうしたらいいのか、次の問題も含めてこれは報告を、精査をするという中間報告をこの前9月にしたと思います。いや、9月じゃなかった。何月、前議会でしましたから、これは12月の議会に全容を解明いたしまして、どうしたらいいかということも含めて、今のところは、

だから、なぜし尿くみ取りの船をチャーターして、そこに確か600トン積み込んだと思いますが、このときは皆、担当部から私ども皆寝てないんです。皆さん、私らは早く帰りましたけど、10時か11時ごろ。とにかく巖原と鶏知の中が、家の中にあふれてしまうたらどうします。どうしようもなかった。だから、その運搬費というのは上対馬のし尿処理センターに運んだこと、それから中部に運んだこと、それから、阿連の集落排水まで運んだはずであります。

どうにもならんで、しかし回復、復旧するのに23週間かかるというから、結局20%、10%の稼働しかなかったわけですから、これじゃどうもならんということで、本当にふんびたし、尿びたしに巖原、美津島の地域はなってしまう寸前でしたから、これはやむを得んということで、運んでもだめだったらからこれをチャーターしてやった。それが運送費も合せて4,500万円かな。あと詳しいことは、私は頭の中に入れていただけですから、担当に説明させます。

議長（波田 政和君） 内容説明要りますか。

議員（21番 中原 康博君） 要ります。

議長（波田 政和君） 市民生活部長。

市民生活部長（山田 幸男君） 前回6月の定例議会におきましても巖美清華苑の状況につきまして御説明いたしましたけども、前回6月の補正でお願いいたしましたのは、前段の部分の1,490万余りをお願いをいたしました。この件につきましては前回御説明いたしておりますので、今回は省略させていただきます。

今回お願いいたしております2,950万円につきましては、先ほど市長も説明いたしましたように、前回の改修の結果、徐々に巖美清華苑の能力、正常に戻っておったわけでございますが、その後また状況が悪くなりまして、6月1日以降状況が悪くなりまして、その対策にどうするかということで検討をいたしました結果、関係業者集まって御相談をいたしまして検討をいたしました。

やはりこれ以上の搬入制限は無理だということで、先ほど市長も申しましたように旧巖原地区、美津島地区のし尿を直接島外に搬出する以外に対策はないということで600トン、6月15日から19日にかけて600トンを、ちょうど船1そう分でございます。これを熊本県の民間の処理施設に委託をいたしまして、そこで処理をしていただいたというのが現状でございます。

今後につきましては、現在はほぼ正常に戻った運転がなされております。今後については、対策につきましては、現在、部内で検討をいたしているところでございます。

以上でございます。（発言する者あり）

議長（波田 政和君） どうぞ。

農林水産部長（神宮 忠彌君） お答えいたします。

今回補正をお願いしております2,601万6,000円につきましては、イノシシの捕獲補助でございます。

議長（波田 政和君） 中原康博君。

議員（21番 中原 康博君） 2,600万円、今、1頭1万6,000円ですか。それで、捕獲する方にもお金を出さないとはいけないとは思いますが、お金を出さないとする意欲がなくなるという考え方もありましようが、農業者、被害に遭う方の方のことも考えていただかなければ行政としてはできないんじゃないかなと思います。

作物、芋にしてもソバにしても米にしても、つくっておいて全滅という状況になります。やはりイノシシをとる方には補助金は出ても、被害に遭う農業者、肝心の農業者はますます農業の意識がなくなってしまう。その辺においては行政はしっかりと考えていただかなければならないと思います。市長、よろしくをお願いします。

それと、巖美清華苑の問題は、やはり徹底した原因究明を、我々厚生委員会をやっておりますけれども、ひとつも結論が出てきません。もう少し原因究明を巖美清華苑の場合は出していただいて、今、稼働率は、市民生活部長は、今よく稼働していますという報告ですけれども、120%の稼働率を毎日しちよるわけですから、今後また機械等も傷んでくるんじゃないかなと心配しております。よろしくをお願いします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） しっかりせえておしかりを受けるのは当然だと思います。当然と思いますが、全国今、イノシシの有害鳥獣の駆除、これで皆さんが痛めて決定打がないわけです。決定打がないということは、それだけ非常に難しいわけですが、今、後追い後追いということで、被害者保護のために、今のは捕獲の補助金でしょうが、防護柵とか金網、あるいは電気柵、あるいはいろんな形での各区から、あるいは地域からの要望に応じてそういったものの保護をしていますけども。

御指摘のように、就業意欲が、生産意欲がなくなっているのは中原議員がおっしゃるとおりです。何をつくってもやられるからつくらんがよいと、由々しきことでございますので、抜本的にやるということになると、抜本的に考えざるを得ない。ということは、この猟友会をよく話をすることによって、これが第一歩だと思います。

猟友会の皆さんが、よしやろうということでやられれば、全国にインターネットを初め開放してしまいます。どうぞ入ってきてくださいと、そうしたイノシシを追う犬を持った人もおるわけですから、そういった人は犬を持ってくるんですから、むしろ入島税を払ってでも撃たしてくれと入ってくる人もおるはずですよ。

だから、それをどうやっていくのか、そこまで踏み切れるかどうかということ、これは皆さんとよく話しせんといかんわけですが、猟友会の方でもいろんな今まで論議があっていたようでもあります。経過を聞きますと、だから、そういう点で今後、抜本的にということになりますと、今までとは違った形で考え方も変えてしまわないかんわけですが、果たしてそれができるかということになります。これは協議の必要がありますので。

今は今、箱ワナとか、いろいろククリワナとか言っていますが、農家そのものが自分らができるように、できればいいんですが、それもなかなか許可制があるもんですから、さっき申し上げましたように、許可を持った人が名前だけ貸して捕獲料を折半したとかいう妙な話もありますし、そんなばかげたことないと思いますけども、それぐらい皆さんが躍起になってあるということでもあります。

だから、これは簡単にやりますというてできることじゃないし、本当に皆さんと額を集めて、特に私は猟友会の皆さんに、何とか一緒になって、全国もくめてしまっで一斉に、それこそ相当金もかかっていくと思いますが、やっぱり追い詰めていく、基本的なものは一緒だと思いますので、追い詰めるところ、猪垣に当たるものをどういうふうにするのか、今の時代にしていくのか、こういったこともありましょし。

あるいは農家の仕事もどこまでどうするのか。ここまで1カ月、何月と何月、ここはこの地区は山に行っちゃだめですよということはできるのかと、いろんな点でせんと、1人でどっとできるものではございませんので、これはぜひ皆さんもお知恵を貸していただいて、皆さんまさに英知を集めてこの対策に具体的に乗り出さないかんと思っておりますが、特効薬は今までなかった。なかったけども、特効薬に近いものをつくり出さないかんと思っておりますので、逆によろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

議長（波田 政和君） そしたら、最後にもう一度。

議員（21番 中原 康博君） 市長も実際に、イノシシは山とか畑とかの問題じゃないんです。吉田を例にとりますと、私の隣、中村長さんの庭先に、縁の前に米をつるしておる、その米まで被害に遭うんです。そういう状況で、集落の中を夜は徘徊しよるんです。早急な手を打ってほしいと思います。

それで、委員長報告にもあります。要するに行政への住民の報告が薄くなったということでご

ざいます。町内の有線放送を利用してもう少しイノシシを呼びかけてもらいたいと、行政に報告するように。そういった方にも力を入れてもらいたいと思います。

議長（波田 政和君） ほかにありませんか。初村久藏君。

議員（7番 初村 久藏君） 2点ほどお尋ねをしたいと思います。この問題は、補正のあれは各常任委員会に付託をされると思いますけど、常任委員会以外のことを2点ほどお尋ねをいたします。

企画費の、27ページ、測量調査設計管理等委託料が1,265万円計上されています。その内容と、しまのブランド化推進協議会補助金のところで125万円の減額となっておりますけど、今、産業の育成をせないけんという時期に、ブランドの協議会補助、どういう協議会でこれは補助でやっていってあるものか、125万円の減額という点をひとつ説明をお願いします。

それと、35ページの扶助費の分で、生活保護費4,626万3,000円。これのちょっと突っ込んだ内容をお聞かせをお願いしたいと思います。

以上です。

議長（波田 政和君） 政策部長。

政策部長（松原 敬行君） 企画費の委託料から御説明申し上げます。

これは、今議会の最終日にも請負契約の提案をさせていただくようにしておりますけども、CATVに伴いますサブセンター、美津島にありますセンターがございますけども、それを接続していくサブセンターを10カ所程度整備することにいたしております。そのことの測量設計委託業務でございます。

それから、負担金補助でございますが、しまのブランド化推進協議会、これは減額にはなっておりますが、補助金のシステムといたしまして、これ県の方から市を通して予算組みがなされておりましたが、補助上、県の方から直接その団体に交付されるということで、市を通りませんので減額をされております。

議員おっしゃられますように、非常にこのブランド化協議会も交流人口の拡大だとか、あるいは物産の販路拡大、それから、新商品の開発とか、いろんな意味で頑張っている協議会でございます。よろしくお願いいたします。

議長（波田 政和君） 建設部長。

建設部長（清水 達明君） 失礼しました。

議長（波田 政和君） 暫時休憩します。

午後2時19分休憩

午後2時19分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

福祉課長。

福祉課長（阿比留保則君） 失礼します。福祉部長が欠席ですので、私の方からお答えをしたいと思っております。

現在、保護世帯につきましては、平成17年度で647件の実績でございます。それにつきまして、今年度につきましては、もう8月末現在で37件の増という形でございますので、その分の扶助見込みをこういった形で計上させていただいております。

以上でございます。

議長（波田 政和君） 初村久藏君。

議員（7番 初村 久藏君） 大体わかりましたけど、しまのブランド化の推進協議会というたらどういう協議会があるか、そこんとを、内容をお願いします。

議長（波田 政和君） 政策部長。

政策部長（松原 敬行君） 御説明いたします。

このしまのブランド化協議会は、平成16年、今から3年前にできた協議会ございまして、メインとしては、先ほども申し上げますように、対馬にいか交流人口の拡大を図っていくかということが設立の主たる目的でございます。

メンバーにつきましては、県、そして対馬市の方です。それから、それぞれの産業団体、それから、交通運輸団体ということで、大体20名で構成されている協議会でございます。

その協議会の全体会もございまして、それから、少し掘り下げて研究をする専門部会というものも5つ程度出てございまして、部会の方でも年に一、二回の会合を開いて、いかに観光客の受入体制をどうしていくか、あるいは、どういった物産開発が可能かというようなことを論議しておるところでございます。

以上でございます。

議長（波田 政和君） 初村久藏君。

議員（7番 初村 久藏君） わかりました。そしたら、これは県からの補助金で運用しているというようなふうでよろしいですか。 そしたら、やっぱりこの問題は、対馬の産業おこしとかいろいろ観光の問題等々で重要な問題だと思いますので、予算は精いっぱいつけてひとつ頑張ってもらいたいと思います。

以上で終わります。

議長（波田 政和君） 宮原五男君。

議員（11番 宮原 五男君） 27ページに、さっき初村議員さんから質問があったんですが、この13節の委託料の測量調査設計管理等委託料ということが出ておったんですが、これは何か

CATVの、何で項目を違わすと、ここは、15に書けばいいのに、これはバイオマスタウン構
想策定委託料に入るとかなと思うとったが、それちょっと違うとやね。 いいです。それはい
いです。

それで、このバイオマス構想がきょう、市長の方からあいさつの中であって、今これを読んで、
第1回の委員会が開かれたということで、その中身と方向性をちょっと市長のこれからの企画が
あるはずですので、そののところをどういうふうな向きで持っていくかをちょっと説明してい
ただければ。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 具体的なことは、松原部長の方からまた後で話してもらいますが、一番
宮原議員が関心持っているバイオマスのはずであります。だから、対馬の自然、山、海、あるい
はし尿なんかもそうなんです、し尿、ごみ、こういったものから対馬でのエネルギーが何とか
対馬で賄えないかということでのいわばバイオマスタウン構想であり、基本計画であり、今度、
国がエタノールの実証プラントを全国で3カ所ぐらいつくるはず、これも昔話したと思います。
そういったものを含めて、NEDO、通産省、あるいは農水省から委託料をもらって研究を今、
私どもがしているということで。

この事業は、やっぱり対馬が避けて通れないと思います。だから、太陽、風、あらゆるもので
大体対馬のエネルギー賄えるんじゃないかというようなことで進めておりまして、これだけは、
ただ単に研究成果とか、あるいはそういったものを出すんじゃないに、具体的にということで、
長崎、あれはメタンガスかな、坂井先生は、全国でも屈指の人ですが、長崎の大学の先生ですが、
この人は、対馬はこれでやれるよということを言っているんですけども。

要は、そういった自然のエネルギーをつくっていくのが極端にはバイオマス、いろんな自然の
中から。これをぜひ、宮原議員もこれをどっかで見てこられた話をされたとおりでございまして、
それをもっと全体的に対馬をバイオの島にしようという基本的な考えの中で動いております。

詳しいことは松原部長が具体的に話します。

議長（波田 政和君） 政策部長。

政策部長（松原 敬行君） 御説明いたします。

この企画費の予算の構成は、純然たる企画費と情報政策の分が入りまじっておりますのでちょ
っと見にくいかもしれませんが、CATVなりの予算もこの中に一緒に合体になっておりますの
で、その辺で御了解願いたいと思います。

今年度の新エネルギー関係につきましては、実は2つの構想、あるいは3つの構想を実は考え
ております。一つは新エネルギービジョン策定ということで、対馬としては、どういった新エネ
ルギーとしての開発の可能性があるだろうかと、対馬の特性として何が考えられるかということ

をまず一つにはやはり考えております。

それともう一つには、市長のお話にありましたように、対馬の場合はやはり90%が山林だから、この山林資源、森林資源を利用して何かできるのではなからうかというようなこと少し先走った件もありますけども、2つの構想を並行してやっていこうと思っております。

なるべく、順序立てていきますとちょっと長期化になる傾向もありますので、できれば新エネルギー、総合的な新エネルギーと、資源を絞った中でのバイオということで、2つを重ねてこの委員会で論議をしていただきたいというふうに思っております。

1回目につきましては、対馬に考えられる、既存している資源としてはどういうものがあるだろうかということのまず研究に入りました。だから、一応年4回ということになっておりますので、来月につきましては、これから少し掘り下げた議論になっていくものであろうというふうに考えております。

議長（波田 政和君） 宮原五男君。

議員（11番 宮原 五男君） 私も前の議会のときに見てきたというて話したとおりでございますが、これは、これからしなければならぬ一番大事なその考え方だろうと私は思います。それで、時間がかかったら何もならぬということです、これ。休耕地の農地、農地も遊んでおりますし、そのトウモロコシ、それもできるらしいです。全部、私の聞いた話では、それに木までできて、メタンガスをつかって、それからエタノールになるということで、実験場まで見てきておりますので。

これはぜひ市長も腹を据えて早目に。そしたら雇用体制もできるし、軽油の値段も半分ぐらいに抑えられるということやけ、これをすれば、だから、全体的に一番いいことですので、時間を早目に、今この対馬の不景気の活性化を起爆剤にするようにこれひとつ早急をお願いしたいと思います。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） サツマイモ、コウコウイモが一番いいと思います。ただ、今の、さっき中原議員のようなイノシシの問題もあります。だからこれで、そうですね、ブラジルなんかこの前も言いましたようにあれはトウモロコシですね、アメリカも。今、アサヒビールが沖縄でもうガソリンスタンドまでつくっております。これはサトウキビの搾りかすっていうか、サトウキビからですね。で、砂糖の部分も少し食い込んでいきますから、少し今、砂糖が値上がりしたりしておりますが、対馬の場合は芋をたくさんつくるっていうても耕地面積が知れておりますからね、その原料になるようなのはいかがかと思えます。大体、30何円、30五、六円からエタノールね。だから、非常に……。

ただ、日本の場合は5%混入できるところ、これを10%ということで、この前、小泉さんが

沖縄で当初の、祝辞もあったときに、とたんにそれを言い出して、今、国の方もそういったことで相当力を入れております。御承知のようにガソリン、化石燃料がもう50年と言われておりますから早ければ25年、30年と言う人もおりますけども、地球温暖化に非常にCO₂なんかで大変なことになっておりますので、そういう点でやっぱり今すぐできるっていうのは対馬の場合は木材だと思います。廃材でもいいし、あるいはおがくずでもいいし、ただ、何ちゅうか、防腐剤なんかが付いたものはだめなんでね。

そういったことでほとんどのものが、ちょうど湯多里ランドが4,000万円ぐらいかかったのが1,000万円切ってできてるようなまさにそれがバイオマスでございますので、今、宮原議員がおっしゃるように早くこれはせないかんのですけども、なかなかまだコストの面、いろいろな面で研究が多いようですけども、先ほど言いましたように風、風力と太陽と海と潮位なんかもありますので、潮位の早いところも。あるいは温度差もありますし、メタンガスなんかっていうのは今、し尿処理なんかで問題になってますけど、これをすることによってですね、これも本当に金がかからないようになっていきます。あるいはゴミでもそうですし、いろいろな点でそういうバイオマスっていうのは避けて通れません。早くと思っておりますけどもこれは技術的なものがあるいろいろありますので、今、専門家がいろいろな形で農水、あるいはNEDO、そういったところも入ってくれておりますし、いろいろな形でできるだけ早く力を、やらないかんですけど、これはなかなかそう思っても技術的なものがありますから限度がありますが、とにかくこれに取り組まないと。

九電なんかも送電すればするだけ赤字ということなんですから。今までは風力の電気の買い上げもいろいろな問題があって最初の上県の場合は大体11円何十銭でしたか、今はもう8円、9円、7円とかいうところの競争入札ですけども。だから、そういった点では九電ができれば完全というふうに。今、そこもここは九電やなからにやいかんということもないわけですから。

そういった点で、いろいろな点でこれからが正念場を迎えるわけですから、ぜひ対馬がそういったエコエネルギーで何とかできるようなですね、バイオマスで、そういうバイオマスの島、自活できるエネルギーの島に何とかならないかということで今研究中ですから、頑張りたいと思います。

議長（波田 政和君） 黒岩美俊君。

議員（18番 黒岩 美俊君） 先ほど7番議員が質問いたしました生活保護についてのちょっと質問をさせていただきます。

この生活保護はおそらく地元の民生委員と市の担当者でおそらく認定をするものと思われませんが、まずその点をひとつ伺いをします。

議長（波田 政和君） 福祉課長。

福祉課長（阿比留保則君） 福祉課長です。今御指摘のように、申請を上げていただく段階で地区の民生委員さんに御相談をして、それで保護課の方のケースワーカーと専門家で調査をして申請を上げるというふうな申請の仕組みで保護の申請を行っております。

議長（波田 政和君） 18番、黒岩美俊君。

議員（18番 黒岩 美俊君） 余りにも認定が甘いんじゃないかと。と申しますのは、私もやっぱり市民から聞くわけですが、認定を受けるときは独居生活とか老人とかでですね、そのようなことで受けるわけですが、いざ受けた途端に、そのあげくには親子二代、それに漁船なんかを持って漁もしている方もおります。そして車を持ってる人もおります。そのようなことがありまして、本当の調査をしているのかどうかですね。その点をひとつ。

議長（波田 政和君） 阿比留課長。

福祉課長（阿比留保則君） 今御指摘の状況のようなことにつきましても、うわさ的にはあるのかなと思いますが、今現在、4つの種別で保護世帯を決定をされております。その中身の合計としましては先ほどお答えした実績の数値でございますが、保護課の方も認定を4段階の形で巡回相談及び調査を行っております。ですので、早ければ1カ月を単位という形で二、三カ月というふうな感覚をもちまして順次、認定された方々の調査を行っておりますので、そういった事例等がございませば、また協議をされてというふうな形で審査をしていくというふうな形で伺っております。

そういった形で現在、不況下ということもございませうけども、そういった状況で推移をしているということで御理解願いたいと思います。

議長（波田 政和君） 黒岩美俊君。

議員（18番 黒岩 美俊君） この財政も厳しい中でありますので、ぜひこの点は再調査をしてですね、本当に生活能力のない方、それとか身障者で本当に稼ぎもしてない方、この方たちが認定を受けるべきだと思うわけですが、本当にこのあり方は民生委員と市の職員でこれは決定、認定するわけですが、調査してからですね。本当に再度またこれを見直すべき問題じゃないかと思っておりますので、その点をくれぐれもよく再調査をされまして、そして認定をしていただきますようお願いしておきます。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 黒岩議員さん、誤解があったらいいけませんのでね、市の職員 市の職員でもそうでしょうが、基本的には民生委員さんにそういった生活困窮な人はね、やっぱり憲法上保障されてます、最低限の生活ということで。ぜひ生活保護を受けたいということになりますね。そうすると、そういった申請がありますとケースワーカーって専門職がおりますから、そういったところで判定をいたします。市の方は事務作業をしていくわけね。

だから、もしそういった形で不正受給してる人がおるとか、仕事していて、この分差し引か
にやいかんじゃないとか、いろんな話があればそれはちゃんと審査請求をしていきます。本当
にもう生活保護できなくなれば一番いいわけですから、保護の必要なくなって自力でできますよ
ということであればですね。

ところが、たまたま今言われたような、あれはしてあるよとか言ってね、自分がやって、して
あって後でそれがばれてまた返したちゅうようなこともあってるようですけど、そんなこと
一々しよったら始まりませんが、そういう不正受給のないように、本当に生活できない人は憲法
上保障されてるんですから、これは国が4分の3負担するわけです。あと、県と市がやるわけ
ですが、そういう中で今ウナギ登りにふえとることはもう事実でございます。だからその点、や
っぱり皆さん一生懸命頑張っても難しい。そういった中で、いや、生活保護の方がいいよとい
うような形で安易にっていうもんじゃないと思いますので、最低限の生活ができる、どうしても生
活できない人達に憲法が保障されてる範囲でやってるわけでございますので、今の御指摘はよく
わかりますので、もしそういったことがあれば、市の方といたしましてもちゃんとしかるべきと
ころで審査をしていただくようにいたしたいと思います。その点はよく徹底しようと思います。
議長（波田 政和君） 黒岩美俊君。

議員（18番 黒岩 美俊君） 私が聞いた範囲では、うわさ話とかそんなもんじゃないと。実
際にその部落の人たちから聞きますから、耳に入るから、あの方たちはこうして生活保護を受け
よるじゃないかと。もう少し議員がしゃんとして調査をしてくれとか言われるから私はこうして
ですね、この場で本当にまだ、今もらってる人より苦しんでる方があると思います、もらい切ら
んで。本当にやっぱり生活能力のない方々にこれは生活保護は受けるべきだと思っておりますので、
その点、調査をよくしていただいております。

議長（波田 政和君） ほかにありませんか。糸瀬一彦君。

議員（9番 糸瀬 一彦君） 21ページの財政調整基金の繰入金、これが現計が幾らか、減債
基金も幾らか。そのページをお願いします。

それから消防長、51ページをちょっとお尋ねします。

消火栓の設置の基本的な基準といいますか、各町ばらばらなときには町が補助したりそうでな
い場合があったと思います。現在は市の方で負担をします。そういうことには間違いはないでしょ
うか。

それから、多分ですね、大河内、の話になって申しわけないですけど、うちの方からも1回上
がったと思うんですけど、そのとき、予算がないからこらえてくれというようなことでしたが、
こういうふうに補助できくようであれば、後日でも対応するというぐらいの幅があるのかないの
か。それから、私有地でも、仮に設置をして私有地の利用が例えば消火栓を設置をさせておった

けど、ここをほかの目的に使うから移転をすると。そういう場合の負担はどういうふうになるのか。2点だけお尋ねをしたいと思います。

議長（波田 政和君） 総務部長。

総務部長（中島 均君） 基金の残高について御説明いたします。

財政調整基金が現在、今回減額いたしておりますけれども、残で6億2,968万3,000円、それから、減債基金繰入基金が8億7,948万1,000円が残でございます。

以上です。

議長（波田 政和君） 消防長。

消防長（阿比留仁志君） お答えいたします。

消火栓の設置は合併後、市で負担して設置をいたしております。

それから、消火栓の大浦地区の件ですが、消火栓の基本は本管150ミリ、それから、枝管75ミリに設置するのが基準でございます。枝管75ミリは180メートルだと思っておりますが、その間に1個だけです。大浦地区の場合は35ミリだと思っておりますけど、消火栓に行っておる方がですね。だから、基準的に消火栓として扱われないということで、お金もなかったし、そういう回答をしたかと思っております。

以上です。

議長（波田 政和君） 糸瀬一彦君。

議員（9番 糸瀬 一彦君） 35ミリは了解してますよ。当然ですね、ちっちゃなあれですから対象外ということでわかります。そのホースなんかも地元でやっていますから。そのことを私言ってるんじゃないんで。何か急遽、動かさざるを得なくて、それをして、話をしたら、当初予算のとき落ちがあったというような話してるんです。あとはもう予算がないから、上県がそのとき4基か5基かして、その分だけだというような話でした。それはいいんですよ。なければいいんですけど、今後も同じような取り扱いをするのかどうか。そして、移転させる場合には、個人の理由でやるということに相変わらず理解してあるわけですかね。個人は無償で提供してるわけです、消防のことだから。それを都合、どうしても動かさざるを得ない。そういう場合にどうなるのか。その分も答えをお願いしたいと思います。

議長（波田 政和君） 消防長。

消防長（阿比留仁志君） 消火栓の設置の場合には、水道局の方とよく相談いたしまして設置をいたしております。そういう個人の土地の撤去ですか、その申し出があれば、やはり消防水利でするのでそういうところを勘案して水道局とも相談して対処したいと思っております。

以上です。

議長（波田 政和君） 水道局長。

水道局長（齊藤 清榮君） 今回、一般会計で水道局の方へ繰り出し金が予算計上されておりますけれども、後段でいわゆる117号、118号で提案理由は説明をいたしますけれども、今、豊鯉浦地区におきまして補助事業で水道管布設がえをしております。同じように設置区においても同様な形です。補助事業の中で水道管本管を布設がえをするに合わせて、消防署の方との協議の中で協議をする中で場所を選定し、設置をしていくわけですが、本来であればそういう事例のないような場所、あるいは市有地等に設置をするのが目的ですが、やむを得ず場所的に民間地があるか、そういう分があるかわかりませんが、今、予算計上の中であるように、水道局がその設置費用を負担をいたしませんので、予算的な措置につきましては消防署になりますので、そういう分の部分でやむを得ず場所を移転となれば、予算措置をして対応せざるを得んかと思っております。

以上です。

議長（波田 政和君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

暫時休憩します。15時再開します。

午後2時46分休憩

.....
午後3時00分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

.....
日程第36．議案第113号

日程第37．議案第114号

日程第38．議案第115号

日程第39．議案第116号

日程第40．議案第117号

日程第41．議案第118号

議長（波田 政和君） 日程第36、議案第113号、平成18年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）から日程第41、議案第118号、平成18年度対馬市水道事業会計補正予算（第1号）までの6件を一括して議題とします。

各案について提案理由の説明を求めます。保健部長、阿比留輝雄君。

保健部長（阿比留輝雄君） ただいま議題となりました議案第113号から議案第115号までの3件を続けて提案理由及びその概要を御説明申し上げます。

議案第113号、平成18年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について御説明申し上げます。

本案は、平成18年10月1日より法改正による電算システムの修正委託及び関連する拠出金、納付金等の変更及び国庫支出金の決定による返納金等を要するために補正をお願いするものでございます。

第1条で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ3億4,537万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ53億98万4,000円と定めるものでございます。

第2項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額、並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表歳入歳出予算補正」によるものでございます。

歳入について御説明いたします。

8ページをお開きください。

3款国庫支出金1,470万1,000円の減は、1項1目療養給付費等負担金の老人保健医療拠出金分1,094万5,000円、介護納付金分1,017万5,000円のいずれも減額と、2目の高額療養費共同事業負担金641万9,000円の増によるものでございます。

4款療養給付費交付金1項1目療養給付費交付金、現年分で674万9,000円の減でございます。

5款県支出金1項1目高額医療共同事業交付金は、641万9,000円。

7款共同事業交付金1項1目共同事業交付金は、保険財政共同事業安定化事業交付金3億8,135万4,000円。

9款繰入金は、1項1目一般会計より144万9,000円繰り入れております。

10ページをお開きください。

10款の繰越金は、1項2目その他の繰越金で2,239万6,000円減額いたしております。次に、歳出について御説明いたします。

12ページをお開きください。

1款総務費1項1目一般管理費は、医療システムプログラム修正委託料144万9,000円。

3款老人保健拠出金は、1項1目老人保健医療拠出金3,751万6,000円。2目老人保健事務費拠出金が65万円。いずれも減でございます。

4款介護納付金は、1項1目介護納付金2,992万5,000円の減。

5款共同事業拠出金は、1項1目高額医療共同事業医療費拠出金2,567万5,000円。2目保険財政共同安定化事業拠出金3億8,135万4,000円。

14ページをお願いします。

9款諸支出金は、1項3目償還金2,292万円は、国庫支出金返納金でございます。

10款予備費は、1項1目1,793万1,000円の減でございます。

以上、平成18年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)の概要でございます。

次に、第114号、平成18年度対馬市老人保健特別会計特別会計補正予算(第1号)について御説明申し上げます。

本案は、健康保険法の一部を改正する法律が平成18年6月14日成立し、都道府県の区域ごとにすべての市町村が加入する広域連合後期高齢者医療広域連合を設立することになりました。その設立される75歳以上を対象とした広域連合設立準備会に負担する経費と補助金確定に伴う償還金の経費及び法改正プログラム修正経費の補正をお願いするものでございます。

第1条で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ224万9,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ43億73万1,000円と定めるものでございます。

第2項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額、並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表歳入歳出予算補正」によるものでございます。

それでは、歳入について御説明いたします。

8ページをお願いします。

4款繰入金は、1項1目一般会計より128万8,000円繰り入れております。

5款繰越金1項1目、前年度分96万1,000円でございます。

続きまして、歳出について御説明いたします。

10ページをお開きください。

1款総務費は、1項1目一般管理費の旅費及び医療制度改定に伴うシステムプログラム修正委託料216万2,000円でございます。

3款諸支出金1項1目償還金は、17年度償還金8万7,000円でございます。

以上、簡単ですが、議案第114号、平成18年度対馬市老人保健特別会計補正予算(第1号)の概要でございます。

次に、第115号、平成18年度対馬市介護保険特別会計補正予算(第1号)について御説明申し上げます。

本案は、主に過年度保険料払戻金及び国県支払い基金交付金返還金が生じたため、補正をお願いするものでございます。

第1条で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2,638万5,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ29億7,311万7,000円と定めるものでございます。

第2項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額、並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表歳入歳出予算補正」によるものでございます。

歳入について御説明いたします。

8ページをお願いします。

7款繰入金1項1目一般会計より144万5,000円を減額、2項1目基金繰入金2,334万円を介護給付費準備基金より繰り入れております。

8款繰越金1項1目その他の繰越金は、前年度繰越金449万円でございます。

続きまして、歳出について御説明いたします。

10ページをお願いします。

1款総務費1項1目一般管理費は、財源内訳の変更でございます。

3款財政安定化基金拠出金は、1項1目財政安定化基金拠出金14万円。

6款諸支出金は、第1号被保険者保険料還付金107万円。2目償還金、介護給付費国庫負担金返還金が1,675万円、県費返還金236万6,000円、支払基金返還金605万9,000円を計上いたしております。

以上、簡単ですが、議案第113号、平成18年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)から議案第115号、平成18年度対馬市介護保険特別会計補正予算(第1号)までの3件の概要を一括して御説明いたしました。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

議長(波田 政和君) 福祉課長。

福祉課長(阿比留保則君) ただいま一括上程いただきました議案第116号、平成18年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計補正予算(第1号)について、福祉部長の勝見部長が出席できませんので、かわりまして提案理由及びその概要を御説明申し上げます。

本案件は、平成17年度の繰越金が当初の介護給付収入の見込み額より増による平成18年度の当初予算の繰入金の額の減額と施設介護機材の購入費等を要するために補正をお願いするものでございます。

第1条で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ88万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ4億8,268万2,000円と定めるものでございます。

第2項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額、並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表歳入歳出予算補正」によるものでございます。

歳入について御説明いたします。

8ページをお開きください。

3款繰入金1項他会計繰入金1目一般会計繰入金の1,400万円の減でございます。

4款繰越金の1項1目繰越金1,488万2,000円の増は、前年度の繰越金でございます。

次に、歳出について御説明いたします。

10ページをお願いいたします。

1款民生費の1項1目社会福祉費の浅茅の丘の屋内消火器設備据えつけ工事35万7,000円、

庁用器具費30万7,000円でございます。

次に、日吉の里の機械器具費21万8,000円の計上でございます。

以上、簡単でございますが、提案理由の説明とさせていただきます。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

議長（波田 政和君） 水道局長。

水道局長（斉藤 清榮君） ただいま一括議案となりました議案第117号と議案第118号は、いずれも水道事業に係る議案でありますので続けて御提案申し上げます。

議案第117号、平成18年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）について、提案理由の説明を申し上げます。

今回の補正は、財政調整基金の積み立て、市道赤島線水道管移設工事等の工事が主なものであり、次のとおり定めるものであります。

第1条で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ4,487万7,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ12億3,894万2,000円とするものであります。

第2項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額、並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表歳入歳出予算補正」によるものでございます。

歳入予算であります。8ページをお開き願います。

1款分担金及び負担金1項負担金、消化施設設置事業負担金の400万円の追加計上であります。

6款繰越金1項繰越金、前年度繰越金のうち3,937万7,000円を計上するものであります。

8款諸収入1項雑入、水道管移設工事の補償費150万円の追加計上であります。

歳出予算について御説明申し上げます。

10ページをお開き願います。

1款簡易水道費1項水道管理費、主なものは積立金、3月定例会で設置の御承認をいただきました対馬市簡易水道事業財政調整基金に前年度剰余金のうち、3,000万円を積み立てるものであります。

2項水道建設費工事請負費は、市道赤島線水道管移設工事等4件の事業費1,475万円を計上するものであります。

以上、簡単でございますが、議案第117号の提案理由の説明を終わります。

続きまして、議案第118号、平成18年度対馬市水道事業会計補正予算（第1号）について、提案理由を御説明申し上げます。

今回の補正は、本年7月の台風3号豪雨によります佐須簡易水道配水管等の復旧工事、内山簡易水道水源工事等が主なものであり、次のとおり改めるものであります。

第2条として、平成18年度対馬市水道事業会計予算（第3条）に定めた収益的収入における水道事業収益の既決予定額に81万6,000円を追加し、2億7,570万4,000円とするものであります。この補正は、企業債償還に係る利息の一般会計負担分の確定に伴い、追加計上するものであります。

一方、収益的支出であります。水道事業費用の既決予定額に37万3,000円を追加し、2億5,440万8,000円とするものであります。その内容は、作業用消耗品機材費の追加、企業債償還利息の確定による追加であります。

次に、第3条、予算第4条本文括弧書き中、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額「5,199万9,000円」を「5,830万円」に改め、補てんする当年度分損益勘定留保資金も5,830万円に改め、資本的収入及び支出の予定額を次のとおり補正を行うものであります。

第1款資本的収入であります。120万円を追加し、1億9,820万円とするものであります。補正の内容は、消火栓新設工事の一般会計負担金を計上するものであります。

次に、第1款資本的支出であります。750万1,000円を追加し、2億5,650万円とするものであります。補正の内容は、建設改良費の追加であり、佐須簡易水道配水管等の復旧工事及び内山簡易水道水源工事、瀬簡易水道拡張事業における消火栓新設工事等の追加補正をお願いいたします。

以上で、議案第118号の提案理由の説明を終わります。

議案第117号とあわせ、よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願い申し上げます。
議長（波田 政和君） これから各案に対する一括質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

会議時間の延長をここでお願いします。本日の会議時間は、議事進行の前にあらかじめ延長します。

日程第42．議案第119号

日程第43．議案第120号

日程第44．議案第121号

日程第45．議案第122号

日程第46．議案第123号

日程第47．議案第124号

議長（波田 政和君） 日程第42、議案第119号、対馬市厳原自動車教習場条例の一部を改

正する条例についてから、日程第47、議案第124号、対馬市支援費支給条例の廃止についてまでの6件を一括して議題とします。

各案についての提案理由の説明を求めます。総務部長。

総務部長（中島 均君） たいま一括議題となりました議案第119号と議案第123号の2件について、提案理由を御説明いたします。

まず、議案第119号、対馬市厳原自動車教習場条例の一部を改正する条例について、提案理由及びその内容を御説明いたします。

本改正案は、地方自治法の一部改正がされ、公の施設の管理方法が管理委託制度から指定管理者制度に移行されたものに伴い、管理の基準や業務の範囲を条例等で定めなければなりません。このため、本条例の一部を改正するものでございます。

改正内容の主なものは、第6条に管理の代行と指定管理者による管理運営を行わせることができると定め、3項において業務の内容を定めております。

なお、附則で、この条例は公布の日から施行するものであります。

以上、簡単ではございますが、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議くださいますようお願いいたします。

続きまして、議案第123号、対馬市一般職の任期付職員の採用等に関する条例について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

行政の高度化、多様化、国際化が進展する中で、これらの変化に的確に対応して市民の期待する行政を遂行していく職員を育成するには、研修等を通じて育成することを基本としております。しかしながら、部内育成だけでは得られない有為な部外の人材を活用することが求められております。地方公共団体の公務の能率、かつ運営を推進するため、平成14年に地方公共団体の一般職の任期付職員の採用に関する法律が制定され、条例の定めるところにより、部内では得がたい高度な専門的知識、経験を有する者を任期を定めて任用することができることになりました。

対馬市人材育成基本方針の中では、新しい時代に向けた人材の育成確保の項目で、高度な専門性を有する人材の確保として、ますます複雑化、高度化していく市政の重要課題を推進する観点と、民間企業における経営感覚を身につけた社員を公務に取り入れることによって、新しい発想での政策の企画立案と組織の活性化を図るため、民間企業社員の受け入れを掲げております。人口減少に歯どめがきかず、対馬島の活力が失われている今日、夢と潤い、そしてゆとりをすべての島民に感じてもらうための施策が緊要であり、その実現に向けた取り組みとして、部内育成では得られない専門的な知識と経験を有する人材を外部から確保することが必要となります。この専門的な知識、経験等を有する者を任期を定めて採用することについての必要事項を定めることに伴い、本条例を制定するものでございます。

条文の内容について御説明申し上げます。

第1条は、本条例の根拠となる法律とその趣旨を、第2条第1項は、特定任期付職員としての、第2項は、一般任期付職員としてそれぞれ任期を定めて採用することができることの要件、第3条は、5年未満の期限付採用を行った職員の任期を当該職員の同意を得て5年まで更新できることを定めております。第4条は、特定任期付職員の給与に関する事項を定めておりますが、同条第1項の規定にする給料表は国の基準給料表を参考に額の算定をしております。第5条は、特定任期付職員の給与条例の適用外等を定めております。第6条は、規則への委任事項を定めた内容としております。

なお、附則で、この条例の施行期日は平成18年10月1日からと定めております。

以上、簡単ではございますが、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議くださいますようお願いいたします。

議長（波田 政和君） 政策部長。

政策部長（松原 敬行君） 議案第120号、対馬市地域審議会の設置に関する条例の一部を改正する条例案について、提案理由の説明をいたします。

この地域審議会につきましては、旧町を単位として設置され、その庶務は各支所の総務課において処理しておりましたが、先般の機構改革におきまして、支所における課の名称変更や厳原支所の廃止を受けての改正案であります。

内容ですけれども、1つには条例上、支所での担当課を特定するのではなく、支所において処理するにとどめたことであります。2つには、厳原支所廃止による事務処理を本庁で行う関係から、現行の連絡調整事務に「庶務」の字句を追加したものでございます。

附則といたしまして、この条例は公布の日から施行し、平成18年の7月1日から適用するものであります。

以上で説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願いいたします。

議長（波田 政和君） 保健部長。

保健部長（阿比留輝雄君） ただいま一括議題となりました議案第121号、対馬市国民健康保険条例の一部を改正する条例について、提案理由及び概要を御説明申し上げます。

本案は、国民健康保険法の一部を改正する法律（平成18年法律第83号）及び健康保険法の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備等に関する政令（平成18年政令第86号）の施行に伴い、対馬市国民健康保険条例の改正をするための提案でございます。

第5条第1号第1項は、3歳から70歳未満の方の負担割合を10分の3に、同条第4号は、70歳から75歳未満の方の現役並み所得者、いわゆる月収28万円以上、課税所得145万円以上の方の負担割合を「10分の2」を「10分の3」に改め、第6条第1項は、出産育児一時

金の「30万円」を「35万円」に改めるものでございます。

なお、附則第1項で施行期日、第2項で経過措置を定めております。

以上、簡単ですが、提案理由の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

議長（波田 政和君） 消防長。

消防長（阿比留仁志君） ただいま一括上程されました議案第122号、対馬市消防団の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例について、その提案理由を御説明いたします。

人口の減少に伴い、入団する者が少なく、退団する者が多くなっているのが実情でございます。定員2,100名に対し、本年4月1日現在の実員は1,872名で、228名の定員割れでございます。今後、増加することはないと思われることに加え、公務災害報償費負担金、退職報償負担金及び消防賞じゅつ金負担金は定員数での掛け金となっており、定員数を1,900名に改正することにより、年間400万6,000円の負担金を抑制することができるものでございます。

改正の概要でございますが、第2条中、「2,100人」を「1,900人」に改めるものでございます。

附則として、平成18年10月1日から施行すると定めています。

なお、この案件は、先日の消防団幹部会議において承認いただいておりますことをつけ加えさせていただきます。

以上で、簡単ではございますが、その提案理由の御説明を終わります。よろしく御審議いただき、御決定くださいますようお願い申し上げます。

議長（波田 政和君） 福祉課長。

福祉課長（阿比留保則君） ただいま一括議題となりました議案第124号、対馬市支援費支給条例を廃止する条例案について、提案理由及びその概要を御説明申し上げます。

本案件は平成18年4月1日、法改正による障害者自立支援法施行に伴い、支援費支給事業が廃止となることにより、本条例を廃止するものでございます。

なお、附則で施行期日を平成18年4月1日とし、経過措置としてこの条例の適用前にした行為に対する不正利得の徴収及び料金の適用については、なお従前の例によるものであります。

以上、簡単ではございますが、提案の説明といたします。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

議長（波田 政和君） これから各案に対する一括質疑を行います。7番、初村議員。

議員（7番 初村 久藏君） 議案第123号についてお尋ねをいたします。

消防団員の定員でございますけど、現在、2,100人を1,900人ということでございますけど、（「122号」と呼ぶ者あり）122号、どうも失礼しました。

先ほど、この前の新聞に載ったわけですけど、総務省の見解では特別消防団員ちゅいますか、それが全国的にもものすごく減っておるということで、この対策について今審議会あたりを立ち上げようというような状況でございます。その中であえて対馬市として今ここで減員の条例を話し合わないけんもんか、そこんところがお尋ねをいたします。総務省見解では消防団員はふやさないけんというような見解でございますが、そのとこ、お尋ねします。

議長（波田 政和君） 消防長。

消防長（阿比留仁志君） お答えいたします。

国の方針は今言われますように100万人体制、うち女性消防団員が10万人ということでございますが、対馬の現状を考えますと、人口は減っています。それに伴って消防団員の方の入団者が少ないということで、消防団の幹部を中心に消防団組織改革委員会を立ち上げていただきまして、その中でこういう問題も審議いたしました。それで、この定員数における掛け金等が1,900 200名減にした場合、400万円ちょっと抑制できるということで、当然、市の財政等を考えればそういう削減すべきじゃないかということで、入団者がふえるという可能性は少ないと。ほとんどないということで今回上程させていただいた次第でございます。よろしく御理解のほどお願いいたします。

議長（波田 政和君） 初村久藏君。

議員（7番 初村 久藏君） 財政難の折に対馬市は減員についての金額が400万円程度減額になるわけですけど、私は金額だけでいいものか。やっぱり非常時の場合は、特別消防団員がどうしても活躍をしてもらわないけんような事態が多いと思います。常備消防団もいますけど、風災害とか、特別、火災等は大きな対馬市の場合は今までありませんけど、やっぱり風災害あたりは非常にやっぱり全体的に対馬全島を襲うような状況でございますので、やっぱりこれを減らしたらやっぱりそれだけ消防団に、現在のですね、それだけ減らした分が負担がかかるんじゃないかならうかと。

それと、国の施策がそういうふうで増員せにゃいけんという事態で、もっと時間をかけてみとった方がいいんじゃないかならうかというような考え方で一応質問をしたわけでございます。市の方針がそういうふうであればしょうがないが、これ、総務委員会の方に付託されると思いますので、総務委員会でよく協議をされてもらいたいと思います。

以上でございます。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 初村議員さん、よく御理解を賜りたいんですが、先ほど消防長が言いましたように、今、何もかもそういった状況で、最小の投資で最大の効果という1つの目的に向かっているんですが、なかなかうまくいかんのですけども、今言われたように1,900名の定員と

ということになりますと実害は全然ないんです。今、1,800名台ですから。消防長言いましたように、これ以上ふえることはありませんし。

で、今、県下最大の消防団数だと思います。だから、1,900を超えるような予測が考えられませんので、だから、これ、1,900ですと400万6,000円、それだけ負担金等が少なくなるということで、実害のないところでそれは言っておりますので、おっしゃるように国の状況というのはなかなか消防団に入る人も少ないわけですし、全国的にはそういう状況ですが、対馬の場合はそういったところで、さっき消防長の言うように皆さん各種協議した中でこうだということで、実害にはなりませんので、その点は安心していただけたらと思いますので理解賜りたいと思います。

議長（波田 政和君） ほかにありませんか。糸瀬一彦君。

議員（9番 糸瀬 一彦君） 123号についてお尋ねをしたいと思います。

総務部長の説明では、非常に対馬の経済を考えるとときに危機的な状況にあることはまさしくそのとおりであります。説明されましたように、この条例をつくって、そしてどのような効果を期待してあるかですね。私も新聞でちょっと見てみますと、国際交流とか新エネ導入とかですね、そういう専門的な職員というようなことで理解をしいのか。そこら辺をもう少し詳しく市長の方から、基本的なことですから詳しく説明をして、あ、それなら地域住民も納得をするであろうというぐらいの説得性のある説明を求めたい。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 糸瀬議員、懸念されることももっともだと思います。今、御承知のとおり合併当時824名の職員、それから164名の嘱託、委託職員といいますが、そういう中でこれをとにかく22年までに660名にしようという、そういうさなかでなぜこうなのかという伏線があると思いますが、御指摘もよくわかるし、特に消防の場合は、去年から年齢的なものも考え、肉体的なものもありますから、消防だけ採用を最低限始めております、若干名ということですね。

で、市の職員の場合は、今されないという状況の中で新規の採用を控えてるわけですが、ある程度のところまで、22年まで来ますとそれからまた450名に向かって進むわけですので、そういうさなかになぜ専門職を外からかということでしょうか、これは実は推進本部体制をとろうと思ったんですが、もう既に県が推進本部制をとっておりますから、県はJTBから専門職をしてやっております。

私どもは実は企業誘致、観光振興、この2つに絞ってですね、これは専門的な知識を要しますし、今の職員を育てていってちゅうことはやっぱ企業誘致はトップトップのこれはもうトップダウンですから企業誘致は難しいわけです。そういった中でそれだけの人脈を持ち、それだけの

キャリアを持ち、それができる人ということで、今はとにかく雇用の場がないということで悲鳴が上がっておりますし、空き家対策も今いろいろ考えてるんですが、各集落の空き家はどんどんふえていっております。子供が外に出ます。生活が安定したら親を呼びます。そして空き家が出てくると、こういうことなんです、そういう中でやっぱり雇用の場はどんなことをしてもせにゃいかんということでございまして、これを喫緊の課題としております。働き場、仕事を何とでもつくるという。

そういった点で実は近畿日本ツーリストに、これは三大エージェンツですね、日本旅行、あるいはＪＴＢ、近畿日本ツーリスト、近ツリと私どもは言っておりますが、三大大手の中の１人でして、あそこのあたりは５５歳になりますともう既に御承知のとおりこのまま会社に残りますか、あるいは子会社へ行きますか、あるいはどうされますかという選択をチョイスされるわけです。そういう時期に来た人がおりました長くから古くからいろいろウォッチングをし、こんな人が来てくれたらなと思ってたんですが、実は上県出身です。今、県の、もう名前も言っていると思いますが、岩佐 前、豊かな海づくりで天皇皇后両陛下を迎えた大会、佐世保の大会の県の豊かな海づくりの事務局長をした岩佐さんの弟です。

この人が中国に３年ぐらいいかな、オーストリアに２年ぐらいいかな、海外勤務を終えまして本社の課長をしてたんですが、ぜひ対馬に帰ってきてくれんかということでの話の中で、何とかやってみましょうと。給料は半分になってしまいます。けども、えらい情熱を燃やしていただきましたので実はこうして、条例がうちになかったもんですから、ただ単に委託職員としてですね、３年間期限付きの委託職員とすれば委託業務と変わらないわけですが、やっぱりそれなりの身分保障的なもの、身分もですね、やっぱり外に向かって営業をする場合、県もそうだと思いますが、どこもそうだと思います。出先に行くときは１階級、特に営業あたりの交渉をする場合は、課長補佐の人は課長の名刺を持って待遇で行きますでしょうし、やっぱり何らかの冠がないと仕事もにくい点も出てきますから、この際、身分的にも保障をして、ただ単に、委託職員だけだったら別になんかですけども、やっぱりある程度の身分をそれなりにしてということで、何か県の場合はＪＴＢの人、推進本部長という形でしてますけど、私ども補佐官制度がとれないかなということでそういったことで考えておりますが、とにかく条例を皆さんに理解していただいた後だからということで、今のところは普通の委託職員として勤務をしてもらっていると、そういう状況であります。よろしくお願いたします。

議長（波田 政和君） 糸瀬一彦君。

議員（９番 糸瀬 一彦君） 私もヘッドハンティングでこういうことをされることは大変いいことだと一方では思うんですけど、先ほど言われましたように、人員削減を今しておるさなか、上なんか特に職員でさえ配置が少なくなってるんですね。いろんな状況下の中でやはりそうい

う優秀な人を囑託として迎えたりしても生きがい、やりがいのあるような形の待遇をすべき、もしそうされるようであればですよ。やっぱりほら、予算がないとか何だかんだ言うて行動を狭めるとか、活力をそくようなことでは私は効果が上がらんのではないかというような危惧はします。だけど、本当に市長が3年間かけて市民のために何とか方向を見出したいというような強い意気込みがちょっと感じられんです。もう少しやはり、本当にそこまで55歳で再就職をここにしようというぐらいの情熱がある方だったらそれなりの覚悟をして雇っていただいて、そして一般職員の幹部クラスも本当にもう少しワサビがきくような、そういう形でいい影響があるようであれば私はいいんじゃないかというような気がいたしております。

もう1回、お願いします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 意気込みが感じられんって私の説明が悪かったと思いますが、とにかく実はこの人に私、目つけたのは今から7年ぐらい前。いや、すごい人だなと思ってですね。で、悪いけど県の岩佐さんには、兄貴さんには、ああ、あんたと弟を比べたらどうもならんばい、弟はすごいねっちゅうて、私をそんなばかにせんでええじゃないですかと、こんな冗談みたいに言うぐらい、とにかくあの人は林業に非常に興味を示してます。もう既に来まして住友商事、そういったところでも林業の格好を、それから林産物からすべてのものにもう既に動いておりますがね、やはりすごい迫力で動いております。

この次の議会にはぜひ皆さんに前でごあいさつもさせたいと思いますが、おそらく企業誘致、観光振興、もう既に島内ほとんど皆さんとのコンタクトをとりながら飛び回ってるようですが、ぜひそういった仕事ぶりを研ぎ澄まされた民間のそういう感性と感覚が市の職員に、若い職員にも伝わってきますと。あ、仕事ってこんなにやるべきなんだと。こういったまとめ方をするんだと、こういうアプローチの仕方をするんだと、あ、ここまでやるんだと。

もう既に福岡の新しくできました住友商事の会社の社長とも長部長と一緒にこの前も行ってるようでした、報告も聞きましたしね。すごい迫力で頑張っておりますから、ぜひ迫力はありますのでぜひ早く、一日も早く働き場をたくさんつくりたいしですね、企業誘致ですからこっちがお願いをするわけですから、お願いをするのが企業誘致ですから、これはまた福祉の問題もまた後で話さなきゃいかんと思っておりますけどね、誤解をしちゃいけませんので。企業誘致だからお願いをする。お願いができるっていうのはやっぱりこれは企業っていうのはトップダウンでないとなかなかできませんのでね。そういったことでひとつよろしくお願いをしたいと思います。

議長（波田 政和君） ほかにありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

暫時休憩します。再開は16時。よろしくお願ひします。

午後3時51分休憩

午後3時59分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

日程第48・議案第125号

議長（波田 政和君） 日程第48、議案第125号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画についてを議題とします。

本案についての提案理由の説明を求めます。政策部長。

政策部長（松原 敬行君） 議案第125号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について、提案理由の御説明をいたします。

本件は、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画を別紙のとおり策定することにつき、辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律第3条第1項の規定により、議会の議決を求めるものでございます。

今回提案しております6辺地計画のうち佐須奈辺地が変更計画で、それ以外の5辺地は今回18年度を初年度とする22年度までの新規の5カ年計画を策定するものであります。

以下、各辺地ごとに事業の内容を御説明いたします。

まず、上県町佐須奈辺地であります。総合整備計画書案の3の公共的施設の整備計画を見ていただきたいと思います。消防施設の項で今回、消火栓設置事業の追加により、事業費が増額になることに伴っての変更計画案でございます。括弧内の金額が変更前の事業費、財源内訳、辺地債充当額でございまして、事業費が3,325万6,000円と1,530万円増額になりましたので、それに伴い、辺地対策事業債も960万円から2,490万円以内に変更充当するものであります。

次に、上対馬町琴辺地ですが、これは道路で市道茂木線改良事業を平成12年度から着手しているものであり、全幅7.0メートル、延長2,115メートルを整備する計画であります。本年度事業費は1億3,000万円で、延長1,668メートルを整備する計画であり、完成を平成20年度と見込んでおります。計画期間の事業費は2億4,900万円で、特定財源1億3,695万円、一般財源1億1,205万円のうち、辺地対策事業債1億1,200万円以内を充当するものであります。

次に、豊玉町唐洲辺地ですが、道路で市道唐洲妙見線の改良事業でございます。事業期間は本年度から22年度までの5カ年間を計画してございまして、幅員4メートル、延長

944メートルを整備するものであります。本年度事業費は600万円で、延長100メートルを整備する計画でございます。計画期間の事業費が5,000万円で、一般財源5,000万円のうち、辺地対策事業債5,000万円以内を充当するものでございます。

次に、美津島町尾崎辺地でございますが、本年度、漁協が事業主体で経営近代化施設として施設の老朽化に伴う水産物荷さばき施設の整備でございます。施設は鉄骨平屋建てで、建築面積は約140平米であります。事業費は3,913万6,000円で、特定財源2,935万2,000円、一般財源978万4,000円のうち、辺地対策事業債970万円以内を充当するものであります。

次に、厳原町厳原辺地でございますが、道路で市道野良線の改良事業でございます。事業期間は本年度から20年度までの3カ年を予定しておりまして、延長700メートルを整備する計画でございます。本年度事業費は2,600万円で、延長100メートルを整備する計画しております。計画期間の事業費は2億8,000万円で、一般財源2億8,000万円のうち、辺地対策事業債2億8,000万円以内を充当するものでございます。

最後でございますが、厳原町小茂田辺地でございます。本年度、漁協事業主体の経営近代化施設として漁獲物の出荷体制の効率化、省力化のため、水産物荷さばき施設の整備を図るものであります。施設概要は鉄骨コンクリート造平屋建てで、建築面積は約115平方メートルであります。事業費は2,419万8,000円で、特定財源1,814万8,000円、一般財源605万円のうち、辺地対策事業債600万円以内を充当するものであります。

以上で提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願いいたします。

議長（波田 政和君） これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

日程第49．議案第126号

議長（波田 政和君） 日程第49、議案第126号、財産の取得についてを議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。建設部長。

建設部長（清水 達明君） ただいま上程されました議案第126号、財産の取得についての提案理由を申し上げます。

本案につきましては、今屋敷地区第一種市街地再開発事業により、建設が進められております対馬市交流センターの9月末の完成に伴いまして、対馬市交流センター内の公共施設部分の保留床について事業主体であります今屋敷地区市街地再開発組合から市が取得するため、議会の議決

に付すべき契約及び財産の取得、または処分に関する条例第3条の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

今回取得しようとする物件の所在は、対馬市厳原町今屋敷661番地3で、今屋敷地区第一種市街地再開発事業の建物の一部の図書館1,930.16平方メートルのうち、100万分の45万9,755と、イベントホール2,786.97平方メートル及び共有部分の共有持ち分の取得でございます。取得先は今屋敷地区市街地再開発組合で、取得金額は17億1,507万1,000円を予定いたしております。取得理由は、対馬市市立図書館イベントホールとして活用するためでございます。

次のページに物件の概要を添付いたしております。構造は鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造り、地上4階地下1階、建物の延べ床面積は1万9,977.91平方メートル。このうち、今回の取得部分は図書館、先ほども申し上げましたように、1,930.16平方メートルのうち、100万分の45万9,755に相当する面積が887.4平方メートルとなり、イベントホールは2,786.97平方メートル、共有部分の共有持ち分の床面積は、建物の区分所有に関する法律第14条の規定により1,799.3平方メートル、合計で5,473.67平方メートルを今回取得することとなります。

なお、今回取得する本案以外の公共施設であります。4階の図書館の残りの分、3階の文化会館、地域ふれあい広場及び地下駐車場については権利返還により市が取得するもので、その床面積は8,602.06平方メートルとなります。よって、市の所有する床の総面積は1万4,075.73平方メートルとなり、建物延べ床面積の70.4%を占めることとなります。

最後に、参考図面を添付いたしておりますので、お開き願います。

今回、市が取得しようとする部分は、図面右下の4階平面図のオレンジ色の部分が市立図書館部分でございます。イベントホールはその上の図、3階と2階平面図の水色部分とイベントホールに通じる階段エレベーター部分を1階及び地下平面図の小さく水色で着色した分でございます。それに4階から地下駐車場までの各階の黄色部分が共用部分でございます。

以上が提案理由でございます。どうぞよろしく御審議の上、御決定賜りますようお願いいたします。

議長（波田 政和君） これから質疑を行います。質疑ありませんか。桐谷正義君。

議員（22番 桐谷 正義君） ちょっとお尋ねいたしますが、今回の取得金額が17億1,507万1,000円ですが、全部で対馬市がここに払う、土地代から含めて、全部で幾らになるんですか。対馬市の取得する金額っちゃうのは。

議長（波田 政和君） 建設部長。

建設部長（清水 達明君） 保留床部分だけでよろしいですか。

議員（２２番 桐谷 正義君） いや、今回出とると全部すべて、土地代から何から。

建設部長（清水 達明君） 権利書が１億８千５百万円、保留床が土地も含めて２億２千３百万円ということであります。

議員（２２番 桐谷 正義君） 総合計は。

建設部長（清水 達明君） 合計は約４億１千万円になります。

議長（波田 政和君） ２２番、桐谷正義君。

議員（２２番 桐谷 正義君） 市が最終的にこの市街地活性化に関して払う金は４億１千万円で、あとは店舗等があるわけですが、それは後、TMOが取得するわけですが、それは幾らですか、４億１千万円以外。

議長（波田 政和君） 建設部長。

建設部長（清水 達明君） 先ほど申しあげました４億１千万円の中の権利書については、これは従前資産でありますので支払いは生じません。保留床だけですと土地、床２億２千３百万円と、今回支払う分はですね。TMOにつきましては、７億２千６百万円と、土地、床含めて、７億２千６百万円でございます。

議長（波田 政和君） ２２番、桐谷正義君。

議員（２２番 桐谷 正義君） TMOが土地を取得するんですか。違うんじゃないですか。それで、説明する場合に、総額の中で土地まで含めて市が幾ら負担、４億１千万円って言うたでしょ。違うんですか。違うんじゃないですか。市が幾ら、全部で払って、TMOが幾ら払った、市とTMOで２つで全部でしょ。それを説明して。

議長（波田 政和君） 建設部長。

建設部長（清水 達明君） 市が今回払う部分が.....。

議員（２２番 桐谷 正義君） 今回じゃなくて全部で総合計を言いよる、完成した場合に。

建設部長（清水 達明君） ４億１千５百万円と、権利書も含めてですね。それから（「TMOが」と呼ぶ者あり）TMOは、先ほどは済みませんでした。土地まで入れておりましたが、土地はございません。７億２千６百万円でございます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

日程第５０．議案第１２７号

議長（波田 政和君） 日程第５０、議案第１２７号、対馬市交流センター駐車場の指定管理者の指定についてを議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。観光商工部長。

観光商工部長（長 信義君） 議案第127号、対馬市交流センター駐車場の指定管理者の指定について、提案理由を御説明いたします。

対馬市交流センターは、公共と商業の複合ビルとして商業ゾーンと公共ゾーンに分かれ、相乗効果によって活発な商業活動の展開と中心市街地の活性化に貢献することを目的として建設された施設であります。この施設の地下部分に、対馬市交流センターの利便性の向上を図るため、150台が収容可能な駐車場を建設いたしました。この駐車場の管理運営につきましては、指定管理者制度により実施することができるものとし、議会の承認を得た後、管理者を決定することとしております。

今回、管理者として考えております株式会社まちづくり厳原は、対馬市が2分の1以上を出資している第三セクターであり、対馬市交流センター管理組合の管理者であります。株式会社まちづくり厳原が駐車場の管理運営をあわせて行うことにより、交流センターと駐車場が一体となった管理が可能となり、駐車場建設の目的であるビルの利便性の向上を図ることができ、市民サービスの向上につなげることができるものだと考えます。

以上の理由により、対馬市公の施設の指定管理者の指定手続等に関する条例第5条第1項第4号の規定に基づき、株式会社まちづくり厳原を公募によらず選定いたしたく、議会の議決をお願いするものでございます。

なお、指定の期間は、平成18年10月1日から平成21年3月31日までの期間としております。

御審議いただきまして御決定いただきますよう、よろしくお願いいたします。

議長（波田 政和君） これから質疑を行います。22番。

議員（22番 桐谷 正義君） 2点お尋ねいたしますが、この駐車場の指定管理者に公募をせずにここに指定管理者を認めてくれということでございます。

まず、1点、まちづくり厳原は資本金1億円で出発するというのが当初の目標であります。現在、対馬市が5,000万円、あそこに入る協同組合が1,000万円、6,000万円の出資金だろうと認識しております。商工会が1,500万円払うとなつとるんですが、これは1億円は今後、その出資金は出発する前にその1億円の出資金を集めようとするのか。あるいは今のままで、今集まるとる金額で出発をして、徐々に1億円にふやそうとしておるのか。その辺はその1億円に不足する分の計画をどう考えておるのかを1点お尋ねいたします。

二点目は、おそらく私の想像ではこの駐車場は駐車料金はとらないんじゃないかと思うんですが、店舗に入ってくるとか、あるいは市のところにイベント等があるので、そういうところもとらないんじゃないかと思いますが、管理委託料は市が払うということになるのかどうか。その辺を、もし払うとすればどのくらいを予定しておるのかどうか。その辺がわかれば、ちょっと答弁

をよろしく申し上げます。

議長（波田 政和君） 観光商工部長。

観光商工部長（長 信義君） まず、第一点目でございますが、議員御指摘のように、出資金につきましては、平成17年度の決算時におきましては市が5,000万円、それから商工会が1,000万円、計の6,000万円でございますが、現在はテナントが2,400万円程度出資をいたしております。したがって、現時点では8,400万円程度になりますが、残りにつきましては今後、あすからの一般質問の中にも実はその質問が出ておるわけでございますけども、広く住民に出資をお願いするか、あるいはテナント入居者に今後お願いをしていくかということで検討していきたいというふうに考えております。

済みません、ちょっと委託料につきましては、ちょっと資料を探しますので、ちょっと時間をいただきたいと思います。

議長（波田 政和君） 暫時休憩します。

午後4時22分休憩

.....
午後4時22分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

観光商工部長。

観光商工部長（長 信義君） 済みません、二点目についてお答えいたします。

委託料の件でございますが、駐車場は市の所有ということになりますので、委託料は発生をいたしません。

以上でございます。

議長（波田 政和君） 22番、桐谷正義君。

議員（22番 桐谷 正義君） 駐車場は市のものだから発生しないと。しかし、駐車場は委託するわけでしょ、まちづくり巖原に。委託しただけでだれが管理するっていうか、現地を見たらわかりますが、正面からは階段ばかりですよ。信号機のところから市役所の本庁に入る、そこから入るようになってるですよ。入り口はそこですよ。そしたら、信号のところに出がけっていうのは信号は止まるわけですから、全部、駐車場から止まるんですよ、いっぺんに出たら、信号が止まるとるわけですから。

そういうことで、管理委託をして、市は管理費を一切払わんちゅうわけですが、人間はだれも管理せずに、せんということなんですか。これは委員会付託ですから、その辺のところは委員会でよく審査をしていただきたい。どうもこう説明が納得がよくいかなのですが、その辺の駐車場の管理等について。今答弁ができなければ、委員会等でよく答弁をしてください。

議長（波田 政和君） 観光商工部長。

観光商工部長（長 信義君） おっしゃいますように、詳しくは委員会の方で御説明をさせていただきたいと思いますが、今お話の分は、外から入ってくる分について信号等の関係で危険度も含めて必要じゃないのかというお話かと思いますが、今回提案をさせていただいておりますのは駐車場の中の部分でございます、そのあたりは今の時点ではちょっと検討をいたしておりませんので、検討をさせていただきたいというふうに思います。

議長（波田 政和君） よろしいですか、桐谷議員。

議員（22番 桐谷 正義君） はい、あと委員会でよく審査してください。

議長（波田 政和君） ほかに質疑はありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

日程第51．議案第128号

議長（波田 政和君） 日程第51、議案第128号、新たに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（久田地区）を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。総務部長。

総務部長（中島 均君） ただいま議題となりました議案第128号について、提案理由とその内容を御説明いたします。

本議案は、新たに生じた土地の確認及び字の区域の変更についてであります。

地方自治法第9条の5第1項の規定により、新たに生じた土地を確認し、同法第260条第1項の規定により、字の区域を変更するものであります。

土地の位置につきましては、議案の末尾に字図を添付し、黒く塗りつぶして表示しておりますので、御参照ください。

内容は、巖原港内公有水面埋め立てにより、巖原町久田字白子1番地6地先に285.39平方メートルの土地が新たに生じたので、この土地を字白子に編入するものであります。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。よろしく御審議くださいますよう、お願い申し上げます。

議長（波田 政和君） これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

日程第52．議案第129号

議長（波田 政和君） 日程第52、議案第129号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（鴨居瀬漁港）を議題とします。

本案についての提案理由の説明を求めます。建設部長。

建設部長（清水 達明君） ただいま議題となりました議案第129号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（鴨居瀬漁港）の提案理由を説明いたします。

本案につきましては、長崎県が事業主体で整備を進めております鴨居瀬地区広域漁港整備工事に伴います公有水面埋め立て免許の出願にかかわる意見について異議のない旨、長崎県知事に答申するため、公有水面埋立法第3条第4項の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

埋立ての必要性については、別紙に埋立て必要理由書を添付をいたしておりますとおり、第二種鴨居瀬漁港区域内において昭和30年代前半に築造された既設護岸が老朽化のため、危険な状態となっております。このため、新たに護岸114メートルを整備するもので、埋立実面積は護岸敷、約210平方メートルでございます。

議案末尾に位置図、平面図を添付いたしておりますので、御参照を願います。

以上、簡単ではございますが、よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願いいたします。

議長（波田 政和君） これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

なお、議案第112号から議案第129号までの18件を会議規則第37条第1項の規定により、お手元に配付の議案付託表のとおり各常任委員会に付託します。

委員長の審査報告は、9月28日に行います。

日程第53．請願第2号

議長（波田 政和君） 日程第53、請願第2号、巖原測候所を存続させ、機能拡充を求める請願についてを上程します。

ただいま上程いたしました請願については、お手元に配付の請願文書のとおり総務文教委員会に付託します。

日程第54．陳情第8号

日程第55．陳情第9号

日程第56．陳情第10号

議長（波田 政和君） 日程第54、陳情第8号、「集配局の廃止再編計画に反対する意見書」

採択に関する陳情についてから、日程第56、陳情第10号、対馬沿岸および浅茅湾内の地先において外国人が夜間釣りをする事を禁止する陳情についてを上程いたします。

ただいま上程いたしました陳情については、お手元に配付の陳情文書どおり、それぞれ所管の常任委員会に付託します。

委員長の審査報告は、9月28日に行います。

・

議長（波田 政和君） 以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

あすは定刻より本会議を開き、市政一般質問を行います。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後4時31分散会

平成18年 第3回 対馬市議会定例会会議録(第2日)

平成18年9月20日(水曜日)

議事日程(第2号)

平成18年9月20日 午前10時00分開議

日程第1 市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 市政一般質問

出席議員(25名)

1番 小西 明範君	2番 永留 邦次君
3番 小宮 教義君	4番 阿比留光雄君
5番 三山 幸男君	6番 小宮 政利君
7番 初村 久藏君	8番 吉見 優子君
9番 糸瀬 一彦君	10番 桐谷 徹君
11番 宮原 五男君	12番 大浦 孝司君
13番 小川 廣康君	14番 大部 初幸君
15番 兵頭 榮君	16番 上野洋次郎君
17番 作元 義文君	18番 黒岩 美俊君
19番 島居 邦嗣君	20番 武本 哲勇君
21番 中原 康博君	22番 桐谷 正義君
24番 扇 作工門君	25番 畑島 孝吉君
26番 波田 政和君	

欠席議員(1名)

23番 平間 利光君

欠 員(なし)

事務局出席職員職氏名

局長 大浦 義光君 次長 永留 徳光君
 参事兼課長補佐 豊田 充君 副参事兼係長 三原 立也君

説明のため出席した者の職氏名

市長	松村 良幸君
助役	永尾一二三君
総務部長	中島 均君
政策部長	松原 敬行君
市民生活部長	山田 幸男君
福祉課長	阿比留保則君
保健部長	阿比留輝雄君
農林水産部長	神宮 忠彌君
建設部長	清水 達明君
観光商工部長	長 信義君
水道局長	斉藤 清榮君
総務部次長	斉藤 勝行君
教育長	米田 幸人君
教育次長	日高 一夫君
美津島支所長	松村 善彦君
豊玉支所長	松井 雅美君
峰支所長	阿比留博幸君
上県支所長	山本 輝昭君
上対馬支所長	梅野 茂希君
消防長	阿比留仁志君
監査委員事務局長	阿比留博文君
農業委員会事務局長	瀬崎万壽喜君

午前10時00分開議

議長（波田 政和君） 皆様おはようございます。報告いたします。平間利光君より欠席の申し出がっております。

ただいまから本日の会議を開きます。

・ ・

日程第1．市政一般質問

議長（波田 政和君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は5名を予定しております。それでは、届け出順に発言を許します。3番、小宮教義君。

議員（3番 小宮 教義君） ただいまから一般質問させていただきます。

前回、不信任案が出されましたので私は辞退いたしました。今回はまだ不信任案が出ないようでございますので、一般質問させていただきます。

今、三位一体ということで、改革、地方の時代と言われてますが、今政治事だけじゃございませんで、最近、ジュースのメーカーがございます。市長もよくジュース買われると思いますけども、ボタン押すと、今までは「ありがとうございます」ちゅう言葉だけだったんですが、最近、各地域でのジュースを押すと、各地域の方言で言葉が出るそうですよ。例えば京都に行きまして、京都の駅のところで押しますと、「どうでおす、おいしゅうおすえ」とか、そういうふうな言葉が出るそうですよ。そして、鹿児島なんかに行きますとねえ、「おいしゅうごわす」とか、そういうふうな言葉になるそうです。特に対馬ですと、佐護、上県でございますけどね、あそこの川っぶちのところの自動販売機押しますと、「おいしいびゃん、くうてみんね、おいしいびゃん」というふうな、そういう時代でございますので、私はそれを聞きまして、やはり議会もやはり地方色を出さんにやいかんじゃないかと思えます。

それで、これからの議会においては、私は方言を交えてひとつさせていただきたいと思えます。そこで、方言を言うんですが、私なりに解釈した方言がございますので、それを2つほど紹介した後に本番の質問に入らせていただきます。

方言たくさんございますが、対馬の方言、まず、「ずんだれ」という言葉がございます。これは、意味はただらしてしっかりしないこと、これが「ずんだれ」でございます。2番目が、「のうたれ」というんですが、よく言いますよね、「こののうたれ何しよっとや」と。この「のうたれ」というのは、わかっていてもしないことを「のうたれ」と言うそうでございますね。まずこの2つをよく理解していただきまして、そして一般質問に入らせていただきます。

まず、政策について2点、まず、1点でございますが、今の対馬空港、これを対馬ヤマネコ空港という名前に変更できないかということでございます。これにつきましては、ことしの1月の9日から11日の3日間かけまして、たしか市も共催しておったと思うんですが、環境省と長崎県と、それと市と、3つでこれは共催でございます。その中でツシマヤマネコ国際ワークショップというのが開かれました。これは4部門開かれまして、その最終のまとめを11日の最終日にされたんですが、その中で、対馬市商工会から、空港の変更ということが出てまいりました。

と申しますのは、コウノトリの里で有名な兵庫県の豊岡、ここに但馬という空港がございます。

当初は但馬空港でしたけども、その後、コウノトリ但馬というふうになったわけでございます。それによって但馬の知名度も非常に上がったということ聞いております。これは島のPRと、それとヤマネコの保護という2点からすると、非常に意味のあることだと思います。その効果というものは非常に大きいと思います。その効果をちょっと説明させていただきます。

これは、コウノトリの分をよく時刻表に載っとなる分を拡大した分でございます。大阪からコウノトリ但馬で書いてあります。そして、大阪、コウノトリ但馬、こういうふうな形でインターネットに常に載るわけですね。これは、皆さんよく使われると思いますが、インターネットで、例えば東京から福岡に行くとき、まず出発点をインプットします。そして到着をインプットするときに、画面にこういっぱい流れるんですね、その地名が。福岡であったり、長崎であったり、対馬ヤマネコ空港であったりとか、そういうふうなことで、非常に効果が非常におゆうございます、名前を変えるだけで。これをぜひやっていただきたいと思います。

では、どういうふうに変えるかといいますと、これは現在のやつなんです、よく見てくださいよ。ただ、現在は対馬、福岡だけですね。これを私はぜひこう変えたいと。よく見てくださいよ。見えます、見えんですかね。対馬ヤマネコ、下にローマ字でYAMANEKOと、対馬ヤマネコ、そして福岡と、こういうふうにすると、インターネット上でも対馬ヤマネコちゅうことが非常に頻繁に見ることができます。そして、当然のごとく空港の名前も変えなければいけないわけですが、今対馬空港ですね。それで、多分来年の4月ごろには多分名前が変わろうかと思っておりますけども、もう変えた写真を既にとっておりますんで、対馬ヤマネコ空港ですね、よく見てくださいよ。もう既にこう変えておりますから、ぜひこの分につきましては、ぜひ市の方も本腰を入れてやっていただきたいと思いますが、まず、どうお考えかを一つ。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） ユーモアとウイットにあふれる貴重なお話でございますが、できるだけ、そうですねえ、変更できるかどうかということも含めまして、名称変更につきましては、「のうたれ」と言われぬように検討してみたいと思います。

正式に変更することは、もう航空法に基づく手続、こういった制約がありませんので、市で取り組んでいくわけですが、対馬空港は御承知のように、県営第三種の空港でございますので、県とも相談し、皆さんの意見も集約しながら、「ヤマネコだけじゃない、ほかにもあるじゃないか」という異論も出らんとも限りませんし、そういった今説明のように、ヤマネコの国際ワークショップで、話を小宮議員されたとおりでございまして、私も終日おりましたのでよく雰囲気もわかっております。久々の200人ばかりの人が皆感動して帰ったという、参加された人はすべてが感動した。今再現がクローズアップされてるわけですが、非常に重要なことでございますので、アピール関係につきましても、民間団体を初めといたしまして、各関係機関の保護活動に対

し敬意を払うわけですが、何とかそれを具現化に努めてまいりたいと思っております。

歴史、特産品あるいは自然、動植物、いろんな誇れるものがあるんですが、今のところメジャーになりつつあるのが、御指摘のようなヤマネコだろうと思いますので、コウノトリ但馬空港に見られますように、愛称をどうするかということですね、愛称でございますので、皆さんのそうだそうだという声が大きければやってもいいと思いますし、また、十分そういったアピール効果があるかと思しますので、先ほども申しましたように、「のうたれ」と言われぬようによく検討してみたいと思います。第1点、これでよろしいですか。

議長（波田 政和君） 小宮議員。

議員（3番 小宮 教義君） 検討していただくということでございます。各団体らもございましょうけども、特に先ほど申しました商工会については、これを県に要望するというので既に決議をしておりますので、商工会の方から申し出があれば、ぜひ県の方に御足労願って、お願いをしていただきたいと思います。そのような、市長じかにですね、それはできますか。できますか。わかりました。

では、ちょっとお尋ねしますけれども、県にお願いをするわけですが、何でございますかね、聞くところによると、県と非常に仲が悪いというふうなよくお聞きするわけですが、仲が悪いことはございませんよね、それなりに。もし、もし悪かったら、ぜひ仲良くなりたいと思います。仁田弁で言いますと、ちゅうべこいてでも、ぜひ仲良くなりたいと思います。ちゅうべこくことによって、お互いにまた仲良くなりますので、「ちゅうべ」というのはごまをすることですよ。ごまをすってでもいいじゃないですか、やはり組織としては、市があり、県があり、国があるわけですから、やはり国との仲をやはりよくなりたいと思います。そうすることで市民も助かりますので、市長が2人おればこういうことはお願いしませんが、1人しかいないわけですからね。ぜひいろんな事はございませうが、おのれの誇りもありませう、意地もありませう。しかし、いいじゃないですか、市民のためなら、頭を下げて、ちゅうべこいてでもぜひやっていただきたいと思います。

では、2点目の、政策の2についてでございますが、これは、合併特例債が市になってから発行されておるわけですが、特に漁業関係、一時は340億の水揚げがございましたけども、今は190億を下回っております。そして、さらに追い打ち打つように油が高騰しとるんですよね。一時は30円だったものが今はもう80円台ですよ。漁師が漁に行っても、ガソリン代を払ったら何も残らんとですよ。こういう状況がこれからまたさらに続くわけです。これに対して、県漁連の方は助成をしております。これは皆さんも御存じのように、10数年前に長崎県がむつを入れるときに、むつ基金をつくっております。これは今の漁業振興基金でございます。約15億からございますが、振興基金は去年油のために1億5,000万ほど支出しております。

そういう形で対馬の第一次産業である水産業に力を入れてやっておるわけでございますよ。

ところが、この対馬は第一次産業、水産業が第一でございます。そういった意味からすると、こういうときにこそやはり何か漁民にしてやれることはないのかということを考えてときに、私は、合併特例債で基金の創設ができるわけですから、ぜひこの特例債を生かして基金の創設をしていただきたいと思います。油がなけりゃ船は動かんとですよ。私たちは陸上におるから、陸の車に油を入れんなら、それは対馬交通がおるから、対馬交通で乗っていきますけども、漁師はどげんします。まさかフェリーでイカを釣れちゅうわけいかんでしょ。そりゃ大きいの喰うかもしれませんよ、フェリーやから。そういうわけにいかんのだから、やはり第一次産業を主とした市民のための基金を合併特例債を活用してつくっていただきたいと思います、いかがでございましょうか。

議長（波田 政和君） ちょっといいですかね、もう自席でよろしいですか。市長、お願いします。

市長（松村 良幸君） まず、冒頭の、県と仲がいいのか悪いのかという序章でございますが、私はひとつも悪いこともいいこともないと思って、淡々としておりますが、相手のあることから、相手がどう思う、県がそう思ってるんですか、また逆に聞きたいんですが、不思議なことですなえ、仲のいい悪いで行政がされたら大変なことですなえ。しかし、あなたの意見は意見と、たとして、私なりによく留意をし、拝聴せよ拝聴せよというような気持ちで聞いておりますので、じっくりよくもう一度検証してみたいと思いますが、私の方には異存はありません。

それから、燃油対策ですが、御承知のとおり、1バレル70数ドル、恐らく80ドル、100ドルとなるわけでしょうが、御指摘のように大変なことでございます。これはもう対馬のみならず、全国がそうですが、燃油対策につきましても、県はもちろんですが、国の方にも県と一緒にわあわあやっていますけども、市長会挙げてもやっています。なかなか国はこれに対する動きというのは、動いておりますが、決定打は出せません。今御指摘のようなむつ基金からの助成ということで、これも大したもんじゃございませんが、まあまあしかし、ビヘビアは姿勢としては、まあまあせんよりもいいことだと思っております。結構それなりの効果が出てると思います。

今全漁連と長崎県が全額を実施助成をします「省エネルギー推進緊急特別対策実施条例」というのがあります、利子補給のですね、これにつきましても、この事業には、市といたしましても、融資に係る漁業信用基金協会への保証料を燃油対策で補助金として今助成をするように考えております。

それから、合併特例債の基金、これは御指摘のように、地域の皆さんの連携強化あるいは地域振興のために基金を設ける場合は起債を起こすことができる、御指摘のとおりであります。ただ、

対馬の場合、基金の積立額の限度額が33億9,000万でありまして、このうちの95%の32億2,000万円が合併特例債を利用ができるというようなことになるはずであります。この基金は果実運用型の基金でございますので、運用できるのは積立金の利子に限られておるわけでありまして。現在のように低金利の経済状況のもとでは非常に効果が薄いんじゃないかと思っておりますが、これもよく検討してみようと思っております。

また、平成18年度からの起債につきましては、地方債許可制度から、もう新聞等で御承知のように、地方債協議制度へ移行することになります。そういったことでございますが、起債制限比率等も今後も高くなっていくものと推測をしております、合併特例債にいたしましても、起債でございますので、すぐに基金を積み立てるとということには難しい面も出てまいらうかと思っております。この合併特例債を活用できる基金の創設につきましては、合併後10年以内ということも、これはもう小宮議員御承知のとおりであります。漁業に限定したのではなく、住民の皆さんの連携強化あるいは地域振興、先ほど言いましたような、そういったものを図るために、今後の起債の状況あるいは財政状況を見ながら、冒頭申しましたように、検討してまいりたいと、このように思っております。

議長（波田 政和君） 小宮教義君。

議員（3番 小宮 教義君） 非常に難しいということでございますが、長崎県下でこの基金の設立があつておるかどうかと思うんですが、どの市、どの町、どのくらいの基金の設立があつておるのか、ちょっとお尋ねいたします。

議長（波田 政和君） 小宮教義君。

議員（3番 小宮 教義君） あつてないということですかね。多分あつとると思います。島原か、大きいところ、長崎もそうだと思いますが、30億積んだり、20億積んだりしておるはずでございます。それは地域振興のためということで積み立てをしております。

そして、特例債は全額発行高はどのくらい、230億くらいあるんですか、ですね。そのうちの33億が基金としての運用ができるちゆうことですよ。だから、他の市町村もしとるわけですから、よしとしてしとるわけですし、じゃあ対馬はどうかということになれば、特にこういう地域だから、合併特例債を生かして、合併特例債、それを使わなかったら、言われるように10年で切れてしまうんですよ。今の状態だと、海のコンクリートの塊になったり、アスファルトになったり、それで終わってしまうんですよ。やっぱり子供たちのために生かしたものを、対馬に住む人のために生かした基金を残すのが私たちの務めでございますよ。言われるように果実運用でございます。今までは金利低かった。しかし、金利ゼロ対策もなくなったわけですから、これから上がります。そして、言われるように、果実だけだけども、やがては国が抛出した分と、そして実際の市が起債した分のやつも直接また市の方になるというふうな形での各県の動

きもあるようでございますから、これをこのままにしとったんじゃあ、またケーブルテレビの何か、ガラスのこう流れ弾みたいになって変わったりとか、なってしまうわけですから、ぜひこれは、これからのためにぜひ基金の設立をお願いしたいと思いますが、再度御検討。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 先ほど申しましたとおりですので、よく諸般の状況を考えながら検討してみたいと思います。

議員（3番 小宮 教義君） できれば、基金は20億をお願いしたいと思います。そして、それに負担する市の一般財源はたしか5%ですよ。1億あれば20億の基金が積めるわけですから、後世のために、使ってしまったんじゃあ10年したらなくなるわけですから、ぜひこの辺も踏まえて御検討をお願いしたいと思います。答弁は要りません。

次に、行財政改革についてお尋ねいたします。

今、どこの地域に行っても、何を削られた、あれを削られたと、補助金は50%カットだという基準で削減をしているわけでございますが、特に商工会とか、島の物産、また各老人施設関係、これを一方的にするように私は見えるわけでありまして。まず、人にものを頼むときには、ここまですたんだと、こうしたけどもできないんだと、だから市民の方どうだろうかと、こういうところで削減に協力をしていただけたらどうかと、そういうせば詰まった説明も何もないわけありますから、まさにあれですよ、自分たちばかり「かすまき」食って、市民に「かすまき」の耳を食えというようなもんです。それについて、今後対馬がどうなるかについて、二、三点お尋ねをいたします。

まず、第1点目が、新聞でもよく御存じと思いますが、これ朝日新聞ですけどね、夕張市が倒産しました、財政破綻したわけです。これを、これは全国紙ですから日本全国見るわけですよ。そうすると、人口1人当たりの地方債発行残高が一番高いのは、1番、対馬市、そして破産したのは20番で夕張市なんですよ。なぜ20番の夕張市が破産したのに、対馬市は破産しないのか、だれもが自然に思うことなんです。もし対馬市が破産するならば、いつごろ破産するのか、それを一つお尋ね。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 行財政改革についてですが、まず、みずから痛みを分かち合うなら、みずから痛みを感じよということで、行政側が「かすまき」を食って、市民に「かすまき」の耳を食わしとるんじゃないかということですが、これはもう御指摘のとおり、考えられることもあるかもわかりませんが、もうそれは小宮議員さんが一番よく知っているとおりであります。管理職手当の30%カットあるいは特殊勤務手当のカット、時間外手当の1割・2割から約70%今度はカット、三役ももちろんですが、そういった中で、実は2億3,000万ぐらい今

その実が上がってるわけで、まだまだ足りんということだろうと思います。これについてもよくまた検討してみたいと思います。

それから、直裁に申されましたので、直裁に申し上げますが、北海道の夕張市が破綻して、対馬がなぜ破綻しないのか、20数番目が破綻して、1番借が多い対馬市がなぜ破綻しないのか、全く皆さんそのとおりを思っていると思いますし、わざわざ新聞記事で持って、こんなんだよこんなんだよと言うてずうっと持って回ってる人もあります。あー無下なるかなと思って、私も思っているんですが、それはそれといたしまして、御承知のとおり、もうこれは小宮議員がよく知ってあるからでしょうが、対馬市が仮に630数億、今起債という名の借金があると思います。これは一般の家とか我々が借りる借金とはまた少し違うこともよく御承知のとおりだと思います。辺地債というような起債ですと80%、1億起債を国に認めてもらいますと、8,000万円は交付税で算定する、2,000万円だけを返す。過疎債であると、70%が交付税算定できる。同じように、7,000万は元利償還は交付税で見てくれる、こういったシステムで、あるいは一般公共事業債にいたしましても、30%から55%あるいは70%、いろんな形があるわけですが、そういう有利な起債を求めて、そして国費を引き出しながら道路をつくり、漁港、港湾をつくり、学校をつくりしてきたわけであります。

御承知のとおり、30億にならない税収ではどうにもならないわけでございまして、これを非といえば非かもわかりません。そういった集計が1人当たり160万2,000円という全国一の起債額ということでございますが、これはそういう旧6町の努力のあらわれでもあったわけでありまして、これをしなかったら今のような道路も、あるいは漁港も港湾も環境整備、基盤整備、産業基盤なかったと思います。そういう中で、負の部分も今御指摘に出てるかもわかりません。

そういうことでしますと、実際は1人当たりいたしますと、交付税で8割、7割、6割、5割見てくれるのを平均しますと、約63.4%ぐらいが、630億の中でもこれは交付税算定のできる額でございますので、それを差し引きしますと、1人当たり六十二、三万ぐらいになると思います。ということになりますと、決して上の方ではありません。上、下、真ん中、考えることは要らないんですが、そういう形で皆さんが誤解をされ、夕張の次は対馬もということで、これを争い事の道具にしている人もたくさんおられるようですが、それはそれでいいと思います。

そういうことですから、倒産の心配もありませんし、結論は、あるいは財政再建に突入することもないということで、今皆さんに痛みを分かち合ってくださいということではあるんですが、冒頭の御指摘のように、痛みを分かち合う方の、おまえの方が少しまだ足りんのじゃないかということではあると思いますので、このあたりにつきましてもよくまた検証しながら、あるべき姿を求めていきたいと、このように思っております。

議長（波田 政和君） 小宮教義君。

議員（3番 小宮 教義君） もうはっきり言いまして、私はもう3年ぐらいしたらつぶれるんじゃないかと思っておりましたが。言われるように、これを見た人はそう思うんですよ。それで、この中で、先ほどの説明やと、63%ですか、これが過疎債とか、いろんなもので交付税算定できるちゅうことなんですね。そうすると、残りは三十七、八だから、その分が本来の借金という形になるということですね。それが1人当たり、これを訂正すると60万ぐらい、六十二、三万になるということなんですね。だから、一番上の160万でも、数字は高いけども、実際には60何万だということではいいんです。ああ、安心しましたよ。いつつぶれるのかなと思って、よう聞かれるんですよ、松村なってからつぶれるんじゃないかちゅうて。いやあ、そうですかねえ、じゃあ聞いてみましょうかちゅうことで聞いたんですが。それで皆さん安心されると思います。

それと、2番目の、よく市長は、3年したら財政が安定するんだという発言をあちこちされておられます。3年したら財政は安定する傾向になるんですね、なりますよね。何回も言われるんだからね、なりますよね。

じゃあ、お尋ねしますがね、対馬いろんな企業がいっぱいございます。3年間辛抱すれば、3年後はよくなるんだという兆しがあれば一生懸命努力するんですよ、3年間はどうかしてやっていこうと。その苦しい3年を乗り切れれば後があると思えば、ひとりでに頑張るんですよ。だから、苦しい3年を乗り切る方法はないのか。逆に、こちらがどういうことを要望できるのか、与えられるのかということ考えたときには、夕張じゃございませんけども、あそこは人件費を15%カットしました。やはりこの対馬市も3年間という期限を切って、人件費、議会費も含めての人件費でございますよ、含めて、3年間1割カットにして、3年間辛抱すればいいわけですから、1割カットにして、財政を立て直す考えはあるのかないのか。3年間ですよ、どうですか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 御指摘のとおり、私は皆さんに、今お話がありましたように、トンネルの中の暗いところにおりますとね、やっぱり人間やっぱり生身の動物ですし、あきらめの心境になることもありましよう。しかし、トンネルの向こうに日が見えますと、あの日にたどり着くには、何とかもう少し近づくまで努力をいたします。その日をやっぱり私どもがともし役割があるわけですので、そういった点では、まず、基金を取り崩した予算編成からの脱却が必要であろうかと思えます。御承知のとおり、平成16年、これは合併当初の予算というのは、減債基金から10億、それから財政調整基金から10億、振興基金から11億、31億の基金を取り崩して組んだのが382億6,900万ということはもうよく御承知のとおりだと思います。その次も何とかこれを、プライマリーバランスを考えまして、収入・支出をどうしたらいいかということで、17年度の予算、これもどうしてもやっぱり取り崩さざるを得ない、継続事業等ございまして、

これが24億取り崩しました。それで組んだのが17年の予算が364億6,600万、これもよく御承知と思います。

さてさて、今度は18年、今度こそ何とかならんかということでしたけど、やはり15億基金を取り崩し、だんだん少なくなっておりますが、ちょうど組んだのが324億ジャストであったことも御承知のとおりですが、こういったものが前倒しで3年間で何とかなるだろうということで、基金取り崩しをしなくても予算が組める状況、そういう状況をつくらにやいかんということで皆さんに痛みを分かち合ってもらってるといってごさいます。

そのためには、まず、人件費の抑制ですから、数値目標を定めまして、22年までに660名にいたします。824名プラス臨時職員164名あったのを660にするわけですから、大変だと思いますが、そして、最終目指すものが450名であります。類似団体が大体380名ぐらいですからね、4万人規模の自治体では。最終目標は、それによって支所の形態も変え、結局、総務、企画、財政等の管理部門の集中管理によって、その浮いた金を何とか財政再建に充てようということでごさいますので、これは私が言うまでもなく、よく御承知と思います。そういう点で何とか20億、20数億の人件費削減によってこれもできますし、あるいは、それによりましてのいろんな行財政改革が一体として進んでいくということでごさいますので、御理解いただけると思います。

議長（波田 政和君） 小宮教義君。

議員（3番 小宮 教義君） 10%カットはしないと、基金の取り崩しからやるべきだということでごさいますね。違いますか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） そういう状況の中で、いや、まだこれではだめだということになれば、それも検討せにやいけませんし、今その検証をしているところでごさいますので、あなたの御提案につきましては十分検討していきたいと、このように思っております。

ただ、まあまあ生活給ですから、こういったものは私は手つけるべきではないという持論を持っておりまして、やっぱり万やむを得ないという事態になったら、これも聖域としてはとらえてはいけないと思っております。

したがって、今後そういうことも含めて検討していきたい。1人当たり1,100万の200人リストラしますと、20億、22億の金が浮くわけですから、もちろん50代あるいは40代で退職する人もありますので、含めてそれも検討していきたいと思っております。

議員（3番 小宮 教義君） 検討するということでごさいます。

では、3番目の、行財政推進委員会の方で報告書が出ておりますが、対馬市の場合は、類似団体から比較すると、やはり450名程度が妥当じゃないかという話、答申でごさいますよね。こ

ね、あれですかね、たくさん職員さんおられるんですから、削減する方法というのはないもんなんですかね、職員を。それについてお尋ねします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） これはもう小宮議員が一番よく御承知と思いますが、大体、地方公務員法、国家公務員も一緒ですが、一定の事由によって職責を果たすことができない場合、また、職員としての一定の業務に、業務というよりも義務、しなければいけないということに違反した場合など、正当な理由がない限りは、職員はその意に反して免職されないという規定がされております。その身分が保障されてるわけでございます、これはあくまでも諸般の事情、自主的にそういったことがなされるということになるうかと思しますので、もう既に100名を超えた減員になってると思います。ことしも6名ぐらいの定年だったんですが、29名ぐらいになってると思います。だから、ちょっとお待ちください。それで、御指摘のように450名、大体380名台が類似団体ですが、面積がやっぱり九州でも2番目に広いという対馬市ですから、450名で特定されて、御指摘のとおりでございますので、最終はそれに向かっていくんですが、それだけじゃいけませんので、私どもが22年までに660名までにしましょうということで、国の数値目標からいいますと、国が大体地方に求めているそういった人件費削減とは、5.7%を求めているわけでございますが、私どもはそれからいきますと、16.8%という膨大な削減になるうかと思ひます。これにまた交付税にはねかえらると思ひます。

以上です。

議員（3番 小宮 教義君） あれなんですかね、やはり法律上できないもんなんですかね。民間企業であると、まず給料下げることから始まって、そしてリストラするんですね。そういうふうな形で段階を踏むんですが、やっぱり公務員ということはできないということですが、公務員法にそう書いてあるんでしょう。多分それは、ここでいいますと、地方公務員法の27条。

次に、では、多いんだから、少しく地位を下げるとか、そういうことはできないかということなんですけど、これは公務員法の28条に、降任、免職、休職等というのがございます。その第28条に、職員は左の(1)に該当する以外においては、その意に反してこれを更新し、または免除することができる。その1項の4号にこう書いてあるんですよ。職制もしくは定数の廃止または予算の減少により、廃職または過員を生じた場合には、先ほどの適用ができるということでございます。

そして、この解釈で、よろしゅうございますか、この解釈で、定数とは、法令の根拠に基づいたもの、今ちょっと人数がたこうございますけども、例えばそれを450に徹底するとか、法的にですよ、すれば、この適用を受けるわけですから。それと、予算関係でも過員を生じた場合にはそうすることができるというわけですから、この辺の解釈をもっと生かして、削減に対

応するようなことをひとつ考えていただきたいと思います。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 公務員法というのは、非常にそういった形で護送船団方式が破られると言いながらも、やはりその延長線上を引きずってるのが公務員法であろうと、今公務員法の改正がささやかれているのもそういった点でございます。物資請求が与えられない、あるいはそういった民間並みの給与体系、物資請求ができないと、そういったこともあります。それ基本的にはやはり、降任、免職というのはそれなりの理由が、先ほど言ったようなことが必要です。今あなたが指摘されたことも、例外のない法則はないわけでございますので、法律と道德というのは、道德の最低限守らなければならないものが法律として次から次に出てくるわけですが、そういう例外の規定の中での対応ということでございますけども、それも含めまして、よく検討しながら、言われんとする意は十分わかりますので、今後検討していきたいと、このように思っております。

議員（3番 小宮 教義君） そうですね、先ほどの地方公務員法28条第1項第4号について、また研究をお願いしたいと思います。

続きまして、消防団の話になりますが、消防団のポンプ車、可搬もございますけども、消防団は98分団ございます。そして約1,900人あるわけでございますが、消防団は夜であろうが昼であろうが、夜中でもサイレンが鳴りゃあ飛び起きて行くわけですよ。そして、火を消しに行くわけですよ。また、人を捜しに行ったりとか、そういうことを日夜しとるわけでございますが、最近、このポンプ車が非常に古い、可搬を含めて。今、可搬を含めて137台あるんですね。そのうちに17年以上の車両が25台あるんですよ。20年というのが7台もおるんですね。一番古いのは何年と思います、25年ですよ。二昔前の車はまだおるんですね、ここに。

消防は、サイレンが鳴ったらすぐ出ていかないとやいけません。そういったときに、車が動かんからどうのこうのということになったら大変なことになります。そうすると、消防団も水道ホースとバケツでもって行くわけですが、そういうことができんわけですから、こういう市民の生命と財産を守る基本的な消防団活動の整備、これはどうなっておるのか、お尋ねいたします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 御指摘のとおり、今後の整備計画ということですが、市消防団といたしましては、現在、指令車、ポンプ車あるいは小型ポンプ積載車、小型ポンプを合わせて144台の消防機械を所有しておるわけでありまして、更新についてもばらばらであります。経過年数が比較的新しい町、古い機械が多い町もそれぞれ旧6町にありました。これを取りまとめたところが、今あなたが御指摘のように、一番古い消防機械で購入から24年を経過したものが1台あります。それから、22年を経過したものが1台、21年を経過したものが2台と、おっしゃると

おりであります。かなり古くなった消防機械もありますが、これはそれぞれ点検を常にしているはずでございますし、出動することができないということになったら、これはおっしゃるとおり、ホースやバケツを持っての消火というのはあり得ないわけですので、その点につきましては、それぞれ団幹部の消防団組織対策委員会を立ち上げて、分団数あるいは団員数の適正配置等、あらゆる面から検討し、整備計画を作成していると聞き及んでおります。

あとにつきましては、消防長の方から必要であれば答弁してもらいます。だから、遺漏の無いように万全を期さなければなりません、目的に対して、やはり最小の投資で最大の効果を上げるとい、こういう非常事態ですので、それは必要であろうかと思いますが、御指摘のように、用をなさんということにならないように十分配慮して、意見は呈して、よく検討もこれもしてまいりたいと思っております。

議員（3番 小宮 教義君） この整備については、各消防団関係で整備を計画を立てておるといことですね。銭を出すのは市の方が出すわけですね、財政の方が出すんですよ。財政を交えての検討されたんですか。その中で整備計画がまとまっておるんですか、その辺はどうなんですか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 各部局からの予算の要求というのは、そういった各部局、各セクションで取りまとめたものが持ち上がってきますので、そういったものをよくヒアリングしながら、財政出動はどこまでか、これはどうかということの予算づけというのが始まるわけでございますので、それはよく状況を聞きながらやってると思います。まだもう少しはいいよとか、あと1年は大丈夫、あと3年はどうだよとか、そういう話の結果、予算が策定されます。予算というのは幾らついても足りないものであります。そういったところは非常に微妙なところがありますが、現場との状況、よく密接に連携プレーが図られなければならないと思いますので、よくそれも検証してみたいと思っております。

議長（波田 政和君） 小宮教義君。

議員（3番 小宮 教義君） 話は予算予算になるんですが、市民の生命と財産を守るんですよ。普通の予算づけと一緒にしてもらったら困りますよ。市民の生命と財産を守るのは公務員の第一の任務じゃないですか。トンネル掘るわけじゃないんですよ。市民の生命を守るために常に整備していかなければいけないわけですよ。その辺もよく考えて、今後の整備計画を立てていただきたいと思います。

それと、時間ございません、あと5分ですから、最後の機構改革について、新しい商工部局ができたわけでございますが、さっきの補助金カットじゃございませんけども、どういう意味でつくったのか、ここに書いておりますように、補助金を2分の1カットしたと、またさらに2分の

1カットするためにつくったのか、それとも、先ほどの予算がないから、自分たちで便所の掃除しよう、空き缶を拾おうじゃないかというふうな考えでつくられたのか、時間5分しかございませんので、ひとつ。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 一方通行の議論は誤解を招きますので、時間は余り気にせんでいいと思います。

御承知のとおり、これは企業誘致あるいは観光、物産流通を専門かつ戦略的に行う商工観光を独立して、農林水産と分けた、一緒だったものをですね。これはやはりその必要があったからやったわけでごさいます、縮小したり、延べたり、機構というのは1年2年したからということじゃなしに、毎日変えてもいいわけですから、弾力的にそういったものは、今御指摘のとおり、効果の出るような動く組織にしたいと思っておりますので、空き缶拾うこともいいでしょうが、とにかく戦略的に物事が考えられる、そして観光、物産、やっぱりそれぞれ他力本願じゃなしに、やっぱりそれぞれがやっぱりそれぞれなりの動きができる、そういったものを助長するようなシステムでないといかんと思う。それをまた私どもが補完をしていく、あるいは引っ張っていく、そういうことは必要だろうと思っておりますので、今回の独立した商工観光というのはそういういろんな意味合いを含めてのことでごさいますので、御理解を賜りたいと思います。

議員（3番 小宮 教義君） 何か便所の掃除じゃないそうで一安心しましたが、あれですね、やはり財政としては厳しい予算の中やっとなんだから、でも、各団体がごさいます。そういう方には手を差し伸べることもできるわけですね。お金はないけども、人ならば出せるわけですから、だから、対馬商工会にしてもしかり、島の物産協会にしてもしかり、行政が、銭は出せんけども、人を出せるところはどんどん人を出していくというふうな考えはないのかあるのか、一つ。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 改革というのは、何もかも負の部分で減らしたり、少なくしたりすることじゃないわけですから、もうこれは小宮議員よく御承知と思います。ふやすところは逆にふやしていく、そして、減らすところはもっと減らしていくという、こういったことはアクセントをつけたこれからの行政運営していかにやいけませんので、とにかく考え方を変えるという前提のもとに、考え方を変えなければ対馬のあしたはないというのは、各界、各層、私どもを含めて皆一緒でごさいますので、時代が変わったわけですから、考え方を変えなければならないという延長線上にあなたの話は私ども理解できますので、そのように頑張っていきたいと思っております。

以上です。

議長（波田 政和君） 小宮教義君。

議員（3番 小宮 教義君） 機構改革については、3番、4番がございしますが、もう時間もございせんが、これについてはまた後で一般質問が入ってるようございしますので、そのときにお願ひしたいと思ひます。

非常に厳しい状況でございします、すべてにおいて。やはり行政でできるところは行政でして、ぎりぎりまでですよ、やれるところはぎりぎりまでやると、そういうふうな基本的な考え方を貫いていかんと、なかなか市民の、何ですか、考え方を理解することはできないと思ひます。

ぜひ、きょうはたくさん申しましたけども、検討する課題もあるようございしますんで、ぜひ前向きに検討していただいて、検討するのは、しない検討とする検討があるようございしますから、ぜひするという立場のもとに検討していただきたいと思ひます。そして、「ずんだれ」にならんようにひとつお願ひしたいと思ひます。

以上です。

議長（波田 政和君） これで3番議員の質問を終わります。

.....
議長（波田 政和君） 暫時休憩します。11時から再開します。

午前10時50分休憩

.....
午前11時00分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

3番議員の質問のやり方と今までやってきたやり方が少し違ってた関係で、作元議員におかれましては、全通告どおり一通りやって、一問一答でよろしくお願ひします。よろしいでしょうか。再開します。

次に、17番、作元義文君。

議員（17番 作元 義文君） ただいま御指摘をいただきましたので、通告どおりに一応2番目まで通告をさせていただきます。

先ほど小宮議員の方から、ユーモアあふれる、また真剣味あふれる一般質問をお聞きをいたしまして、感動いたしております。2番手として、通告をいたしました2点について質問をいたしたいと思ひます。

まず、1点目ですが、対馬市が持つ観光名所の見直しと開発についてであります。

市長も日ごろから、対馬市の重点施策の一つとして観光事業を上げられております。水産業あるいは公共事業、農林業、どれ一つとして今対馬の浮揚に力強さを感じるものはありません。観光事業においても、いま一つ伸び悩んでいる現状ではないかと思ひます。

私も個人的に、島内をお客さんを案内をして回ることもあるわけですが、本当に北から南まで、

時間をかけてゆっくり回れば、素晴らしい名所や、あるいは旧跡が幾らでもあります。回りながら思うことは、ここはこうしたらどうかなあと、あるいは、もう少し手をかけ、アイデアを加えることによって、もっとその価値が、そのすばらしさが訪れた人々により感動を与えられると思うし、また、その帰り着いた夜の宿の御ぜんに対馬の生きた魚を腹いっぱい食べさせることができれば、必ず観光客も満足して対馬を後にし、また対馬を訪れたいという気持ちになると思うわけでありませぬ。回りながら観光地で、いろいろ要件はあるわけですが、気がついたところを私なりに二、三点お尋ねをしてみたいと思います。

上対馬町一円あるいは上県町一円、このエリアの中に素晴らしい観光名所があるわけですね、短時間で回れるところ。上対馬にしても、上県にしても、すぐ名所から名所がすぐ近くという場所が数点あります。その中で、上対馬町の豊の砲台跡、あそこを訪ねたときに、朝鮮海峡をにらんで日露戦争時分につくられたと思われるその規模の大きさ、これには皆さん驚かされます。できれば、あの台座の上に18メートルの銃身が2門も乗ってた。旧アメリカ軍によって取り壊されて今何もありませんが、砲口があった高さまで登って周囲の海が見渡せることができれば、さらにその規模の大きさと当時がよくしのばれるんじゃないかなあというふうに思います。

また、その砲台跡まで行く道路の整備、これもまた何ちゅうた、これ方言であります、なんちゅう道路やらわからんと。いつ扱った道路やらわからんというような状況で、これが観光地へ向かう道路とは思えません。できれば簡易舗装でもする計画はないでしょうか。

次に、気がついてるのは、千俵蔭山の頂上付近の整備、これは17年度の決算の中で580万程度、千俵蔭周辺の園地の設計委託ということがなされておりますけれども、その周辺園地をどのように作り上げようとしているのか、お尋ねをしたいと思います。ここについても、登り口の標識ももちろんですが、登る途中の道路、これも車が破れたちゃねえかなというような音がするぐらい、側溝のふただと思うんですけども、そういった、見回りがされてないというか、そういった箇所がありました。

それで、この上県町周辺について、あじさいロード、そして千俵蔭、そして佐護港浜のあのパーク、それで井口浜、ヤマネコ公園、あるいは棹崎公園、このあたりをとってみると、ほとんど1日ここで家族連れで遊べるような園地が広がってるわけですね。特に上県と上対馬は、私はこういったところがすばらしいところだなあと。今から周辺計画を立ててされるならば、ぜひここからここに行って、ここに回ってこう行くと、ここで何時間費やしてというような観光マップをつくり上げれば、もっとすばらしい対馬の観光が楽しめるんじゃないかというふうに思いますので、あわせてそこもお願いをしたいと思います。

次に、豊玉飛ばしまして、峰、豊玉、美津島飛ばしまして、巖原町の万松院、ここは昭和60年の国指定の史跡として登録をされておりますけれども、対馬を観光で訪れる方は、ほとん

どこの万松院に足を運ばれない方はおりません。それだけ歴史を語るすばらしい観光名所だと思っておりますけれども、非常に、行かれたらわかると思いますが、老朽化が目立っておりますね。もう屋根の、前側は何とかなるそうですが、住職に話を聞きますと、裏側はもうぼろぼろだそうですね。登れないというような状況で、1年に500万ぐらいの予算をかけて何とかこうされてみたいですが、そういったことではもう追いつかんかなあ。あれはもうがちゃんち落ちるんじゃないかなというような場所まであります。

これは文化庁の関係もございましょうけれども、あれだけの重要文化財を対馬市としてそのまままっくおおくにはもったいないなという気がいたしております。1回、門の修復は平成5年に厳原町時代にされたそうですけれども。その両脇に仁王門がありますね、あうんの像と申しますか、これももう物すごく傷んでおります。色はあせて、腕は落ちて、それこそ顔のほっぺたの木が落ちて、まあ何ともみすばらしい仁王門だなというふうに思います。住職に話を聞きますと、なかなか扱いたくても扱えないと。これも1回そういったことがあったそうです、扱うときがあったそうですけれども、やはり数千万の費用がかかるらしくて、これも1600年代に京都の方から、万松院の大過の守り神として2体買ってこられたそうで、それをそのまま据えて現在に至っておりますが、色も全然もう、どんな色だったかなというのもわからないぐらいになってる。

できればこれも含めて、万松院全体を含めて、私は、住職ともよく相談をされながら、対馬市として私は取りかかっていたらなあというふうに思います。これは市長にだけ通告の答弁を申し込んでおりましたけども、もしあれだったら、教育委員会の方でもわかればお願いしたいと思います。

次に、2点目ですが、海洋温度差発電のことについてちょっとお尋ねをいたします。

対馬西沖の調査の途中経過と今後の取り組みについてでございますけれども、新エネルギーの開発の一環として、佐賀大学の伊万里海洋エネルギー研究センターにおいて、対馬西沖の調査も実施をされていると思います。昨年、つしま21と自民クラブの2会派で研究センターを訪ね、いろいろと温度差発電の仕組みや、あるいは対馬での可能性等々を伺ってまいりましたが、条件的には、対馬市棹崎の6マイル、市長が昨年も答弁をいただきましたけども、6マイルの沖の調査はかなり有望であるという報告を伺いました。その後の調査の途中経過等の報告があっているかどうか。私は市長に直接、結構対馬の西沖は有望らしいですよという話をしたことがありますけれども、そういった研究センターからそういった途中経過というふうなことがあっているかどうか。

浦田技師に私もちょっと個人的に、大手企業の営業マンの方が、水素をつくり出す、そういった海洋温度差発電に非常に興味を示されましたものですから、海洋センターの浦田さんに電話を入れて、いろんな資料をその企業の方に一応送っていただいておりますけれども、まだ結果とし

では何も言ってきておりません。そういった状況で、非常に有望であるというふうな話は聞いております。

このエネルギー開発には、発電だけではなくて、深層水をくみ上げることによって、大量のプランクトンの発生による漁業への多大な普及効果、あるいはまた、蒸留水、イオン水などの複合水の摂取等、海水の持ついろんな成分の採取が可能であります。対馬の新しい企業の誘致や新事業の展開が大いに期待できると思われれます。むしろ、数々のそういったつくり出される成分を利用した事業展開の方が有望視されるのではないのでしょうか。

また、地球の70%は海であります。その無限の資源力も私はほかに類を見ないものと確信をするものであります。この周囲を海に囲まれた対馬だからこそ、それを、その無限の力を十分生かして、日本で初めての海洋温度差発電に挑戦をし、低迷を続ける対馬の浮揚あるいは水産業の活性化につなげていただければなというふうに強く希望を持って、市長にお話をしているところであります。

昨年の6月議会の市長答弁をいただきました、西沖の大型漁場造成ですね、国家プロジェクト、こういったものにも必ずそのすばらしい相乗効果をもたらされるものと期待するものであります。今特にメディア等で話題になっております韓国あるいは竹島の問題、日本の領土、領海を守るためにも、私は国家プロジェクトで強く要望していただきたいと思いますが、市長のお考えを伺いたいと思います。

それから、一番最後に、新地域エネルギービジョンの説明ということで書いておりましたけども、きのう大体説明はいただきましたので、それはまたそういった項目が出てきたときに質問をさせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 17番、作元議員の質問にお答えいたします。

対馬市が持つ観光名所の見直しと開発ということで、いろいろ御意見を賜りましたが、議員御指摘のとおり、対馬に多くの観光名所や史跡、遺跡がありますが、そのすばらしさが生かされていないじゃないかということの御提言、御意見だったと思います。

例示していただきました豊砲台、それから千俵山頂上付近、こんな話でございますが、御承知のように、豊砲台につきましては遺跡であり、国定公園内区域にあるために、昭和57年ごろ県の自然公園整備で、砲口があった上部まで遊歩道が整備しておりますが、平成8年に旧上対馬町が韓国展望台を整備したことによりまして、遊歩道利用者が減っていったと。そして、現在はもう草木が茂った御指摘のとおり状況であります。草刈り等、簡易な整備で十分利用可能だと思われるわけですが、これはそれなりの手入れをしていきたいと思っております。

また、豊砲台までの道路につきましては、落土砲台線としてあれは市道認定がされております。

維持管理を行っておりますが、砂利道のために雨が降るごとに路面が洗い流されているといひますかね、洗掘されている状況でございます、舗装の要望も豊の方からあつてる。この前も豊砲台まで行って、皆さんと一緒に見てまいりました。何とか、議員御指摘のように、せめて側溝も、道路の傾斜並みに側溝は流せばいいですから、少し簡易な整備をしてみたいと、このように思っております。部長を初め、地元の人らと、皆さんと回ってみました。御指摘のとおりだと思っております。

それから、千俵蒔山付近、頂上付近ですね、これはパラグライディングのテイクオフポイントとして活用されてることはもう、利用されてることは作元議員も御承知と思いますが、今2基のちょうどあそこに風力発電機があります。今後どう活用し、整備していったらよいかということを含めて、検討をしてみたいと思います。

それから、万松院の方、仁王像の修復の件ですが、これは対馬藩士の宗家墓所につきましては、もう御承知のとおり、史跡、対馬の史跡として、対馬藩主宗家墓所等の保存整備基本計画というものがございまして、それにのっとり、史跡の清水山城址あるいは史跡金石城址とともに、国宝重要文化財等の保存整備費の補助事業として、現在今保存整備を進めていこうといたしております。

宗家墓所は、御承知のとおり、石垣、玉垣、石段等の保存修復に努めているようでございますが、これからは、きょうもお話がありました、庫裏の裏に広がる泉庭あるいは御霊屋、そういったものも含めまして取りかかる予定にいたしております。中でも万松院本堂は、今御指摘のように、損傷が非常に激しゅうございまして、例年雨漏りの被害を受けてることを聞いております。このため来年度以降に保存修理に取りかかる予定にいたしております。

本堂と同じく、山門におさめられる仁王像も今御指摘されましたが、これは享保年間ですから、約18世紀前半ごろだと思っておりますが、被災をいたしまして、再建されるときに守り神として祭られたものでございまして、御意見のとおりであります。史跡としての景観を構成する重要な要素の一つであることも十分認識をいたしております。史跡全体の保存整備計画と進行状況をかながみながら、文化財としての観点あるいは万松院の住職の意見等も聞きまして、損傷の修理、保存修理について取り組んでいけるよう計画を検討していきたいと思っております。

議員御指摘のとおり、これらの観光施設の整備に多大な費用が必要でありますので、財政状況の厳しい中でどうしていくか、これをすればどっかを削っていく、これは当然でございます。何を優先していくかということになるかと思っておりますので、全般を見ながら、限られた予算の中で、必要度合い、必要度合いが一緒であれば、地域の熱意の高いところ、これは予算の基本的なものでございますので、よく勘案しながら検討していきたいと思っております。

それから、宗家墓所のことはもうそれでいいですかね、後でまた聞いてみたいと思います。

それから、海洋温度差発電の対馬西沖の調査の途中経過あるいは今後の取り組みということでございますが、これはもう作元議員御指摘のとおりでありまして、調査の結果というのはもう、調査海域の深層水が大体200から300にあるというのは非常に珍しいんですけども、潮流の行き交う関係かなと思っておりますが、非常に、普通深層水ですから深いとこなんですけど、割と200から300の水深の浅いところから採取ができる上に、ミネラルもとにかく多く、成分も上質だということを調査の結果が出ております。

御承知のように、深層水と表層水の温度が15度から20度あるということがこれ必要不可欠の条件ですが、20度以上ですね、温度差もありますので、本当に最適な条件下にありますが、ただ、残念ながら、冬場、冬期に少し温度が少し微妙なところがあります。したがって、そこは風力発電で、風力でその間を補おうと、2カ月、3カ月ですかね、そういった計画であります。

効果が、発電のみならず、発電というのは、沖ノ鳥島もああったふうに石原都知事が、国の施策として岩礁か島嶼かということですが、いやいや岩礁じゃない、島嶼だということで、国もあれに手を入れてきたわけですが、あそこで実効支配をしようということでの温度差発電、これを先取りされたような形ですが、国境島対馬としましても、そういう形で検討は進めてまいりたいと思っております。国の方ともいろいろ話をいたしております。

ただ、副次的に出ますミネラルあるいはリチウム、電池ですね、時計なんかの、それから水素、こういったものが非常に皆企業が着目をしてるということで、今、伊万里のセンターにはいろんな後援組織が上原先生のができてるようでございます。

そういった中で、韓国の水、あそこで飲める水が皆ミネラルですね、ウォーターですから、こういったものとかいろんな効果が出ます。何よりも深層水をくみ上げて、タービンを回し、そして配水をしていく、その過程でプランクトンが多く出るという漁場造成が何よりだと思っております。その次は真水ですね。30円か30何円でできると思います。非常に安価ですね。そういったものとか、あるいは、エチゼンクラゲ対策にも効果があるんじゃないかということも言っております。いずれにいたしましても、いろんな形でこれもエネルギービジョンの一環にも組み込んでいきたいと思っております。空の太陽、風、木、それからし尿の、ごみ、いろんなものが、対馬はぜひそういったことだと思っております。

あとは、国家プロジェクトとしての言われた漁場ですね、海底山脈、ちょうどことしが水産庁漁港漁場整備計画の大きく変わる計画年であります。それで、もうこれは市町村や都道府県の財政の困窮したところでとてもできませんので、これやっぱり水産庁直轄事業として国境離島、特に日韓の排他的専管水域、竹島等の問題、いろいろありますので、そこは特別な形が出てくると思います。直轄事業、水産庁ありませんけども、今度それも恐らく計画の中でできるようになるようになると思います。あとは自席でいろいろお話ししたいと思います。

以上です。

議長（波田 政和君） 作元義文君。

議員（17番 作元 義文君） 今るる答弁もいただきましたけれども、豊の、今市長が言われるように、財政ということになると、私もよく承知をしておりますてこういった質問をしているわけで、この豊の砲台に行く道路ですね、これはそんなに私は簡易舗装でもいいと思うわけですよ。ただ、今行ってみると、石は転がるとるわ、側溝、溝はほげとるわ、あそこには私は行きにくいと思うんですよ、もう少し何とかしないと。そして、韓国の見える丘、あの展望台ですよ、ああいったところとすぐ近くにあるわけですから、できれば砲台跡も見たい、そして殿崎にも行きたい、あるいは三宇田浜にも行きたい、あの流れの中で行きやすいように、せめてそんなに金かからないと思いますけれども、財政の厳しいのは十分承知の上で質問をしてるわけですから、できればそういったところを手を入れていただければなあと思っております。

千俵蒔山については、そういった計画も立てられているようですし、何かあそこの野焼きというか、山焼き、昔あったたそうですが、その許可がとれたとかいう話も聞くわけですが、そういった一大イベントであそこの山を焼いて、五島の鬼岳じゃないですけども、ああいった山なんですよ、あそこは、それで、あそこに少し休憩できるような、そういった屋根つきのベンチでも置くか、風力発電じゃない方の頂上の方が私はいいと思うんですけど、そういったところに、そんなに金かからないと思いますけども、財政の工面がつけば、そういった整備も少しずつやっていたいただければなあというふうで質問をしております。

万松院の件につきましては金がかかるわけですね。どこが金を出して修復するかよくわかりませんが、1年に300万か500万で石垣を2つ3つ動かしたんじゃあちょっと間に合わんじゃないですか。これはもう、そういったことは今までずっとあってきておりますけども、そういったことじゃあ崩れるのが先じゃなからうかと思うんですが、1回思い切って、これも何とかして修復に向けてぜひ努力をしていただきたいというふうに思います。

観光の面からそしたら、ひとつ答弁をお願いします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） まず、豊砲台ですが、私も雨の降るとき行ってきましたけども、本当に非常にすごい砲台でして、あれが一度もあの砲台から玉が打たれなんだということは、非常に抑止力として大変なものがあつたということだろうと思います。あれがやっぱりにらみをきかしますと、あそこからの侵入が非常に難しいですね。赤城の砲台の砲門とか言うところ、あれは間違いだつたと消してあるようですけどもね、38インチ砲台、やれ40の何、5だとか言っていましたけども。

いずれにいたしましても、本当にあそこに水がまだたまっておりましたけども、あの水の、水

力で砲台を押し上げるちゅうんですが、すごい力学だと思いますね。だから、あれは本当に大事にせにゃいかんと思っております。これは後で、幾ら、4,000万ぐらいかかるんやった、積算もいたして、調査いたします。ただ、御指摘のように、限られた財源でございますので、どこを先にするかが、これは優先、どれを優先するかが政治だと思いますので、だから、全体の中を見ながら、どう優先をしていくかということで、検討の俎上にのせております。よくまた支所長やら、あそこの、この前、豊の区長さんやら、皆さん一緒に見ておりますので、何とかどっかを削ればそれをしていくということになろうかと思ひます。まあまあそういうことです。

それから、万松院につきましては、政教分離ということで非常に手の入れにくい部分もあるんですが、名勝、旧跡という形でいけばいろんな形もあります。幸い文化財としての位置づけがなされておりますので、国でやれるものは国で、文化庁の補助事業として、あるいはまた、何か委員会あるいはそういったものができれば、可能な合法的な形でそういう政治ができるものと思ひます。あわせて、この前から佐伯住職と一度お会いしたいですねということで、はい、いつか会いましょうねって言ってるんですが、機会になったと思ひますけども、いずれにしてもあそこも大事なところです。

あるいは、千俵蒔山にしても、ハングライダー、馬飛せなんかでも、あれを点と線と面に結ぶような三角ルートの観光ルートも考えられますし、いずれにいたしましても、今からやっと動き出しましたので、今度、きのう条例を可決していただきましたので、日本旅行あるいはJTB、近畿日本ツーリスト、この3大エージェント大手の中から、彼がこのこといろんな提案をしていくと思ひます。もう既に住友商事の新しくできた子会社の社長とも話をしておるようですし、あしたかあさってか、会期中にとにかくごあいさつをさせようと思ひますが、彼のそういった企業誘致、観光、こういったものにもよく指示もさせまして、ぜひあるべき姿を求めていきたいと思ひておりますので、よろしくお願ひします。とりあえずそれでしたかね。

議長（波田 政和君） 作元義文君。

議員（17番 作元 義文君） 万松院は、市長昼飯をちょっと食うて、散歩がてらちょっと行って見て、ちょっとどれだけ傷んじよるか見てくれませんか、1回歩いて行って、そして住職とまたよく話をしてください。

それでは、海洋温度差発電の方に少し質問をしたいと思ひます。

我々が伊万里の方に視察に行ったときに、世界でインドに今海洋温度差発電を建設したという話をされております。約8億円かかったそうですが、インドで8億、そこまで、まだ発電まで、そういったところまでは対馬はいかないと思ひますけれども、そういった研究室というか、水をくみ上げて、試験できるような施設でもできればなおいいのかなあというふうに思ひて、言われるように、15 から20 の温度差が保たれない時期が1カ月か2カ月か、冬場の方にあると

いう話を聞きましたけども、また10月に浦田さんは対馬に来て、そこに行ってみるという話をこの前電話でちょっといただきましたので、その辺については市の方には何か言ってきてるんでしょうかね。

それと、この問題については、小宮政利議員も同じ質問をする予定だったんですけども、私が先に通告をしておりましたので、一緒に熱い思いをしゃべってくれんかということで代弁もさせていただきますが、今、新エネルギーの策定委員会とかいうようなことが出てきて、海洋温度差発電の今までの経緯がどこか遠いところに捨てられたちゃねえかなあというような気がするもんですから、私はこれが一番対馬にとっては大事なプロジェクトじゃねえかなと思うんですよ。それで、いろいろバイオマスとか太陽熱とか、そういったものもありますけども、ぜひこの資源を生かした海洋発電に絞って、そして、市長が昨年6月に答弁をいただいておりますように、水産庁直轄のそういった漁場造成とつなげて、1回議員の皆さんにも水産庁まで来てもらうようになるかもしれんよというような答弁まで昨年はいただいておりますけども、そういった話がどこまでどういうふうに進んでいるのか、私も水産業の将来を見たときに、ぜひ今の時代のうちに実行に移せるように頑張ってもらいたいということでもた再度こういった質問をしておるわけでございますので、市長の答弁をもう1回お願いします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 御承知のように、今燃油高等の問題で、漁業も農業も、特に漁業なんかのイカ釣り漁業ですね、終夜、集魚灯を焚くところあるいは運送業、こういったところは非常に打撃を受けておりますが、これはもう国にも各省庁、通産省にも、みんな私ども市長会も全力を挙げてやったり、個別にもいろいろやりますけども、これはもうどうしようもないですね。1バレル75ドル、6ドルを超えますと、もう80ドル、100ドルまでいくんじゃないかという状況ですから、化石燃料というのはもう50年が限度だと専門家が言っておりますし、もっと言う人は25年、30年だと言っておりますから、早く代替エネルギーをつくらないといけないことはもう御指摘のとおりです。

そういった前提の中で、水産庁が、先ほどちょっと申しましたように、直轄事業やとその気になったようでございます。これから長期計画がことしから策定されるわけですが、その中でも水産庁の直轄事業ということで、海底山脈、漁場造成、ちょうど七里ヶ曾根みたいな瀬をつくっていく。ちっぽけな10億じゃ20億のそんな湧昇流ちゃ、まあまあせんよりもいいですけども、もう少し、それから資源管理という観点からも、EEZ、竹島等で今問題になっておりますが、1996年に協定できて、99年にまた協議がなされて、あれは棚上げされた中で協議が始まったわけですが、またこのようになってしまいました。拿捕した、拿捕されんというのは、もうリラインの、李承晩がリラインを引いて以来、しょっちゅうあってるわけで、こともこれよう御

承知と思います。

そういう中で、やっぱり資源管理というのは、この前も言いましたように、くぼ地じゃないけどねえ、放流するときに、「おいおい、魚よ、間違えても韓国の領海に行くな」言うても、魚は言うこと聞きませんよね。だから、やっぱりこれは対馬と近くの釜山、韓国、日本がやっぱり国際資源管理機構をつくっていく、そういう中で、今その延長線上に水産庁あるいは国境離島という形で、まあまあ万事塞翁が馬でいろんなことがありましたけどもね、逆に、それが国境離島の苦悩というのが浮き彫りにされましたので、そういう点ではアピール効果もあったと思う。万事塞翁が馬でして、何が幸いするかわからないんですが、負の部分プラスに変えていく、これも行政の手法の一つでしょうし、また政治であろうかと思しますので、ぜひ機がもう少し熟しますとね、皆さんとやっぱり私どもと議会がもう一緒になり、住民の皆さんも一緒になっていかんと、もう物事は進まない世の中ですし、市長や町長や職員だけで、また議会議員さんだけでまちづくりができる時代は過ぎました。市民協働班をつくったのもそのとおりでございますし、今上対馬の方も、今、半井桃水のところが、上対馬の今度は市民協働班の動きが始まりましたので、また上対馬の議員さん、先生方ともよく豊の砲台の問題も含めて、最終的に詰めていきたいと思っております。またぜひそういうときは、できれば大事なことは、私は、東京でも議会を開催するのもいいんじゃないかと思っておりますけども、ぜひそういうムードになることを期待をいたしております。そういうときが来ましたら、時期をとらえて、何とか効果ある動きをしていかにやいかんと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議長（波田 政和君） 作元義文君。

議員（17番 作元 義文君） 先ほどちょっとお尋ねをしておりました伊万里の研究センターとのコンタクトは今でもとってあるんですか。あるんですか。（発言する者あり）いやいや、どっちははっきりせな。上の方やろ。

議長（波田 政和君） 農林水産部長。

農林水産部長（神宮 忠彌君） ただいまのお尋ねでございますが、この温度差発電ということにつきましては、新しい発電の方法でございまして、まだNE DOの方も新エネルギー開発機構の方も、これの具体的な動きというのはないようでございますが、私どもの方は上原先生が我が郷土の出身ということもありまして、そういったセンターの方とは常に連絡を取り合ってこれを進めていくということにいたしておりますので、御説明いたしておきます。

議員（17番 作元 義文君） 連絡はずっと取り合ってるわけ。この10月に、研究技師が来るちゅう話は連絡はあったん。

農林水産部長（神宮 忠彌君） 技師の分については、すみません、私の方はちょっとお聞きをしておりませんので、すみませんが。

議員（１７番 作元 義文君） 何か、対馬に来るとい話ですが、ぜひ、市の方に来てもらって、よう話をしてもらった方がいいんじゃないですか。（発言する者あり）

議長（波田 政和君） 総務部長。

総務部長（中島 均君） 上原先生との連絡につきまして、非常に忙しい方でありまして、事務局長の松本局長としょっちゅう連絡っております。

そして伊万里の浦田先生の来島についてはうちの方には連絡は来ておりません。

議長（波田 政和君） 作元義文君。

議員（１７番 作元 義文君） 確認をしてください。私にはそう言われましたので、１０月になったら対馬に行きたいとい話ですので、確認をして、またお会いをして、よく話を聞いていただきたいと思ひます。

観光事業については、先ほど市長もちょっと話しされました。近畿日本ツールのきのう話を聞きました。岩佐先生ですかね。こういった先生を中心にして、この事業の分析をされたりしていただきたいと思ひますが、もう既に対馬の観光についての分析はされたんでしょうか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） やっぱりすごいですね、民間といのは、もう８月１日から委託職員としてしててんですが、もう全部、すべてのいろんな人に観光関係回っておりますし、いろんなまとめができております。また動きも、住友商事の方も既に林業を中心としたもので動きも始まっております。企業誘致も含めまして、非常にもう大体中は把握をしたようでございます。だから、ぜひ皆さんもいろんな話をされますと、ぴんぴん返ってくると思ひますから、いろんな、こういったことはどうかといことの研究指摘もされながら、ぜひ彼を活用していただければ、観光の今の流れについてもよく知っておりますし、もう名所、旧跡を回る観光が終わってしまいましたし、やっぱりもう一人の自分探しの旅とのウェイトが高くなって、グループ個人といことが、都市観光的な要素を帯びてきましたから。ただ、国内はそういう状況ですが、韓国はまだ団体とい域を脱してないようですけどね。だんだん観光の形態も変わってきておりますし、いろんな面白いアイデアも持っておるようであります。とにかく、向こう３年間でといことで、成果を出すように、企業誘致と観光振興にですね。観光振興といのは一次産業が必ず入りますので、一次産業と観光の融合する町ですから、結局その分での面白い分析も出てきてるようでございます。ぜひ一度、皆さんお会いになってお話をされたらと思ひますのでよろしくお願ひします。

議長（波田 政和君） 作元義文君。

議員（１７番 作元 義文君） ぜひ、そういった雇用された専門の先生を十分活用されて、そしてできれば市の職員を部下につけて、何人かつけて、そして指導していただけたらなあとい

ふうに思います。そういったことを含めながら、対馬の観光がぜひ伸びるように。

我々、私も民宿業ですけども、とにかく観光、対馬の観光は見る場所もそうですけど、大事ですけども、やはり食べ物だと思うんですよ。やはり対馬に来て、本当に新鮮なうまい魚をどれだけ安くで提供できるかということが、私は島観光のかぎを一つは握っているのではないかなあというふうに思っておりますので、我々もやはりそういったふうなところでは、そういう努力もしていきたいと思っております。

海洋温度差発電については、上原サイクルを開発をされた、先ほど部長が申しましたように、対馬出身の上原先生がおられるわけですから、ぜひこの研究プラントの設置を働きかけて、上原先生がまだ元気なうちに、ぜひ対馬に、この温度差発電が誘致をされて動き出すことを切に希望をいたしまして私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

議長（波田 政和君） これで17番議員の質問は終わりました。

議長（波田 政和君） 昼食休憩します。開会は13時から、よろしくをお願いします。

午前11時46分休憩

午後0時59分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

次に、2番、永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） まず一般質問に入ります前に、去る7月、そしてまた17、18日未明にかけて、台風13号で大変な被災を受けてある方もいらっしゃるようでございます。心からお見舞いを申し上げる次第でございます。

それでは、さきに通告をいたしておりました一般質問をさせていただきたいと思いますが、まず1点目につきましてはケーブルテレビの問題、2点目につきましてはグリーンピアの別荘地開発の問題、そして財政問題等について御質問をさせていただきますが、今この島内の中では一番大きな関心事であろうというふうに思っております。いろいろな話が出回っておりますけれども、きょうの一般質問、それから市長の答弁の中で、そこら辺の住民の疑問に対してお答えをしていただく、そういう中で理解が深まればというふうな、そういう立場で一般質問をさせていただきます。

まず1点目のケーブルテレビ施設整備事業の見直しについてお尋ねをいたします。本事業については、平成17年度から「対馬地域イントラネット」整備事業を手始めに、島内に光ケーブル網を張り巡らし、2011年7月24日から開始される地上派デジタル放送への対応、あるいは島内電話の無料化、インターネット、音声告知放送、さらには議会中継など、島内イベントなど

を自主的に放送を行うことで進められておるところでございます。私は、本事業につきまして、加入者の利用料金の問題、あるいは現状対馬市の財政状況等々、果たして住民との合意形成がなされているのか大変疑問を持つ一人でございます。

各地域では、説明会も開催をされ、住民同意は得られたと言われるかもしれませんが、それはただ単にテレビが見れるとか、あるいは議会中継が見られるとか、そして個人負担はありません。財源はすべて市が負担しますと言えば、それではぜひお願いしたいというのが住民の大方の意向であろうというふうに思っております。市の財政負担、各世帯の利用料の負担、加入率がどうかなどを考えますと、整備はしたが、維持管理に多額の公費負担が必要となるのではないかと、そこら辺を心配をいたしておるところでございます。

現時点での市の維持管理運営の試算では、利用料1,000円で加入率90%、インターネット利用料2,500円、その他有料チャンネル利用料とか、有線加入負担金など、計3億7,000万円余りを収入として見込み、その全額を維持管理運営に充てるとされているようですが、果たして当初見込みのとおり、計画どおりに運営がされるのかどうか。これもまた疑問を持つものであります。

現在、各共聴組合、巖原の有線テレビ組合の利用料はゼロ円から1,000円であります。市の自主放送を希望しなければ、デジタル対応のアンテナ等で相当数の家庭がデジタル放送は見られるというそういうことになります。1,000円の利用料は高過ぎるのではないかと。そしてまた、90%の加入見込みについても少し無理があるのではないかと、そのように思っております。NTTは、2010年度までに、加入者の約3,000万世帯を光ケーブルに切りかえるそうであります。総務省も、昨年の夏、審議会におきましてNTTなど、通信事業者にも光ファイバー網による地上波デジタル放送の配信を認める方針を示したと言われております。技術革新のこの時代に、完成後5年、10年後には無用の長物となるのではないかと。大変もったいない気がいたしております。

そこで、本年度に地域イントラネット事業は完成をするところであります。このイントラネットの光ケーブルも最大限に活用することで、計画の見直しはできないかお尋ねをいたします。

あわせて、私なりの具体的な見直し案について御提案を申し上げたいというふうに思います。その見直し案につきましての第一点、幹線の光ファイバー網に有線テレビ組合、各共聴組合の同軸ケーブルを接続することで大幅なコストダウンを計ることができるのではないかと、そのように考えます。いわゆる光と同軸ケーブルをつなぎ合わせたHFC方式をとったらどうかと考えております。

見直し案の二つ目でございますが、巖原有線テレビ組合、それから各共聴組合は今後も存続させ、それぞれが所有するケーブルについては、これまでどおり各組合で維持管理を行わせること

にしたらどうか。また、利用料についてはこれまでどおり、各地域で自主的に決定をするという
そういう方法はないのか。

それから三点目、ここで問題になりますのが、直営で行われております美津島町の問題でござ
います。この美津島町については、巖原同様の有線テレビ組合か、あるいは各地域の共聴組合な
りを立ち上げさせ維持管理を行わせることとしたらどうか。それから、音声告知放送については、
既に防災無線網が設備をされております。また島内無料電話については、今は携帯電話の時代で
あります。これも大変もったいないような気がいたします。この際、既存の設備を最大限に活用
するシステムに変更するお考えはないのか、まずお尋ねをいたします。

2点目であります。国定公園内の別荘地開発についてであります。去る5月9日に開催をされ
ました全員協議会において、別荘地開発に関する説明がございました。島内の不動産会社に対馬
市所有のグリーンピア対馬地内、約18万9,000平米に、韓国人向け別荘地の開発に係る許
認可手続を行わせる協定書が締結されていることの報告がございました。当地は言うまでもなく、
壱岐・対馬国定公園の区域内にあり、開発は厳しく制限されているものと思っております。自然
景観のすばらしい癒し空間としての浅茅湾、リアス式の自然豊かな漁場として、マグロ、真珠を
初め、魚介類の養殖が盛んに行われ、島民の生活を支えております。これ以上の過疎化を食いと
め、雇用の場を確保するためには開発やむなしとのことではありますが、漁業者や島民感情を考え
たとき、それでも開発の必要性があるのか理解に苦しむところでもあります。むしろ、開発により
漁場が汚染され漁獲量が減少すれば、それこそ雇用の場がなくなることにはなりはしないか、そ
のように思います。

私は、国も県も、そしてまた市も地球温暖化、それためには開発は制限していかなければなら
ない、積極的に自然を守っていかなければならないというふうに考えております。特に、壱岐・
対馬国定公園を代表する浅茅湾は、漁業者にとりまして生活の場でもあります。開発について
はもう少し慎重に願いたいというふうに考えております。

竹島の領有権問題、馬山市における「対馬の日」条例制定の問題など、このような状況を考え
ますと、韓国人向けの別荘地開発については慎重の上に慎重を期していただき、少なくとも島内
の国定公園内の開発をしないことを強く要望するものでございます。

3点目でございます。対馬市の財政状況でございますが、これは先ほど3番議員の御質問に対
して相当詳しい答弁もなされたようでございますので、私はそれ以外の一、二点について御質問
をさせていただきたいと思っております。各地方自治体の財政状況を見る場合に、公債比率とか、ある
いは主に経常収支比率の問題がございまして、平成16年度、この経常収支比率につきまして
95.7、17年度は98.2、比較をいたしまして2.5ポイントほど上昇いたしております。
経常収支比率は財政の弾力を判断する手法としてされておりますことは御承知のとおりでござい

ます。80を超える団体については財政が硬直化していると言われておりますが、このような状況が長く続くということになれば財政の破綻を招きかねない。臨時的に出てくる事務事業にも対応できないというような、そういうことにならうかと思えます。市長として、具体的にどこをどのようにすれば、この経常収支比率が改善をなされるのか、具体的にお答えをいただきたいと思えます。

それから、公債費残高のピークについて、いつごろがピークになるのか、そこら辺も含めてお答えをいただきたいと思えます。

以上、大きく3点について御質問をさせていただきました。答弁の内容によりましては、再度質問をさせていただきたいと思えます。

以上でございます。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 2番、永留議員の質問にお答えをいたします。

先ほど来のお話ですと、本当に状況を余り熟知してない一般論としては全くそうだと思います。そのように必要ないじゃないかということにならうかと思えます。しかし、これまでの議会における一般質問の中でお答えをしておりますように、平成13年に公表されました全国ブロードバンド構想の中で、世界最先端のIT国家の実現に向けて数々の施策が進められているところでありますが、これもよく御承知と思えます。都市部と地方のデジタル・ディバイドによる経済格差はますます拡大をしていくという状況でありまして、この情報格差の是正は、数多くの漁村や農村を抱える対馬市を預かる首長として喫緊の課題であると認識をいたしているところであります。

また、平成14年4月に対馬6町合併協議会が策定しました新市建設計画の主要施策の中でも、また対馬市議会からも御承認いただきまして、第一次対馬市総合計画の中でも、「地域情報通信ネットワークの構築」が重点施策として盛り込まれております。市民の皆さんが等しく情報を享受し、対馬市の活性化を図る上においても、全島を網羅する多元情報システムの整備は不可欠なインフラ整備だと確信をいたしております。

五島市にしてもしかり、上五島にしてもしかりであります。そういった中で、まず一点目のHFCでしたかね、HFC方式をとることによる事業費の削減ができるのではないかということにお答えいたしますが、その前に、ただ有線放送として再送信をするというだけでは本当に無用の代物だと思います。これは、今までのNKKの共聴テレビ組合、こういったことで事足りるわけですが、それではできない時代になってるわけでございますので、こういったIT国家の実現という国の施策の中で、とにかく双方向各家庭まで引くというところに大きなみそがあるわけでございます。この今永留議員のおっしゃるHFC方式とFTH方式の大きな違いというのは、

大まかな言い方をしますと、集落内の分岐線と引込み線、家までのですね。これが同軸ケーブル、つまりメタルケーブルであるか、あるいは光ケーブルであるかの違いだと思います。双方とも幹線部については光ケーブルを使用するシステムであります。少し前までは、非常に光ファイバーというのは、光ケーブルも高かったわけですが、近年の日進月歩の技術革新によりまして大量生産が可能となり、同軸ケーブルと同等の価格まで今値下がりをしている状況下にあります。このため、都市型のCATV施設やNHK辺地共聴施設もFTTH方式への改修を進めております。これが拍車となって、さらにコストダウンが進んでいるという状況下にあるということも、これもよく御承知と思います。

参考までに、日本CATV技術協会の資料によりますと、HFC方式とFTTH方式の建設コストは平成15年3月末の現在に比べまして、3年後には約1.13倍、5年後に至っては、1.09倍までコスト差が小さくなると予測されているところであります。こういったことによりまして、大幅な事業費の削減につながらないと判断をいたしております。それよりも保守コストがFTTH方式で構築することによりまして、2分の1から3分の1に削減をされますし、同軸ケーブルに比べて、腐食しないことから耐用年数も伸びますし、伝送できる情報量が格段と大きくなりますこのFTTH方式を採用することは、将来のサービス対応等を考慮した上でも、また総合的な判断の上からも妥当だと考えております。

次に、既存の有線テレビ組合及び共聴組合のケーブルを利用できないかとの質問でございますが、対馬島内には約70施設のテレビ共聴組合等が存在いたしております。その大半の施設はNHKの補助により設置されたNHK辺地共聴組合と呼ばれるものでありまして、通称アンテナ組合と呼ばれておりますが、また個人アンテナでテレビを見ている家庭も結構多く存在します。

既存のテレビ組合等のケーブルを利用することになれば、施設の更新が必要となります。これはNHK等の共聴施設は1チャンネルから12チャンネルまでのVHF帯域までのもの。VHFがいける、その伝送を目的に構築されておりました、これから始まろうといたします地上波デジタル放送は、VHF帯域よりも高い周波数の、何十チャンネルを見る、あのUHF帯域を使うためであります。仮に一部のテレビ共聴組合が地上派デジタル放送の対応のために改修をしたといたしましても、多元情報システムの魅力でありますIP電話やインターネットサービス、あるいはCS放送等のサービスは受けられないこととなりますし、またいろんな医療関係のアフターケア、あるいはいろんな点でもサービスが不可能となります。あえて、このサービスを受けるためには、ケーブルモデム設備の新たな改修が必要となってまいります。たとえ改修したといたしましても、通信速度が、今度は他の地域よりも劣ることになりまして、情報格差がまたまた発生をすることになりかねないと思います。また、保守面で、流合、あるいは雑音等の問題が生じまして、保守費用が大きく膨らむことも予想されます。

次に利用料の件についてであります。このことはこれまでどおり、各テレビ共聴組合等が存続したときのことであり、そのときは、当然各組合等での運用となりますし、各組合の裁量によるものと考えていけばよいと思います。

仮に、対馬市のCATVに加入された場合は、加入者からの利用料金を原資として運営していく計画でありますので、このようなことは考えられないこととあります。

最後に、音声告知放送についてであります。既に防災無線が布設されておりもったいないということでございますけれども、これはこの音声告知放送は、もちろん防災機能を兼ねることは可能でございますし、各家庭のテレビのスイッチを切って休んでましても、本局のキースイッチを緊急放送なんかを入れるときには、それが自然と流れていきます。そういうIP電話端末及びインターネット端末としての機能もこの音声告知のシステムには有しておりますので、音声放送のみを廃止することはできないと思います。防災無線の放送が十分に行き届かない地域の補完的な利用は可能だと考えております。また、この機能は、専門的に聞きますと約900パターンくらいの高度な機能を持ち合わせていますので、新しい地域コミュニケーションのツールとしての市民の皆さんに愛着されるものと期待をいたしております。

それから、公園区域内の別荘地開発についてでございますが、これはかつて美津島町でやっておりましたグリーンピア計画、あの地域に200所帯、800人、あるいは1,000人の就労の場、出会いの場、交流の場としてのものをつくってる。別荘地もつくる。何も、韓国に限ったわけではありません。今、やろうと申請をしてきてる人は韓国向けにやっているとございませぬ。市が韓国向けだけにやろうということじゃございませぬ。別荘地も必要だということでの計画であります。まず、冒頭その点は申し上げたいと思います。希望が出てそのことについて具体的なものが出ないとだめですよということで、具体的なものを検証するために、いろんな事前協議がならんとそれができないわけですから、事前協議だけでもさせてくれということですから、それにオーケーを出していることは今までお話ししたとおりであります。

去る5月9日開催されました議会全員協議会でも御説明いたしました。改めて説明をいたします。「グリーンピアつしま」計画は、平成4年度に旧美津島町で策定されたものでありまして、対馬空港と竹敷港が隣接しております立地条件を生かしまして、浅茅湾の自然に囲まれた環境の中で交流拠点の施設を核として、居住人口、今先ほど言いました200所帯、800人、1,000人の規模の新しいまちづくり、ニュータウンづくりを行おうとするプロジェクト計画でありました。

それが、運輸省のマリントウンプロジェクト事業でもあいった埋立地ができ、岸壁ができ、橋ができ、港内ができてるということであります。それに移行して、いろんな施設を、これは県営事業でやっております。そういう施設配置計画案の中には、建物、港湾、道路、公園等の公共

施設の整備、また民間の事業主体によりますホテル、住宅、別荘などの計画も含まれておりました。あそこに、国際交流センターということで、かつて前知事の代に120億の県が主体になってやろうということで、対馬だけに120億はそれはだめだよということで、五島、上五島、壱岐、対馬と4つに分割されまして30億ずつの拠点的島のまちづくりという県政の目玉になりまして、それができるようになってたわけですが、基本構想、基本計画、それから実施計画に移って、いざ着工というときに待たがかかりまして、それが今このような状況になってる。その間、2年間活性化協議会なるものができまして、6町でしたけど、やっぱり同じような形が出たわけですが、それが本中無産のごとくそのままになっておるわけでございます。

また、この別荘地計画につきましては、御指摘のとおり、「有限会社つしま」から開発に向けての意思表示がっております。合併前後から頻繁に開発のための協議に来庁されておられます。また、県と開発協議に向けての事前相談をされる中、開発予定地が市の所有地であり、対馬市から開発に当たっての同意書、承諾書的なものがないと、事前協議、申請が難しいとのことで、それがなければ具体的な計画が出ないということで、ぜひ同意書を出してほしいとの申し出がありました。このことを受けまして、庁舎内で、1年足らずだったと思います新市になりまして、十分に検討を重ねたようでございます。その中で、「有限会社つしま」から提出されている資料は概略的な事業計画、あるいは図面のみであるため、もう少し具体的な計画書、それに資金計画書なるものの提出がないと、市の方針、考え方に合致した開発計画であるか判断できないとの意見もありましたが、協議を重ねていく中で、最終的には同意書的なものを発行して目的に向けての具体的な事前協議へ計画を策定させることが先決であろうということになりまして、そのことにより開発申請が可能か不可能か、また関係機関、団体の同意が得られるのか、さらに最重要視したのは、市の方針、考え方に合致した開発計画であるかを見極めることが必要であるとの結論に達したわけであります。

壱岐・対馬国定公園内における別荘地開発についての御質問の趣旨は十分に理解はいたしますが、離島という厳しい条件下の対馬において、島の振興・活性化を図るためには、定住人口・交流人口の増大は喫緊の課題でありますことはもう私が言うまでもありません。交流人口増大のための施策として、島の豊かな自然を有効に活用しなければならないと考えております。

開発に際しましては、関係機関・団体の同意を得ることは言うまでもないことではありますが、御指摘のようにすばらしい対馬の自然環境を生かし、さらに周辺景観と融合するような施設整備でなければならないと考えておりますので、今の自然の形状に面した、体を壊さない別荘地計画でございます。これはあくまでも交流人口・定住人口の増を図りたいということの施策の一つであります。御理解を賜りたいと思います。

それから、3番目の対馬市の財政状況についてでございますが、先ほども話をいたしましたと

おり、夕張市が財政再建団体の移行を表明したことによりまして、それらの記事の中で対馬市の地方債のことが出てまいりまして、不安を持たれた市民の方も多数いらっしゃると思います。各小学校区とともに今説明会をずっと回っておりますが、そこで必ず出るのがこの夕張の次は対馬じゃということをごさしまして、皆さんが心配されていることも永留議員の指摘のとおりであります。そういうことには絶対なりませんし、冒頭、その点は御安心くださいと申し上げたいと思います。

公債費につきましては、小宮議員さんの質問の中でも少し答弁したとおりでありまして、非常に厳しい財政状況ではありますが、財政再建団体にならないために行財政改革大綱、あるいは実施計画、あるいは中期財政計画を策定いたしまして、今行財政改革を進めているところであります。対馬市の財政状況につきましては、合併前の建設事業による公債費や施設の維持費等の増によりまして、毎年基金を取り崩しながら予算を編成しているところであります。このことも先ほど申しましたように、基金につきましても、合併当初、財政調整基金、減債基金、振興基金の3基金で約46億あったわけではありますが、16年度に6億6,000万、17年度に10億3,000万円と2年間で約17億円減少いたしまして、18年度当初予算でも15億円取り崩して予算編成をしてきたところであります。これは、詳しく先ほど申し上げたとおりでございますが、特に歳入予算の43%を占める地方交付税につきましては、三位一体の改革により、今後は減少していくものとして考えなければなりません。

また、普通交付税の額は、合併特例で合併後10年間は旧町単位での算定する合併算定がえにより交付をされることになっておりまして、平成18年度の普通交付税は約141億7,000万円でしたが、この特例がなくなり、本来の一本算定になりますと、この額より約29億円少なくなると、このように考えなければならぬと思います。この時点のことも考えながら、長期的な財政計画を進めていかなければなりません。平成17年度に策定した対馬市中期財政計画に沿って1年でも早く基金を取り崩さなくても予算が組めるような、プライマリーバランスといひましようか、そういう状況にもっていきたいと思っております。長期的には、財政再建プロジェクトを立ち上げまして、安定した財政運営ができるための計画、協議を精密に重ねて今いるところであります。今が一番厳しいときだと思っておりますが、対馬市再生のために、何とかおる限り全力投球したいと思っております。

公債比率の話もされましたが、また詳しいことは自席の方でよろしいですか。

議長（波田 政和君） 永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） 再質問をさせていただきます。まず、この財政状況の問題でございますが、具体的にこういう経常収支比率、80%上限とそういう言い方されておるわけでございますが、今98.幾らですかね。これをその水準まで下げるといふ、その方策ですね。やはり、

合併をした。例えば極端に言いますと、合併によって一人で済むところが7人もおるといようなそういう合併でございますので、やはりこういった数値を下げるためには、やはり人件費をいかに切り込むかということだろうと思っております。

市長は午前中の答弁の中で、平成22年度までに660名体制というような、そういうお話がございましたが、私は合併の効果を出すためには、その平成22年というのは生ぬるい気がいたします。ならば、人件費を10%カットするとか、あるいは20%カットするとか、そういうことはいろいろあるかと思っておりますが、これは職員労働組合という相手があることですから大変難しい問題だろうと思えます。そういう中で、やはり一日も早く合併効果を出していくということになりますと、私は職員の勧奨退職、希望退職を募るとい、そういう方法しかなるうかと思っております。

そこで、この問題についても一定の方向をこう御提案を申し上げたいと思っておりますが、やはりこの際、退職手当を幾ら上積みをしていくかというそういう解決方法しかないような気がいたしております。それは、確かにこの地域の状況からいきますと、公務員の賃金は高い、まして退職金を2,000万も3,000万もあるのかという、そういう批判はありますが、しかし、これは公務員制度としていかんともしがたい状況がございます。そこら辺を十分住民にも理解をしていただいた上で思い切ったそういう施策はとれないものか。そこら辺はいかがでございましょうか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 永留議員の御指摘は全く当を得たものと思っております。ただ拙速にできるかできないかが、あなたも御指摘のように組合等の問題もあります。ただ、計画を着実に、今言われたように、今経常収支比率が98.2だったですかね、上がっております。100%を超えてる、100何%のともあります。非常に地方が全部そのような大体95%以上のところでありまして。したがって、今地方受難の時代ということで、今、実はきょうも、きょうまでの締め切りでしたので、文芸春秋のこの論点百選ということで、100人のいろんなものが出てくるんですが、それに出せということで、きのう夜遅くまでかかって書き上げましたが、ちょっともうろうとしているんですが、いずれにいたしましても大変な状況にあることは事実です。

だから660名にするということは、御承知のように16年が824名おりましたよね。それで臨時の職員が164名おりました。それが今100名を超えておりますが、やめた人がね。ことしも定年では何名 29名の退職ですが、今御指摘のように勧奨ということになりますと、今度財源がまた勧奨する財源がないんですね。これは退職手当組合との8市70町1村、当時、その中で長崎が抜けて、また今度入ってきております。そういう退職手当組合の方で今試算をさせておりまして、2%か、3%か、月額どうだと、そういったことになりますと、今度どうして

も、当時、退職手当組合が県下に120億から130億基金を持っていたんですが、今はもう70億前後になっております。そうしますと、今度はその対応というのは団塊の世代、来年から大量な、大量というわけじゃないですが、結構、退職、定年退職が出ます。そういう中で勸奨を助長するためには、退職手当組合の方での今勸奨に値するようなものでの今対策をしてるんですが、非常に難しい点があります。市の市町村の負担がまた上げていかざるを得ないこととなります。こういったことも含めておりますが、いずれにしても、22年までには今御指摘の勸奨も含め、できる範囲の中での財源的な範囲の中での数値目標、平成22年までに660名にするということにしてるんですから、言ったことはちゃんとせにゃいかんと思っております。最終的には450名ということで、今御指摘のように大変公務員の給与は高い。民間に比べましてですね。しかし、これは公務員法の法的なものでいかんともしがたいわけですが、今の時点では、

だから、今国も地方も公務員法の改正、いろんなものが検討されておりますが、大体定年間際になりますと800数十万の年収になりますから、あと共済から何から入れますと、大体1人当たり1,100万と見にゃいけませんので、200名の減員ができましたら、御指摘のように約22億、定年までおったとき22億、そうじゃない場合でも20億前後の、これは財政のプラスが出てくるわけでありまして。それで、少なくとも運用ができるようにということで、今支所、あるいは本町の機構の見直しをしているわけでございますので、永留議員の杞憂するところは十分わかります。後は、やはりこれを皆さんがどう認識するかで、今いろいろな話の中でも若い人を含めて大体半分ぐらいの人は、やっぱり我々も痛みの中に入っていかにゃいかんという声が上がってることも事実であります。そういった中で、この点につきましては、ただ人件費云々だけじゃなしにもっとほかにも御指摘のような形で、あるいは特例債にいたしましても、適債事業でできるものとできないものがあります。先ほど言いました連体とか、地域の振興、そういったことの中でいろんないい点悪い点が出てきますが、これも10年間ですから、これをそのまましておきますと、御指摘のように全く何もならないこととなります。230億の特例債を有効に使っていく。

そのためにも、先ほどの有線テレビの点もあるわけですが、これもいろんな話が出ておりまして、びっくりするような作文が書かれたり、シナリオができておりまして、びっくりするような話を聞いておるだけですが、本当に、まあまあまああということですが、いずれにしても、これは皆さんと英知を結集してやっていかんかんとございまして、今の永留議員の財政再建の指摘につきましては、具体的にはまた時間があればいいですが時間がないですからもうこれぐらいで、具体的にはまた書類でも数字でも出しますのでどうぞまたおっしゃってください。一応そういったことで。

議長（波田 政和君） 永留邦次君。

議員（２番 永留 邦次君） これ要望でございますが、この財政の問題について、どうして私があえてこの勧奨退職というようなそういう問題を持ち出したかというのが、今合併から全然新規採用消防署を除いてされてないですね。これが、やはり５年も６年も続いていくということになりますと、職員構成というのはいびつな形になってくると思うんですね。ですから、やはりそこら辺を正常な姿に戻すためには、やはり勇断を持って退職勧奨、こういったもので一日も早く合併効果を出していただくというそういうことで検討していただくようお願いをいたします。

ケーブルテレビの問題でございますが、ちょっとこの利用料の問題についてお尋ねをいたします。いわゆる基本チャンネルと申しますか、この今の有線の中でNCC、KTN、NBC、NHK第一、第二、そこら辺の放映がなされております。それにプラスほとんどの地域でBS1、BS2というのがございます。いろいろこの市の計画でいきますと、BS1、BS2というのはCS放送というのはそういった形で、新たな料金体系がこう設定をされておるようでございますが、しかし、この対馬地域においては、その基本チャンネルプラスBS1、BS2というのは、今のこのゼロ円から1,000円の利用料の現在の範囲内で自由に見られる状況があるんですね。そのことを考えますと、市がこの再送信をする場合に、せめてBS1、BS2は基本チャンネル、いわゆる仮定かもしれませんが、1,000円の利用料の中で見られるようにしていただくというそういうことについてはいかがでございましょうか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 詳しいことはまた松原部長の方から話させますが、基本的にNHKが聴取するものでございますので、これはもういかんともしがたい。今でも同じようなことだと思えますがね。これはちょっといかんともしがたいと思います。（「ちょっとそういう意味じゃないんですね」と呼ぶ者あり）意味が違う。どんなんだったかな。

議員（２番 永留 邦次君） 要するに、今の利用料の中で、BS1、BS2まで見れてるんです。ところが市の計画は、BS1、BS2というのは、いわゆる利用料放送というような形になっているんですね。それを押し込めないかということなんです。

市長（松村 良幸君） ああ、はいはい。その具体的なことは松原の方からさせますので。

議長（波田 政和君） 政策部長。

政策部長（松原 敬行君） お答えいたします。

今の対馬市の計画でいきますと、議員がおっしゃいますBS放送については1,000円の料金内で見られるという予定をしております。ただ、CS放送につきましては、その1,000円にプラスCS放送料金が出てくるということになると思います。

議長（波田 政和君） 永留邦次君。

議員（２番 永留 邦次君） ある地域をちょっと視察をさせていただきました。その料金体系

が、いわゆる基本、それからそのCSというふうな形で分かれております。しかし、そのCS放送につきましても、非常に料金体系そのものが額が低く設定されておるようでございます。

そこで、この問題は別にいたしまして、問題は、要するにこのケーブルテレビの加入見込み、これを90%とこう設定をされて、いろいろ運営かれこれ経費を捻出されておるようでございますが、果たしてこの90%の目標が達成されるのかどうかなんです。私が一番疑問に思いますことが、平成8年中には上里とか、ああいうNHK、あるいは民法の再送信施設が改修をされるようでございます。そうしますと、巖原に限っていいますと、巖原市街地はほとんどその中継基地からの電波を直接受けて見れるというそういうことになるんですね。ですから、一日も早くそのデジタル放送を見たいという方は自前でUHFアンテナ、デジタル対応のUHFアンテナをつけて見る人が出てくると思うんですね。そういうふうな状況になったとき、いやあ自主放送も見らんでいいばい、使用料も1,000円払う必要ないばいという方必ず出てくると思います。そういう状況を考えますとき、果たして90%の加入率というのはどんなもんかなあというふうに思っておるんですが、そこら辺はいかかでございますでしょうか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 美津島の例でも見られますように、90%は十分にいけると思っております。

それから、CSなんかの場合は、これはもうプラスアルファですから、もう映画チャンネルから音楽チャンネルからいろんなものがあるわけですが、ただ、テレビの再送信というだけを考えますと、今永留議員の言ったとおりでございますが、ただこれはやっぱりeジャパン、あるいはそういった情報社会、あるいはデジタル・ディバイド、こういった中で情報格差のないように、逆に情報をこれによって、例えば地域医療、ひとり暮らし、退院後のケアの問題、あるいは教育の交換事業の問題、いっぱい使えるのが双方向でございますので、再送信だけだったら、そんな必要ないと思っております。それは、もう永留議員の御指摘のとおり。ただ、テレビが映りが悪いので映りのいいようにしよう、もっと画質の高いデジタルのテレビの電波をとらえようとか、そういったことだけだったら別にね、これはする必要ないと思います。

しかし、これからの将来にわたっての、近い将来にわたってのいろんな情報社会の中では100メガビットといいますが、これぐらいの容量のある中でないといろんなことが、余情管理もできますし、リアルタイムでいろんな視聴もできますし、いろんな使い方によっての、これがなかったらどうにもならんということで、皆ケーブルテレビを、皆さんが多元情報システムとしてとらえてるわけでございまして、御指摘のように再送信だけだったら無用の代物になると思います。

そういったことで、この前も、時間がありませんので話しませんが、当初説明をいたしたとお

りでございますので御理解を賜りたいと思います。その分は十分、疑念の点はしますが、ただ23年からですか、そういったデジタル化になっていきますと、いろんな問題も出てきます。その対応もこれできると思いますし、IP電話でも大体1億5,000万くらい使っているようですから、固定電話がですね。10年間で15億、これに対応できるのかなと、こんなことも考えたり、また先ほどの特例債がこれ以上適債事業じゃなくてどうだということになりますと、基金だけになりますと、その利息から、小宮議員からの質問もありましたが、これも大変なことになりますし、いろんな形で、いろんな点から今大所高所から、前後左右から検討しておるようにありますので、御意見も参考にしながら、これから誤りなきような情報化の多元情報システムの構築に努めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

議長（波田 政和君） 永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） 市長答弁のとおり、そういう情報化の時代には、どうしてもやっぱりこの程度の設備は必要だというような、そのことは重々承知をいたしております。ただ、この地域的な状況を考えますとき、例えば商売の方はインターネット、これはもう大切なあれですから必要なんでしょうけれども、それ以外の方については、趣味の範囲が非常にそういう方が多いんですね。趣味の範囲だと思う。そうすると、そういった方については、やはり今の何ですか、電話の回線をつかったそういうインターネット、速度は遅いけれどもまあ趣味の範囲だからいいたいというようなそういう状況で辛抱ができると思います。

何よりも、私はこの主の事業については、やはりNTT、あるいは通信事業者、そこら辺の分野だろうと思うんですね。そこにこう市が乗り出していく。裕福なときはいいですよ。しかし、こういうふうにはやはり厳しい財政状況の場合に、果たして時期的にどうなのかなというようなそういう懸念はいたしておりますが、これは答弁は結構でございます。

次に、別荘地開発の問題でございますが、ぜひともさせてくれというような何回もそういう相談が不動産会社から来られたという、そういうお話をされましたけれども、全くこれは公共用地でございますし、市の土地でございますので、私はいわゆる3番議員の言葉を借りて言いますと、人のふんどしで相撲を取るというようなそういうことも言いたいんですが、それは別といたしまして、今現在の進捗状況、その開発協会の手続ですね。そこら辺はどんなもんなんですか。今現在。（「担当部長に答弁させます」と呼ぶ者あり）

議長（波田 政和君） 政策部長。

政策部長（松原 敬行君） この問題につきましては、全協の中でもちょっと御説明申し上げましたけれども、それ以降の動きは何らあっておりません。県の方に問い合わせしてみるんですけども、事前協議が出ただけで、その後追加的な資料も出てないので、何ら判断ができないというような状況でございます。

議長（波田 政和君） 永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） まだそういう状況だということですが、ただこういう中で、ちょっともう二、三カ月前の話になりますが、テレビタックルですね。この番組の中で、この不動産会社の社長さんがインタビューで答えられましたことは、既に韓国から8区画契約ができておりますと。そして、150件の予約の申し出もいただいておりますという、そういう公共の電波を使ったもうそういう発言でございました。これは私も、島外からも本当にそこまでやっとなのかと、対馬はそこまでやるのかというそういう問い合わせもいただいたわけですが、今何ら進んでないという状況の中で、これがもし事実であれば、それこそ宅建法の問題が出てくるような気がいたしておりますが、そこら辺はどんなもんなんでしょうか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 事実じゃないんですから、そういったことはないと思います。やっぱり、事前協議をする中で、計画を私どもが把握しないと、ただそこに手を挙げて私がやろうと行って、それ韓国向けにされてる。別に韓国に限ったわけじゃないんですから。これは、あそこに先ほど冒頭申しましたように、200所帯、800人、1,000人の新しい出会いの町をつくらう。そこは就労の場であり、交流の場であるという形の中での計画でしたから、別に手を挙げられても、私ども審査をする。審査するには具体的なものがない。事前協議がないと、御指摘のように、公園区域だからうまくいかない。事前協議どうするか、こうする。そのためには、こっちが市の所有地ですから、同意書をせにゃいかん。その計画つくるために同意しましょうということですから、それができて、計画ができて、上がって初めて資金繰り計画、あるいはどんな事業計画かも含めてそれから判断をします。

御指摘のように、漁協を初め、近隣、その他の同意も要りますから、これはちょうど、あそのグリーンピアの中のマリントウンプロジェクト事業をやったときも同じでして、これ県営事業で、運輸省の事業であって、あそこにまでなってるんですが、同じようなことがあります、大変いろんなことがあります、非常に厳しい状況じゃないかと思ってます。まだ、判断するところまでいっておりません。これが事実です。

議長（波田 政和君） 時間ですから、最後に簡単によろしくお願いします。

議員（2番 永留 邦次君） 今市長答弁で、いや決して韓国人向けだけじゃないよと、そういうような答弁ですけれども、この不動産会社の社長のテレビでの発言、それからまた市長のテレビでの発言、そういうものが韓国向けと、限定というのはそういう形で世間では受けとめられるんですね。それは、もう十分わかりだろうと思えますけれども、そういうことで韓国人向けかということで伝わっております。

そこでもう一点、市長は、やはり日本政府からも対馬は忘れられておるといふそういう発言が

ございました。そしてこの今年間4万人、そういう中で250億から300億の経済効果があると。これはもうどういう計算をされてそうおっしゃったかわかりませんが、そういうテレビでの発言でございました。ですから、これは改めて、公式の場で、やはり釈明を、テレビなり新聞でされる必要があるんじゃないかなと思っております。これは私の要望だけでございますが。

そこでもう一点、もう時間ありませんが、大事な問題ですから。通告はいたしておりませんでした。ただ、先ほど福岡市の職員による幼い3人の命が飲酒運転で落とされました。これを契機に、全国ほとんど自治体で飲酒運転、あるいは酒気帯び運転、そこら辺の問題が取りざたされておりますし、それで厳しいそういう処分基準が示されておるようでございます。対馬市として、どういう基準でやられるのか、一言最後をお願いを申し上げます。

議長（波田 政和君） 市長、最後に一言。

市長（松村 良幸君） 御懸念のとおりであります。まず前段のことは、心ないマスコミによっていろんな話が出ております。ホームページ等でもこれ話をいたしております。それから、250億、300億というのは、仮にここに100万の交流人口が韓国人であれ日本人であれ、どこの あれですね、仮に100万の人口が来れば、1人3万円を落としていきますと300億、2万5,000円ですと250億と。こういう話でしたから、その点はそういったことで。

それから今の飲酒運転等につきましては、これはもう対馬市の場合は、議会の皆さんからも御指摘がありましたように、飲酒運転でということになりますと、即刻解雇ということにしておりますので。この前一時そういったことがありまして、非常に微妙なところもありましたが、逮捕とか、刑事罰、そういったことになりますと、飲酒運転も、飲酒運転しただけでも、酒気帯びもだめやったね。酒気帯びもということで、早くから私どものところはそういたしておりますので、今後私ども十分留意をしていきたいと思っております。

議員（2番 永留 邦次君） はい、ありがとうございます。以上で終わります。

議長（波田 政和君） これで2番議員の質問を終わります。

.....
議長（波田 政和君） 暫時休憩します。開会は14時でよろしいですか。14時5分から、よろしく申し上げます。

午後1時53分休憩

.....
午後2時06分再開

議長（波田 政和君） 時間になりましたけど、1人まだですが再開します。

次に、7番、初村久藏君。

議員（7番 初村 久藏君） どうも皆様こんにちは。昼からの一番眠たい時期でございますけど、目をちゃんと開けてお聞きをお願いしたいと思います。

通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

質問は大きく3点に絞って、市政運営の問題と思われることと、19年度予算編成に生かされることを市長に所信のほどをお伺いいたします。せっかくの機会でございますので、通告外でございますけど、全般的に次のことを申し上げて質問事項に入りたいと思います。

9月に入りまして、9月6日、宮家秋篠宮の宮様には、長男悠仁様が御誕生され、天皇家にとっては41年ぶりの男子の誕生ということで、国内はもとより内外での慶事として今喜び一色でございます。改めておめでとうございます。また、5年数箇月続いた小泉内閣の9月の20日に自民党総裁、本日でございますけど、新規の結果が判明すると思います。次期内閣が誕生しようとしていることとも見逃すことはできない。日本の大きな動きであります。

これまでの公務員の飲酒運転事故に端を発し、飲酒運転の撲滅を目指した全国的取締り強化と、我が身にも降りかかるような最近の青少年による無差別の暴行殺人事件が多発している昨今であります。新聞等の情報によりますと、全国の市町村においては、公務員の違反運転に対してはより厳しい行政処分を科するとコメントをされておりますが、通告外ではありますが、社会問題として市長の所信をお伺いをして、通告に従って質問をさせていただきます。

まず1点目の企業誘致と雇用対策について、対馬市の合併後、早いもので2年半を経過をいたしました。合併時の対馬の人口は4万928名、平成18年の7月時点では3万8,984名と約1,944名の大幅な減少となっております。人口比率といたしましても、65歳以上の方が1万353名と、年金生活者が多くおられます。個人的にも、老人医療費、健康保険税の引き上げにより、市民の負担は大きくなっております。合併前の旧町時代は、公共事業の恩恵を受け、建設業関係の雇用に大きく貢献をしておりましたが、近年の国県の行財政改革により、公共事業の削減とあわせ、特に漁業の不振、魚価安、輪をかけたように近年の原油の高騰等々で、産業不振が続く、対馬市の経済は冷え切っていると申し上げても過言ではないと思います。このような現象では、島にいても仕事がない。いい仕事を求め、島外に人が流出するのは当然のことです。このような現状に歯どめをかけるためにも、雇用の場の確保においてももっともっと努力されるべきと思われるべきと思われたいと思います。

合併以来、企業誘致には大変努力されているとは思いますが、現在のところ、目に見えた企業の進出も聞きません。対馬市としても18年7月付で部課の再編で、観光商工部が新たにでき、企業誘致班も進出をされ、職員は企業誘致には日夜努力されているとは思われますが、対馬市の地理的条件等ハンデもあることは十分わかりますが、対馬ならではのよい条件もあるかと考えます。仕事場がふえれば雇用対策にもなるし、人口の流出にも歯どめがかかると思いたします。

企業誘致と雇用対策について現在までの進捗状況と今後の取り組み、見通しについて市長のお考えをお伺いいたします。

2点目の産業の振興についてお伺いをいたします。全国的にも食の安全・安心という言葉をよくお聞きいたします。また、地産地消というお話もよくお聞きをいたします。このことは、松村市長就任に当たって、福岡を中心に直販施設をつくりたいということであったと思います。我が対馬市は、自然に囲まれた山々と美しい海に囲まれた豊かな島であります。季節ごとにとれる海の幸、山の幸等すぐれた産物が豊富にあります。この多くのすぐれたものを私を初め対馬市民の皆様も忘れがちであります。いま一度市民に呼びかけ、対馬の産物の普及、地産地消に努める時期にあると思われまふ。地産地消に取り組みれば、農業・漁業の振興につながることは言うまでもありません。

私も長崎市に行く機会が時々ありますが、長崎県庁のロビーには長崎県産の産品がいろいろと陳列をされております。これらの品は長崎の依ものか、ブランドかわかりませんが、対馬の産物としてはひとしお生うにが一品だけ私には目につく状況でございました。100種類以上も陳列をされているうちに、お隣の壱岐市の産品は焼酎ほか、10品以上、また五島産品としても、うどん、からすみほか10点ぐらい陳列をされてあります。私は、何か寂しい残念な気持ちになりました。対馬にも壱岐、五島にもまさる特産品は多くあると思ひます。対馬市民の売り込む力、情熱に欠けているのか、行政としての関係機関への指導が不足しているのか定かではありませんが、対馬にもすぐれた有名な品物、例を挙げれば、対馬真珠、対馬シイタケ、清酒でいえば白嶽、かすまき、また海産物では豊富にとれる魚介類、今特に売り出しに取り組みされている対馬のマグロ、トロの華、等々数多く見受けられます。対馬の自然を生かした対馬ブランドとして品質の向上に確立に向けて関係機関になお一層指導され、経済団体との連携を強化されるのが最重要課題と思われまふ。

また新たな視点で考えまふと、観光商工部も設置されて、この後観光事業にも取り組みまふと思ひますが、お隣の韓国からの旅行者が毎年増加をし、昨年は4万人とか、なお今年度は増加傾向にあるとよく耳にいたします。しかし、よく人の話を聞きますと、韓国の人はマナーが悪い、また最近では、漁民、島民とのトラブル等最近多くあるやにお聞きをいたします。韓国からの旅行者も大事ではございますが、日本の法律もあります。対馬の自然を大切に守っていただき、対馬の山、海を大事に後世に残すためにも、行政としても韓国からの旅行者の指導方法等強化をされたいと思ひます。

また、観光の島の産業として育てるためには、日本本土からの観光客誘致にも力を入れるときだと思ひいたします。あわせて、市長は常に一次産業の振興策を強調されてあります。当初考へておられた福岡を中心とした対馬物産販売構想、これからの産業振興についてのお伺いをいたし

ます。

3点目の集落ゲートボール場にトイレの設置についてでございますが、対馬市には市営のゲートボールが数箇所あり、そのうち、屋根つきの立派なゲートボール場もございます。また、地域の隅々に行きますと、集落単独でつくったゲートボール場も各集落前に数多くあると考えております。一度つくった施設に、ゲートボールに対しては半永久的に使用ができますが、建造物、道具倉庫とか、トイレ等は台風被害や老朽化が進み、数十年を経過し、トイレの設置のない箇所もあるやに聞いております。対馬全島を調査され、トイレ等必要最小限の施設の設置が、支援は地域の高齢者に対する支援事業の一環としてあると思われませんが市長のお考えをお伺いいたします。

以上、大まかに3点の質問で重複した部分、また意味が理解しにくい点もあったかとは思いますが、市長の御答弁をお願いをいたします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 初村議員の質問にお答えをいたします。

まず企業誘致と雇用対策についてであります。その前に天皇家の慶事に対しましては全く同感であります。その延長線上に、安徳天皇の御陵がちょっと浮かび上がりましたけども、そういう意味合いもあったのかなと思って聞いておりました。

企業誘致と雇用対策についてであります。対馬市発足以来、議会等からの御指摘もあった企業振興につきましましては、本年5月に商工課を新設いたしまして、商工流通班と企業誘致班を設置をいたしております。対馬市の企業誘致は、対馬の自然形態を著しく変えることなく、対馬の自然と調和のとれた分野ということで、第一次産業関連、それから2つにホテル産業関連、3つに医療福祉産業関連、4つに情報通信関連を重点対象分野として効果的な企業誘致活動を展開したいと考えております。ここ、そうですね、少し落ちつき出しましてから、今急ピッチで進めておるところであります。具体的には、17年度から引き続きコンポスト工場設置について、また（株）オーツーコーポレーションとはミスト農法によるベビーリーフ栽培を、ケアサービス事業には、事業計画の提出のあったそれぞれの企業と協議継続中でありまして、18年度に入ってから、新たに4企業からお話をいただき、そのうちの3社とは現在継続協議中でありまして。

なお、ケアハウス事業につきましましては、7月に公募を行った結果、同じ事業に新たに2法人が名乗りを上げられました。事業計画の提出を受けまして、内容を精査の結果、企業誘致に該当すると判断をし、2法人ともに立地協定を結んだところであります。このことにつきましては、この経過については、担当企業誘致の部長、それから保健部長から話をさせます。

暫定期日8月18日までに3件の協議書の提出を受け、県担当課に送付をいたしております。このことも含めまして、これら担当、それぞれの課長にさせたいと思います。

今後のスケジュールとしてのこのことにつきましても、担当部長からさせたいと思います。担

当課長ではございません。担当部長からですね。また、あるいは関連の部長の方からいたします。それから、シイタケ栽培や対馬の地鶏飼育事業に異業種による第一次産業への参入の話がありまして、対馬市としましても新たな形の企業と考え、大きな雇用の場となるよう支援をしていきたいと思っております。

それから、対馬市を取り巻く雇用環境も、濟いませぬ、御承知と思いますが、日増しに厳しさを増しております。御指摘のとおりであります。65歳以上が1万3,000人、ということは約4分の1というのが3分の1、対馬は先行いたしております。高齢化が進んでおります。そういった中で有効求人倍率が5月の0.16からわずかに上昇はしているものの、まだ1を大きく下回った0.20であります。地域経済の活性化や若者の島内定住、新たな雇用の創出などを促進するための企業誘致は極めて重要であると考えております。新たに10月より観光商工部に民間より企業誘致・観光振興担当として職員を採用予定です。先ほど条例が可決されましたということをお願いしましたが、私はちょっと勘違いでございまして、この点は、この場を借りまして、初村さんの質疑を借りまして訂正をさせていただきたいと思っております。委員会に付託中ですが、何とぞよろしくをお願いをしたいと思います。

民間企業でやっぱり培った豊富な知識と他業種からなる広く深い人脈をフルに活用していただきまして、研ぎ澄まされた民間の感性、そういったものを、行政マンでは気づき得ない観点から問題点を探り出してもらおうと。そして新たな企業誘致戦略を構築していただきたいということで、対馬の雇用創出となるよう具体的に実を上げるべく、3カ年の間の枠をはめております。よろしくをお願いしたいと思います。企業誘致は、いろんな不協和音を持った企業誘致はできません。もう既に、このケアハウスにつきましても、やめようかというようなこともあっておりますが、いやいや、それはこっちがお願いしたことですからと、こう言っておりますが、大変微妙な企業誘致等ことは難しいことでございます。

それから産業の振興についてです。対馬の農業を取り巻く状況というのは、もう先ほど言われたとおりでして、高齢化、担い手不足の減少で耕作放棄地の増加、それから流通の国際化の進展によります農産物の価格低迷で厳しい環境となっておりますが、しかし、一次産業は一次産業としてとらえていくと非常におもしろいものが出てきます。だから、今まさに食の安心・安全ということで、対馬でできない競争力のない農業を競争力のある農業にということで、今果敢に挑戦が始まっております。

このような中で、地産地消の高まり、そういったものはへたまくと自給自足ということになります。これはあくまでも流通が伴って初めて地産地消になるんですが、島内だけの自給自足ということになりますと、本当にこれは寂しいものになりますので、そういったことも地産地消の先には流通の大いなる展開があるという前提でこれやっていかないとと思っております。

それからいろいろありますが、これ言いよったらどうしようもないですね。ブランド化の取り組みももちろん御指摘のとおりでございます。俵ものとか、いろいろ長崎もあってるようでございますが。ブランド化の取り組みに少し触れますと、基幹であります水産関係では、既に美津島のトロの華、それから上対馬のアマダイですね。紅王ですか。それからタチの銀太、それから上県の上まさと赤ムツのこの5種類がありまして、さらに上対馬のてっぺんアジや、豊玉のヨコワのしまっ娘なども消費地における有力な「対馬ブランド」として期待をしているところでありますが、いずれにしても消費者から認められなければブランドにならんわけで、こっちがブランド、ブランド言っても、これは全くどうしようもないことございまして。こういった取り組みにあわせて対馬産品の島内外におけるPR事業の実施、あるいは特産品の流通体制の構築を目的といたしまして、本年5月に観光商工部内に商工流通班を新設いたしまして体制の充実を図っております。現在、対馬の産品を食材として知名度を高め、販路を拡大するためのPRと販売活動の展開といたしまして、大阪と東京、両全日空ホテルにおきまして4月と7月のそれぞれ1カ月間、対馬の食材を使った対馬フェアを開催いたしまして、大変な好評を得ております。シイタケのほか、サザエ、アワビやタイ、剣先イカ、イサキなどの食材を使った料理を関東、関西圏の消費者に提供いたしまして、食を通した安心・安全の対馬の売り込みの展開を図ったわけですが、両ホテルとも前年同月を上回る盛況ぶりございまして、対馬の食材の品質に対し大変高い評価をいただいております。今後も農林水産物の販路拡大を効果的に推進するため、対馬産品の普及宣伝、新商品開発及び産地ブランドの確立に取り組みまして、初村議員おっしゃるように総合的な販路推進を図っていきたくと考えております。

それから、ゲートボール場のトイレの設置でございますが、これはほとんどトイレの設置はあるんですけど、初村議員さんとこと、厳原の方がいないんじゃないでしょうか。ほとんどどこともありません。困ったなと思ってるんですが、対馬市営ゲートボール場として条例化している施設で教育委員会所管が1カ所、建設課所管が1カ所、福祉課所管が5カ所の合計7施設があるわけですが、ゲートボール場の設置状況はですね。その他、地区ごとに設置されているゲートボール場は、厳原町で19カ所、美津島が19カ所、豊玉町は22カ所、峰町が5カ所、上県町10カ所、上対馬町9カ所と、市内全域に84カ所もあるようであります。もちろん使用されてない施設もこの中に含まれております。

また、その設置についても、地区で設置したもの、あるいは旧町の補助金で設置したもの、用地につきましても市有地、県有地、個人所有地とさまざまであります。御質問の地域単位でつくったゲートボール場のトイレの設置につきましても、現在まで地域で設置されたもの以外、行政で設置したものはございません。初村議員も御承知のとおり、本市の財政状況はよく御承知の上でのお話だと思っておりますが、いずれにいたしましても、このトイレも含めて来年は何とか、

地域の市民協働班という形での動きも高まってきておりますし、できれば地域の皆さんが地域でこういったことをしたいということを実自主的にやれるようなふれあい事業的な、みんなで作る地域という形での何かできないかということで、原材料費を50万かそこら、あるいは助成をする。そして皆さんが、大工さんは大工さんの技術を生かす。あるいは、そういったゲートボール場のトイレとか、ベンチとか、あるいは花壇とか、あるいはごみのとか、そういったことができる、もっとそれ以上のものもあっていいと思いますよ。そういうものも20カ所ぐらい事業計画を採択されるように、そういう来年度に向けての予算化も今検討してみんねと言っておりますが、そういった中で、今初村議員も言われた、よし、ほんなら、久根地区はトイレをつくらうということになれば、トイレに必要な原材料費を50万ほど出しましょうということになるかと思いますが。それは今ちょっと具体的に事業として計画してみんねと投げかけておりますので、財政とにらみ合いながらどうなっていくか。そういうことで御理解を賜りたいと思います。後は、また自席で。

議長（波田 政和君） 初村久藏君。

議員（7番 初村 久藏君） いろいろ説明を受けまして、わかりますけど、1点目から再質問をさせていただきます。

企業誘致と雇用対策には、島の状況等を勘案をされてやっておられるとは考えますけど、いうごとやはり島の産業はもう冷え込んでしまっていて、島外へ島外へと出て行くような状況で人口減になってると私は感じております。この2年ちょっとの間に約2,000人近くが減るわけですけど、こういうふうな状況が続けば3万人という時代も早いうちにくるんじゃないかと、そういうような懸念をしております。ぜひ今企業誘致に力を入れて頑張ってもらって、雇用対策には万全を期してもらいたいと思います。

それと雇用対策問題でちょっと関連をいたしますけど、合併直後のちょっとゴルフ場の件でちょっと伺いたいと思います。16年度の第2回の中原議員と16年の4回の縫田議員の両人の質問で、対馬市にゴルフ場が設置の考えはないかというような市長にお尋ねでございました。

そのときの市長の答弁では、観光面に対し、韓国からの観光客ですね。韓国は今ゴルフブームだからぜひそれは精査をしてゴルフ場とシティホテルあたりは対馬に必要やと、市長の答弁では対馬は上と下と2カ所ぐらいつくった方が競合があってもいいんじゃないかとというような話でございました。その後、約2年近くになるわけですけど、具体的な取り組みがあったのか、そのところをちょっと説明をお願いいたします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 企業誘致と雇用対策の中での話ですね。企業誘致は先ほど言いましたように、今（株）オーツコーポレーションのベビーリーフと、それから、ケアハウス、これの

2つが進んでいるわけですが、このことについては私の答弁終わり次第、経過を当時の企業誘致担当の当時の部長がいます。それから、当時の経過ですから、阿比留部長が直接、そういった人から具体的に話をいただきます。

企業誘致というのは、こっちかお願いをしますというて企業誘致をするわけですね。皆さんどうですかじゃこんなのは企業誘致じゃありません。あくまでも企業誘致はお願いしますとお願いしているわけですね。トップダウンでなければなりません。下からしても企業誘致はなかなかものにはなりません。そういったことで今回の先ほど訂正を、発言訂正をお願いいたしましたけども、近ツリから来ております。岩佐さん、今猛然とそういったことをやっておりますので、上県の出身ですが、佐須奈だったと思います。だからまた会期中に皆さんの前でお話をさせたいと思っております。ちょっとだけあいさつをですね。

それでゴルフ場の話ですが、ゴルフ場はもう御指摘のように、今日本ではゴルフ場は余っておりますですね。何十億かけたゴルフ場が3億とか、2億とか、5億で国内では売り買いされております。宮原議員あたり一番詳しいと思いますが、福岡でも5カ所ぐらいですかね。もう売られている。韓国の人が買ってるとも、韓国も含めて売り買いをされてる。長崎もわかりです。ただ、対馬の場合はゴルフ場は必要でございまして、日本全体ではゴルフ場は余るような状況で、経営がうまくいってないようです。1つではどうにもならん。2つがよいんですが、行政がつくるわけにはいきませんので、我々はそういったやろうという事業者がありましたらそれを後押しして何とか支援して、これは非常な効果が、雇用の場にもなりますし、大変な雇用効果が、80人から100人、クラブハウス近くまでが入れると、できるんじゃないでしょうか。キャディーからいろんな維持管理から入れますとですね。それは最低50人ぐらいになる場合もあるかもわかりませんが、どうしても会議観光のシーズンオフの場合は、冬場については会議観光、1日対馬で会議をして、翌日エキスパーションとして釣りをやる。ゴルフをやるという。オールシーズンですから、ぜひ観光振興上、交流人口をふやすのは必要だと思っております。しかし、今また話が大きくなってありますが、消えては浮かび、浮かんで消えの連続でして、これ信頼できるかどうか。この前来た人、今度はホテルも一緒に大きく話なものですから、これはどうかなもうちょっと精査しましょうということにしてるんですが、これは大変な話が出てきておりますけど、後お願いをするだけで、いろんなものがあっております。

しかし、企業誘致やるときには、具体的にやり出したらやっぱり議会の方でも何とかお力添えいただきますように、特別振興班が何かその代表の人らでもやっていただいてしていくべきだろうと思います。中で不協和音があつたら絶対来ません。企業誘致は、だから皆さんが理解をして納得をせん限りだめですから、そういったことで今後も今誘致班ができましたので、これは一生懸命やっていこうと思っております。雇用の場をつくることはもう第一でして、ほんとこの前言

いました大体雇用2,000人から2,500人というのが1年間減ってきておりますから、大変だなあと考えております。後説明をいたします。簡単に説明してください。

議長（波田 政和君） 総務部長。

総務部長（中島 均君） 今市長が申しましたように、医療、福祉、産業関連の企業誘致の経過について私の方から御説明いたしたいと思っております。

私も平成17年4月に産業交流部の担当になりまして、企業誘致が大事ということで、本格的に企業誘致を始めました。そのときに、担当も一応企業誘致担当ができて、その中でどうすれば企業誘致が、やはり用地の問題、それから、雇用の数の問題、そういうふうな中を部内で一応いろんな形で検討いたしましたときに、ちょうどグリーンピア内の市有地があるということで私たちも計画をいたしました。その中で富裕層をターゲットにしたリゾート的な意味でのケアハウス、それから、コテージ式の老人関係の計画をうちの方に提案いただきましたのが、いろいろとなっております佐賀の医療法人の如水会でございます。そういうふうな中で今ありますグリーンピアの用地をどういうふうに生かすかということで、非常に具体的な提案がございました。そういうふうな中でケアハウスという項目がございましたので、福祉サイドの方、それから、保健サイドの方、いろんな形の担当部局を交えまして話をする中で、対馬にはケアハウスは難しいと、現在の段階では、そういうふうな話を担当部の方から聞きましたけれども、何とかリゾート的な施設に、市の方も雇用も大幅な雇用ができるということで福祉サイドの担当部局の方と話しまして、長崎県の施設整備計画の中で、平成18年度から24年度の整備計画の中で目標のケアハウス50床の計画がなされまして、それが県議会でとったということでございます。

ですから、スタートした時点につきましては、ケアハウスについては私たちも非常に企業誘致としては難しいということでございました。しかし、この提案された如水会の構想というのが非常にリゾート的な太い構想でございまして、私も担当の方と色々な形で対馬でお話した中で、やはり対馬が好きだ。ですから富裕層をターゲットにして福岡の社長さんでいいですか、そういうふうな方をこちらの方に対馬に呼んで来るという非常に構想が太うございましたので、全体的に何とか企業誘致としてできないかという話をずっと進めてまいったのが今までの経過でございます。

その後、ケアハウス関係につきまして県議会が承認された後の計画につきましては、その当時の担当でありました阿比留部長が、内容については御説明いたしますのでよろしく願います。

議長（波田 政和君） 保健部長。

保健部長（阿比留輝雄君） 今総務部長が話をしましたように、ケアハウスのみでしたら我々はちょっと難しいんじゃないかという考えをいたしております。それが先ほど総務部長が話しをし

ましたように、富裕層をターゲットにしたいいろんな施設をつくるというそういうことがございまして、それではケアハウスの方をどういうふうにしたら建設ができるかといういろんな研究をしたわけですが、残念ながら最近、私の個人的意見ですが、ケアハウスのみで固執しているような感じがするんです。もともとはケアハウスだけでしたら、それだけをつくっていただければ結構なんですけど、それでは運営が成り立たないと、我々としては先ほど総務部長が話をしましたように、富裕層をターゲットとしたたくさんの人を雇用できるとそういう夢というか、そういう計画が出たもんですから、それに対して介護を30人枠を県に何とかかならんでしょうかということで、ケアハウスの中に介護保険を利用できる方を30人枠というのをお願いして保険契約の中に入れていただいたということです。ですから、ケアハウスだけの建設でしたら、介護の方にこの30人枠を入れる必要はなかったというふうに私は今も解釈をいたしております。というのが、介護保険料が第2期では4,200円の介護保険料でしたけれども、第3期、18年から20年までは5,500円と、そういうことで介護保険料も国民健康保険税も税も上がると、そういうことで少しでも上げたくないというのがありましたから、介護保険の30人枠というのも本当は入れなくなかったんです。今回みたいに、明日の話になりますけれども、ケアハウスだけで動くということになると、介護保険の30人枠は私は入れなかったんじゃないかというふうに解釈をいたしております。

以上です。

議長（波田 政和君） 初村久藏君。

議員（7番 初村 久藏君） 説明でいろいろ取り組まれていることは十分わかるわけですが、内容的に私も介護保険関係は余り詳しくありませんので、突っ込んでどうのこうのいうことはちょっとわかりませんが、どちらにしろ企業誘致して島の雇用になれば私はいいと思います。できれば地元でもそういうふうな地元業者があれば同じような条件やったら地元優先というような方法も考えられると思いますけど、それで私はいいと思いますけど。

それから、雇用状況はいうごと、市長が先ほどから言われたように、20%台ですかね。そういうふうなことでございます。ひとつ今後とも頑張ってもらいたいと思います。

そしてちょっとゴルフ場の問題ですけど、仁田に6ホールかね、それがありますけど、18ホームいうたら大変でございますけど、それは何とか9ホールぐらいまでになれば壱岐程度ぐらいになれば観光でもある程度は楽しめるんじゃないかなと思うんですけど、そういうところもいろいろと研究しながら今後雇用対策にもつながりますので、お願いをしてみたいと思います。

それと産業の振興でございますけど、昨年、私先ほど市長が言われた安徳天皇御陵墓の近くに住んでるわけですが、京都からの観光客が来られまして、バスでツアーで来られた。それが安徳天皇のルーツを探るツアーの一行でございました。ちょうど私が家の前におったときに、ちょ

うど道がないもんですけが、歩いて上がるわけですね。車いすの方もおられました。大変だなあと、車が行かずに、大型のバスが行かないもんですから、近くまで、そのような関係でその人たちとちょっと話す機会があったんですけど、対馬は自然がいっぱいで本当に素晴らしいところだと、私はそう言われたとき、対馬はそんなにいいですかちゅうて言うたら、私にはわからない視点からの説明やったと思います。この美しい山々、美しい海、自然がまだいっぱい残っていると、この自然を大事にしてもらいたいというような話でございました。私も感動をいたしまして、そうだなあ、そうかなあというような感じで、対馬はまだ自然に対しての観光は今から十分できるんじゃないかなろうかというような気持ちも持ったわけでございます。

この自然を大事にした観光、対馬島をブランドしたような観光に向けて、先ほど特別な職員を雇用するというところでございますので、ぜひその人に頑張ってもらって、対馬を売り込むようなどういうふうにして売り込めば日本からの観光客が来るか、そこんとこ一つしてもらいたいと思って、それともう時間がありませんけど、私ちょいちょい話を聞くわけですけど、向こうに出た知人等とこちらで食事をしたりなんだりしてるわけですけど、定刺し、定食ですね。こちらで食べれば1,500円から1,800円、これぐらい普通しますよ。福岡で食べても大阪で食べても1,200円から1,500円の間と、もっと新鮮な活魚の新鮮な刺身が食べられると、なんでこの対馬に、四方海のこんな立派な食材もいっぱいある中で、ちっとしければなんか冷凍ものあれとか、マグロを売り出すためには対馬も売り出しておるわけですけど、冷凍マグロを使う必要はないと私は思うわけです。

地産地消というのは私はそこに一つの問題点で、こういうような流通を生かす対馬の魚しかもう料亭とか、食堂とか、出さないというようなそういうような強く言って、できるだけ一週来たらまた来たくなるような食材をもって観光客にもてなし、そういうような等も必要だと思います。そのためには流通、流通が私今のところは、ほとんど対馬の私どもの漁協におった観点で、流通がもう福岡、大阪、東京に流通をもうまとめてしまうわけですね。対馬におろすような魚はもう最低な魚しかおろさんわけですよ。これじゃ鮮度にしたりしてもなかなかいい魚が手に入らんというような状況で、流通をもっとできるような体制を、小市場的とか、マーケットとか、そういうような施設を、いつでもそこに行ったら買えるというような状況、マグロはマグロですぐ手に入るというような対馬のマグロがもう全体的に対馬で食べられてるというようにすれば、私は地産地消で、みんなが潤うのじゃなからうかと思えますけど、その点をひとつ。

ついでにもう時間がないので、言いますけど、それでそのゲートボール場のトイレの問題ですね。確かにもう市長言われるとおりでございますけど、地域でつくって、トイレもつくって、倉庫もつくって、やっぱり集落でつくってるわけですよ。つくったやつがもう現在も台風とか老朽化で使われない点もありますので、私はその大きなトイレどうのこののじゃない。簡易ト

イレがあるでしょうが、それでやったら二、三十万程度でやっています。それがために幾らか補助はできんかというようなことでございますので、そこは検討してもらいたいと思います。

それともう時間がありませんけど、昨年9月から約1年間の長い間100条委員会の調査等で、行政と議会がぎくしゃくとしたような1年間ございました。市民には大変迷惑かけたような状況でございます。昨年9月8日の入札問題に端を発して多くの逮捕者、新聞等にぎわしたような状況でございます。後は司法の手によって裁かれると思いますけど、その後の入札問題にちょっとまたお願いというか、最低制限価格なしの今低入札価格制度、今そこに上げていると思いますけど、私たち市民にはなかなか理解しにくい面も多々あると思います。透明性、公平性あるのか、現在入札制度であれば対馬の発展、地元業者の反映はあるのか、大変苦慮しているような状況でございます。

ある建設会社の話では、今の状況やったら法人という個人でやった方がいいと、法人税払うより個人でしたほうが良いというような話も聞かれます。また、給料取りが100%もっているのが70%でやれるのかというような話も多々お聞きをいたしますので、ぜひこれが低入札制度も改革をしてもらうて、大変難しいと思いますけど、災害等起こった場合の非常時の場合は指名でもすぐできるような体制に持って行ってもらいたいと、私は地域性を考えながらお願いいたします。その点についてちょっとお願いいたします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 私の不徳のいたすところで大変な11カ月、12カ月だったと思いますが、事件の全容解明次第私は進退をちゃんとしますと言ってるかぎりのことはちゃんとしにやいかんと思っております。どうするか、そのときには皆さんに相談していきますということでございますので、十分私なりに市長として反省をいたしております。その結果、皆さんから公明正大に公平にということでこういったふうになったわけであります。

これでまた最低制限にかわるものが、低価格入札、その低価格の上限を上げてくれということだろうと思いますが、これはまた1年間たった後、また考え、その都度その都度言うようにしてきているけどうまくいかない。だから考え方を業界も私どもも皆さんも考え方をかえなければ対馬の明日がないということは各界各層に言ってるわけですが、まだいまだにこういう状況になっても考え方はかえられない業界の人、各界各層の私どもはそうですが、皆さん方も考え方をかえなければもう明日はないと思います。それを他人のせいにしちょっとだれも他人は自分のことは考えません。だから自分がしっかりして、そしてその上でこれはこうあるべきじゃないかというのは、全体量がもうどうにもならん状況になっているわけですから、ウイングを広げて、ほかのものでありながらやるとか、いろんな関係が出てこようかと思いますが、いずれにいたしましても、これはよく桐谷正義議員からも前お話がありましたので、しかし、朝令暮改ではいきまん

ので、3月末、今年度はこういったことだと思いますが、どうなるかわかりませんが、おればその都度また次のことは考えてみたいとこのように思っております。

いずれにいたしましても、私どもは基盤整備も、環境基盤も、あるいは教育基盤も、産業基盤も、これはあくまでもその基盤整備、その延長戦上にそれぞれの業界の皆さんがおられるわけです。業者のために仕事をするわけじゃできません。市民の基盤整備のためにどうするか、その延長戦上に業者の方がおられる。業者の皆さんと一緒に力をあわせて元気な島づくりをしていただいたということですから、時折業者サイドだけで考えても間違いが起こってきますので、私も十分反省せにやいかんと思っておりますから、今後につきましては、意を呈しまして、どうした方がいいか、またよくさらなる検討を皆さんに指示をしたいと思っております。そういうことでよろしくお願いたします。

議員（7番 初村 久藏君） 最後に。低入札価格にちょっと触れたので、また私も18年の6月ごろ経済新聞でいつまで続くのか、ダンピングというような記事を載っております、低迷する時は全国的に、長崎県の場合は、特に決めるとというようなことでございますので、安心安全の公共事業ができるかというような問題点もありますので、地元の業者、その市民を助けるためにはこれは見直すときは見直すべきじゃなからうかと思えます。

それと企業誘致にいたしましても、我々議会といたしましても、これでは対馬はできんというような気持ちにみんな一体になっておるような時期でなしに、ひとつ理事者とよく連携をとりながらこの問題については頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

終わります。

議長（波田 政和君） これで7番議員の質問を終わります。

.....
議長（波田 政和君） 暫時休憩します。再開は15時10分から、よろしくお願いたします。

午後2時59分休憩

.....
午後3時09分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

本日の会議時間は、議事進行のぐあいによりあらかじめ延長します。

次に、8番、吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） 一番最後のとりを努めさしてもらいますが、すなわち一番きつい時間だと思いますけれども、どうぞよろしくお願いたします。そしてまた、くしくもきょうは私の誕生日でありまして、（発言する者あり）誕生プレゼントに市長さんからのいい回答が得られればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。（発言する者あり）総理大臣

も決まったようですね。

私の一般質問は4件ほどありまして、厳美清華苑について、それと九州郵船の高速船ヴィーナスについて、それと市民球団対馬まさかりドリームスの見直しについて、それと公衆トイレ清水が丘の水洗トイレに対する改善策ということで、前回18年第2回定例会の再質問をさせていただきたいと思います。

まず、1点ずつお伺いしたいと思います。厳美清華苑につきましては、5月連休明けに発生しました浄化槽汚泥用の分離液貯留庫の故障によりし尿処理機能が50%に低下したために、し尿を他の施設に搬送し、処理した費用として4,500万円もの多額な税金を費やしております。

し尿処理が不能となれば市民日常生活に直結するものであり、故障は絶対許されないものであると思います。故障の原因を考えたときに、点検ミスや操作ミス、また処理能力オーバーなどいろいろの要因が重なって起こったものかと思われませんが、精密検査ばかりで専門的な知識を持った人ではないと予防保全には無理じゃないかなと思っております。そういう意味で、今一部運転管理を委託しておりますが、この教訓を踏まえて全般にわたり、民営委託にすべきだと思いますが、市長さんの見解をお伺いいたします。（発言する者あり）忘れて、一問一答した方が私はわかりやすい。（発言する者あり）

議長（波田 政和君） 吉見議員の言うとおり今回だけ許します。市長。

市長（松村 良幸君） この厳美清華苑の問題については旧6町自体の南部一部事務清掃組合会議会と南部清掃になっていくわけでございますが、この前から縷々申しておりますように、議会でも調査をされたと聞いておりますが、今どっちみち総括をしなければいけないわけですから、今までは総括なしで問題点だけを指摘、精査をしますということで総括がなされておられませんので、12月までには総括をしたいと思います。その間、監査委員さんによる随時監査が行われるのか、あるいは私どもが要請をしてしてもらうのか、これもいずれにしても監査委員さんをお願いをしたいと思っております。というよりもされるだろうと思っております。いずれにしても相談をしてみたいと思います。

基本的には、これは設計ミスになるのか、積算ミスになるのか、あるいはどうか分かりません。大体今まで前の施設はだめだから新しい施設をつくったわけです。60トンという、1日ですね。処理能力。その中で汚泥が7キ口、それから、し尿が53キ口ということが基本的に仮に間違っているとしたら、これは処理できるはずがないんです。だからこれはもう本当に総括して検証しなければなりません。今までは幾ら南部清掃一部事務組合であってもそれは大丈夫だということでしたから、これは今さらいろいろ申し上げても仕方がありません。上対馬、上県でつくっているし尿処理場が人口は恐らく4分の1ぐらいになるんですかね。1万人ですかね。1万

5,000人未満、3分の1ぐらい、それでなおかつ汚泥の処理の日量9キ口ですから、いずれにしてもそういう人口の半分以下のところの方が多いんです。これ一つ見てもわかるわけです。しかも実績としては旧施設の時代に汚泥だけで7,000何百キ口、7,000キ口超える汚泥の処理はなされたと思います。脱水処理車でやってたのは5,000キ口を超えているわけですから、6,000万ぐらい払ってたわけです。これがいかんということで改築もできんということで新しい施設になったんですが、できたところはそれはできない。オープンしたとたんを持ち込み台数制限、パニックになりまして、巖原町の議会でもしかり美津島町の議会でも話し合ったとおりであります。いまさらそれを言ってもせんないことですが、これは企業だったら大変なこれはことですよ。株主からそれこそ責任どうなるとなりますよ。その責任どころじゃないですよ。

そういう状況下にある中で、なぜ今までもてたかというのは、多重円盤型というのがあったけど、この前説明したとおりでございまして、多重円盤型で120%ぐらいの今ものをやっているということですがね。いずれにしてもそういった結果、くみ取りも問題がある。おっしゃるように維持管理についても専門的なものもあるが、その専門的なものに対しておる人がちゃんと忠実にやっているかどうかということも、これもいろいろ検証していかないかと、すべてそういった点で負の部分、いい部分、こういったものをしていかにやいかんわけですが、事実は事実としてちゃんとしなければ、このままじゃどうにもなりません。だからバクテリアが作用してやっていくわけですが、全部くみ取ってしまったらこれはどうもならないと思いますね。だからそういったものができる。3週間、21日かかったもんですから、もうくみ取りの船をチャーターして600トン積んでよそに持っていかなざるを得なかったということで。上も中も阿連の漁業集落センター、ここにもだめだったと、そういうことで非常な状況を抱えながら今酷使している状況ですから、いつパンクしてもおかしくない状況です。また今吉見議員おっしゃったように、日常生活にもどうにもならんようになるわけですね。だからそれは今具体的には山田部長の方から必要な細かい数字が必要であればまた話をしてもらいますが、本当にこの人ら1週間、10日というのは、悩んだはずですよ。どうしようもなくなる。あふれ出るわけですから、やむを得ず運ぶところも運び入れるところはなくなってチャーター船をして、今言われた4,000何百万かかかったと、もうほんとにこれは市民に皆さんに対して申しわけないことだと思っています。これは南部清掃、私どもも巖原、美津島の2つの問題であります。これはよく検証して、総合的に総括をしていくということで、どうしていくかも含めて、また加えて中部のセンターがもう非常に期限を迎えつつあります。更新がですね。それもどうしていくのか。あるいは汚泥からのエネルギーにかえる部分もつくってこれからいくのか、あるいは民設民営がいいのか、公設民営がいいのか、いろんな検討を今担当部でやっております。これもすぐできるもんじゃありませんから、計画を

立て、基本計画、基本構想、実施計画となっていくわけですが、いずれにいたしましても、異常な事態の中での本当に大変な操業を続けているということだけを申し上げて、御指摘のとおりですということをおきます。

議員（８番 吉見 優子君） 今市長さんいろいろと御説明ありましたが、巖原と美津島町の一緒につくった巖美清華苑でございますが、もう設計ミス、積算ミスじゃ（発言する者あり）いろいろと耳の痛いほどもう聞かされております。どうしても現実に今パンクしておりますので、これから先をどうするかちゅうことで私も質問しておりますので、一応、今さっきも言いましたように、精密機械とか、危険を伴うような作業とかがあつて、死亡事故につながりかねないということもなんか聞きますので、技術的な専門知識を持った方々を何かそんなことができないかと思つて聞いております。そういうことで、今職員さんの人数は大体どのくらいであそこは作業されているのかをお伺いいたします。（「７人です」と呼ぶ者あり）７人ですね。じゃ７人の方が、勤務形態は大体何時から何時（「ちょっと担当部長」と呼ぶ者あり）お願いします。

議長（波田 政和君） 市民生活部長。

市民生活部長（山田 幸男君） 現在、職員が市の職員が４名、それと一部委託しております。クリタスという会社に委託をしておりますのでそこからの派遣が１名、技術者が１名おられます。それと臨時職員を２名、合計７名の体制で対応をいたしております。それと夜につきましては、宿直業務を委託しております、交代で管理をされております。

勤務時間につきましては、一般職員と同じ８時４５分から５時１５分までという勤務でございますが、どうしても搬入、処理能力を超えても１１０％程度の運転でございますので、どうしても遅くまでという場合もございます。

以上でございます。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（８番 吉見 優子君） この機械は２４時間フル回転してるわけございまして、そういう意味では、宿直員の方１人ということでクリタスの方は宿直されてるかよくわかりませんが、臨時雇いの方が２名ということですが、やはり私もいまさっきも言いましたように、技術的な、専門的な方がいらっしゃらないとコンピューター管理とか、すべてがコンピューターに直結するわけでございますので、臨時者の方だったらどうかなということも思いますので、そこ辺はまた検討していただきたいと思つますし、メンテナンスを考えたときに、故障を防いだり、未然に防ぐということはいろいろな観点から委託料どころではないプラスな面が出てくるんじゃないかなと私は素人ながらにも思うんですが、そこ辺を踏まえましてその２４時間勤務体制ということなのに、そんな臨時の方その等も含めながら、９時から１７時までですかね。そんな体制でいいのかなどうかもう一度お伺いいたします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 栗田工業というのがつくってありまして、そこの子会社のクリタスというのに委託、技術的なハンドリングですね。その機械を動かしてちゃんと仕事をやってるわけですね。これは新しいシステムでございまして、豊玉のような無理のきくシステムじゃないようですね。これでその都度新しいものというのは、飛行機でもそうですが、新機種というのは、だんだん飛ばしていくうちに故障がなくなって、改良、改良がされていくわけです。これも同じようなことございまして、今クリタスのその技術者がいろんな改良もしながら新しい機種のようにございまして、やっているわけですが、24時間機械は回ってるけど、24時間人がおるわけじゃないわけですね。24時間機械を回さんにや、だから技術者のその人らの言うとおりにちゃんと誠実に確実にやっていけば問題ないわけです。機械は、確実にならんところに問題があるわけです。だから高度な専門的な知識はそのクリタスの技術者が来ているんですから、彼がいろんなフォーマットをつくって、手順をつくってやっているわけですから、それはもうそのとおり動けばいい。そのとおり動かんからいろんなことが出てくるわけです。ここにも問題があります。これは担当部長の方といろいろ話をしてみます。そういう問題がひとつハンドリングの中で問題があります。だからおっしゃるように、むしろ委託先のクリタスの方に、地元でも何でも採用してもらって、24時間でも必要なときは8時までも9時までもこういうようにした方がいいのか、それも検討するようにしております。

だから問題はそのままいきますと、機械は切ったはかえるは、入れたものはどうだ、ちゃんとフォーマットどおりにならんと故障は起こりますよね。そういった点でも非常にいかなもんかという部分もありますので、これは恥ずかしい話ですが、部内でいろいろ各種協議をいたしております。

将来にわたってもどうしたらいいかも今検討中でございます。臨時についても同じことです。何かこんなことを言ってどうかしりませんが、車も何か焼いたちゅう話、本当かなちゅう。そんな話が出てくる。水が冷却水を入れようと思ったらバッテリーを反対につないで燃やしてしまったとかいう話もあるし、何てこっちゃなて、ほんと恥ずかしい。本当かうそかわかりませんよ。検証してませんから。そんなことあるのちゅうたら、いやと、本当に恥ずかしい限りなんです。だから御指摘はようわかりますが、将来に向かっては万全を期していかにかいにかんと思っておりますので、よく総括をさす中で、それを含めて今後の検討もよく精査していきたいと思っております。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） 数字的なこととお伺いいたしますが、17年度の決算、今今度決算されますが、運転管理委託料の中で1,563万5,483円の決算が出ております。ところで18年度の予算書を見ましたら、2,155万4,000円のお金が計上されております。これで

大体差し引きますと600万円ぐらいになりますが、これを見たときに、私はまた民営化を少しされるのかなと少し期待を持ってるわけなんです、そこ辺の数字の関係はどのように出されておるのかちょっとお伺いいたします。

議長（波田 政和君） 市民生活部長。

市民生活部長（山田 幸男君） 現在、管理の部分、これは主に電算、コンピューターのデータの管理でございますが、この部分が一番重要な主要な部分でございます、それによって生物、巖美清華苑は微生物によって処理をしていっております。その管理をしているところでございますが、そこを先ほど申しましたように、クリタスという会社に委託をしております。これほとんど1名常駐いたしております、その方の人件費でございますが、その委託料が1,150万、これは17年度も18年度も同じ額でございます。

以上でございます。

それ以外に4名分の人件費がかかります。これは約3,000万近く、2,900数十万かかっておりますし、一番ここの管理をしていく上で一番多額な額を要するのは、燃料費と電気代でございます、これと薬品、化学薬品を使いますので、この薬品代、これで大体7,500万円ほどかかっております。合計で1億2,000万程度この巖美清華苑の管理に要する経費が1億2,000万程度1年間にかかっております。

以上でございます。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） 今17年度と18年度の運転管理委託費が一緒だということを言われましたが、私が言ったのは600万円差がありますが、これ民営化するための少しの臨時者の人雇用をやめて、プラスこれとされて、また1人雇われるのかなあという気持ちがお聞きしたのですが、一緒と言われましたけど、一緒じゃないですね。はい、どうぞ。

議長（波田 政和君） 市民生活部長。

市民生活部長（山田 幸男君） 現在の予算では17年度と同様の予算額が計上されております。この委託料に関しましては、ただ、ですから差額と申しますのは別のものございまして、別の委託料でございます。（発言する者あり）

議員（8番 吉見 優子君） それは何。

市民生活部長（山田 幸男君） それはちょっと、資料を手元に置いておりませんので、後日その差額につきましては、御報告させていただきたいと思っております。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） この件で私も巖美清華苑に何回か行ったんですけども、そのそこで働かれている職員の方にお伺いしましたら、やはり人材不足で自分たちも大変困っていると

というような、職員の方なんです、言っておられましたので、そしてまた職員の方もすごく真剣に考えてこの仕事の重大さというのを真剣に考えて仕事をされているように私はお見受けをいたしました。なかなか自分たちの意見が上部の方に届かないちゅうこともお伺いしておりましたので、できれば部長さんたち足を何回か運んでいただいて、真剣なる職員さんとの話し合いをしていただければなあと思っておりますが、いかがでしょうか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 毎回毎日のように行ってるはずですよ。しょっちゅう話はしているはずですよ。届かないというのはだれが言うたんでしょうかね。本当にそんなことだからおかしなことになっていくんです。だから今の話はよく聞きまして、もう一遍、担当部の方が、あれだけ行って言うことができないのに、ほんと驚きますね。これ山田部長、よく精査をしてください。何でもガラス張りにせにやいかんわけですから、そんなかばうとこはかばわないけんですけどね。なんちゅうことを言ってるんでしょうか。びっくりしますよ。上の方に届かない。こっちが言うことができないと僕は聞いておりますが。いずれにしてもそれはそういうそばがあることはいかんわけですが、一番技術者が苦勞しているわけです。結局そのいろんな専門的に言われた機械も操作があるでしょ。それをちゃんと指示どおりしてくれないので困ってるようです。どこに問題があるのでいってるんです。しょっちゅうその話はしてますからね。上に届かんとか、そんな話は逆にほんとにいかがなものかと思いますが、いずれにしてもちゃんとせにやいかんわけですから、これは民営委託、民間委託も含めて、次の計画にしてもいろいろもう行政は公設民営せんで、民設民営でもいいんじゃないかと、いろんな理屈で今検討を担当部の方でしているようでございますので、しばらく時間はかかりますが、とにかく要はおっしゃるように、1日もそれがどうかなってはおもうパニックになってしまうんですから、だからし尿やら何かがあふれてしまうような家の中がなっちゃうと大変ですから、パニックになりますから、ここらが一番喫緊の課題だと思って、今いろんな取り組みをしているようです。それだけで、とりあえず御理解賜りたいと思います。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） 今までの話の中で、クリタスの方にいろいろ指導をあおいであるようでございますが、それを受けられた方がよくわからないのか、教えるのがよくわからんのか、そこ辺はどちらか私もよくわかりません。だからそこ辺も含めながらようと話し合っていたいて、こんなことは絶対許せる故障じゃございませんので、1日でもこのことはできませんので、またいい方法として何か施策講じていただきたいと思っております。

じゃ、そういうことで、次は、今度は中部し尿処理場の見直しなんですけれども、今前段にも述べましたように、し尿処理の故障は市民生活には絶対許されるものではありませんが、し尿、巖美清華苑のし尿処理は120%の稼働で処理の能力を大きくオーバーをして今運転しております。

す。

また中部し尿処理センターも15年度から110%で稼働し、処理能力もオーバーしております。また、このように5月に起こった故障はいろいろの要因があると思いますけれども、二度と故障は起こさないように、一刻も早く中部し尿処理センターの21年度ということを知っていますが、それを早期見直し、計画を立てていただきまして事故が防げたらなと思いますので、その見直しについて市長さんの見解をお伺いいたします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 大体つくってまだ3年、4年で見直しにやいかんと自体が、これは大変なね。市民の皆さんに対する冒涇でしてね。私どもそれにとにかく責任がありますよ。結果としてそんなこと言っても始まりませんから、3年、4年でだめになるものをつくったら、またつくりかえにやいかん。こんなばかな話はないわけですが、どこに問題があるのかこれは十分総括してもらって、そういうことをいたしていきたいと思いますので、後は要はとにかく不測の事態が起らないように、なんとかかんとかしながらこれをハンドリングしていかんわけですので、もう御指摘のように、大変なんですね。これは3億、6億7,000万、3億2,000万全体でかかるんですから、このし尿は全体で、市のですね。その中の1億3,000万ですか今言われたんですが、後ごみが6億7,000万、9億9,000万がごみと処理かかるわけですから、これにまたさっき言われたような4,000万も5,000万も一般財源が出て、本当に身を切られるような思いでしたけども、しかしやむを得ないわけですから、そういった不測の事態が起きないように、今ある中でできるだけ万全を期さにかんと担当部長以下、課長担当、河野君らも一生懸命頑張っているわけでありましたが、職員がそのハンドリングしている厳美清華苑の状況をよく精査せにかんとしますので、遺漏のないようにしょっちゅう話をしているようでございますが、ただ、とにかく時間もないでしょうが、遺漏なきようにしたいと思っております。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） よろしくお伺いいたします。またこの数字の関係になりますが、18年度の予算の中に、浄化槽汚泥処理委託料として892万5,000円が計上されておりますが、この浄化槽汚泥処理委託料というのは新規に出てきているような感じがいたします。これは何に使われるお金なのかちょっと教えてください。

議長（波田 政和君） 山田部長。

市民生活部長（山田 幸男君） 浄化槽汚泥処理委託料といいますのは、これは脱水処理者に委託をいたしております。その委託料でございます。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（８番 吉見 優子君） これは今までもずっとしてあったんですか。これ新規に出ている金額だと私は思っているんですが、そこ辺を。新規なら脱水車ちゅうことだけじゃなくして、どこどこの分、今までなかったもんをされるわけですから、これと言えば巖美清華苑にかかわる脱水車による浄化の関係でしょうか。

議長（波田 政和君） 市民生活部長。

市民生活部長（山田 幸男君） 巖美清華苑にかかるもの、大きく言えば巖美清華苑にかかるものかわかりませんが、浄化槽の脱水処理でございます。これは当然巖美清華苑の処理能力、予測の部分もございまして、浄化槽にかかる脱水処理業務を委託をいたしております。処理者に委託を出しております。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（８番 吉見 優子君） ということは、この新規でされるということは、今巖美清華苑で120からオーバーしている分プラスこれがふえたということになりましょうか。

議長（波田 政和君） 山田部長。

市民生活部長（山田 幸男君） 浄化槽の巖美清華苑の処理能力の関係上、どうしても脱水処理、浄化槽の汚泥の搬入を少しでも少なくするという必要がございますので、その分を脱水処理車によって処理をしているという状況でございます。

議長（波田 政和君） ちょっと休憩します。

午後3時38分休憩

午後3時39分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

吉見優子君。

議員（８番 吉見 優子君） 今巖美清華苑がオーバー処理をしているわけで、それを軽減、少しでも軽減するという事で新規予算ということではないんですかね。ということであれば、なおさら800万なり、1,000万近くのお金をまた追加、これは追加していかにかいけないと思うんですね。そういう意味では、なお一層早くこの中部し尿処理センターの見直しを早急にしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

次に、九州郵船の高速船ヴィーナスについてでございますが、市長の市政報告の中で、原油の価格の値段や旅客の減少によりジェット・ホイルやフェリーの運賃が11月より20%値上げということで、市の方に申し出があつてゐるようでございますが、市民の皆様の足となっているジェット・ホイルの値上げは家計簿に大きく響いて大変なことだと思つて残念に思つておりますが、それはそれといたしまして、九州郵船高速船のヴィーナスの座席を指定にしてもらえないかとい

う質問でございますが、お盆とか、お正月とか、夏休みとか、また何か行事があるときは、壱岐経由が、直行もありますが、壱岐経由もございまして、すごく皆さん切符は買うたは、暑い炎天下の中に延々と並んでおられます。何かあるごとに私の方にもどうにかならんかちゅう皆さんの声はよく聞くわけですが、そういう意味で座席指定にお願いできないものかと思って質問しておりますが、いかがでございましょうか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） これは九州郵船の要望の質問ですね。長崎・福江間に高速船を就航している九州商船あるいは全国的に高速船を就航している海運事業者では大体座席指定が導入されておりますね。だからこれはよくわかるんですが、九州郵船でもなんか検討はしているということでもあります。検討される中では問題点があるらしゅうございまして、満席に近い状況で、家族、あるいは団体等近くの座席の中に指定ができるかということとか、あるいは出発まで余り時間がない場合、誘導がスムーズにできるかとか、空席が多い場合、ある程度好きな座席に座れる中で座席指定をする必要があるのかとか、発券システムをどうするか、等々あるわけですが、やろうと思えばやれるんでしょうが、やるまいと思えばいろんな理由がつくものであります。これはよく九州郵船とお話をいたしまして、利用者が希望する。座席指定がいいということであればそれはそうしてもらわにゃいかんと思いますが、要望としては伝えて九州郵船に対しても要望は行っていきたいと思えます。

この前、糸瀬議員さんでしたかね。乗り場の云々というのは、あれは快く聞いていただきましたね。早速余り時間を得ずしてできた経過もあります。話はしてみようと思えます。そういう問題点があるということを知っております。

以上です。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） ありがとうございます。ぜひとも要望を出していただきたいと思えます。

次に、まさかりドリームスの見直しの関係でございますが、ここにも書いておりますように、野球少年のみに夢と希望を与えるのではなくて、その他のスポーツをしている子供たちにも平等にその機会を与えるべきではないかと私は思っておりますが、市長さんのお答えをお願いいたします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 私は本当にどうしてそんな話が出るのかなと思って不思議でないませぬね。平等、平等ということでしたら何もできなくなる。悪平等になっていくわけですね。だから財政財源が非常に厳しい折だからそんな無用なことはやめろということだろうと思うんです。

そんな声はよく説明会に行きましても聞きます。その金があったら、こうせんか、ああせんか、自分の好きなことを全部そんな言われるわけですね。それじゃ世の中真っ暗闇じゃございませんかと私は言いたいんですが、えらくても、苦しくても、厳しくても、子供やら少年には夢や希望を与えられるそういうものが必要でしょう。

だからほかのスポーツにしても、村田兆治のように情熱を持って島に足を運び、ボランティアで、旅費、足代だけです。そういう情熱を持って、自分の勝率のしこ、島を回りたいというずっと続けてきた。私も十数年、彼とそういったことでつき合っておりますがね。そういう中で子供が本物のプロ野球の選手に触れ、あの銀幕のというよりも、テレビの画面から打ち出されるプロの選手と、手取り足取りピッチングはこうだよ、バッティングはこうだよというように、あの目の輝きを見ると、これこそ本当に地域づくりだなということですが、私どもはそういった確かに豊かな自然と歴史を残されていますがね。そのすばらしい宝物とすればそれがそのままでは輝きを失ってしまうわけですが。こういった先祖から引き継いだ私ども宝物を輝かしていくということは、これを守っていく担い手を育てることでありまして、この宝物を見に来る人たち、いわゆる交流人口をふやしていくこともこれつながっていくわけですが、市民球団というのはそういう攻めのまちづくりの象徴して立ち上げたものでございまして、これを通して町づくりをやっていこうということで、皆さん、ボランティアの中で、ただ好かんから俺んところから何も買わんからとか、やれどうだとか、そんなものが個人的なものがわあわあなって、政治的なものになって、私は不思議でかなわんと思います。よそは皆うらやましがってますよ。あのまさかり球団何億かかったですか、5億ですか、10億ですか、私どもしたいですよ。何でそんなことはあるね。500万、600万言うたらびっくりしてますがね。だからそういう指導者があるようなスポーツだったら同じような形でいいですよ。ただ、平等、平等で悪平等につながっていきます。何もできないようになりますよ。何もしない方が一番いい、何も言われんですむから、私どもそうになってしまうたらどうします。子供が夢や希望を失ったらどうします。私ども家庭の中で親ができなんだことを子供に夢を託すじゃないですか。どうしてそれができないんでしょうか。まさかりドリームスもしてからできんと、あれだけ野球が一番多いとこ対馬では、スポーツ人口で多いと聞いておりますが、かつて市長を決めるときどうでしたか、野球の仲間で作ろうてあれだけ燃えたじゃないですか。それぐらい野球人口、それならちゃんとやりましょと、それならちゃんと野球で、おお村田兆治があるよとこういって彼を引き出したわけがございまして、だからそういう指導者が情熱を持って少年に夢や希望を与えてくれるそういったスポーツの中で、そんな指導者がおれば一緒にしていいですよ。ただ単に、これしませんか、あれしませんかじゃ、もうそういう時代は過ぎたと思うんですよね。子供が夢や希望を持って親の果たせなんだ夢を親も子供に託していく、そしてあのすばらしい目の輝きを見たら、私は

600万、決して高くはないと思います。それはそれなりに何らかの形で私は大きなマイナスにはならないと思っておりますので、その点は、吉見議員さん御理解を賜りたいと思います。説明会に行きますとよくそういったことを言われる人が1人、2人おられます。各会場ですね。ぜひ理解を賜りたいとこのように思います。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） スポーツをする子供、またそのときにいろいろの有名人からの指導を受けるときにはそりゃ子供の目は輝いておりますよ。それでなぜ野球なのかということで、私も調べてみました。ジュニアスポーツクラブの認定団体の種目の加入者数を調べてみました。なんと1位がソフトなんですね。ソフトが289人、2番目がバレー、266人、次に、3番目が剣道239人、それから、陸上、サッカー、6番目が野球となっております、少年野球がこれに加担している数が6番目で67人でした。またその後にはバスケットじゃ、少林寺拳法、柔道がなっておりますので、そういう意味からしてなぜ野球なのかなと、私は思っておりますが、そういう統計の結果、今市長さんは野球少年が一番多いということではなりましたが、私はこの対馬市でジュニアスポーツクラブ認定団体の中から数を拾ってみました、それやったらそのように6番目で67人です。ましてや16年度野球少年は83人でしたが、17年度野球少年を数えたときに67人なんですね。むしろ16年から17年に私は多いんじゃないかなと思って数を拾ってみたんですが、16人も減になるとるわけですが、そういう意味ではなぜ野球なのかなと私は疑問を抱いておりますが、そこ辺をちょっとお尋ねいたします。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 見解の相違という以外にありません。一言で言えばですね。だからそれはスポーツ団体、教育委員会の社会教育、スポーツそういった点であなたのおっしゃることはわかります。私はこのまさかりドリームスという市民球団を通じてまちづくりをしていこう。こういった可能性を少年や夢や希望を持った少年が、その可能性を見つめるそのステージに立つ、その場所が私はまさかりドリームスだと思っておりますので、これはもう見解の相違という以外にないですね。あなたは、皆さんそうするとやめれちゃうたらやめればいいんですよ。そんなもんじゃないですよ。だから皆さんの相違で、あなた一人がそう言われるのならそうですが、皆さんがそうだと言われるのならやめて結構です。そんなもんじゃないと思います。そんなしよったら何にもできなくなりますよ。何もしないことが一番いいんです。だから何も言われません。行政そんなもんじゃないでしょ。それすべての可能性に挑戦していく特效薬がないんですから、だめでもともとでいろんな形で挑戦していく。その一つがまさかりドリームスと思っておりますが、これは国土庁もちゃんと認識いたしまして、もう一つの交戦ということで中学生のそこまでやる

うということで、国土交通大臣杯を出しているわけですから、しかも交流の補助金を出してあった吉岐、対馬、佐渡ですか、この合併記念を皮切りにことは吉岐であるんですが、台風の関係で時間が延びておりますがね。これは離島だけじゃない。離島都市を含めた離島甲子園という形で球場を甲子園でやるのか、高校野球と同じように、あるいは離島持ち回りがいいのか、これは今からそれに向かって進んでいるわけです。大きな夢と希望を持たしているわけですから、何でも今年はだめでもともとでいかんと、こういった特効薬のないまちづくりというのは大変だと思うんです。だからそのうち漢方薬で忘れたころ効いてくるかもわかりませんが、早く特効薬に近い漢方薬の処方箋ができたらと思っております。その一つだと私も思っておりますので、それをどうしてかと言われるともう見解の相違という以外、悪いですかと、言う以外にありません。だからどうしても皆さんがそれでやめろちゅうんならやめます。何もしないことになります。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） もう市長、あなた一人だけとかいろいろ言われましたが、決して私一人のことで言ってるわけではありません。

市長（松村 良幸君） 一人だけだったら。

議員（8番 吉見 優子君） だったらちゅうことですね。決して一人じゃございません。皆さんから聞くから私は代表として質問しとるわけなんですから、その点は間違えられないようお願いいたします。

それと、今までジュニアスポーツクラブの補助の問題ですが、できたら16年度と17年度、18年度とジュニアスポーツクラブの認定団体に出されている補助金額がわかられましたら教えていただきたいと思っております。

議長（波田 政和君） 教育長。

教育長（米田 幸人君） 教育委員会の方からお答えをいたします。

16年度につきまして、ジュニアスポーツ団体、認定団体が67団体であります。数が1,204名、17年度が68団体の1,202名ということになっております。

議員（8番 吉見 優子君） 予算。

教育長（米田 幸人君） 金額につきましては、16年度が234万5,700円、17年度が235万2,300円ということです。これは団体に最高限度4万円ということで、基本額1万5,000円、人数割を1人当たり1,300円ということで、ただ頭打ち4万円ということで補助をいたしております。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） 今18年度の予算はどのようになっていますか。

議長（波田 政和君） 教育長。

教育長（米田 幸人君） 御承知のとおり質問がありましたように、18年度からこれは廃止ということになっております。これにつきましては、当然各団体の内容を見てみますと、結構残高がございます。そういう団体も多うございますし、また実際これは使ってある団体につきましては、対馬市としてスポーツ活動費振興費補助金というのがございまして、これは島の予選がありまして、そこで優勝した場合に県大会、県大会で九州大会に出場とかいう場合に補助をいたしております、これでひらっぺいこうということでありまして、これにつきましては17年度が1,500万ほど補助をいたしているところでありまして。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） 島外に出るときはその予算は出てるのは私も確認しております。18年度がそのジュニアスポーツ、今16、17ずっと出てきてたのに、ゼロ円なんですね。なぜなのか、少年の健全育成に対する気持ちはどうなんだろうかね。今やはりいろいろの少年少女いろいろの事件が起こっておりますが、スポーツする子には悪い子はありませんよ。そういう意味で健全、今までがずっと、予算がずっとついてたのに、18年度から少年のジュニアスポーツクラブにはゼロ円の予算で聞きまして私はびっくりいたしましたよ。むしろそういうことがあるもんですから、市民球団はどうなんですかと、私はそういう意味で質問しておりますので、これ以外に少年、このジュニアの補助金がゼロということで、これ以外に何か出ますかちゅうこと聞いたのは、それはないということなので、これはちょっと考えもんじゃないかと思いますが、来年度から健全育成についてどのように思われているのか質問いたします。

議長（波田 政和君） 教育長。

教育長（米田 幸人君） 御承知のとおり、教育については学校教育がございます。そしてその中にもクラブ活動、そして生涯学習ありまして、生涯教育、これにつきましても、このスポーツについては大きく我々の人生の中で大きな役割があります。ただ、御承知のとおり、厳しい財政状況であるわけです。ですから、この教育委員会関係の補助金ばかりじゃなくして、あらゆる面で検討をして今財政再建を図っているというような状況でありまして、この団体も言われますように、4万円ということで240万程度ですが、それはどうかということですが、内容を見てみますと、先ほど申しますように、非常に残高が多い、団体が多いということだから、これについては少し今回廃止をさしていただくということでございますので、御理解いただきたいと思っております。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） 時間がありませんが、学校教育の中でしているとか言われますが、これは時間外のスポーツですからね。全くそこ辺は違いますので、考え間違えないようお願いいたします。

残高が多いとか、そんなことを言われたって、またこん中でも活動しているところもあるわけですから、そこ辺もようと考えていただいて、ぜひとも子供は宝もんじゃないですか、今まで皆さんずつとあってあるし、子供の予算を削るちゅうこと、今までずっと削られてこうですから、4万円は頭打ちですから、この子供の予算を削るちゅうことが私はどうしてもげせないんですね。また来年度、もしよければ検討していただきたいと思います。

それと市長にまたお尋ねしますが、市民球団結成はいろいろと交流人口、全国に名を売るいろいろとメリットの面大いにありますが、選挙公約ですから大変なことです、選挙公約、皆さんが今現在財政厳しい折、皆さん本当に一丸となって財政再建に頑張っておりますが、そういう意味でこの市民球団見直すことも大きな大きな勇気が要りますが、市民の皆さんはこういうことを望まれているということを私は言いたいと思いますので、ぜひとも考えられることがありましたらお願いいたしたいと思います。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 夢と希望を持って頑張っておる青少年、あの姿を見る限り見直す気はありません。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） 市長のお気持ちは十二分わかりました。

次に、最後のトイレの関係ですが、お願いいたします。

議長（波田 政和君） 教育長。

教育長（米田 幸人君） この問題等につきましては、6月の第2回の質問でも言いましたように、基本的なことについては市長の方が答弁をいたしております。教育委員会としましても、その後いろいろ検討をしたんですが、御承知のとおり、史跡の指定区域内にあるということですね。これにつきましては、改造等工事する場合に申請が要りますし、また内容によっては事前調査、あの区域の事前調査というのが非常に面倒しい調査が起こってまいります。それと今5人槽ですので、5人槽で800リッターということですが、例えば、簡易水洗にしてはどうかという意見もあります、これにしますと、くみ取りで大変になるんですね。便槽が小さいために、本当にすぐくみ取りということでありまして、そういう意味で総合的に判断しまして、今の段階ではこの中ではちょっと無理だというふうなことで、今後体育館のトイレの使用について、私どももいろいろな情報の提供をしていかなければいけないなとそういうような思っております。

議長（波田 政和君） 吉見優子君。

議員（8番 吉見 優子君） 今聞きましたように、史跡に指定されておるわけではなかなかできないということなんで、もうそれはしよったら大変なことになりますのでそれはどうにか仕方ないなあと思っておりますので、またそれ以外に今既存しとる便所の管理体制とか、清掃とか、

そこ辺からのまた一層今以上に清潔にしていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

これで私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

議長（波田 政和君） これで8番議員の質問は終わりました。

本日の登壇者は5名であります。明日は定刻より市政一般質問を続行いたします。

・ ・

議長（波田 政和君） 本日はこれで散会します。お疲れ様でした。

午後4時01分散会

平成18年 第3回 対馬市議会定例会会議録(第3日)

平成18年9月21日(木曜日)

議事日程(第3号)

平成18年9月21日 午前10時00分開議

日程第1 市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 市政一般質問

出席議員(23名)

1番 小西 明範君	2番 永留 邦次君
3番 小宮 教義君	4番 阿比留光雄君
5番 三山 幸男君	7番 初村 久藏君
8番 吉見 優子君	9番 糸瀬 一彦君
11番 宮原 五男君	12番 大浦 孝司君
13番 小川 廣康君	14番 大部 初幸君
15番 兵頭 榮君	16番 上野洋次郎君
17番 作元 義文君	18番 黒岩 美俊君
19番 島居 邦嗣君	20番 武本 哲勇君
21番 中原 康博君	22番 桐谷 正義君
24番 扇 作工門君	25番 畑島 孝吉君
26番 波田 政和君	

欠席議員(3名)

6番 小宮 政利君	10番 桐谷 徹君
23番 平間 利光君	

欠 員(なし)

事務局出席職員職氏名

局長 大浦 義光君 次長 永留 徳光君
参事兼課長補佐 豊田 充君 副参事兼係長 三原 立也君

説明のため出席した者の職氏名

市長	松村 良幸君
助役	永尾一二三君
総務部長	中島 均君
政策部長	松原 敬行君
市民生活部長	山田 幸男君
福祉課長	阿比留保則君
保健部長	阿比留輝雄君
農林水産部長	神宮 忠彌君
建設部長	清水 達明君
観光商工部長	長 信義君
水道局長	斉藤 清榮君
総務部次長	斉藤 勝行君
教育長	米田 幸人君
教育次長	日高 一夫君
美津島支所長	松村 善彦君
豊玉支所長	松井 雅美君
峰支所長	阿比留博幸君
上県支所長	山本 輝昭君
上対馬支所長	梅野 茂希君
消防長	阿比留仁志君
監査委員事務局長	阿比留博文君
農業委員会事務局長	瀬崎万壽喜君

午前10時00分開議

議長（波田 政和君） 開会します。おはようございます。報告をします。小宮政利君、桐谷徹君、平間利光君より欠席の申し出がっております。また、島居邦嗣君より、遅刻の申し出がっております。

ただいまから本日の会議を開きます。

日程第1．市政一般質問

議長（波田 政和君） 日程第1、昨日に引き続き、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は3名であります。5番、三山幸男君。

議員（5番 三山 幸男君） 皆さん、おはようございます。質問に入る前に、申しわけありませんが、私の思い違いで間違い箇所がございますので、御訂正をお願いいたします。

まず、今屋敷再開発事業の質問の1点目、新たな商業施設は中核となるレッドキャブツを初めとする19店舗の参入とありますが、これは16店舗の誤りでありますので、御訂正をお願いいたします。

既に皆様方御存じのように、昨日、自由民主党の新しい総裁に安倍晋三官房長官が第21代総裁に選出されました。26日には衆参両議院の本会議で首相に指名され、第90代の総理大臣となり、安倍新内閣が誕生する運びとなっております。小泉内閣の改造は推進していくとのことですが、人口が集中する大都市を中心とした政策だけではなく、もっと地方や離島、過疎地域にも配慮した政策を望むものでございます。

と同時に、安倍内閣の今後の御活躍を期待するものでございます。

それでは、通告に従いまして一般質問をいたします。今回は、今屋敷再開発事業の完成と巖原市内の活性化についてと、学校給食運営形態についての2項目を市長と教育長にお尋ねをいたします。

1項目目の今屋敷再開発事業の完成と巖原市内の活性化については、私がまだオープンもしていないこの時期に質問するのは時期尚早かもわかりません。また、市当局、担当部署、（株）まちづくり巖原共同店舗のテナントの関係者の皆様方には多少失礼な質問になるかとは存じますが、失礼な点がありましたらお許しをいただきたいと思っております。

それでは、1項目目の今屋敷地区再開発事業完成と巖原市内の活性化について。対馬の首都とも言える巖原に対馬交流センターの建物がほぼ完成し、来る10月7日にオープンを迎えることになり、市民は大きな期待を持つ人、また不安を抱く人、さまざまだと思います。事業立案から11年の歳月と56億2,200万の巨額な費用をつぎ込んだ新生対馬市にとっては、まさに一大事業です。その中には市立図書館、離島開発センター、イベントホールなどと商業施設の集積と公共施設との一体的な整備を図った建物であります。合併前の旧巖原町が近隣郊外店の進出、消費者動向の多様化、急速な車社会の進展と商業環境の変化、中心市街地において空き店舗の増加・町の空洞化が進み、商業施設のこれ以上の低下を防ぐとともに、巖原市内の活性化を図った事業と思っております。

交流センターの完成により、人々は巖原市内に集まるとは思います。そこでお尋ねをいたしま

す。新たな商業施設には中核となるスーパー「レッドキャベツ」を初めとする16店舗の参入により、厳原市内の既存の店舗との兼ね合い、また厳原の活性化についてどのようにお考えかお尋ねをいたします。

2点目、(株)まちづくり厳原に対する出資割合を見ても、対馬市が60.7%の出資をしていますが、今後課題なり問題点はないのか、あわせてお尋ねをいたします。

次に、学校給食運営形態についてお尋ねをいたします。昨年12月定例会において、数人の同僚議員が、学校給食運営方針についてお尋ねをいたしました。教育長は、常に、統一を図りたいとの答弁をされています。まず第1段階として、直営方式であった厳原町と上県町を給食会方式に変えられました。第2段階として、美津島の民間委託を見直し、市内一本化をして、対馬市学校給食会を設立して、本市における学校給食運営形態の統一を図りたいと言われておりました。美津島の民間委託を見直す時期は来年度かそれとも数年後か、お尋ねをいたします。

また、統一された場合、職員の雇用形態、身分等、旧町によってその待遇が大きく異なっております。教育長は前の議会での答弁では、多分年次的な解決方法で足並みをそろえていくことになると思いますとのことでしたが、あわせてお尋ねをいたします。

以上、2項目4点について前段の質問を終わらせていただき、再質問は一問一答でお願いをいたします。

議長(波田 政和君) 市長。

市長(松村 良幸君) 5番、三山議員の御質問にお答えいたします。

今屋敷地区の市街地再開発事業の完成と厳原市内の活性化ということでございます。御承知のとおり、この事業は平成8年の計画づくりから、約というよりも、実に11年の歳月を要しております。いろいろ紆余曲折ありましたが、このたび完成の運びとなったわけでありまして、その間、対馬市の誕生や国の三位一体の行政改革の中で事業の継続が危ぶまれたときもありましたが、補助金その他いろいろなことが惹起いたしまして、ほんとにまあまあよく曲がりなりにできたなと思っております。今までの議員各位を初め国、県、そしてあらゆる関係者に御苦労願ったわけでございますが、御協力をいただき完成することがなったわけございまして、この場をかりましてその点につきましても厚くお礼を申し上げます。

御指摘のことですが、市街地再開発事業の目的や事業効果につきましては議員御承知のとおりでありますので、質問の本質に触れたいと思います。

まず、既存商店街との関係ですが、市街地の現状を商業統計調査で見ますと、平成6年の小売業の年間販売額、それから平成16年の同様の販売額、この中でも50億1,000万円減少いたしております。実に3分の1が減少したことになっておりまして、現在もこの減少が続いていると思われまして、このような実態でありますので、中心市街地を活性化させる対策として今

屋敷市街地再開発事業を実施をし、まちづくりと商業の活性化を図ろうとしているところであります。

ちなみに、この再開発事業に係る事業効果は、店舗売上も含めて年間31億5,000万円を予想しております。非常に難しい目標であります。また、新規雇用者も119名がもう確定をいたしております。しかしながら、このような対策の一方、川端商店街に代表される他地区の既存商店が大きな影響を受けるという相反する関係が生じることは、これはもう私が申し上げるまでもなく、三山議員御懸念のとおりであります。

中心市街地活性化法の理念というのは、申し上げるまでもなく、いかに市街地を面的に活性化させていくかということでありまして、再開発ビル効果を面的に川端・国分地区商店街等まで広げていくかということが今後の市街地の活性化の方に避けて通れない課題になろうかと思っております。

次に、(株)まちづくり蔵原に対する出資割合、俗に言うTMOですね。タウンマネージメントコーポレーションというんでしょうか。その頭文字をとってTMOと言っていますが、(株)まちづくり蔵原と言っているこれでございます。この出資割合ですが、当初の出資計画では、出資額の目標は1億円、これが授権資本と見ればいいと思います。ところが、出発は市が2分の1の5,000万、市の商工会が1,000万、6,000万からスタートいたしております。テナントが2,000万、その他が2,000万と予定をされたわけですが、現状は市と商工会で6,000万、テナントが2,240万円、計8,240万円が出資金となっております。

御指摘のとおり、現状は市の出資割合は60.7%という構成比であります。収入不足というか、資本金不足につきましてはテナントから敷金1,960万円を負担していただくようになっていますが、関係者以外の出資が未確定になっていることは御指摘のとおりであります。今後は第三セクターの性格上、第三者に広く出資を求めることの是非を含めて(株)まちづくりに慎重なる協議をお願いしたいと、このように思っております。

あとはもう教育長、あとは給食ですね。そういうことでございます。

議長(波田 政和君) 教育長。

教育長(米田 幸人君) 5番、三山議員の御質問にお答えをいたします。

質問項目につきましては、学校給食運営の形態についてということでございますが、対馬市合併前の学校給食の形態は、学校給食会方式、これ上対馬、峰、豊玉、民間委託方式、これ美津島、市の直営方式、蔵原、上県町と3つのタイプで運営をされております。合併調整会議でも、形態や雇用条件の違いにより、非常に調整に難しい面があり、新市で対応することになったところがあります。

学校給食の運営方法については、過去の市議会でも御質問をいただき、答弁をいたしておりますように、対馬市として学校給食会への運営形態の一本化を図るため、平成18年度、蔵原、上

県地区を学校給食会委託方式に移行をいたしたところであります。関係者の御理解と御支援により、順調に給食業務が進められております。

また、上対馬地区には南部、北部の2つの給食共同調理場がありましたが、南部の調理場が老朽化のため、平成18年度から北部給食共同調理場に統合し、南部給食共同調理場は廃止をいたしております。

以上、説明をいたしましたように、美津島地区を除き学校給食会委託方式として第1段階を計画どおり推進することができたところであります。

次に、美津島町の民間委託については、平成12年度に学校給食の充実と効率化、人的面で弾力的な対応が可能な民間活力の導入が不可欠かつ最善の方法として民間への委託が行われ、相応の財政削減効果や学校給食の効率化が図られたと考えられます。

しかし、合併が行われ、対馬市となった現在、形態の異なる給食運営の状態では、全市的に効率的で円滑な学校給食運営を進めていく上で支障が予想されます。そのため、今後については、町境を越えた近隣への学校への効率的な配食範囲の見直しや小中学校統合への対応、市内の子供たちへの安心した給食の提供などのメリットが考えられます給食会委託方式への一本化を対馬市教育委員会としましては推進をしまいたいと考えております。

御承知のとおり美津島の学校給食は、長崎市の株式会社総合給食「たけや」との委託契約により、調理及び施設管理業務が委託を行っておるわけですが、市教委としましては、従業員の服務や賃金体系等を承知した上で、給食会方式へのお願いをいたさねばと考えて、調査研究をいたしておるところであります。

現在の雇用条件で大きく給食会と相違しております点は、まず定年が65歳ということであり、給食会は60歳となっております。その点で、もう60歳に近い職員の方もおられまして、これをどう解決するかということで、非常に関心があるところであります。また、社会保険にも加入をされておられまして、給食会の委託職員は加入をいたしておりません。そういう意味で、この面についても今後どう対応するかということも大きな問題であります。

このように、違う雇用条件の変更については、給食会の全体的な見地の上に、どのようにすれば関係者の御理解をいただけるか、時間をかけて検討し、対応いたしてまいりたいと考えております。早急にはなかなか雇用条件等の問題がございますので、時間をかけて御理解を賜りますように、お願いをいたしてまいりたいと、そういうふうに思っておりますので、御理解をいただきたいと思っております。

以上でございます。

議長（波田 政和君） 5番、三山幸男君。

議員（5番 三山 幸男君） 先ほどお願いいたしましたように、これからは一問一答でお願い

をいたします。

ここに、市長も既に御存じのとおり今月の15日に長崎県議会の文教委員の先生方が対馬に視察にお見えになったとき、交流センターと半井桃水館を見学された。この中で、中田委員という先生が、長崎でも大型店舗等が進出をして地元の商店街と競合にあっていると。長崎でも大変懸念していることであるが、対馬でも限られた人口の中でもっと心配するような自体になるんじゃないかというような指摘を 指摘といいますが、意見を市長に述べられて、市長はそのことは一番懸念されることで危惧しているというようなことをおっしゃっておられるわけです。

私が言わんとすることもこのあたりにあると思います。確かに、先ほど市長が申されましたように、16店舗の参入によって139名の雇用がある。そこで私が資料をいただいた中では、その売上が大体年間24億円ぐらいを見込んでいるわけです。今、厳原町の、先ほども市長も商業統計でおっしゃいましたけれども、厳原町の大体年間の小売業の販売額は109億ぐらいです。隣の美津島町が約89億、合わせて190億ぐらい、厳原と美津島であります。ただ、どうしても厳原ということで厳原の商店街あたりが一番影響を受けるんじゃないかならうかと私は思っているわけです。特に、大町通りには今それほど目立った店舗はないと言え失礼ですけども、川端通りあたりに対して、これから競争していった競争に立ち向かえる店舗はまだいいとしても、零細企業といいますが、家族でそこそこの営業をしている、営みをしている、こういうところに対して、共同店舗が参入によって廃業なり、あるいは店を閉めるようなことに追い込まれるんじゃないかならうかと懸念をいたしております。この辺についての何かフォローといいますが、そういうものは、市長何かお考えはありませんでしょうか。ありましたらまずそこを1点お願いしたいと思います。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 今の三山議員から懸念が表明されて、私どもが一番心配していることはそれなんです、雇用は119名です、130じゃなしに119名が確定しているようであります。一番危惧するのが、今屋敷、国分、こういった商店街が二分されるということでございますので、まずこれを1つ。それから、これは経済の原理原則、流通でもそうなんです、いつも申しますように、競争に参加しきれないところはもうだめになっていくことはこれは火を見るより明らかです。流通というのは、もう御承知のとおり、今までは店舗をつくってそこに、店に品物を、商品を並べるといふ単純な考えではもう通らないわけですから、いかに人の集まる場所をつくるかが流通の基本です。例えば東京なんかの池袋なんかに西武がまちをつくった。まちぐるみつくって人を集客する。いわば、もっと直截に言えば、火事とけんかは江戸の花で、火事場とけんか場には人が集まるわけです。けんかというのは競争ということととらえてもらえばいいんですが、競争のないところに人は集まりません。

それと、これだけのやっぱり大型店舗、レッドキャベツを初めとして皆さんがやっていくと、やっぱりその競争の中から参加することができないところは当然もうこれはだめになると思います。その証拠は佐伯、オサダグループと美津島商工会のパルグループ、この戦いの中で、その競争に参加できなんだのが美津島マルエイだったと。ここは同じように攻めていく。あの2つ立っていない、いつかつぶれるよと言います。競争している間は絶対つぶれません。これは流通の鉄則ですから。

そういうことを考えますと、既存の商店街は大変、また、シャットドアといいますが、シャッターがあるいはドアがシャットしてしまう。閉められてしまうところが出てきやしないかと、その危惧が大きいわけです。

大店法がまたああいっただふうになりまして、非常にこれからは郊外店の大型出店というのはもう不可能になったわけでございますが、今その過渡期ですが、今度まちづくり三法の中で地域商店街の活性化、シャッター通りと言われていくとに閉めた店が多いわけですが、全国に。そういう中でまちづくり三法を国はつくりましたけど、これは私考えますのに後追いだと思っております。やっぱり流通の方が先行いたしております。もう既に流通の大手は逆にそれをとってしております。

そのまちづくり三法の中で流通の対応と、どうそれをとらえていくかということで私もいろいろ考えているんですが、もう流通は今度は逆に大型店じゃないとだめですよ。今言われたように空き店舗ができて、そこの店主、やめていますね。まさにそこの虚をついてきているのが今流通の大手であります。

これは公式にこんなところで言っているかわかりませんが、これはもう私どもがずっと全国的に張りめぐらせている情報の中からそれが出てくるんですが、逆に大手の流通業者というのは、今度は45坪単位での展開を図ります。私どもがまちづくりに協力しようということで、やめている商店の人、共同してそういった、結局セブンイレブンのああいっただ、大体あの規模の、四十四、五坪のこの町中に今度はそれを展開していくわけです。私どもと一緒に手伝いさせてくださいということ。そういう非常にネコの目のように変わっていく流通ですし、そのまちづくり三法を逆にとらえて、やっぱりそっちの方が先行する。それだけやっぱり経済界というのは非常に敏感に対応します。常に生き残りをかけたサバイバルなんですから。

そういった点でどういうふう展開をしていくのか、今それをいろいろ私なりに検討はいたしておりますが、非常に御指摘のように難しい点が多いです。恐らくあれが稼働していきますと半年、1年というのが大きな分水嶺になっていくと思いますが、そうしたときに、現在既存の小売店あるいは食事なんかを提供するところ、そういったところも大きく影響を受けていくんじゃないかと危惧をいたしております。

懸念は三山議員の思っているとおりでございますが、特効薬は難しいですね。まちづくり三法をどう取り組んでいくか。そうすると、それがまたばらばらになっていきますと、商店街というか、それが二分、三分されていきます。そうすると、今度はまたそっちが元気が出てくると、この再開発の行く先が、行方が非常に難しくなっていく。

それに加えて、既存の美津島のあの国道筋にある、ああいったところが恐らく迎え撃つ体制をとっていくと思いますので、熾烈な戦いが始まる。戦いをしている間はいいと思いますが、戦いに参加できないところがどうにかなってきているということですから、こういった原則をよく踏まえながら、対応を考えていかないかと思っておりますが、今施策はあるかということですが、今どうだということは、とにかく推移を見守る以外にないということです。再開発そのものが、あそこにあるのを再開発すること自体が、これはもうリスクの大きいことであることは間違いないわけです。50何万、60万の土地の上に商業施設なんかできるはずがない。テナント料が高くなるんですから。

だから、そう言いながらも既に先ほど言いましたように、11年前から出発しているんですから、軟着陸させるためにはやっぱりこの2年間というのは皆さん関係者のほんとに、もう土壇場まで皆さんが苦労したわけですが、何とか、1つ越えればまた1つという、まあまあほんとに我慢坂みたいに次から次にハードルが出てきて、やっと最終的に何とか補助金も別な形で、少子高齢化のまちづくりの補助金で対応して何とかなっているようではありますが、大変だったと思います。だからこれから出店、入店される人の何とか奮起をしてもらうということに待つ以外にないと思っております。

それに加えて、御懸念の商店街等の対応、これはちょっと推移を見守ってからでないとうとも言えないという状況で、非常に危惧の念を深めていることも事実であります。

議長（波田 政和君） 三山幸男君。

議員（5番 三山 幸男君） 市長、時間の関係で、できましたら答弁は短くお願いをいたします。

私が（発言する者あり）短目で簡単にお願ひいたします。私が一番懸念していることを市長も思っていること、多分一緒だと思うんです。交流センターの完成によって、オープンになれば人々は多分物珍しさも手伝って巖原には人は集まると思うんです。巖原市内の活性化は一時的かもわかりませんが有り得ると思います。そこで、巖原に集まった人々をどうして自分の店舗に取り込むかが巖原で商業をされている方にも今後は課題になると思うんです。私も余り夜の巖原には行く機会はありませんが、ただ巖原の夜のまちというのは相当冷えきっているということです。あわせてこのあたりも活性化ができるように、交流センターの完成によって、波及効果で巖原のまちが元気になりませんか、やはり対馬の元気は有り得ないと思っておりますので、そういうことで今

後交流センターのできることによってまず巖原の活性化を私も願う1人であります。

時間の関係もありますのでちょっと2点目に入らせていただきます。先ほども申し上げましたように、2点目にTMO(株)まちづくり巖原に対する出資のお話をしました。質問をしました。その中で、第三セクターですので当然市が出資をして当然のことだと思っております。ただ、今16店舗入る、現在入って、夢と希望を持って多分これから店舗の運営には臨まれるとは思いますが、やはりその気持ちが3年も5年も同じような成果を上げられればいいと思えますけれども、もしそういうところで課題なり問題点はないのか。

それとあわせて、交流センターの地下に駐車場が150台収容の駐車場ができるということですが、お話を聞いていますと、私は当然交流センターなり商業施設に行かれる人は無料で駐車ができるのかなと思っていましたが、そうでないような感じもいたします。その辺、あわせて市長、お願いをいたします。

議長(波田 政和君) 市長。

市長(松村 良幸君) TMOの問題は先ほど申し上げたとおりでございますが、駐車料金の話はまた長部長の方から話させますが、非常に難しいですね。

以上です。

議長(波田 政和君) 長部長。

観光商工部長(長 信義君) それでは、駐車場の料金の御質問でございますので、少しお答えしたいと思います。料金につきましては、公共施設、それから商業施設の利用をされる方、それから一般の利用者というふうな形で3段階に分けております。

まず、公共施設を利用される方から御説明いたしますが、施設の管理者、いわゆるこれは今回指定管理者で御提案を申し上げております、それが議決をいただきますと、TMOと、まちづくり巖原ということになるわけでございますが、ここが無料券を作成をいたします。そして、施設を利用された方にこの無料券を配付をいたします。それで、90分間は無料でございます。それ以上は料金体系によりまして支払いをしていただきますが、30分ごとに50円ということになります。

それから、商業施設を利用される方でございますが、これもまちづくり巖原、TMOの方で無料券を作成をいたしまして、各テナントに配付をしております。これも同じように、精算時期に90分は無料でございます。それ以上は料金体系によりまして30分ごとに50円を支払っていただくということになります。

それから、一般の利用者でございますが、一般の利用者は駐車をされまして入館をされます。そういたしますと、精算機によりまして90分まで100円、それから30分ごと50円ということになります。よろしゅうございましょうか。

以上でございます。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 答えを忘れておりましたが、その夜の商店街が全く寂しいということですが、全くそうですね。だからこれはもう農林水産あるいは建設業、そういったところの購買力がもう落ち込んでしまいましたね。真珠、建設業あるいは水産業。そういったことで、当然それにかわる形が出てこにゃいかないわけですが、購買力が落ち込んでいるということです。今はしかし、何もかも、諸悪の根源は市長にありですから、この市長になってから一つも客が来んようになっちゃったということで、これは全くそういうことでよく聞いておりますので、困っておりますが、購買力をいかに上げるかということは産業振興をしていかないかんということで、所得をいかに上げるかということにつきると思います。

以上です。

議長（波田 政和君） 三山幸男君。

議員（5番 三山 幸男君） ちょっと1番目の質問について、いま一つお願いといたしますか要求、私の願いといたしますか、私が知り得た中で、共同店舗の中にも薬局が入っているわけですが、再開発のすぐ横に新しいドラッグストアといたしますか、そういうものが進出されるという話も聞いているわけです。人が集まりそうな場所にわあっとねらってそこに持ってきたんだろうと思うんですけども、やはりこういう島外の大型業者、こういうものは今後何らかの条例あたりで規制とかなんとかそういうことはできないものでしょうか。あるいは各、例えば今島原市が多分そうだったと思うんですが、大型店舗が郊外に進出をするということで、地元の商店街が反対ののろしを上げているような状況もあります。島内といたしますか、対馬あたりでも鶏知にも今1軒、薬局の建物の基礎工事があっているようですけども、多分薬局ということで、巖原と比田勝にそういうドラッグストアができるという話も聞いております。

こういうことが、消費者にとっては大変ありがたいことかも知れませんが、やはり島全体を考えると、必ずしも喜んでばかりいられないんじゃないかなろうかという懸念がいたします。今後、もし検討する余地がありましたら頭の隅にでも入れていただいて検討してほしいと思っております。これは要望にとどめておきます。

次に、教育委員会、教育長にお尋ねをいたします。先ほど、まず第1点目で、美津島の見直しはいつかということで、慎重に検討してということでしたが、大体お気持ちとしていつごろに、島内といたしますか、市内を統一しようとお考えでしょうか、お尋ねいたします。

議長（波田 政和君） 教育長。

教育長（米田 幸人君） お答えいたします。すぐさま無理なようにあります。それで、やはりそこで働いている方の立場になってやっぱり物事も判断をしなければいけないということで、一

番大きな問題は定年の問題です。ですから、この人たちにいかに理解をもらうためにどのような解決をするかということは今後検討していきたいと思っております。結論から申しますと、19年度はちょっと無理ではないかなと、そのように思っております。

議長（波田 政和君） 5番、三山幸男君。

議員（5番 三山 幸男君） 一説によると、私は19年度に見直しがあるというようなお話も聞いたこともあるわけですがけれども、まだ検討の余地があるということでしょうか。例えば今給食会と民間委託とあるわけですがけれども、給食会にしても市が委託する方法には変わらないと思うんですが、給食会統一という考えでよろしいのでしょうか。

議長（波田 政和君） 教育長。

教育長（米田 幸人君） 答弁をいたしましたように、まず基本的には給食会にということですが、ただ、最近、民間委託してはという逆の考え方もあるということは承知をいたしております。

議長（波田 政和君） 三山幸男君。

議員（5番 三山 幸男君） 私の考え方からすれば、統一して一本化になれば、民間委託が必ずしもいいとは思っていませんけれども、それでもやむを得ない点があるのかなという気持ちは持っております。

ただ、そこで、ことしから直営方式が 今まで直営方式であった巖原町と上県町が今年度から統一といいますが、学校給食会に委託をされたわけですが、そこで働いている方の職員の待遇といいますが、職員の肩書といいますが、私がさっき教育長あるいは次長にお見せした資料では、上県は職員のままで載っている。ただ、巖原については嘱託と委託になっている。委託で働いている方については社会保険がついてないというような話も聞いております。

質問の大きな項目は、やはり同じ職についておられる方が、片方は優遇されて片方は社会保険もないというようなことでは働く人にとりましてもその事実をわかれば、何となく職務に励む気持ちといえましょうか士気といえましょうか、そういうものが下がるような気がするわけです。やはりそれを統一する、できるだけ近い形にするといいますが、これは給食会だけでなく、あるいは市の職員にしても旧各町によってそういう面もあったかと思うんですが、その辺、市長どのように 市長じゃなくて教育長、どのようにお考えかお尋ねをいたします。

議長（波田 政和君） 教育長。

教育長（米田 幸人君） お答えいたします。給食会の中でも現実的には料金が違いまして、やっぱり私どもは従来の自校方式から給食会にしたときに、やはり従前の勤務条件というのをやっぱり考慮しながら、今理想的には対馬市の学校給食会であれば同一の給料体系というのが理想でしょうが、現実的に今まで踏んできたいろんな条件がありまして、その条件を無視して、一度に給食会にしたから前の分は全く関係ないよというようなことはどうも、そこで継続される方につ

いてはやっぱり不利益になるような状況等もございますので、そういう意味で、やっぱり過去の勤務状況をしながら解決をしてきたということです。

ただ、今後の課題については、やはり理論的にはレベルが正しいわけですし、そういう意味で、時間をかけながらこれをレベルにしていかなければいけないと、そういうふうに思っております。

ただ、巖原町の場合には、ちょっと理由がございまして、嘱託職員と委託職員がっております。嘱託職員が4名おりまして、4名につきましては正職員というようなことでずっと巖原町時代には対応してこられたようであります。そこで、市になりまして、ちょっとその職員の身分の問題がすっきりしないようなことでして、正職員正職員で、市の正職員でもありません。ということで、調理場の正職員というような言い方で来られた4名の方がおりまして、そういう意味で、今回その4名については、やっぱり従来社会保険はあったということで、実は嘱託職員ということです。そして、ほかの調理員の皆さんにつきましては給食会の委託職員ということで、上県町についても全員委託職員ということでありますので、正職員ではありませんので、御理解いただきたいと思っております。

議長（波田 政和君） 三山幸男君。

議員（5番 三山 幸男君） そのことに関しては、今教育長の答弁をいただいて、私もわかりましたので、私がいただいた資料がちょっと職員の記入欄に問題があったのかなとは思っています。

ただ、美津島を統一した場合、美津島は当然、民間会社の社員ですので、美津島を統一した場合は、それでは、嘱託か委託にしかならないわけですか。その辺、ちょっとよろしかったらお尋ねをいたします。

議長（波田 政和君） 教育長。

教育長（米田 幸人君） 今回の巖原、上県を給食会方式にしました。美津島を給食会方式になりますと委託職員ということになります。

議長（波田 政和君） 三山幸男君。

議員（5番 三山 幸男君） 美津島を統一した場合、美津島の職員も委託方式になるということで、それはもう給食会でそういうような規則があるわけでしょうから、もうそれはやむを得ないとは思いますが、やはり望むことは、同じ職務につかれて、先ほども教育長が格差があると、私もちょっとお尋ねしたりお聞きしたりした中で、上対馬が一番優遇されているような状況を聞くわけです。逆に直営から急になった巖原あたりが極端に言えば低いんじゃないかという気がいたします。これをやはりすぐ来年からとか再来年からとかいうことはできなくても、例えば高いところを下げたということは無理かもわかりません。でも、高いところ安いところをして、例えばそこで真ん中に持っていくことはできないものか、そういう気持ちを、私じゃなくても、

例えばそういうところで雇用されている方はみんな思っていると思うんです。上対馬の人は別ですよ、上対馬で給食会で職務につかれる方はそうは決して思っていないでしょうし、私たちよりはほかの人たちを引き上げる方法をとってくださいというでしょうけれども、やはりそのあたりがもう少し今後検討する余地もあるでしょうし、職務につかれる方がやはり気持ちよくといいましょうか、何ら差別のないようなそういう体系をとっていただきたいとぜひ思っております。

最後に答弁をいただきまして、これで私の質問を終わります。

議長（波田 政和君） 教育長。

教育長（米田 幸人君） 理論的には今質問いただきましたように、やっぱりレベルというのが本当だろうと思います。ただ、物事の解決の中で、それをレベルにすると、高い方に合わせるのか低い方に合わせるのかという問題があります。確かに上対馬の給食会は高うございます。そこで、今内部で検討ですが、非常に厳しい経済状況の中、賃金体系の中で、果たして上対馬の給食会のがそれでいいのかということを含めて、やっぱり好条件のところはちょっと検討していきたいと、そのように思っております、そして年数をかけながらレベルにしていきたい、そのように思っております。

議員（5番 三山 幸男君） ありがとうございました。

議長（波田 政和君） これで、5番議員の質問は終わりますが、先ほど三山議員から、大型店舗の進出の規制の件がありましたので、市長がお答えできるなら答弁よろしくをお願いします。よろしいですか。はい。

.....
議長（波田 政和君） それでは、暫時休憩します。再開は11時5分から。よろしく申し上げます。

午前10時52分休憩

.....
午前11時05分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

先ほど質問の中にありましたように、対馬市の交流センターのシステムと駐車料金についてはお手元に配付してあるとおりでございますので、よろしく申し上げます。

次に、20番、武本哲勇君。20番。 武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） 私は、主に松村市政の2年半の実績を、市長自身どのように総括をされて、また、今後どのような市政を運営しようとしているのか、こういう立場から6点にわたって質問をするものであります。

その質問の大部分は、国政との絡みで、市政段階ではどうしようもないという問題もあります。

そういうことは私もよくわきまえて質問をいたしますので、簡潔にわかりやすく答弁をお願いしたいと思います。

まず1点目は、これは財政の問題でありますけれども、昨日の小宮教義議員及び永留議員から質問がありまして、重複する面があると思いますけれども、再度お尋ねしたいと思います。財政改革の見通しということであります。

ことし6月に北海道の夕張市が財政再建団体への移行を表明したことによって、地方自治体の財政問題が大きくマスコミでクローズアップされております。6月25日の朝日新聞によりますと、1人当たり地方債残高はその夕張市は全国の一般市689あるわけでありましてけれども、それで20番目、1人当たり100万7,000円ということであります。19番目が本県の五島市101万5,000円となっております。我が対馬市は何と断然トップの1位で、160万4,000円ということであります。もちろんこの地方債もその種類によって償還の割合が違ったり地方交付税が補てんされる割合、こういうものがありますので一概に言えませんが、いずれにしる全国一の借金市であるわけでありまして、深刻な状況であるのは間違いありません。

市長は、この財政破綻の原因及び改革についての取り組みについて、市民の皆様にはわかりやすく説明していただきたいと思っております。

2点目は、基幹産業であります水産業の振興についてであります。対馬における基幹産業は、何といたっても水産業であり、この産業が衰退すれば対馬の将来はないといっても過言ではありません。長崎県統計情報事務所の調査によりますと、対馬における経営体数が昭和53年に3,246ありましたが、25年後の平成15年には1,965、つまり約60%の減少であります。漁獲量も平成9年に約3万トンあったのが、6年後の15年には約2万4,000トン、こちらは20%の減少であります。経営体数の減少よりも漁獲量の減少が非常に大きい。ということは、魚価、魚の値段がほとんど横ばいでありまして、1経営体当たりの収入は非常に減っておるといえる実態が推定できるわけであります。

もちろん対馬における第1次産業の繁栄は、農林業では戦後間もなくから高度経済成長期の初期の段階ぐらまでは、林産物、特に杉、ヒノキの値段が高騰いたしまして景気が非常によかったです。そして、その後、シイタケ生産が盛んになりまして、しばらく好況が続いた。それに比べると1次産業の繁栄とその役割は長期間に及び、漁業種類によってばらつきがありますけれども一貫して大きな役割を担ってきたわけでありまして、それが近年、その復元力が見られない、衰退の一途をたどっているのではないかと、そのような心配があります。

この問題は全国的な、あるいは全世界的な課題であると考えますが、まず市長の御感想と、細やかであってもこういうことをやっぱりしたいという対策があればお伺いしたいと思います。

3点目ですが、公共事業の大幅な削減が避けられない、このような現状の中で、市として何ら

かの対応策はあるのか。これも非常に大きな問題でありますけれども、私は非常に対馬市にとって深刻な問題でありますので、ぜひ市長の考えをお尋ねしたいと思います。

私は、従来から公共事業は不要不急なものがかかなりあると。それらを削減して、医療、福祉、教育にもっと予算を向けるべきであるという立場を主張してまいりました。その考えは今も変わりません。何が必要で何が不必要か、この取捨選択が大変重要になってまいっております。また、200数十社とも言われる対馬の建設業者は人口比にしてとてつもない数であります。これも国の政策、1990年に日米構造協議という話がされまして、多分海部内閣のころだったと思いますけれども、今後10年間で何と何と630兆円の公共事業を、公共投資をやるという取り決めがされました。国政問題について非常に造詣の深い市長ですから、御記憶があると思います。このことによって公共事業が大幅にふやされ、そして国の景気を引っ張っていったわけであります。そのことによってまた国は莫大な借金を抱えました。それがもう続かなくなった。特に対馬の場合、離島振興法の恩恵もありまして、その追い風を受けて公共事業が盛んにやられた。そしてまたまた借金もウナギ登りになったわけであります。

今、多くの業者は生き残りをかけて必死であります。そこで働く人々はどうなるのか。既に対馬を出ていった人、出ていこうとしている方々がおるやに聞いております。国政・行政の犠牲者となっていると言っても過言ではないか。根本的には国政の問題であると思いますけれども、市長としてこの実態をどのように見ておられるのか、その感想を聞きたいと思います。

4点目であります。医療・福祉・保険が大幅に改悪されつつある中で、市民の命と暮らしを守る先頭に立たねばならない市長として何らかの手を打たれようとしている気配が見受けられない。財政状況が厳しいの一点張りであります。例えば、70歳から74歳の医療費が1割から2割負担になります。しかも、70歳以上で現役世代と所得が変わらない場合は3割負担になる。長期入院患者には居住費と食費が有料化されます。療養病床、お年寄りがよく入る病院でありますけれども、このベッドが38万床から15万床に年次的に減らされる。つまり病院から締め出されて、そしてその人たちがまだ行き先である特養とか老健施設が満杯で入れないというような深刻な問題も起こるわけであります。

介護保険にしても、介護料は、保険料は上がるけれども、訪問の回数が減らされたり制限をされたり、あるいはデイサービスについても制限をされる、そういう例がもう既にいろいろ出ておるわけであります。

一方では、老年者控除及びまた各種控除が年寄りから廃止されることによって市民税その他の税金がまた上がっていく。ひどいところになると5倍とか10倍とかいう例もあるそうでありますけれども、このように小泉内閣のもとで国民・市民の生活がますます苦しくなっております。

ちなみに申しますと、これらの負担は国民・市民だけでなく、医療機関や福祉施設も被害者の

立場に立たされているわけであります。そのような施設を利用しなくなる。そうすると、病院やそういう福祉施設が採算がとれなくなって、もう既に廃業しているところも出ているわけであります。

まだありますけれども、例えば知的障害者施設の利用料が従来ほとんどかかっていなかった。それが1割負担になるという問題も深刻な問題であります。

これらの医療・福祉の改悪の流れに対して、手の打ちようはないのか。全国ではいろいろ財政力の豊かなところでは独自の上乗せ政策を行っています。そういう考えはないのか。したいけれどもできない、そういう苦しみか松村市長の顔からは出てこないのではありません。

5点目です。以上述べたように、明るいニュースがない中でただ一つ、韓国からの観光客一応観光客と言っておきますが大幅な増加を示していることでもあります。私は、質問通告書にも功罪半ばすると申しましたが、市民の声を聞いても、残念ながら功より罪の方が多いというのが実態であります。市民の多くの方々も、海や磯を荒らしたり汚したりせず、また市民的マナーを守ってくれさえすれば大いに歓迎するというのが本音だろうと思います。

韓国と長い交流を続けてこられている市長であり、対馬市民を第一に擁護守らなければならない市長ですので、きっとよい対策を持っておられるはずでありますので、お聞かせ願いたいと思います。

最後ですが、旧美津島町時代からやり手としてその名を全国にとどろかせてこられた松村市長でしたが、私自身は残念ながらもうとっくに見切りにつけさせてもらっております。深刻なことに、市民の多くも、もう松村市長にはついていけないとの思いがあるのではないかと、そのことを私自身ひしひしと感じておるところであります。特に、今回の不正入札事件によってあなたの評価は地に落ちたと断ぜざるを得ません。

そこで、あなたに進言をさせていただきます。それは、いつまでも全容解明を待つなどと悠長なことはいわず、きっぱりと職を辞し、再度市民の判断を仰ぎ、また再びその席にお見えになれば、そのときこそそのような苦口をたたくこともなくなるわけであります。市長の御所見を伺いたいと思います。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 21番、武本議員の質問にお答えいたします。

非常に（「20番」と呼ぶ者あり）失礼いたしました。申しわけございません。訂正をいたします。（発言する者あり）済みません。

まず、第1点の、市政2年半の歩みをどう総括し、どのように進めようとしているのか。財政改革の見通しはということでございますが、合併後、これまで義務的経費の増加、こういったものを吸収していくということに終始したわけでございますが、また重点施策には積極的に予算を、

ない財政の中からでもやったつもりであります。これは私の勝手と言えればそれまでです。あなた流でいいますと、人件費で約6億、物件費や補助費等で約8億、14億の抑制を達成したつもりであります。

今後数年は、過去に借り入れた市債の借金と言われましたけれども、御承知のとおり市の市債、起債は一般の借金とは違うこともよく御承知の上での借金だろうと思います。63.4%は借金の元利償還というのは交付税で賄えるわけですから、あながち御指摘のように、日本一多い借金と言っても、実際その63.4%を引きますと120万2,000円というのが60数万でなると思っております。それだけ税収のない、収入のないですから、そういう国費を導入して旧6町が道路整備をし、今の基盤整備、学校に、漁港に、港湾に、そういった環境整備も含めてやられてきたと思っております。一概にこれがだめだということはいかななものかと思っております。

今後数年は、過去に借り入れたそういった市債の償還が高どまりするということでございますので、厳しい財政状況が続きますが、引き続き市債借入の抑制や行政運営の構造改革を進めることによりまして、その後は安定した財政運営が可能になるものと考えております。

ちなみに、具体的にと言われぬ前に言いますが、平成16年の決算で御承知のように人件費が67億円でありました。今回18年の決算見込みで約61億になろうと思います。物件費で約44億のものが、これが39億です。16年は18年を今2年数カ月のを見てください。補助費等が25億円が22億円にしております。合計14億ですが、こういったことができたと思っ、この結果は皆さんから、松村市長が誕生して客も来んようになった、売れんようになった、何も来んようになったという、こういうことにつながったかと思います。

それから、基幹産業であります水産業の振興に有効な施策はあるかということでございますが、これはやっぱりこういった燃油高でございますので、燃油に左右されない業種の返還も含めて、やっぱりこれも常々言っておりますように、私どもを初めといたしましてそれぞれの分野で考え方を変えなければどうにもならない、島のあしたはないということにつながろうかと思います。

簡潔にということでございますので、簡潔に申しますが、また片一方では国民、町、市民によくわかるように説明せえという、非常に難しい、相反することでございますが、簡潔に申し上げます。

それから、公共事業の大幅な公共事業の減少は避けられない中で、市としての対応策はあるのかということでございますが、これは武本議員がるる申し述べられましたように、アメリカのニューディール政策でもあいつたふうに景気を回復したようです。まさにそういった経過をたどりながら、現在になっているわけでございますが、これも功罪半ばすることになろうかと思います。

起債とか補助金というのは、私どもは一つの基盤整備、生産基盤整備、環境基盤整備あるいは教育環境基盤整備、そういう基盤整備をする上においての資金調達が補助金であり起債であると、このように思っております。国費を導入するということは資金調達と思っておりますので、御理解を賜りたいと思います。

それから、保健・福祉・医療の国の制度改正につきましては、これはるる武本議員が述べられたとおりで、国が大きく福祉・医療、こういったものに受益者負担を組み込んでまいりまして、国の施策の中でそれを上回るようなことがしたいけどできないというのが今の対馬市の財政状況ということも御指摘のとおりであります。

これに対しては、皆、国の福祉政策あるいは医療政策、そういったものが受益者負担をするという点でいけば後退ということで、これは改悪だとおっしゃっておりますが、これに対しては異論を挟まないことにいたします。国の後退したのが福祉の後退だということで、署名を集めたりしている福祉業者もあるようでございますが、困ったことだと思っております。

それから、医療・福祉はそれぐらいにしましょうか。あとは韓国との交流は功罪半ばする。その対応は慎重にして積極的にやれということで、慎重に積極的に、非常に難しいですが、難しいことをやれとおっしゃっているんだらうと思っております。これは御指摘のとおりいろんな問題がありますが、言葉、あるいは習慣、あるいは生活、いろんな風習と違う中で、やっぱりお互いがお互いの文化を尊重しながら進めていくのが交流でありまして、最初はやっぱりいろんな、初めにはいろんなことが起こると思います。昔電気ができたときでもやっぱり電線の前に扇をかざして、ちょんまげ結った人が、エレキが危ないよと言ったことと一緒にして、なかなか誤解もあればいろんなものがあります。実際そういったことも見受けられるところもあるようですが、それはよく時間をかけながらやらなければならないと思います。

それから、足元に目を向ける市政をと願ってきたが、それがかなえられななんだと。再度そういった今回の不祥事についてということで、私は見限ったと、見限った人に質問されていいんでしょうかと思うんですが、あえて質問されましたので申し上げますが、再三再四、今回5回目、申し上げているとおり、全容説明後、出处進退は明らかにしますということはいささかも変わっておりません。悠長なことを言うなということもあるでしょうが、今私も、あなたがおっしゃるように、大体性格的にそういったものですから、あしたでもやめたい、これが本音であります。しかし、そうなったときにどうなっていくのか。いろんな問題が出てきます。選挙になります。財政再建はどこまでどうなっていくのか、こういったことの懸念がある。そういう中で、自分でも自問自答しているわけでございまして、今まで申し上げたとおりでございますので、それ以上は申し上げません。

以上です。

議長（波田 政和君） 武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） 財政の問題であります、きのうの答弁でも市長が言われましたが、基盤整備をやったと。それがやっぱり今資産として残っているんだというようなことありました。そういう面があるのは当然であります。公共事業で全部むだというのはあり得ないわけです。そこで、私はずっと指摘してきたのは、むだな部分があると。しかもかなり大きくあるということ言うてきたわけでありまして、この基盤整備に何百億、今まで従来10年から使ってきているわけですが、それは何も役に立たんということはありません、そのことは私は理由にはならないと思います。

財政問題については、さっき市長も言われたように、1人当たり借金が多いというだけでその市の力を判断するのは、それは適切でない。こういう「週間ダイヤモンド」という週刊誌がありますが、これによると、対馬市は26番目にランクされている。これは今言われたように、いろんな指標を総合して判断したものだと思います。だから、私はすべてを対馬市が全国一番悪いとは言っていない、思っておりません。おりませんが、しかし、やっぱり例えば財政力指数にしても、これはやっぱり一番わかりやすく収入の中で占める地方交付税一般財源の中に占める税の比率の問題ですから、0.2か0.19以下なっていますが、これは非常に低いわけです。やっぱりもともと力がない、対馬市は力 税収が少ないということがあります。いろんな施策によって、国の施策によって地方交付税で見てくれたりあるいは離島振興法でいろいろ手だてをしてくれたりということがあって支えられているわけでありまして、今後、地方交付税が減る。これも18年度は若干ふえているようではありますが、減るということはもう間違いないと思います。そういう中で、今までどおりの仕事ができるからやるということじゃなくて、仕事を取捨選択してやるということに切りかえないと、私は必ず行き詰まるというふうに考えます。いかがですか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） ちょっと武本議員の質問を聞いて、答弁するのが非常に私は複雑な気持ちであります。全くここではなるほどなるほどなるほどって感心するような質問ですが、時折、あれっと思うことがあります、今のまさに御質問の中の説明等はおっしゃるとおりでして、苦しい中、厳しい中でもやっぱり取捨選択してやっていく。それから、むだな公共投資はやっぱり差し控えていく。これはもう当然おっしゃるとおりだと思っております。そういう中で、財政再建をしながらということですから、非常に難しい点が多いと思いますが、御指摘のように十分その点には留意をしていながら、将来に向かっての布石を打っていくということは肝要なことだろうと思っておりますので、十分気を引き締めながら、おる間は一生懸命頑張らないかと思っております。

議長（波田 政和君） 武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） 私は、従来から申しております。公共事業は減らせば減らすほどいいという考えはありません。限られた財源をいかに住民の生活に直結する、住民が望んでいる、そこに向けるべきだ。そしてむだなところを省けば全体的に住民に喜ばれながら財源を余り使わなくてできるという観点でありますので、私は言うことが矛盾があるわけではないと思っております。

水産業については、これはほんとに大きな問題です。私は松村市長をずっと見ておりまして、どうもやっぱり第1次産業に対する目の向け方が弱いんじゃないかというふうに思っているわけです。そのことについて何か見解がありますか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 見方考え方で違うでしょうし、あるいは聞く耳を持たんとか顔を見るのも嫌だという人は皆さんそうおっしゃると思います。すべて負の部分としか見られないわけですが、今あなたが直截に申し上げるのは、1次産業の元気がなくて観光産業も交流産業もあり得ません。したがって、1次産業というのは一番大事なところだと認識をいたしております。

これはもう対馬だけに限らず、国政、地方行政のレベルにおいても、やっぱり昔から農本主義がありますように、1次産業の交流なくしてはすべてがだめになってしまいます。そういったことでございますが、いろんな考え方もありますけれども、やっぱり漁業は先ほど言いましたように、燃油高のときは燃油高のときのような切りかえとか、もっと弾力性を持って、ただ今までこうしたからこうなんだということじゃなしに、いろんな知恵や創意工夫を凝らしていく。例えば高浜地区みたいに 名前を出したらよくないんですが、延べ縄とかトロリー、ひき縄とか、もうありとあらゆる、物すごい、そういった中でやっぱり1,000万以上、多いところは4,000万、5,000万の収入が上がって 水揚げが上がっているわけですから、そういうやっぱり考え方を変えていくということ以外にないと思っております。どう考えるかということには私は水産、農林というのはやっぱり基本だと思っております。

以上です。

議長（波田 政和君） 武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） 水産の問題は非常に私は重要だというふうに認識しているわけですが、今、残念ながら後継者もどんどん減っております。そして、これは世界的な問題と絡みがあるわけですが、今市長は、第1次産業が発展しない限り将来がないと。ほかに波及効果がないというような意味のことを言われましたけれども、それは見方がいろいろありまして、観光産業が発展すれば第1次産業も引っ張っていくというような見方ももちろんあるわけですが、基本的には第1次産業が対馬の場合は中心ですので、特に漁業が中心でありますので、

そこをやっぱりそこを支えてやってやるというところに目を向けないと、じゃ刺激を与えてももう立ち直る力がなくなったという段階で例えば観光産業が発展してもなかなか第1次産業には結びつかないというような問題もあると思うわけです。

それで、最近水産で朗報といたしますか、これは昨年度から始まりました離島漁業再生支援交付金というのが3億2,200万ぐらい入っております。こういうのは漁協に大体任せてあるようでありましてけれども、やはり漁協というのは、今漁協自体が経営に非常に苦しんでいる。だから再生とかいうところになかなか資金が回らなくて、どうもその場を取り繕うような長期的な展望に立った振興策に結びつかないというような気がしているわけです。こういう点について、市としてやはり積極的な有効な利用の方法を指導するというか、一緒になって取り組んでもらいたい。そのことについていかがでしょうか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 離島再生交付金の場合、徐々に、視点を変えると、1つのヒット商品だと思っておりますが、これは地域が皆さんで集落あるいは区、漁協も含めて、こういったことで地域再生を図っていきたいということの再生交付金でございます。おっしゃるように3億2,000万ほど、緒についたばかりでございます。これはやっぱりよくデ・カップリングの始まりだと思っております。EC諸国にはやっぱり農業なんかでも所得保障というのが多く出ておりますが、農業が中山間地域の所得保障デ・カップリングのはしりをやったわけですが、これは私は水産版の所得保障の1つのはしりだと思っておりますので、御指摘のようにこれからは、もう少し国の離島再生交付金のこの制度も、もう少し範囲とかいろんな意味合いを含めて、もう少しレベルアップしていってもら。そういったもので市の水産振興にも一緒になってやれるように、今からいろんな考え方が水産行政としても国の方も進めていくでしょうし、私どもそれに合わせながら、金が余裕があれば、かつていろんなことがあったように、建造補助金とか借入金の助成とか、こんなの一般財源で1億、2億、3億、4億、5億と使っていたわけで、それができないことは非常に財念ですが、今あることは、とにかく考え方を変えるということに尽きるわけですが、今回の離島再生交付金、今の御指摘の話につきましても、よく将来も含めながら、創意工夫をしながらこれのもっとレベルアップができるように、御指摘のように、集落、漁協、市、国あわせ上げて、これはもう少しレベルアップをとっております。

議長（波田 政和君） 武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） なかなか妙案は出てこないというのが実態だと思います。私はそれをわかった上で質問をしているわけでありまして。

医療、福祉、保健の問題でありますけれども、これはもう私は、今小泉内閣がかなり従来の自民党内閣の中でも突出していると思います。この医療・保健・介護保険・福祉、こういうものに

ついでに痛みを与える政策は、私は突出していると。この安倍内閣が出現するわけでありませうけれども、基本的に小泉内閣を踏襲していくということを盛んに言っていますので、ひょっとするとこの流れはむしろ増幅していくんじゃないかという心配をしております。

ところが、残念ながら対馬市は財政力がありませんので、財政力の強いところは独自でいろんな上乘せ対策をとっております。医療費についても、例えば国保税にしても介護保険料にしても、いろんな子供に対する少子化対策にしても独自の施策を行っているところが非常に多いわけです。残念ながら、私は対馬市にできたら1つぐらいは苦しい財政の中で、目玉とは言わんけれども、長崎県でもやっぱりちょっとこれは突出しておるなというような施策を期待しているわけですが、なかなかそれが見えない。

先日の新聞によりますと、長崎市は医療費の現物支給を実行するということが出ておりました。こういうことだけでも、これは市の負担は直接かかりませんので、こういうのも非常に市民から喜ばれると、こういうことも金は要らんわけですから取り組んでもらいたいものだと思います。これは要望をしておきます。

5番目の韓国との問題であります。実は、私は6月に長崎県の共産党の代表団15名ぐらいで中央交渉に行ってきました。そして、対馬市は、この韓国との問題と教育の問題と郵便局の問題とこの3つを取り上げたわけですが、この韓国の問題についてはごみの問題が一番深刻な問題でありますので、環境庁、そして農水省とかが行ってまいりましたが、メインは環境省だと思いまして実態を説明して対策をお聞きしたわけです。

その事前に通告はしておりましたので、ところが私が感じたのは非常に取り組みが弱い、環境省は農水省、国交省ですね、そして水産庁、農水省、いろいろな省庁が協議をしているということでもありますけれども、私はやっぱり中心に環境省がなるべきだという立場で質問したわけでもありますけれども、いや国土を守るのは国交省だとかで、その漁業に及ぼすなら農水省だとかいうような話が多かったですね。

だから、私は共産党の何人が、長崎県の10数人が行ったからといってこれはあしらわれるぐらいいかもわかりませんが、やはりその責任者の市長として、そういういろんな機会をとらえてこの韓国との問題を積極的に取り組んでもらいたいと思います。

私は、功罪半ばすると書いておりますように、私はこの対馬にあって第一次産業今疲弊している、第二次産業である建設業も見通しが暗い、商業も第一次産業、第二次産業が落ち込んでいるわけですから、一般商店はだんだん打撃を受ける、ところが、その中でこの韓国の観光客だけは大幅に伸びているわけですね。これをやっぱり活用せないかんという気持ちです。

しかし、残念ながら受け入れる対馬市の皆さんが、多数の皆さんが迷惑だということでありますので、これを正すことが今行政として非常に大切だと考えるわけです。ところが、市長もさき

の答弁ではどうも時間をかけてどうかこうとか言っておられましたけれども、それじゃだめなんですよ。

やはり、あなたは顔が広いわけですから、そういう顔をこういうときに発揮されて、そして厳しく、そして積極的に優しく交渉すれば私はわからない人たちじゃないと思います。その決意を。
議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 基本的なことを申し上げます。交流するのは両国の国民、また対馬の市民であり釜山の市民であり日本の国民であり韓国の国民であります。あるいは、いろんなそのエージェントにしましても、また国内に転じても一緒です。建設業界も福祉業界もすべてそうなんですが、基本的にやっぱりお互いが考え方を変えなければ、我々が漁業をするわけなし農業をするわけなしですね。

だから、基本はそういったことですが、それをどう後ろからあなたがいつも言われるようにこう後押しをしてやるか、肩をせいでやるか、力をつけてやるかということだろうと思うが、基本のベースが国も間違っていると私は思っております。

経済を政治がよくするぐらい思ってる、もってのほかでございます。経済は経済、政治はそれをうまくいくように後押しをするそういう観点からしますと、今おっしゃるように私ども市はもちろんそういったことで啓発、啓蒙という言葉は差別用語なそうですから啓発をしていかないけれども、とにかく時間をかけてということは簡単にいかないことですから、お互い言いましたように国が違い言葉が違い生活風習も違うということですから、お互いの文化、生活、そういったものを尊重していくと一番これもう平和につながることでありますし、仲良くなった友達同士が銃口、ピストル向け合って殺しあうということはまずないと思いますので、そういった意味でも交流は大事だと思いますから、あなたのおっしゃってる優しく厳しくてというのは全くそれはベースだと思っております。

だから、本当に対馬の歴史を、あるいは対馬の自然をめでてここに来る韓国の人は大いに歓迎せないかんと思います。そして、それはビジネスチャンスにつながっていくわけですから、これがどんどんふえていくことは韓国だけには限ってないわけですが、それをしてどうして韓国に対馬からあんな来るんだろう、また日本からそれはたくさんおいでになる、それが私どもの望むところですが、ただ国も違うわけですし、やっぱり郷に入れば郷に従えていただくことですが、やっぱりよそのところに来たら来たようにその尊重するというのはまさにそれで、国の法律も規則も決まりも守ってもらわにゃいかんし、例えば釣り客でもそうですがそういったものを違法に、あるいは規則を破ってでも自分で勝手にしようと、そういった人は毅然として対処してもらえばいいと思っております。

だから、それ以外に本当に歴史を愛し自然の中に浸ろう、山登りしよう海に行こうというそう

いった人は本当に大事に、ウエルカムウエルカムで大歓迎せにゃいかんと思いますが、おっしゃるとおりでございまして硬軟自在にやっぱいいことはいい、悪いことは悪いとはっきりしていかないかんと思っております。そういう中から、お互い状況がわかってきますから、気長ていうのはそういう意味でございまして御理解を賜りたいと思います。

議長（波田 政和君） 武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） 市長は以前、あなたは武本は何もかも反対するじゃないかと言われました。私は、松村市政に対しては批判的でありますけれども、対馬市民は非常に私はお世話になっておりますし非常に思いがあります。そういう立場で、私は対馬の宣伝を積極的にやっているわけです。

これも、7月でしたかね、京都から宇治市の市会議員が2人と、これ共産党ですけども、立命館大学の助教授、そして立命館大学の大学院生、そしてその人たちと交流ある韓国の大学の先生、大学院生、10数名が私を訪ねて来てくれました。

私は、それで資料をつくったり下調べをしたりして、教育委員会には大変お世話になりました。それで大変喜ばれました。私は、俺は対馬市のために頑張るとなあと自分で非常に満足した日にちでした。はい。そういう、議員は各自それぞれやってあると思うんですけども、そのように対馬を愛するということではみんな一緒だと思うんですね。

ところが、市長の姿勢に問題があるというのは私一貫して主張しておりますが、最後の問題であります。私は、この問題が裁判になって、そして被告の皆さんがいろいろ証言をしたりそういう段階で市長は潔く身を処し、そして再度この結論が出るのを待って、その前に市長選挙があるかわかりませんが、やはり自分は潔白であるということを市民の判断を仰ぐ、そういう人かなあと私は期待もしておりましたけれどもどうもそうじゃない。

結論結論と言いますけれども、この11月までには一審の判決が出るというふうに報道されておりますが、その報道の後に出处進退をはっきりされるのか、身の処し方をされるのか、あるいはひょっとすると二審、あるいは最高裁まで行くかどうかわかりませんが、どこで、どこがその全容解明の段階なのか、再度お尋ねしたいと思います。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 簡単に答弁せいでことがお好きなようですから申し上げます。今まで申したとおり、全容解明後に変わりはありません。その全容解明の判断は、それぞれあるかと思いますが、私は私の全容解明後の判断とこう思っております。

以上です。

議長（波田 政和君） 武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） いろんな方と相談をしながらということも言われますけれども、

松村市長はそういうどういう人がおられるかわかりませんが、相談されなくてずっと自分で決断をされてきたそのような印象を持っているわけですが、やはり相談されなければだめでしょうか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） だれが相談すると言いましたか、皆さんに相談しますって言うんじゃないですか。そんなことはあなたの考え、勝手なこと、あなたの勝手でしょそれは。

議長（波田 政和君） 武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） 私が言うのは、皆さんというのはあるいはあなた以外の第三者に、第三者か、と相談をしながら決断をすると、決定をするということを書いてこられたじゃないですか。だから、私はあなたは人に相談せんでも自分で決断をされる方だと思っていたが、そうじゃないんですかということを知っています。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） だれと相談しようがそら勝手じゃないですか。それを、だれと相談するのかとか、だれと相談してどうするのかと、あなたに何で言わにやいかんのですか。皆さんに相談します、それに尽きますじゃないですか。皆さんもいろいろあるでしょう。そんな突き詰めて自分が勝手な、自分の考えで人を勝手の中に引き込んだらいかんですよ。

お互いそれぞれ考えがある、いろんな思いもあるわけですから、私もいろんな思い、考えの中でそれなりに葛藤してる部分があるんですから、それは、まあまあそこまで言うとおかしいんじゃないですか。

議長（波田 政和君） 武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） もう最後ですが、きのうの市長の答弁で会社の例を引かれましてね。どなたの質問だったか、そのときに会社だったら株主が許さんというような趣旨のことを言われました。

今、対馬市の社長であると、置きかえればそのあなたが、部下がいろんな目に遭っている、全面的に任しとった助役がもうすべて自分がやりましたということをやっている。そして、そのトップにおる社長であるあなたが、全容説明がするまでとか、一つは皆さんと相談をして決めると、そういう段階じゃないとそう思います。いかがですか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 何度も言っているとおり、全容説明ごと再三再四、これで5回言ってるじゃないですか。あなたそんな物わりの悪い人だったんですか、物分りのいい人だったじゃないですか武本課長ていうのは。

議会になってから、一つも物わりのいい人じゃないてこのごろ私も思ってますが、お互いそ

う思ってるんですか、だからお互いもっと、理解のできる物分りのいい武本課長と松村に帰りましょうや、そういうあなた個人的なことまで突っ込むことはいかがなもんですか。（「話が違う。あなたが出直してからしなさい」と呼ぶ者あり）いやいやいやいや。

議員（20番 武本 哲勇君） 以上で終わります。

議長（波田 政和君） これで20番議員の質問を終わります。

.....
議長（波田 政和君） ただいまから昼食休憩とします。再開は13時からよろしくお願ひします。

午前11時57分休憩

.....
午後1時00分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

次に、12番、大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） 通告に従い、市政一般について質問を行います。質問事項は、ケアハウスの公募について、2点目は、厳美清華苑し尿処理施設の対応についてといたします。

対馬市におけるケアハウスの建設計画策定について、本年3月定例会一般質問において、対馬市の今後の方針を市長に伺ったところでありますが、そのときの市長発言の内容では、平成17年度中に企業誘致の形で島外の医療法人、佐賀県にある如水会今村病院を対象として長崎県と協議中であり、認可された後には美津島町のグリーンピアの造成敷地9,360平方メートルを無償貸与する方向づけを明確に答弁されたことは記憶に新しいところでございます。

ところが、本年7月上旬ころ、美津島有線テレビジョンの静止画面で、次のとおりケアハウスの建設運営にかかる島内向けの公募がっております。内容は、特定施設入居者生活介護の指定を受けるケアハウスで、平成19年度着工が可能なもの、対象は社会福祉法人、またはこれに該当しないものは新たな社会福祉法人を設立することが必要とのことであります。

さらに、公告によりますと、長崎県は対馬市のケアハウス創設整備枠50床を確保しているとのことであり、建物建設に対し平成19年度補助事業実施が想定されるとのことであります。なお、今回の50床枠の施設整備に要する建設費の費用のうち、補助金として1億6,000万円が交付される見込みになっております。

調べによりますと、最終的な申請行為は島内より2つの事業主体、島外より1事業主体、計3事業主体が県の審査を受ける運びとお聞きしておりますが、当初の方針とは大きく異なったこのたびの経緯について市長にその経過を伺いたいと存じます。また、途中までとられてきた行政対応について、問題はなかったのか、市長の見解をお聞きしたいと存じます。

次に、ケアハウスの建設予定地は市有地を無償で貸与するとしておりますが、立地協定書によりますとそれぞれ3カ所異なった面積と場所になっており、しかも協定条項が統一されていないこの理由についてお伺いをしたいと思います。

市長は、建設予定地は企業誘致条例に基づき無償貸与の方針を既に申されましたが、仮に借り受け側が先々、将来倒産した場合、建物処理に困ることも考えられると思います。今後の方針は、どのようにこの場合に臨むのか、あわせてお尋ねいたします。

最後に、厳美清華苑のし尿処理施設の対応について、平成14年度総事業費31億9,600万円の巨費を投じ完成された新施設は4月から供用開始され、1日最大60キロリットルの処理量は、スタートの時点から処理能力の不足にやがてなるであろうとささやかれておりました。

これは現実となり、やむを得ず処理能力の限界を超える稼働がなされ、ついに本年5月にシステムはダウンし緊急事態を招いたとの報告を受けているところでありますが、この問題は抜本的対策を早急に行うことが迫っていると思われませんが、19年度の具体的対応についてお尋ねいたします。

以上です。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） ただいまの一般質問についてお答えをいたします。

ケアハウスの公募についてということですが、る話をされましたが、また足りない部分は自席からの話でさせていただきます。

医療法人社団如水会が、グリーンピア内の市有地を利用して富裕層をターゲットにした福祉リゾートのシルバー施設、ケアハウス、コテージ付きの計画ですが、これは企業誘致、御承知のとおり雇用の場がないわけですから、申しあげましたように一次産業、あるいは情報、医療福祉関連とこういった形で企業誘致を進めたわけで、ぜひ企業誘致で30人の雇用でということですが、これをしてくださいということでこちらからお願いをしたものであります。

そのうち、このケアハウスにつきまして事業計画書の提出がありまして、市の構想と一致したために企業誘致に該当するものと判断をしまして、平成17年9月20日に立地協定を締結したところであります。

市といたしましても、高齢化がさらに進行する中、福祉施設の待機者、利用したいという待機者が増加することが予想されることを踏まえまして、平成17年10月に如水会の事業計画をベースといたしまして、長崎県のヒアリングを受けたところであります。

今回の長崎県老人福祉計画、18年度から平成20年度に基づきます特定施設入居者生活介護の指定を受けるケアハウスの、19年度対馬市創設枠50床が、眠ってたものがこのことよって起こされたと、認められたところであります。

それを受けまして、本年3月の対馬市高齢者保健福祉計画第3期の介護保険事業計画におきまして整備目標とされるところでありますが、今回のハウス整備協議につきましては、本年6月28日付で長崎県福祉保健部長名をもって創設を希望する社会福祉法人及び社会福祉法人設立予定者に周知をいただきまして、施設整備計画者に協議資料を配付願う旨通知があったわけであります。

本年7月6日、県通知に基づき市内8法人及びさっきの医療法人に通知するとともに、公告を行ったものであります。

指定期日が8月18日まで、3件の協議書の提出を受け、県の担当課に送付いたしております。

9月8日に、各計画者の現地調査及び協議書の事情聴取が長崎県長寿社会課長ほか2名の職員により実施をされるところであります。

今後のスケジュールといたしましては、10月上旬に県庁におきまして各計画者の代表者及び施設長予定者の面接審査、あるいは11月中に施設整備計画の選定につき、長崎福祉保健審議会が開催をされまして、年内に整備計画者に整備計画の採否を通知する予定とされております。

それから これまでの応募は新たに島内社会福祉法人2業者が加わっており、これの建設用地は、それぞれ立地協定書に将来ケアハウスの認可されるもののみが借り入れを受けることができる内容となっているが、3業者の面積がそれぞれ異なっている理由について答えよということでございますが、現在ケアハウス誘致につきましては、医療法人如水会が9,360平方メートルであります。社会福祉法人あすか福祉会が3,152平方、それから社会福祉法人梅仁会が3,204平方、以上の3法人と今申し上げた面積で立地協定を締結いたしております。

それぞれの土地の面積につきましては、いずれも事業を行うに当たり各法人が必要とされた面積で立地協定を締結しておりますが、如水会の面積のみが他2つの法人より広い面積となっていることは冒頭申し上げましたように福祉リゾートとして、これはシルバー向けの、そういったことでほかの計画もありますから、30人の雇用という中で大きくなっているのは当然であります。ほかの人が逆に少ないわけでありますが、それは計画によってのことだろうと思います。

それから、2次計画として有料老人ホームや診療所の計画が協議されており、すべての計画に必要な面積を立地協定したためであります。

それから、市長は建設予定地は企業誘致条例に基づき無償貸与の方針と聞いたが、借り受け側が先々倒産したときはどうかという話ですが、これは現在各法人とは「対馬市財産の交換、譲与、無償貸与等に関する条例」第4条第1項第1号に、「他の地方公共団体その他公共団体または公共的団体において、公用もしくは公共用または公益事業の用に供するとき」とこのようにあります。

社会福祉法人を公共的団体と考えまして、老人福祉法に定めるケアハウス事業を公益事業と判

断をいたしまして、それを根拠に無償貸与することとし立地協定を結んでいるところであります。

県の審査会が終了し、事業を行う法人が決定した折には土地の貸借にかかる本契約を締結することとなります。その際、契約条項に原状回復義務をうたうこととなりますので、契約解除の際には直ちに土地上の工作物の撤去、原状回復をしていただくこととなります。

なお、現在までの社会福祉施設等の貸借に関しても、またその他の市有地の貸借関係すべてにおいても特別な事情がない限りこの条項、または同様の内容をうたってきております。今後も同様に、この内容すべての貸借契約において適用されるものと考えております。

次に、廠美清華苑の施設対策ということで、平成19年度の具体的対応、あるいはトラブル発生後の運転処理状況と今年度の見通しということでございますが、これは御質問はエンドレスに続いているわけでございますが、廠美清華苑の施設対策について平成19年度の具体的対応について及びトラブル発生ということで運転処理状況、先ほど言われた2点であります。

まず、平成19年度の具体的対応についてであります。大浦議員御承知のとおり廠美清華苑は、1日60キロリットルの処理能力に対しまして平成16年度は109.8%、平成17年度は111.2%と処理能力を超えた運転をしていることも、この状況は御指摘のとおりであります。

今回、トラブルが発生した箇所は生物槽であります。原因として考えられますのは性状の悪いし尿並びに浄化槽汚泥が混入したこと、また浄化槽汚泥の処理能力に対して無理な運転処理を続けたこと、また分離液貯留槽のプロワーの能力低下等が推定されますが、特定するまでには至っておりません。

今後の対応といたしましては、酸素溶解ポンプを通常2台運転をしておるわけでございますが、3台運転することで生物槽への酸素供給量をふやすことができますので、この方法により酸素の供給量を増量したいとこのように思っております。なお、この方法で酸素の供給能力は約1.2倍程度アップするという試算になっております。

次に、生物槽への生物活性剤の定期的な投入をしていこうということでございまして、生物活性剤を定期的に投入をすることにより、生物槽内の生物活性を低下させる物質の混入を防いでいくということでもあります。もし、生物活性低下状態になったとき、早急に回復させることができるわけであります。

それから、3番目に、搬入汚泥の調査・指導であります。最も活性汚泥に影響を与えるのは、腐敗汚泥や異物の混入、規定濃度以上のし尿・浄化槽汚泥の搬入であります。搬入業者と協力いたしまして、施設運営の安全運転への協力を引き出す活動に、もっとシビアに取り組んでいきたいとこのように思っております。

4番目に、緊急時の予備貯留槽の設置であります。トラブル発生後、今後の対策について協議

をし、現有施設の処理状況及び予備貯留槽の設置等につきまして、容量、水槽の数、あるいは攪拌方法、臭気対策等総合的に今検討を始めているところであります。

次に、トラブル発生後の運転処理状況と今年度の見通しについてでいう指摘でございますが、トラブル発生後は浄化槽の汚泥を分離液の貯留槽のプロワーの配管を補修をして、そして投入負荷を下げた運転をする。搬入量を調整しながら、徐々に立ち上げ直して生物槽の回復を待つていくとこういった状況であります。

その後の運転処理状況であります。6月1日は132.6の稼働、7月は112%、8月におきましても119.5%に回復をいたしました。現在も、処理能力以上の処理量で無理なことをしてはおりますが、比較的安定した運転でございます。

また、今年度の見通しについては、し尿、浄化槽汚泥の適正な搬入計画によりまして搬入業者の搬入量を調整すると。そして、生物槽を初めとする各槽の点検整備を着実、確実にを行うように努め、安定した運転を確保していかなければならないとこのように考えております。

御指摘のように、海中投棄もできないどうしようもないというそういう中で、新しい施設をつくってという、つくった施設が運用開始とともに持ち込み台数制限という異常な状況というのは今までの申し上げましたように、どこかがどうか間違っているわけであることは間違いありません。

1日7リットル、60トンの中の60キロの中の汚泥が7、し尿が53というの、もう大浦議員がいつも言っているようによく御承知のとおりです。実際、そんなら7キロの汚泥はどうかで言いますと、365日掛けたらわかりますが2,555キロ、実際今までの実績としては7,000キロを超えてたはずであります。七千四、五百いってたと思いますが、そういったものが2,555ということで処理できるはずがないわけですから、こういったところに問題がありますので、過日も申しましたように監査委員さんの随時監査、もしくはうちから随時監査をお願いするかしてこれは総括をしなければなりません。

そして、負の部分はどうしていくかということ、これはこの事後処理とはまた別問題であります。そういったものを検証しなければ、31億数千万という御指摘のような大金をかけた物が南部清掃に問題があるわけでありまして、これは総括をしてそれはそれ、これから今後の対応は対応と2つに分けて検討をしていかにかいにかんと思っておりますので、12月の議会には総括ができるようにいろいろ調査を綿密にやっいてこうとこのように思っております。

以上です。

議長（波田 政和君） 大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） きょうは、私3月の定例会でかなり市長とこの問題の意見の相違と言いますか違いのことでやりとりがあったわけですが、最終的には先ほど申し上げましたと

おり現在までの、3月の時点ですが企業誘致というふうなことに、対象として島外業者を、医療法人を迎えて9,000平米ですかね、9,000数百平米の土地の貸付を無償でやるんだよというふうなことであったわけですが、ではその地元のケアハウスについて社会福祉法人の希望があった場合どうするんだ、あるいはそこんところをどう取り扱うかということでやりとりがあったわけです。

今、話されましたことでちょっと大きな相違があるわけですが、市の方から来てくれるようお願いしたという発言をきょうされました。今さっき（発言する者あり）一応そういうような話聞いたんですが、そのことについていつごろかということをちょっとお尋ねしたいんですが。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 企業誘致というのはこっちからお願いをするんですから、雇用の場の確保というのは喫緊の課題であるわけですから、10人や20人じゃだめだということで、いや30人の雇用はできます、ほんならお願いをいたしますということで、その中からケアハウスができたわけです。

さっき言いましたように、福祉リゾートとしてのこれは企業誘致だったんですが、将来ケアハウスも必要になることで、ケアハウスは50床というの対馬枠眠ってたわけですから、それを生き返らせたこと。

それから、第3期でこうなったこと、そら企業誘致だからあなたこっちからお願いをするわけですが当然じゃないですか。日にちは定かに覚えておりませんが、また帰って精査すればすぐわかると思います。

その後、企業誘致の方、あるいは担当課の方、協議を、福祉保健、企業誘致の方の3部門で検討しながらやっとそういうことになったわけですから、それをあなたおかしいじゃないかといってだれかが県に言って行って公募になったんじゃないですか、違うんですか、だれが言って行ったんですか、そういうことでしょ。

議長（波田 政和君） 大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） ちょっと、最初から話を少し整理せないかんわけですが、ケアハウスのいわゆる対象として社会福祉法人が対象となっておりますが、市長がおっしゃるように企業誘致という方向での定義もございましょうが、地元の社会福祉団体等もその対応ができるというふうな、スタートの時点でそこから話がトラぶったということが最初の起こりでございます。（発言する者あり）

そしてですね、そして私も議事録を見ました。今回の公募が、なぜ地元の法人を対象に、それも企業誘致として認めますよという公募でございます。これまた話がおかしいなとこういふ不思議な思いもしたもんですから、再度今回の確認に至ったわけです。

で、前回のポイントをちょっと申し上げますが、議事録の中に入っております。市長の方から、私に対してその申し込みが地元でないんだから、それをわざわざ言うのはおかしいんじゃないのという言い方をされとるわけです。

だから、その公募ということよりは地元でないんだよと、だからそれをやっていることがなぜ悪いかというふうな発言されて、私はそれはそれで市長の言い分としてあったかもしれませんが。

ただし、その後に、その後にですね、地元の方から手が拳がれば一緒に検討すればいいんじゃないかというふうな発言がされております。それは私も適当だと思います。答弁としては、いえいえそうでしょう、そういうふうなことを言われておりますが(「休憩」と呼ぶ者あり)。

午後1時24分休憩

.....

午後1時24分再開

議長(波田 政和君) 再開します。

議員(12番 大浦 孝司君) 今回は、3月の話し合いの一致しないところがあるからそこをどうなんですかという話をしてるだけなんです。

私と市長の3月の話では、地元がないからそういうふうなことしませんよと、そういうことでございますからね、はい。(「一つずついきましょう」と呼ぶ者あり)そんなら、その点一ついきましょう。

議長(波田 政和君) 市長。

市長(松村 良幸君) これはね、名前を言うのはいかがと思う、言えて言えばいいですが、ケアハウスに関心を持ってたところでございます。ケアハウスあなた方やるんですかと思ったら、いやいやケアハウス対馬ではあいませんよと、できませんよ、だれがしてもケアハウスは無理です。そら無理なはずです。

だから、そういったことでそういうその福祉リゾートとしての企業誘致の中で、これはケアハウスの対馬枠というのあるんでしょうかということで、眠ってるけどできんことはないと思いますよということで、ならケアハウスも含めててことでその計画ができた。

しかも、そこに第3期介護計画の中で出てきたものでございまして、だからその人らがこの前おいでになりました。あなた方できんて言ってどうして今度はできるんですかと思ったら、市が市有地を貸与できるようになったから。へえ、本当ですかそれは、あなた方それを、市有地使ってるじゃないですか、施設も使ってるじゃないですか、こう申しました。それが何ですか、第3期中でそういったものが、介護関係が出てきたからじゃないんですかと言ったら黙ってありましたかな。

そういう状況の中で、だれもないし結局私どもの場合一次産業、あるいは情報産業、医療福祉、

こういったことでの企業誘致をこの前から話しておりまいように、3つに分けながらその中から企業誘致をしようというわけですがね。

企業誘致てのは、そもそもそういったふうにごっちからお願いをして、なかなか出てこないですよ。だから、今も申し出があってるのは、いやいやもういろいろな不協和音があるところには行きません私ども、何とかこういうのをつくって来ていうから行きよるんだから、その話があったらそうですかって言ってますがね。

そういうふうだね、しかも県がどうして公募したかって、県にごっちから連絡した人がおるじゃないですか。おかしいじゃないかと、平等にせんかということで、県がそんなら介護保険でことで、ケアハウスということでの周知をしてください、こういうことになったんじゃないですか。それを一つ一つ詳しく言いますか、時間がありませんよそれ言い出したら。

以上です。

議長（波田 政和君） 大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） 私も、そんなら確認をとっておりますから申し上げますが、昨年の9月に50床の枠の協議に行っておりますね、第一段階として、平成19年度枠を。

それで、その次の月に、10月に長寿政策課の方に参っておりますが、その中で図面を添付の上医療法人の名前も出て、そういうふうな勧めを市はやっておるといふうな話は直接聞きました。

その中で、担当の方のおっしゃる話としては、これは必ず公募してくださいよというふうなことを事務所で指導したと言ってます。それは間違いございません。確認とりましたので。一応その点、私は直接担当の名前は係長の岩本さんです。公募しなさいというふうなことを指導したとこういってます。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 公募せんとおかしいんじゃないかと言ったからそうしたんでしょう、それが引き金でしょう。企業誘致に公募てのがあるもんですか、企業誘致お願いして、3社がありゃ3社ともお願いします言うんですよ。

企業誘致とね認定と違いますよ、平等に平等にて、平等にやりたいとこ皆したらいいじゃないか、そういったふう希望があればどうぞと言わざるを得んじゃないですか。それあなたが言われたんでしょう県に行って、電話が何か知らんけどおかしいじゃないかと、平等性欠くじゃないかと。そんなら公募しましょうと、公募するように周知しますとこういことになったんじゃないんですか。

あと詳しい日にちとか期日とか、私は直接タッチしておりませんので担当部が福祉部、あるいは企業誘致、保健部とありますから、具体的な期日とか日にちとか具体的なことについてはそっ

ちから答弁させます。

以上です。

議長（波田 政和君） 大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） 私は事実を言ってるわけですから、10月のヒアリングの時点でそういうふうにしなさいという長寿政策課の方から、ヒアリングに来たものには申し添えましたというふうなことですよ。

ただ問題は、その後今ごろになって公募があるのは遅いじゃないかというふうなことを感じるわけです。それは、文書が来たからやっとな。文書が来ても、やるもやらんも、その前に公募するように指導は県はしておったんだと、こういうふうな発言をされました。これは、私日にちも言やあ言いきります。その辺が、今回の措置とずれてると私は思いますね。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） それは、あなたがずれてると考えるんであって一つもずれておりません。あくまでも、企業誘致でこちらがお願いをしてることなんですから。そうするとおかしいじゃないか、平等性を欠くじゃないか、企業誘致に平等性欠くことがあるもんですか。

あなた、ケアハウスの申請に対して平等性を欠くって言うんでしょ、だからそれが企業誘致とするなら結構ですよということになっていくじゃないですか。詳しいこと話すと、何月何日どうしたか、どこかな、保健部か福祉部が教えてください。ちょっと待ってください。日にちも言います。だからね、そんな不協和なる企業誘致はせんでいいですよ。

議長（波田 政和君） 福祉課長。

福祉課長（阿比留保則君） 今のお尋ねについてお答えをしたいと思います。

確かに、県の方からケアハウスのヒアリングという段階では、ケアハウスの公募についてはそういう形で周知をするようにという指導でございます。ですから、そういったことは伺っております。

ですが、公募をする段階で、県の方からこういった形で計画樹立できましたという形になった段階がことしになっておりますので、その段階の通知を受けたのがことしの6月30日という形で市が受けております。それから公募という形をとらしていただいております。

以上でございます。

議長（波田 政和君） 大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） こう言い合いのなるような話じゃないんですよ、10月にしなさいというふうなことを言いましたという岩本さんの電話ですよ。

それは、今のあなたの話じゃったら文書が来てからしか出されんやっとなという言い方じゃなく、それじゃあ遅いわけですよ。もっと早めに、そのことを行動としてあらわすことがなぜお

くれたかというふうなことを指摘しちよるわけです。

そして、ちょっともう一つ、先進みます。企業誘致課の対馬の担当課に私協議に行きましたら、対馬の社会福祉法人も企業誘致者として認めます。その定義は、条例第4条の10名以上の雇用を行う計画、そして等価固定資産総額1,000万円以上、これが対象の取り扱いにいたします。

ですから、当初の方針は島外の考えもあったでしょうが、現在は地元の社会福祉法人も企業誘致の対象として事を進めます。ですから、先ほど土地の問題は協定書により約9,000数百平方メートルの無償貸付も考えておったが、地元の事業主体もそれなりの貸付方針でございます。その協定書を私はここに入手しております。

そういうふうなことを、大きく変革はあったなというふうなことで、その経緯は文書が来たからやった、しかし県の担当課は早うから公開してそういうことしなさいというふうなことを強くいいましたということは電話で確認しております。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） どうして話がそんなずれるんですかね。企業誘致で、こっちがお願いして雇用の場30人をつくってやろうということですから、そんならお願いしますよと言うたこと。

ところが、それに第3期の、これは後で保健部長の方から話させますが、そういったものができてきた、ああそれができるんやったらやれるぞとこうなってきた。そしてケアハウスだけをあなた考える、ケアハウス、企業誘致としてやってるわけだから。

そうすると、ケアハウスだけでする人をほんなら企業誘致としてやったらいいじゃないですかと、同じようにすりゃいいじゃないか、平等とか何とか企業誘致にあるもんですか。

要は、より1人でも10人でも20人でも多い方が目的にかなうわけですから、そんなにそのどうしたこうしたということじゃもう、そんな入手してるとか何とかそんなこと当たり前公開してるんですから、全部出してるんですから、必要な物は全部出せばいいんですから、隠すこと何もないんですから。あと保健部長話をしてください。（「ちょっとよろしいですか」と呼ぶ者あり）

議長（波田 政和君） 保健部長。

保健部長（阿比留輝雄君） 第3期の介護保険の計画では、平成18年から平成20年までなんですけど、その中でケアハウスだけでしたら到底対馬では、市長が最初申し上げましたように成り立っていかんということでございます。

ケアハウスだけでしたら、お金をたくさん持つてる方を対象にして、例えば200万とかそういう金額を入所料としてまずお支払いをして、毎月の支払いも10万20万30万とこうというのが通常のケアハウスでございます。

如水会に、市長が先ほど申し上げましたように、企業誘致という観点から第3期の介護保険計

画に介護の枠を、50のケアハウスの定員枠の中で介護枠を30人、30床何とかならないでしようかというお話を、それが県の方に通過と言いますか承諾をいただきました。

その件で、介護が30入りましたから、通常のケアハウスだけでなく介護が入った30を介護保険で賄いますから、通常のケアハウスは20だけで運営ができるということで、対馬の2業者については、それが決定後にそういうことがわかったから手を挙げられたんじゃないかというふうに考えております。

以上です。

議長（波田 政和君） 大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） 私も、二、三こう聞き取りやったわけですが、今の部長さんのお話では入所料200万、10万から30万いろいろそのタイプは私あると思いますよ。

聞いてみれば、10万で平均やりましてね、個人負担。そして介護のことをおっしゃいますが、一応給付する金としては6,830円の、これは要介護3ぐらいの平均でとって、これの9掛けで30人の365日の6,700万という金が、相当がその給付費として出るだろうと、負担をせないかんということが発生してくる。

これは、経営の中身がどうあろうと10万円相当の入所料の負担で、月のですね、そしてそれにそれだけの給付費を払っていくというふうな経営の成り立ちちゅうのは、島内で100%できないかという断言はしていいのかということも、私はこの場で部長さんが100%、長崎県のいわゆる保健部を主体とする審査会が決定するこの項目を言い切っていかなもんかと思いますがいかがでしょうか。

そういう意向はわかりますが、対馬の業者が全くできないというふうなことをこの市役所のすべての人間が言い切るということは、果たして私は問題があるかと思えます。どうでしょうか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 保健部長は、一般論としてのケアハウス、あるいはこの第3期介護の計画の中での話でありまして、それは地元の業者とてもできません、介護の中の第3期の計画が出てきたからできるようになったんじゃないか。

それは、よく福祉の関係の、そのあなたが接触してる人とよく話を聞いてみてください。何もそんなことじゃない、断定じゃない、一般論として150万200万、あるいは100万入所金が出て行くことも事実ですし、所得その他に応じましてね、その類型によりまして10万20万30万、それを超える人もあるでしょう。

だから、その論理では、ケアハウスの論理ではそれは経営はできないことはもう今申請してる人が言ってるわけですから、これだれが考えてもできません。ただ、第3期の、今度介護保険のこの第3期の計画ができたから、これだったらいけるということで始まったわけですから。

だからね、一般論で言えばおいしい物ができ上がる、それまではとても無理だよと、そんなうまい物があつたら俺も食べたいなっていうのはそれは一般論として私言ってるんですよ。だからそれはそれでいいじゃないですかと、ならあなた方もそれでいけるなら同じように企業誘致のスタイルをつくりますから企業誘致されたらどうですかとこういうことです。

だから、本人らに言いましたよ、来たから。あなた、私にはケアハウスはとても対馬じゃだめですよと、そんな50床も満床できませんよてあんな言うて、何でまた今度は違うと話がちゅういう話はしましたよ。

だから、それは常識的に言ってケアハウスだけでは非常に今の対馬の所得状況では難しい、運営上経営上。ただ、これに介護のこの第3期の計画が入ってくる、30床入ってくるちゅうことで何とかこれだったら、あなたが今言った給付その他措置そういったものを考えていくと、これやったらいけるかなということになったことは間違いないと思います。

以上です。

議長（波田 政和君） 大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） 時間が10分しかない、このことの引っかかりでとめるわけにいかんですが、ちょっと質問をいたします。

担当部長でも結構ですが、雇用雇用と言いますがケアハウスの一応雇用の重要な方が、20名程度がこの50床におおむね必要であろうと、これはだれが経営しても3業者、現在聞いている範囲では対馬から2業者、そしてその佐賀の医療法人、このタイプで雇用の20人ちゅうのはだれがやろうとおおむね変わらんとおもいますが間違いないですね。

そしてもう一つ、グループ、失礼、有料老人ホームをセットで計画しとるから、そのことが魅力だよ、あるいはそこが今回の大きなポイントだよということをおっしゃられておりますが、これ調べてみましたら現在の段階ではこのことは固まっていますね。それは、私は確認は双方にとっております。

これは、非常にケアハウス以上の大きなしるものでございまして、助成もない、融資の範囲で建物建てる、しかも老人のマンションみたいなことでとてもじゃないが普通考えにくい計画であると、ここが私もお話は聞いておりますがそれがどこまで固まるとかというのは今の段階ではありませんね、ないということで聞いております。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） そのねえ、論議をするのはわかるんですが、事業てのは第1期計画、第2期計画と出てくるじゃないですか。だからね、もうその企業誘致は要らんでいうのか、ね、ケアハウスだけでいけというのか、あなたの意見はどうなんですか。

だから、別にこんなに議会でいろいろいろいろなことがあつたり、この対馬の中でねいろいろ

ことがあったら出てきやしませんよ。だから、本人もその気持ちが、ああそら結構ですよと言わにゃいかんわけですがね。本当に、本当にどうなんですか、企業誘致、雇用の場を確保するのがいいんですか、それともケアハウスの問題だけするんですか。その点を一遍聞かしてください私の方に。私判断しますから。

議長（波田 政和君） 大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） 地元がやろうと外がやろうと、雇用が20名確保できることは間違いじゃないじゃないですか。佐賀の医療法人がやったら30名という言葉なってますね、そうすれば、有料老人ホームが10名の従業員があるという言葉になりますけどね。そういうことになってますよ、中身はね。

だから、おおむねケアハウスの作業従事員は、私も担当課から聞きましたが、おおむね20名が従事するだろうというふうにお聞きはしておりますが、その辺はどうなんですか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） それはもう、言わずもがなやないね、ケアハウスじゃったらそうだし、シルバー福祉リゾートとしてだからそれ以外の計画があるからそういったふうに大きくなるんじゃないですか。企業誘致ですから、雇用の場を確保するんです、一人でも二人でも多い方がいいからそうしてるんじゃないですか。

だから、それができんという皆さんの意見がそうだったらそれでいいですよ。何もそら論争することでも何でもなし、一つのものを何かしようと言ってそれはどうだこうだてことになるよね、ケアハウスだけじゃたら、ケアハウスじゃないんですよと、シルバーの福祉リゾートとしての、シルバーを中心とした福祉リゾート、その中に有料老人ホームの第2期計画としてあるでしょうし、まだほかにもあるんじゃないですか。

だから、対馬でできないことをやっていこうということなんですから、企業誘致として雇用の場をつくる、ほんならお願いしますということで、こっちで具体的に今いろんな計画を進めてると思いますからね、そらケアハウスだけでしたら20名でいいでしょうよ。15名でできるところもあるでしょうし、だからそういうことですからね。

そのケアハウスと企業誘致を、企業誘致の中にケアハウスが入ってきた、あるいは第3期の介護の分が入ってきたそういうことですからね、具体的なことがね焦点がぼけてしまったらいかんですから、要はいいのか悪いのかということで考えていただければと思いますね。

議長（波田 政和君） 大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） 物事が今公募でやっておられます。市長名で、ね。そしたら、あとの2つの法人はするだけの、まあ何と言いますかどうであろうかというふうな見方の中でそういうふうなことが、見下したような状態でございますね、今の言い方であれば、今までの（発

言する者あり)いやいや、そうなるじゃないですか。

それで(発言する者あり)いやいや、公募で地元も企業対象として取り扱う条項でやりますと
いうことを1回言うた以上、その中で競争させて自由な中でやらせて、方向としてですよ、行政
としては特定のそのやり方、片寄りあってはいけないというのは私は、福祉の皆さんから言わせ
ればそういうこととなりますから、市の方針、気持ちは理解してますが、そうじゃないお方やら、
今不況の中で何かどうか紹介を、対馬の人たちの思いもございましてね、そこらから出てきてる
わけですよこの話は。だけ、松村市長のすることをとめるんじゃないかと、言い分と権限があるん
じゃないかということの中での話ですから、もう少しその辺をですね。

議長(波田 政和君) 市長。

市長(松村 良幸君) あのね、論争をはぐらかしたらいかんよ、見下げたとか見下げんとか、
あなたはケアハウスについて言ってるんだから、今まではそういったものはなかったわけでしょ
うが。途中から、第3期の介護そういったまでは、それやったらやれるって出てきたんでしょ
うが。だから、どうぞそれなら平等にいいじゃないですかとこう言ってるのが何が見下したことで
すか。

それ前に、私どもでやれませんで言ってるんですから、ケアハウスだけでやれるはずないです
よ50床、だれが考えても。如水会だって50床しきらんと思いますよ。これは、何度も言って
おりますように高齢者向けのシルバーリゾートとしての中での企業誘致をお願いした、その中に
やっぱりケアハウスも入れた方がいいなという。

その次、第2期計画としては有料老人ホーム、またその他診療所もというようなことがあるよ
うですが、ただケアハウスだけで言うんでしたら何も無いじゃないですか。ケアハウスだったら、
地元でできるなら地元ですりゃいいじゃない、企業誘致としてる中で、いや私ども企業誘致に加
わらせてくださいというから、どうぞち言ったことが何が悪いですか、そういうことでしょう。

それをややこしくなってくると何が何やらわからん、そんな不協和音がある企業誘致やったら
せん方がいいと思うんです。そらね、やっぱりこれは建設業でも何でもそう、福祉業界でも。や
っぱり基盤整備をするために、冒頭きょうも申し上げましたように各業界があるんでしょ

そして、道路の基盤整備、産業基盤整備、環境、あるいは教育基盤整備、その中で建設業界出
てくる、一緒に元気づくり、対馬の元気づくりやりましょうとこういうこととなります。あるい
は福祉だってそうじゃないですか。やっぱりよりいい福祉、あるいは企業誘致、雇用の場をつく
っていく、そういうことが根底じゃないですか。行政のためにするわけじゃないですよ行政は。
そうでしょう、それはもう大浦議員一番よく知ってあるはず

だからね、業者を主体にして物事を言いよるとおかしくなっていくんじゃないんですか、私は
それだけ言及しときます。そしてその上でね、皆さんの意向がいやそんなことは必要ないという

ことであれば結構、ケアハウスだけでできるなら結構、ただここに介護第3期計画ができてきたから、ああそれやったらやれることで皆さんがそんならやりましょって、やられるなら一緒にどうぞ、企業誘致同じようにしたらどうですかと、あとは県が判断するわけですからということでございます。総括しましてね。

議長（波田 政和君） 大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） どうも話が、全く、こうわかるようなわからんような感じで（発言する者あり）まず、いや、全然ですね話は整合性がないように思います。そもそも、以前から3月の段階でそう変わらん、幾らかその地元のことについてどうするかということで取り扱ったことだけが現実でありまして、ただその中身については（「そんな言い方おかしい」と呼ぶ者あり）非常に無理だろうと、経営は無理だろうという断言的な話も先ほどされたから（「無理だて本人が言ってんだから、業者が」と呼ぶ者あり）いやいや、いやそうじゃなくて。（「そうじゃなくて、そう聞いているからそう言ってるんだから」と呼ぶ者あり）いやいや、その何かありますか、ね（笑声）いやいや冗談のけて。あの、市長だれが言ったんですかその無理だということは。名前言ってください。

市長（松村 良幸君） 名前言ってどうするの、そんな。

議員（12番 大浦 孝司君） いや、事業主体が2名上げとることが地元から、これが本当にそうなのかそうでないのかということが出ますでしょう。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） 公の場でそんな固有名詞出したらいかんから言いよるのに、あなたそんなすりかえではいかんよ、これは彩光園。（「ああ、そうですか」と呼ぶ者あり）あなたも段階見とるやない、あなたその彩光園にも行ってるし、今のとこであなたが話しよるじゃないですかいろんな人と。

議長（波田 政和君） 時間が来ましたので（「彩光園」と呼ぶ者あり）最後に1回だけ。大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） そしたら、土地の問題が、倒産した場合、その無償貸与というふうなことで倒産した場合の建物の処理が非常に困るわけですよ。最初は、皆倒産するとは思っていません。

しかし、倒産したときには建物を解体する費用もないわけですね、ほとんどその後始末をせずに事が未解決、登記上もその権利は向こう側と。これではいかんかと、せめて今後においてやはり何らかの建物の処理が協定、契約の中でうたいいんどく必要が私はあるような気がするんですが、その辺を対馬市の今後においてはどう考えるか、ここを一つお聞きしたいんですが、その辺は余りその倒産ということをお願いいたくないんですが、やはりそういう事例もございまして大事な

ことと思います。立派な土地ですから、そう思います。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） それは大浦議員のおっしゃるとおりでして、それはやっぱり必要なこと
でございます、それもちろんとうたってるはずであります。具体的に話してください。

議長（波田 政和君） 観光商工部長。

観光商工部長（長 信義君） 立地協定結びまして、先ほどから市長が答弁申し上げておりま
すように、今後県の審査会で1法人が決まるわけですけども、そうなりますとその後普通財産
の貸付契約を結びます。その折に、その条項の中で原状回復義務ということをやろうようにいた
しております。

例えば、ちなみにこのような条項になるということでお聞きいただきたいと思いますが、乙は
第何条に関する本契約の解除を受けたときは直ちに本件土地上の建物、その他工作物を撤去し、
貸付物件を原状回復した上甲に返還する義務を負うものとする、この条項を入れるようにした
いというふうに思っております。

以上です。

議長（波田 政和君） これで12番議員の質問を終わります。

以上で市政一般質問を終わります。

・ ・

議長（波田 政和君） 本日はこれにて散会いたします。お疲れ様でした。

午後1時54分散会

平成18年 第3回 対馬市議会定例会会議録(第10日)

平成18年9月28日(木曜日)

議事日程(第4号)

平成18年9月28日 午前10時00分開議

- 日程第1 議案第112号 平成18年度対馬市一般会計補正予算(第3号)
議案第119号 対馬市葭原自動車教習場条例の一部を改正する条例について
議案第120号 対馬市地域審議会の設置に関する条例の一部を改正する条例について
議案第122号 対馬市消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例について
議案第123号 対馬市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定について
議案第125号 辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について
議案第128号 あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について(久田地区)
- 日程第2 議案第112号 平成18年度対馬市一般会計補正予算(第3号)
議案第113号 平成18年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)
議案第114号 平成18年度対馬市老人保健特別会計補正予算(第1号)
議案第115号 平成18年度対馬市介護保険特別会計補正予算(第1号)
議案第116号 平成18年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計補正予算(第1号)
議案第121号 対馬市国民健康保険条例の一部を改正する条例について
議案第124号 対馬市支援費支給条例の廃止について
- 日程第3 議案第112号 平成18年度対馬市一般会計補正予算(第3号)
議案第117号 平成18年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)
議案第118号 平成18年度対馬市水道事業会計補正予算(第1号)
議案第126号 財産の取得について

- 議案第127号 対馬市交流センター駐車場の指定管理者の指定について
- 議案第129号 漁港区域内公有水面の埋立てについて（鴨居瀬漁港）
- 日程第4 請願第2号 厳原測候所を存続させ、機能拡充を求める請願について
- 日程第5 陳情第8号 「集配局の廃止再編計画に反対する意見書」採択に関する陳情について
- 日程第6 陳情第9号 じん肺根絶を国に求める意見書の提出に関する陳情について
- 日程第7 陳情第10号 対馬沿岸および浅茅湾内の地先において外国人が夜間釣りを
する事を禁止する陳情について
- 日程第8 議案第130号 工事請負契約の締結について（対馬市情報基盤整備工事
（1工区））
- 日程第9 議案第131号 工事請負契約の締結について（対馬市情報基盤整備工事
（2工区））
- 日程第10 諮問第2号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
- 日程第11 諮問第3号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
- 日程第12 発議第11号 韓国、馬山市議会の「対馬の日」条例制定に伴う抗議に関
する決議について
- 日程第13 議員派遣について
- 追加日程第1 発議第12号 厳原測候所を存続させ、機能拡充を求める意見書につ
いて
- 追加日程第2 発議第13号 集配局の廃止再編計画に反対する意見書について
- 追加日程第3 発議第14号 じん肺根絶を求める意見書について
- 追加日程第4 発議第15号 対馬市議会運営委員会委員の辞任勧告決議について
- 追加日程第5 発議第16号 対馬市議会議長の不信任決議について

本日の会議に付した事件

- 日程第1 議案第112号 平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）
- 議案第119号 対馬市厳原自動車教習場条例の一部を改正する条例につ
いて
- 議案第120号 対馬市地域審議会の設置に関する条例の一部を改正する
条例について
- 議案第122号 対馬市消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条

例の一部を改正する条例について

議案第123号 対馬市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定
について

議案第125号 辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について

議案第128号 あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について
(久田地区)

日程第2 議案第112号 平成18年度対馬市一般会計補正予算(第3号)

議案第113号 平成18年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算(第
2号)

議案第114号 平成18年度対馬市老人保健特別会計補正予算(第1号)

議案第115号 平成18年度対馬市介護保険特別会計補正予算(第1号)

議案第116号 平成18年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計補正予算
(第1号)

議案第121号 対馬市国民健康保険条例の一部を改正する条例について

議案第124号 対馬市支援費支給条例の廃止について

日程第3 議案第112号 平成18年度対馬市一般会計補正予算(第3号)

議案第117号 平成18年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算(第
1号)

議案第118号 平成18年度対馬市水道事業会計補正予算(第1号)

議案第126号 財産の取得について

議案第127号 対馬市交流センター駐車場の指定管理者の指定について

議案第129号 漁港区域内公有水面の埋立てについて(鴨居瀬漁港)

日程第4 請願第2号 巖原測候所を存続させ、機能拡充を求める請願について

日程第5 陳情第8号 「集配局の廃止再編計画に反対する意見書」採択に関する
陳情について

日程第6 陳情第9号 じん肺根絶を国に求める意見書の提出に関する陳情につい
て

日程第7 陳情第10号 対馬沿岸および浅茅湾内の地先において外国人が夜間釣り
をする事を禁止する陳情について

日程第8 議案第130号 工事請負契約の締結について(対馬市情報基盤整備工事
(1工区))

日程第9 議案第131号 工事請負契約の締結について(対馬市情報基盤整備工事

(2工区)

- 日程第10 諮問第2号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
- 日程第11 諮問第3号 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
- 日程第12 発議第11号 韓国、馬山市議会の「対馬の日」条例制定に伴う抗議に関する決議について
- 日程第13 議員派遣について
- 追加日程第1 発議第12号 厳原測候所を存続させ、機能拡充を求める意見書について
- 追加日程第2 発議第13号 集配局の廃止再編計画に反対する意見書について
- 追加日程第3 発議第14号 じん肺根絶を求める意見書について
- 追加日程第4 発議第15号 対馬市議会運営委員会委員の辞任勧告決議について
- 追加日程第5 発議第16号 対馬市議会議長の不信任決議について

出席議員 (25名)

1番 小西 明範君	2番 永留 邦次君
3番 小宮 教義君	4番 阿比留光雄君
5番 三山 幸男君	6番 小宮 政利君
7番 初村 久藏君	8番 吉見 優子君
9番 糸瀬 一彦君	10番 桐谷 徹君
11番 宮原 五男君	12番 大浦 孝司君
13番 小川 廣康君	14番 大部 初幸君
15番 兵頭 榮君	16番 上野洋次郎君
17番 作元 義文君	18番 黒岩 美俊君
19番 島居 邦嗣君	20番 武本 哲勇君
21番 中原 康博君	22番 桐谷 正義君
24番 扇 作工門君	25番 畑島 孝吉君
26番 波田 政和君	

欠席議員 (1名)

- 23番 平間 利光君

欠 員 (なし)

事務局出席職員職氏名

局長 大浦 義光君 次長 永留 徳光君
参事兼課長補佐 豊田 充君 副参事兼係長 三原 立也君

説明のため出席した者の職氏名

市長 松村 良幸君
助役 永尾一二三君
総務部長 中島 均君
政策部長 松原 敬行君
市民生活部長 山田 幸男君
福祉課長 阿比留保則君
保健部長 阿比留輝雄君
農林水産部長 神宮 忠彌君
建設部長 清水 達明君
観光商工部長 長 信義君
水道局長 斉藤 清榮君
総務部次長 斉藤 勝行君
教育長 米田 幸人君
教育次長 日高 一夫君
美津島支所長 松村 善彦君
豊玉支所長 松井 雅美君
峰支所長 阿比留博幸君
上県支所長 山本 輝昭君
上対馬支所長 梅野 茂希君
消防長 阿比留仁志君
監査委員事務局長 阿比留博文君
農業委員会事務局長 瀬崎万壽喜君

午前10時00分開議

議長（波田 政和君） 皆様、おはようございます。報告いたします。平間利光君より欠席の申し出がっております。

これより本日の会議を開きます。

日程第1 . 議案第112号・第119号・第120号・第122号・第123号・第125号・第128号

議長（波田 政和君） 日程第1、議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）から、議案第128号、新たに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（久田地区）までの7件を一括して議題とします。

なお、念のために申し上げます。各常任委員会に分割して付託しております議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）は、産業建設常任委員長の審査報告の後に、一括して審議することにいたしますので御了承願います。

各案について、総務常任委員長の審査報告を求めます。総務文教常任委員長、小川廣康君。議員（13番 小川 廣康君） おはようございます。総務文教常任委員会の審査報告を申し上げます。

平成18年第3回定例会において、会議規則第37条の規定により当委員会に付託されました議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）のうち、歳入は当委員会にかかわる歳入と、歳出中、1款議会費、2款総務費、9款消防費、10款教育費、議案第119号、対馬市厳原自動車教習場条例の一部を改正する条例について、議案第120号、対馬市地域審議会の設置に関する条例の一部を改正する条例について、議案第122号、対馬市消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例について、議案第123号、対馬市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定について、議案第125号、辺地にかかわる公共的施設の総合的な整備計画について、議案第128号、新たに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（久田地区）、以上7件の審査報告を、同規則第103条の規定により次のとおり行います。

当委員会は、9月22日に豊玉支所3階会議室において全員出席のもと、中島総務部長ほか阿比留消防長、日高教育委員会次長、山田市民生活部長、松原政策部長、大浦局長並びに担当課長等の出席を求め、審査を行いました。

まず、議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）の所管の歳入の主なものは、地方特例交付金、地方交付税の額の決定による補正であります。

歳出中、7目企画費のCATV施設整備事業については、今後においても可能な限り事業の圧縮に努力されるよう要望をいたします。

また10款教育費については、南地区教育事務所管内の小学校統廃合計画が進む中、その通学環境の整備が徐々に図られていることがうかがえます。今後においても、該当地区の保護者、地

域住民と協議され、早急に適正規模の教育環境を構築されることを望みます。

審査の結果、本案は賛成多数で原案のとおり可決すべきものと決定しました。

なお、会議規則第101条の規定により、歳出中、1款議会費の一部について少数意見の留保が行使され、委員長経由で少数意見報告書を議長に提出したことを申し添えます。

議案第119号、対馬市厳原自動車教習所条例の一部を改正する条例について、指定管理者への移行に伴い改正するものであり、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

議案第120号、対馬市地域審議会の設置に関する条例の一部を改正する条例については、さきの機構改革により本条例の一部を改正するものであり、全会一致で可決すべきものと決定いたしました。

議案第122号、対馬市消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例については、入団者の減少に伴い定員を改めるものであり、全会一致で可決すべきものと決定いたしました。

議案第123号、対馬市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定については、高度の専門的な知識、経験または優れた見識を有する者を一定期間採用する条例であります。今、本市の緊急の課題である雇用の場の確保のための企業誘致、交流人口の拡大のため、本条例を制定するものであり、本案も全会一致で可決すべきものと決定しました。なお、任期つきであるがゆえに、その体制を整備されることを要望いたします。

議案第125号、辺地にかかわる公共的施設の総合的な整備計画については、今回6辺地にかかるものであり、1辺地は計画案の変更、5辺地は新規の制定であり、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

議案第128号、新たに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（久田地区）は、いずれも公有水面の埋め立てにより生じた土地であり、これも原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上、総務文教常任委員会の審査報告といたします。よろしく御検討の上、決定賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

議長（波田 政和君） 次に、議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）のうち、総務文教常任委員会に付託されたものについて、会議規則第101条第2項の規定によって、少数意見報告書が提出されております。少数意見の報告を求めます。20番、武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） 少数意見報告書を朗読いたします。

対馬市議会議長、波田政和様。総務文教常任委員、武本哲勇。賛成者、大浦孝司。少数意見報告書。平成18年9月22日の総務文教常任委員会において留保した少数意見を、次のとおり会

議規則第101条第2項の規定により報告します。

1、件名、議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算(第3号)のうち、歳出中、1款議会費。2、意見の要旨、今回の歳出中、1款議会費の行政視察研修旅費は、北海道という国内でも最も旅費がかかる地であり、また、行政視察予定の栗山町議会は、全国的にも突出した条例を制定(平成18年5月18日施行)したばかりで、その内容はまだ定着しているとは思われない。我が対馬市議会は、残念ながら議会便りさえ発行できない状態であり、参考にできる実現可能な議会運営を行っている近隣の議会の行政視察研修の方が、むしろ有効であると思われる。したがって、財政難の折、現実の議会活動にとって大したプラスになるとは思われない今回の議会費の行政視察研修旅費の計上にかかる本案については、留保とさせていただきたいと思います。

以上です。

議長(波田 政和君) これから、議案第112号を除く6件の委員長報告について、一括質疑を行います。質疑ありませんか。22番、桐谷正義君。

議員(22番 桐谷 正義君) 1点だけお尋ねいたします。

少数意見報告書の中で、最後に配られております配付されておりますが、「今回の議会費の行政視察研究旅費の計上にかかる本案については、留保とさせていただきます」と、こうありますが、これは留保じゃなくて「本案についての議会費は反対である」という意味だろうと思うんですが、反対だから留保させていただくと、こうなるとるんだろうと思うんですが、その辺はちょっとお尋ねいたしますが、答弁を。

議長(波田 政和君) 武本哲勇君。

議員(20番 武本 哲勇君) 私は委員会の質疑の中でも反対の意思表示をしました。したがって、今質問がありましたように、反対の立場で留保するということであります。

議長(波田 政和君) ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長(波田 政和君) 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長(波田 政和君) 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第119号、対馬市厳原自動車教習所条例の一部を改正する条例について、議案第120号、対馬市地域審議会の設置に関する条例の一部を改正する条例について、議案第122号、対馬市消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例について、議案第123号、対馬市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定について、議案第125号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について、議案第128号、新たに生じ

た土地の確認及び字の区域の変更について（久田地区）までの6件を一括して採決します。各案に対する委員長の報告は可決であります。各案は、委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、各案はそれぞれ委員長報告のとおり可決されました。

日程第2 議案第112号～第116号・第121号・第124号

議長（波田 政和君） 日程第2、議案第112号平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）から、議案第124号対馬市支援費支給条例の廃止についてまでの7件を一括して議題とします。

各案について、厚生常任委員長の審査報告を求めます。厚生常任委員長、作元義文君。

議員（17番 作元 義文君） 厚生常任委員会審査報告書、報告を行います。

平成18年第3回定例会において、会議規則第37条の規定により本委員会に付託された案件について、会議規則第103条の規定により報告いたします。

本委員会に付託されました案件について、9月22日、平間委員は欠席でありましたが、豊玉支所3階会議室において、担当部課長の出席を求め開催をいたしました。その審査結果並びに概要について御報告を申し上げます。

議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）うち歳入は、所管委員会にかかる歳入、歳出中、3款民生費、4款衛生費、議案第113号、平成18年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）、議案第114号、平成18年度対馬市老人保健特別会計補正予算（第1号）、議案第115号、平成18年度対馬市介護保険特別会計補正予算（第1号）、議案第116号、平成18年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第1号）について慎重に審査を行った結果、原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

なお、審査の中での意見として、市民生活部においては、対馬クリーンセンター、厳美清華苑など、特殊な技術を要する職員については、その分野の優れた職員配置を十分考慮していただきたい。また、施設、設備を長持ちさせるか否か、また正常運転の持続についても、職員の指導にかかっていることが大であります。十分指導していただきたい。また、将来的には運営委託も視野に入れて検討をしていただきたい。

厳美清華苑については、10月から厳原再開発ビルの営業も始まることから、し尿、汚泥の処理数も大幅に増加すると予想されますので、早急に精査していただきたいと思います。

対馬クリーンセンターの燃料費の効率化、または省力化はできないか。現在の年間の軽油消費

料は約8,000万円程度を使用いたしております。また、イノシシ対策防御さく用に対馬クリーンセンターに持ち込まれるトタン類、あるいは壁板、ボードなどを希望される方々に再利用できるように、広報でも周知していただきたい。

福祉部においては、生活保護者に対する批判がいろいろと取りざたされている中、さまざまなケースが考えられますが、民生委員の方々と連絡を密にしながら、十分精査をしていただきたい。なお、生活保護世帯の増加の傾向ですが、平成16年3月末、587世帯、781人でしたが、平成18年8月末で679世帯、911人であり、増加の一途をたどっております。

保健部においては、9月から豊玉診療所に勤務をしていただいております升木先生59歳ですが、大阪医大出身で外科、小児科、内科等の診療ができ、離島医療に力を入れていきたいという力強い言葉をいただいているところであります。市民の健康管理に十分力を発揮していただきたい。

次に、議案第121号、国民健康保険条例の一部を改正する条例について、議案第124号、対馬市支援支給条例の廃止についてであります。慎重に審査を行った結果、原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

以上で、厚生常任委員会委員長報告といたします。議員各位の御賛同をよろしくお願いを申し上げます。

議長（波田 政和君） これから、議案第112号を除く6件の委員長報告について、一括質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第113号、平成18年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）、議案第114号、平成18年度対馬市老人保健特別会計補正予算（第1号）、議案第115号、平成18年度対馬市介護保険特別会計補正予算（第1号）、議案第116号、平成18年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第1号）、議案第121号、対馬市国民健康保険条例の一部を改正する条例について、議案第124号、対馬市支援費支給条例の廃止についての6件を一括して採決します。各案に対する委員長の報告は可決であります。各案は、委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、各案はそれぞれ委員長報告のとおり

可決されました。

日程第3 . 議案第112号・第117号・第118号・第126号・第127号・第129号
議長（波田 政和君） 日程第3、議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）から、議案第129号、漁港区域内公有水面の埋め立てについて（鴨居瀬漁港）までの6件を一括して議題とします。

各案について、産業建設常任委員長の審査報告を求めます。産業建設委員長、大部初幸君。
議員（14番 大部 初幸君） 産業建設常任委員会審査報告をいたします。

平成18年第3回対馬市議会定例会において、会議規則第37条の規定により本委員会に付託されました案件は、議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）のうち、歳入は所管委員会にかかる歳入、歳出中、6款農林水産業費、7款商工費、8款土木費、議案第117号、平成18年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）、議案第118号、平成18年度対馬市水道事業会計補正予算（第1号）、議案第126号、財産の取得について、議案第127号、対馬市交流センター駐車場の指定管理者の指定について、議案第129号、漁港区域内公有水面の埋め立てについて（鴨居瀬漁港）の計6議案でございます。

その審査の経過と結果を同規則第103条の規定により報告をいたします。

当委員会は9月22日、豊玉支所3階会議室にて宮原委員欠席、市長部局より農林水産部長、観光商工部長、建設部長、水道局長、農業委員会事務局長を初め、各担当理事、各課長の出席を求め、慎重に審査をいたしました。

議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）のうち、歳入は所管委員会にかかる歳入、歳出中、6款農林水産業費、7款商工費、8款土木費について。歳入の主なものは、国庫補助金の街なみ観光整備補助金398万5,000円の減額、県補助金ではながさき「食と農」支援補助金1,104万5,000円の増額等、国の割り当て内示の変更及び補助事業の組みかえ等であります。

歳出の主なものは、6款農林水産業費の農業振興費でイノシシ捕獲補助金が2,601万6,000円増額をされております。イノシシによる被害への対策は、市においても日ごろから全力で取り組まれていることは十分理解していますが、残念ながら農地等への被害は拡大をしています。早く農林業者が安心、安全に働けるような環境となるよう、さらなる努力を要望したところであります。

ながさき「食と農」支援事業補助金は、農業生産法人対馬自然農園が対馬地鶏の繁殖のための鶏舎建設に対する補助で、知事特認の事業であります。

水産業振興費の県海草バンク設置事業負担金350万円の増は、県の藻場造成を目的とした

5カ年間の事業です。

7款商工費では、大阪全日空ホテルと東京全日空ホテルで対馬の食材を使った対馬フェアを開催をし、対馬製品の高い評価を得ることができたそうです。19年度においても、名古屋全日空ホテルで対馬フェアを開催する予定で、その企画提案のための経費が今回計上されています。対馬製品の販路拡大の足がかりとなることが期待をされます。

8款土木費は、国の割り当て内示の変更及び予算の組みかえ等が主なものであります。

議案第117号、平成18年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）及び議案第118号、平成18年度対馬市水道事業会計補正予算（第1号）については、いずれも担当者の説明のとおり、適正な予算計上がなされています。

議案第126号、財産の取得については、今屋敷地区第1種市街地再開発事業により、平成17年3月から建設を進めていた対馬市交流センターが9月末に完成、その公共施設部分の保留床について、事業主体である今屋敷地区市街地再開発組合から市が取得するものであります。

議案第127号、対馬市交流センター駐車場の指定管理者の指定については、対馬市営駐車場条例第14条第1項の規定により、株式会社まちづくり厳原を指定管理者として指定するものであります。

議案第129号、漁港区域内公有水面の埋め立てについて（鴨居瀬漁港）については、長崎県が事業主体で整備を進めている鴨居瀬地区広域漁港整備工事に伴う公有水面埋立法第3条第4項の規定によるものであります。

以上、議案第112号、議案第117号、議案第118号、議案第126号、議案第127号及び議案第129号までの計6議案につきましては、慎重に審査した結果、いずれも原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

以上で、産業建設常任委員会の審査報告を終わります。

議長（波田 政和君） これから、議案第112号を除く5件の委員長報告について、一括質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第117号、平成18年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）について、議案第118号、平成18年度対馬市水道事業会計補正予算（第1号）について、議案第126号、財産の取得について、議案第127号、対馬市交流センター駐車場指定管理者の指

定について、議案第129号、漁港区域内公有水面埋め立てについて（鴨居瀬漁港）の5件を一括して採決します。各案に対する委員長の報告は可決であります。各案は、委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、各案はそれぞれ委員長報告のとおり可決されました。

次に、各常任委員会に分割して付託しておりました議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）について並びに武本哲勇君提出の少数意見について、一括質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。20番、武本哲勇君。

議員（20番 武本 哲勇君） 私は、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）に対する反対討論を行います。

その主な理由は、歳出の議会費の旅費であります。この中に含まれている議員6人と職員1人の旅費が計上されております。このほか、議長も現計予算の中で同行されるということでもあります。8名、計100万円以上であります。

私は、議員であれ職員であれ、いろんな場所や機会を利用して研修を受けたり視察をすることには、むしろ奨励すべきであると思っております。しかし、今回の視察研修は北海道という国内でも最も旅費がかかる地であり、また視察地の栗山町議会は全国的にも突出した条例をつくったばかりで、これは18年5月18日施行であります。それらの内容がまだ定着しているとは考えられません。我が対馬市議会は、残念ながら議会だよりさえ発行できない状態であり、全国的にもユニークな突出した議会ではなく、参考にできる実現可能な議会運営を行っている近隣の自治体を、むしろ選んで視察すべきであると考えられるわけであります。

したがって、財政難の折、現実の議会活動にとって大したプラスになるとは思われない、今回の視察旅費が計上されている本補正予算に反対するものであります。

議長（波田 政和君） 続きまして、賛成の討論はどなたかございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） それでは、討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第112号、平成18年度対馬市一般会計補正予算（第3号）を採決します。本案に対する委員長の報告は可決であります。本案は、各委員長の報告とおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（波田 政和君） 起立多数であります。したがって、議案第112号は原案のとおり可決されました。

日程第4 請願第2号

議長（波田 政和君） 日程第4、請願第2号巖原測候所を存続させ、機能拡充を求める請願についてを議題とします。

総務文教常任委員長の審査報告を求めます。総務文教常任委員長、小川廣康君。

議員（13番 小川 廣康君） 総務文教常任委員会の審査報告を申し上げます。

平成18年第3回定例会において、会議規則第135条の規定により、当委員会に付託されました請願第2号巖原測候所を存続させ、機能拡充を求める請願についての意見を、同規則第137条の規定により次のとおり審査報告をいたします。

当委員会は9月22日、豊玉支所3階会議室において全委員出席のもと審査を行いました。本請願は、自然の猛威から壱岐対馬地方に生活する住民の生命と財産を守るため、巖原測候所を存続させ、注意報、警報等の予報業務を存続させるよう求める請願であり、全会一致で採択すべきものと決定をいたしました。

以上、総務文教常任委員会の委員長報告といたします。委員皆様の御賛同をよろしくお願いいたします。

議長（波田 政和君） これから、委員長報告に対する質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、請願第2号、巖原測候所を存続させ、機能拡充を求める請願についてを採決します。この採決は、起立によって行います。本案に対する委員長の報告は採択であります。請願第2号を採択することに賛成の方の起立をお願いします。

〔賛成者起立〕

議長（波田 政和君） 起立多数であります。したがって、請願第2号は採択することに決定しました。

暫時休憩します。再開は50分から。よろしくお願いします。

午前10時38分休憩

.....
午前10時50分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

日程第5．陳情第8号

日程第6．陳情第9号

日程第7．陳情第10号

議長（波田 政和君） 日程第5、陳情第8号、「集配局の廃止再編計画に反対する意見書」採択に関する陳情についてから、日程第7、陳情第10号、対馬沿岸及び浅茅湾内の地先において、外国人が夜間釣りをすることを禁止する陳情についてまでの3件を一括して議題とします。

各案について、常任委員長の報告を求めます。総務文教常任委員長、小川廣康君。

議員（13番 小川 廣康君） 総務文教常任委員会の審査報告を申し上げます。

平成18年第3回定例会において、会議規則第37条の規定により、当委員会に付託されました陳情第8号、「集配局の廃止再編計画に反対する意見書」採択に関する陳情についての審査報告を、同規則第103条の規定により、次のとおり報告をいたします。

当委員会は9月22日に、豊玉支所3階会議室において全委員出席のもと審査を行いました。日本郵政公社は、平成19年10月の完全民営化を前に、来年3月までに1,048の集配局を無集配局とする再編合理化を行おうとしています。その大半が、離島や中山間地域地、過疎地の郵便局であります。地域住民の合意と納得を得ない集配局の廃止再編は行わないこと。離島や僻地、中山間地の郵便局を維持し、現在の集配局機能を存続することが陳情の主な事項であり、全会一致で採択すべきものと決定をいたしました。

以上、総務文教常任委員会の委員長報告といたします。議員皆様の御賛同をよろしくお願いを申し上げます。

議長（波田 政和君） 厚生常任委員長、作元義文君。

議員（17番 作元 義文君） 厚生常任委員会の審査報告書。平成18年第3回定例会において、会議規則第37条の規定により、本委員会に付託された案件について、会議規則第103条の規定により報告いたします。

本委員会に付託されました陳情第9号、じん肺根絶を国に求める意見書の提出に関する陳情について、9月22日、平間委員は欠席でありましたが、豊玉支所3階会議室において審査を行いました。

合併前の各町議会の時点で上県町、峰町、美津島、豊玉町議会は、02年の12月議会で、上対馬町、厳原町議会は03年の3月の議会で、それぞれ採択をされております。

陳情の理由としては、21世紀初頭にじん肺を根絶するために、住民の健康と福祉にかかわる課題として、対馬市議会に意見書の採択を求める陳情が行われているものであります。

本委員会としては、陳情の内容がよく理解できることから、陳情の趣旨のとおり採択することに決定をいたしました。

以上で、厚生常任委員会委員長報告をします。議員各位の御賛同をよろしくお願いいたします。議長（波田 政和君） 次に産業建設常任委員長、大部初幸君。

議員（14番 大部 初幸君） 産業建設常任委員会審査報告をいたします。

平成18年第3回対馬市議会定例会において、会議規則第37条の規定により本委員会に付託をされました陳情第10号、対馬沿岸及び浅茅湾内の地先において、外国人が夜間釣りをすることを禁止する陳情についての審査の経過と結果を、同規則第103条の規定により報告をいたします。

当委員会は9月22日、豊玉支所3階会議室にて、宮原委員欠席、市長部局より農林水産部長、担当課長の出席を求め、慎重に審査をいたしました。

この陳情は、対馬の水産資源の保護と外国人が関係する犯罪、密入国や密輸の防止という二つの観点によるものであります。ちなみに昭和42年に制定された外国人漁業の規制に関する法律により、外国人による撒き餌釣りについては禁止されています。夜釣りにおいては、撒き餌を使用しない釣りは考えられませんので、この法律により夜釣りについては、ある程度規制されるものと考えられます。市の対策としては、看板の設置、入国の際のビラ配布、またエージェントを通じての周知等により、外国人に法律の遵守を呼びかけています。

しかしながら、現状は余り改善されず、日を追うごとに地元漁民に対する影響は悪化しているのが現実であり、今後は対馬沿岸海域利用対策協議会により、法律に基づく取り締りの強化を国へ要望していくとのことであります。

また、夜間の外国人の釣りを禁止する条例が制定できるものか、市より県に照会していただいています。その回答によると、外国人といえども憲法で基本的人権である自由権が保障されているため、外国人に限定して権利を制限することはできない。また、国際犯罪を防止することは国の事務と考えられ、地方公共団体の事務と考えることは困難だそうです。

この回答を受けて、市の見解としても外国人に特定した条例の制定は難しいとのことであります。当委員会としては、水産資源の保護、外国人が関係する犯罪の防止は、対馬島民にとって重要な問題であり、内容を十分に精査、検討をする必要があると考えます。

よって、陳情第10号、対馬沿岸及び浅茅湾内の地先において、外国人が夜間釣りをすることを禁止する陳情については、閉会中の継続審査とすることに決定をいたしました。

以上で、産業建設常任委員会の審査報告を終わります。

議長（波田 政和君） これから、委員長報告に対する一括質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、陳情第8号、「集配局の廃止再編計画に反対する意見書」採択に関する陳情についてを採決します。本案に対する委員長の報告は採択であります。陳情第8号を採択することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

議長（波田 政和君） 起立多数であります。したがって、陳情第8号は採択することに決定しました。

陳情第9号、じん肺根絶を国に求める意見書の提出に関する陳情についてを採決します。本案に対する委員長の報告は採択であります。陳情第9号を採択することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

議長（波田 政和君） 起立多数であります。したがって、陳情第9号は採択することに決定しました。

陳情第10号、対馬沿岸及び浅茅湾内の地先において、外国人が夜間釣りをすることを禁止する陳情についてを採決します。本案に対する委員長の報告は閉会中の継続審査であります。陳情第10号を閉会中の継続審査することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

議長（波田 政和君） 起立多数であります。したがって、陳情第10号は閉会中の継続審査することに決定しました。

日程第8．議案第130号

日程第9．議案第131号

議長（波田 政和君） 日程第8、議案第130号、工事請負契約の締結について（対馬市情報基盤整備工事（第1工区））から、日程第9、議案第131号、工事請負契約の締結について（対馬市情報基盤整備工事（第2工区））までの2件を一括して議題とします。

各案について提案理由の説明を求めます。政策部長、松原敬行君。

政策部長（松原 敬行君） 議案は追加議案になっておりますので、よろしくお願いたします。

議案第130号について、提案理由の説明を申し上げます。

本件は、対馬市情報基盤整備工事（1工区）にかかわる工事請負契約の締結であります。恐れ入りますが、お手元に配付されております入札結果一覧表がございますが、後ろから4ページを見ていただきたいというふうに思います。

その入札結果一覧表のとおり、去る9月14日、10社、1社辞退ではございますが、による一般競争入札を執行いたしました結果、西日本電信電話株式会社福岡支店長、小椋敏勝氏が一金5億4,000万円で落札しましたので、これに消費税相当額を加算した額の一金5億6,700万円で、去る9月20日、同氏を相手方とした工事請負仮契約を締結いたしておりますので、本契約を締結いたしたく、議会の議決を求めるものであります。

工事の概要につきましては、添付の参考資料及び図面を見ていただきたいとします。図面につきましては、1工区、2工区兼用とさせていただいております。赤い色で囲んでいる部分が、その図面で1工区でございまして、東沿岸部では峰町櫛、西沿岸部では豊玉町廻から、北部の地域でCATV網の幹線及び支線となる伝送路、約3,124キロメートルを光ケーブルにより布設するものであります。このことによりまして、漁村コミュニティー事業で計画している当工区内のすべての漁業集落までの光ファイバーケーブルが布設されることになり、来年度以降については、各世帯までの引き込み工事を行うこととなります。

なお、工期につきましては、平成19年3月26日までといたしております。

以上で、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

次に、議案第131号について、提案理由の説明をいたします。

本件は、対馬市情報基盤整備工事（2工区）にかかわる工事請負契約の締結であります。これも別冊の入札結果一覧表の後ろから2ページを見ていただきたいというふうに思います。

その入札結果一覧表のとおり、去る9月14日、10社、2社辞退ではございますが、による一般競争入札を執行しました結果、株式会社協和エクシオ九州支店、支店長、井植忠男氏が一金4億8,000万円で落札しましたので、これに消費税相当額を加算した額の一金5億400万円で、去る9月20日、同氏を相手方とした工事請負仮契約を締結しておりますので、本契約を締結いたしたく、議会の議決を求めるものであります。

工事の概要につきましては、添付の参考資料及び図面を見ていただきたいとします。その図面では、青色で囲んでいる部分が2工区でございまして、東沿岸部では峰町櫛付近、西沿岸部では美津島町尾崎から南部の地域でCATV網の幹線及び支線となる伝送路約280キロメートルを光ケーブルにより布設するものであります。

このことによりまして、漁村コミュニティー事業で計画している当工区内の大方の漁業集落ま

で光ファイバーケーブルが布設されることになり、来年度以降の伝送路工事では、残る一部の支線整備と各世帯までの引き込み工事を行うこととなります。

なお、工期につきましては、平成19年3月26日までといたしております。

以上で、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定を賜りますようお願い申し上げます。

議長（波田 政和君） これから質疑を行います。11番、宮原五男君。

議員（11番 宮原 五男君） この第1工区の入札と第2工区の入札の間に、第1工区は西日本電信電話株式会社福岡支店が落札されております。第2工区になったら、これ辞退されととります。辞退はどのような状況で辞退されたか。その経過がわかりましたら、ちょっとお答え願いたいんですが。

議長（波田 政和君） 政策部長。

政策部長（松原 敬行君） 辞退の状況でございますけれども、第1工区落札決定後、第2工区の入札に入るわけですが、その段階で辞退届を出されてあります。

以上でございます。会場でということ。

議長（波田 政和君） 21番、中原康博君。

議員（21番 中原 康博君） いずれも2件とも計算機手元に置いておりませんが、ざっと計算しても80%から八十一、二%のこの低入札調査判断価格ですか、一番下の欄のところに入ると思いますが、落札価格がです。だから、落札価格、市役所が決めてある分です。要するに、土木工事においてはこのごろの話では66%とか、最低がとってあるとかいう話も聞いておりますが、日ごろ皆さんがとってあるのは、70%から75%ぐらいであるのかかわらず、こういった大きな工事がどうして80%とか八十二、三%の掛け率になっていくものか。こういった判断基準でしてあるものをお尋ねします。

議長（波田 政和君） 政策部長。

政策部長（松原 敬行君） これは低入札価格調査制度の中で、どの業種に限られませず、低入札調査基準価格そして判断価格というのが設定をされてあります。したがって、今、議員がおっしゃいますように、工事の業種によっては上がり下がりがあるかもしれませんが、その一定の基準に基づいてこれは算定をいたしております。

議長（波田 政和君） 21番、中原康博君。

議員（21番 中原 康博君） 簡単に言いますと、市長、島民の島内におる業者を苦しめて、言葉が悪いけど、島内の業者は苦しくなる入札の状況において、島外の業者にはちょっと楽な入札状況やないかなと私は思うんですが、どうですか。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） どういう意味ですか。島内における業者を苦しめて、島外の業者を、それはどんな意味ですか。私はよくわかりませんが。

これは、皆さんが入札されるんでしょう。入札されて80何%か90何%、70%、皆さんが結果がこうじゃないですか。この分だけが80何%ということないじゃないですか。低入札はひとつも変わりませんよ、だれがやっても。入れた人が80何%にしてこれがなったということでしょう。違うんですか。

それをあなた、私が何を島内の業者をいじめて島外の、そんなおかしな誤解のある話をしたら笑われますよ。低入札制度、これひとつも変わらんじゃないですか、全部。ただ、対馬市の人のが下の方で争う。この人らは80何%で争ったということだけのことでしょう。私どもわかりませんよ、それは。応札される人のことです。それをとらえて、皆いつでもそうじゃないですか。島内はどうだ、島外を優先するとか。そんなおかしな話がまかり通るんですね。一つも制度変わってませんよ。応札された人が80%という、あなた計算機持ってきてないと言うけれども、それでできたとすれば、そういったことじゃないですか。

何もこれは島外の人には低入札で上げたりとか下げたりとか、そんなことできるはずがないじゃないですか。低入札調査制度のもとでやってるんですから。違いますか。それを差別をしてるじゃ、何かあれば島内をどうしてる、島外を優先、その話がまかり通り。非常に心外に思います。以上です。

議長（波田 政和君） 21番、中原康博君。

議員（21番 中原 康博君） 市長、当初のおれがという言葉は、ちょっとふさわしくないと思います。その辺ちょっと気をつけていただきたいと思います。

私はそういったふうに判断しましたので質問をしておるわけですから、行政においてそういった掛け率的に違うんじゃないかなと思ったから質問しとるわけですから。

以上です。

議長（波田 政和君） ほかに質疑はありませんか。2番、永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） 1点だけお尋ねいたします。

昨年そして今回と、このケーブルテレビ事業について入札がされておるわけですが、当初の計画は70億9,000万というような数字が上がっておったようでございますが、こういう入札の結果、こちら辺を見て最終的にどちら辺の事業費に落ち着くのか。こちら辺に見通しがあれば、お答えをいただきたいと思います。

議長（波田 政和君） 政策部長。

政策部長（松原 敬行君） お答えいたします。

確かに、今、議員の皆様方にも御提示をしております金額は、事業費で71億というお話をし

ております。昨年からハード事業に入っておるわけでございますが、入札執行残がいろいろ出てきております。ただ、今の段階でその辺がどれだけ圧縮されるかということは、ちょっとはつきりまだいたしておりません。

ただ、委員長報告等でもお話がっておりますように、努めて事業費を圧縮していく方向でいろんな積み上げをさせていただいておりますので、よろしく御理解をお願いいたします。

議長（波田 政和君） 2番、永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） この前の一般質問で、見直しについていろいろ提案をさせていただいたところでございますが、しかしこれはなかなかその見直しをされるという、そういう状況にないと思います。そういう中から、もう一つだけお尋ねをいたしますが、一般質問でも委員会でしたか、お尋ねをいたしましたように、要するに対馬は防災無線網がすべて整備をされております。そういう中で、あえて音声告知放送、そういう機器を設備されるということでございますが、これはいろいろ聞くところによりますと、1台、大体4万円ぐらいするそうです。1万6,000世帯、6億4,000万というような数字が上がるわけでございますが、そこら辺は果たして必要な。見直しとすれば、そこら辺をひとつ御検討いただきたいというふうに思っておりますが。

議長（波田 政和君） 市長。

市長（松村 良幸君） この前も担当部長が話したと思いますが、音声告知放送の機器はそういったことだろうと思います。これは、かつて最初、美津島地区でやったときも、これは自治体の所有にして貸与という形をとっておりまして、そういったので当時は過疎債70%ですから、仮に4億かかったとすると2億8,000万、だから1億2,000万ということになります。そういう中でございまして、これには全部IP電話の端末にもこれが入っていきます。対馬の島内の電話料金がゼロ円になるとか、あるいは室内も室外もなんです、室外はトランペットありましようけども、そういうひとつの音声告知というのみにとどまらず、それがセットになっているもんですから、防災無線で以上の効果も出ますし、あるいはそういう機器が一体化しているから、それがないと意味がないと思っております。この前お話したとおりです。

議長（波田 政和君） 永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） この前もインターネットとか、あるいはIP電話、そこら辺に接続をするため、どうしてもそういう機器が必要だということのようでございますが、私は決してそうは思いません。その音声告知機器がなくても、そういうことはできるんじゃないかなというふうに、素人ですけども、そういうふうに思っております。

そこで、今の防災無線もこれが完成をしたとき、どういうふうになされるのか。そこら辺を1点お尋ねをいたします。

議長（波田 政和君） 政策部長。

政策部長（松原 敬行君） その辺につきましては、現在詰めておるところでございます。防災行政無線の方がちょっと総務部の方でございますので、なるべく不都合が出ないような形でちょっと調整をしてみたいと思っております。

議長（波田 政和君） 暫時休憩。

午前11時19分休憩

.....
午前11時20分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

市長。

市長（松村 良幸君） 中原議員の質問で、自席に座っている中から、だれかほかの人にしてるのかなと思って、どうも私でということでおれねと言ったのが、「おれ」というのが議会にふさわしくない「おれ」という言葉について御指摘がありましたので、陳謝をいたしたいと思います。今後、そういったことのないように気をつけたいと思います。

したがって、先ほどの発言前の座ったときの「おれね、おれがやるのね」という意味で「おれね」ち言うたのは、不穏当だということでございますので陳謝をします。あわせて今後気をつけたいと思います。

議長（波田 政和君） ほかに質疑はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第130号から議案第131号は、会議規則第37条第2項の規定によって、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、議案第130号から議案第131号は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから、議案第130号に対する討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第130号、工事請負契約の締結について（対馬市情報基盤整備工事（1工区））を採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、議案第130号は原案のとおり可決されました。

これから、議案第131号に対する討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第131号、工事請負契約の締結について（対馬市情報基盤整備工事（2工区））を採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、議案第131号は原案のとおり可決されました。

日程第10．諮問第2号

日程第11．諮問第3号

議長（波田 政和君） 日程第10、諮問第2号、人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて、及び日程第11、諮問第3号、人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについてまでの2件を一括して議題とします。

各案について、提案理由の説明を求めます。市長。

市長（松村 良幸君） 諮問第2号の提案理由の説明をいたします。

諮問第2号は、人権擁護委員の推薦についてであります。本案は、峰町志多賀710番地にお住まいの菅野慶全氏を人権擁護委員の候補者として法務大臣に推薦するため、人権擁護委員法第6条第3項の規定によりまして、議会の意見をお願いするものであります。

菅野氏は、平成3年より人権擁護委員を5期務めていただいております。この間、教育や人権についてのさまざまな活動をなされておられることは、よく皆さん御承知のとおりと思います。人格、識見とも豊富な方で、まさに適任だと思っております。今回、任期満了によりまして、引き続き推薦することを適当と認めるものであります。どうぞよろしくをお願いをいたします。

続きまして、諮問第3号でございます。

諮問第3号は、同じく人権擁護委員でございますが、本案は厳原町久田381番地1にお住まいの渡辺久美子氏を人権擁護委員の候補者として法務大臣に推薦するため、人権擁護委員法第6条第3項の規定によりまして、議会の意見をお願いするものであります。今回、対馬区域の定数が1名増員されることになったために、新たに推薦するものであります。

渡辺久美子氏は、昭和46年より平成10年までの26年間、対馬島内の小中学校の養護教諭として児童生徒の指導に当たってこられました。退職後は、島外あるいは島内小中学校の教育相談員あるいは裁判所調停委員などを歴任されておりまして、教育や人権についての造詣の深い、また豊富な経験を擁する方とっております。人権擁護委員として、その人格、人格、識見ともふさわしい方だと思っております。どうぞあわせてよろしく願いをいたします。

議長（波田 政和君） これから、諮問第2号について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

討論を省略します。

お諮りします。本案は、菅野慶全氏を適任とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、諮問第2号は菅野慶全氏を適任とすることに決定しました。

これから、諮問第3号について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

討論を省略します。

お諮りします。本案は、渡辺久美子氏を適任とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、諮問第3号は渡辺久美子氏を適任とすることに決定しました。

暫時休憩します。開会は13時から。

午前11時27分休憩

午後1時00分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

それでは、観光商工部の岩佐さんからあいさつの申し出がっておりますので、しばらく時間をもらいたいと思います。市長。

市長（松村 良幸君） 今度、条例で可決をしていただきました件でございますが、本人をきょう呼んでおりますので、10分ほど自己紹介をかねて思いとか抱負を込めて、ごあいさつさせたいと思いますので、しばらくよろしく願います。（拍手）

（岩佐 俊彦君） ただいま御紹介いただきました岩佐俊彦でございます。私は、本年8月、

9月、この2カ月間、対馬市役所の嘱託職員として観光商工部に在籍しておりました。本日は発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。この機会に自己紹介と私の職務及び取り組みと私の思いを伝えさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介ですけれども、昭和26年11月20日生まれ、上県町佐須奈に生まれました。54歳でございます。佐須奈小学校、中学校、それから上対馬高等学校を卒業し、昭和49年には西南学院大学経済学部を卒業いたしました。同年、近畿日本ツーリストに入社をいたしまして、本年の6月の30日まで32年間、近畿日本ツーリストに勤務いたしました。

勤務の内容は、主に営業畑では企画提案型の旅行を、特に海外旅行を販売いたしました。それから、同じ旅行者に対する販売、旅行代理店業の販売もいたしました。それから、会議の誘致等もいたしました。また、本社機能におきましては、海外仕入れの航空仕入れを担当いたしました。それから、中国事業開発部に1年在籍いたしました。海外勤務も2回ほど経験しております。オランダのアムステルダム、こちらではオペレーターとして、またサイパンではハファダイ・ビーチホテルの取締役総支配人として勤めてまいりました。

このような経過をもちまして、本年、松村市長より「対馬に来て、あなたの経験を生かして対馬の発展に貢献しないか」というお声をかけていただきましたので、6月30日に退路を断ちまして、対馬にやってきました。

私が今、8月、9月は嘱託として勤務しておりますけれども、こちらは市長補佐官として勤務しております。任命されております仕事は、企業誘致と観光振興でございます。もう皆様御存知のとおりでございます。企業誘致に関しましては、日本の特に対馬の定住人口の減少ということに対する対応として、雇用の創出を心がけるために頑張りたいと思っております。また一方、観光旅行の振興に関しましては、流動人口をふやすことによって、物産関係の販売等の貢献に、また旅行関係者の方々のために貢献できるものと思っております。

このような仕事でございますけれども、特に対馬が抱えております問題に関しては、新総合計画にもございますとおり、重要な根幹の部分であると私は認識しておりますので、ここをしっかりと押さえて頑張っていきたいと思っております。

具体的な業務でございますけれども、企業誘致に関しましては観光商工部の方でチームを組めます。このチームによりまして、企業誘致のターゲットとしては、総合商社をターゲットにしたいと思っております。また、対馬の商品、生産品、これにつきましては生鮮品が非常に多くございますので、この生鮮3品の総合卸等についても、ぜひターゲットとして考えております。また、食品関係は非常に重要な食の安心・安全という問題があり、対馬の産品はその面でも非常に優れているものと確信しております。そういう意味で、食品企業についての誘致もターゲットにしております。

このようなターゲットに関しては、対馬の自然をしっかりと守れる企業であること、また、対馬で生産するものを加工したり商品化する、そのような企業であること、また、対馬の観光振興に役立つ企業であること、こういうふうなことを企業の誘致のときの留意点として考えております。

観光振興につきましては、今現在、観光交流課の方で既に行われている問題もたくさんございますので、私としては、今現在観光業界で問題となっている問題についての取り組みをしてみたいというふうに思っております。

三つございまして、一つは観光業の導入でございます。観光業の誘致でございます。もしくは地場産業にぜひやっていただきたいという観光業がございます。それは今、国土交通省が検討しております特定第3種旅行業という業種でございます。これは、今までの旅行業というのは、その地から海外とか、その地以外のところに住民の方を送客するという、そういう業務でございますが、この新しい業態は、日本からもしくは海外から対馬に御客様を呼び込むという旅行社でございます。ぜひこのような会社を立ち上げるか、もしくは既にある会社にぜひ御協力をいただいて、このような機能を対馬の旅行業の中に入れたいというふうに思っております。

また、宿泊施設については、これはかなり数としても、それからグレードとしても少し物足りないというふうに私としては考えております。そういう意味では、特に修学旅行等、大きな団体とか高級志向の御客様とか、それからあと旅行業者の要望に応じることができる宿泊施設、このようなことを考えております。ちょっと難しい話ですけれども、現在の旅行業というのは、アロケーションという部屋を確保してて直前まで売るというものでございます。これは、なかなか部屋数が多くないといけないことでございますので、このようなことをぜひ問題解決を図っていきたいというふうに思っております。

あとは、対馬として楽しんでいただける施設、このようなものをぜひ誘致していきたいと思っておりますので、ゴルフ場等ができればいいのではないかとこのように思っております。ターゲットとしては考えております。

以上のことを私の業務として今、進めているところでございますけれども、最後になりますが、役目を果たすというのは、大変重大なことでもありますし、大変難しい問題であるというふうに私は認識しております。

そこで、私が在籍しております観光商工部それから関係する市役所の各部、そして各支所、この間での企業誘致及び観光振興に関する施策を、そしてコンセンサスを取りながら、当議会及び関係機関、民間企業、民間団体、市民の皆様の御協力を得て、また支援をいただいて活動しない限り、この役目を果たすことはできないと私は思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。（拍手）

議長（波田 政和君） 市長、よろしいですか、もう。市長。

市長（松村 良幸君） ということでございますので、任期つき、期限つきの市長補佐官でございますが、3カ年という期限を切っております。この間に幾つかのものが、もう既に相当のところまでいってる部分が幾つもありますので、ぜひ期待していただいていたと思います。どうぞよろしくお願いたします。

日程第12・発議第11号

議長（波田 政和君） 続きまして、日程第12、発議第11号、韓国、馬山市議会の「対馬の日」条例制定に伴う抗議に関する決議についてを議題とします。

本案について、提案者の説明を求めます。12番、大浦孝司君。

議員（12番 大浦 孝司君） 発議第11号を朗読いたします。

平成18年9月28日、対馬市議会議長、波田政和様。提出者、対馬市議会議員、大浦孝司、賛成者、対馬市議会議員、永留邦次、同じく阿比留光雄、同じく宮原五男、同じく中原康博。

韓国馬山市議会の「対馬の日」条例制定に伴う抗議に関する決議について。上記の議案を別紙のとおり、会議規則第14条の規定により提出します。提案理由、韓国慶尚南道馬山市議会は、2005年3月18日臨時議会本会議において「対馬の日」条例を制定したことは御承知のとおりであります。その背景には、島根県議会が領有権を主張した「竹島の日」を制定したことに端を発し、一方、韓国が主張する独島の領有権は互いに譲らず、日韓の長い歴史の中で懸案となっているところであります。

このたびの馬山市議会の条例制定は、対馬島民にとって驚くと同時に怒りを覚えるところであります。条例制定に伴う根拠は明確ではなく、15世紀ごろ起きた倭寇と朝鮮軍の争いから、一方的解釈により現在の位置づけになったものと推察されますが、とても国際的的重大な判定をあいまいな根拠で公に条例化することは、対馬島民として断じて許すことができないところであります。したがって、馬山市議会に対し、「対馬の日」条例制定に伴う抗議の声明を行うものであります。

別紙、韓国馬山市議会の「対馬の日」条例制定に伴う抗議声明に関する決議、2005年3月18日、馬山市議会の「対馬の日」条例制定について、日韓の過去の歴史認識の中で、対馬が韓国の領土であったことを歴史学の中で証明できるものは全くなく、根拠のない判断に基づく議決である。したがって、対馬市議会として、馬山市議会における「対馬の日」の条例の廃止を求めるものである。以上、決議する。平成18年9月28日、長崎県対馬市議会。

なお、議決の後、馬山市議会の方へこの条文を送る方向で考えております。

以上、皆さんの御賛同をよろしくお願いたします。（拍手）

議長（波田 政和君） これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから発議第11号韓国馬山市議会の「対馬の日」条例制定に伴う抗議に関する決議についてを採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、発議第11号は原案のとおり可決されました。（拍手）

日程第13．議員派遣について

議長（波田 政和君） 日程第13、議員派遣について議題とします。

議員派遣につきましては、お手元の配付のとおり、行政調査のための議員派遣であります。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、議員派遣は派遣することに決定しました。

暫時休憩します。再開は14時からです。よろしくお願いします。

午後1時15分休憩

.....
午後2時00分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

お諮りします。各議員へ配付のとおり、追加議事日程として議題とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、議事日程に追加して議題とすることに決定しました。

追加日程第1．発議第12号

追加日程第2．発議第13号

追加日程第3．発議第14号

議長（波田 政和君） 追加日程第1、発議第12号、厳原測候所を存続させ、機能拡充を求める意見書についてから、追加日程第3、発議第14号、じん肺根絶を求める意見書についてまでの3件を一括して議題とします。

各案についての提出者の趣旨説明を求めます。総務文教委員長、小川廣康君。

議員（13番 小川 廣康君） ただいま議案となりました発議第12号、厳原測候所を存続させ、機能拡充を求める意見書について、会議規則第14条の規定により、上記の議案を別紙のとおり提出いたします。平成18年9月28日、提出者、対馬議会議員小川廣康、賛成者、同作元義文、賛成者、同大部初幸。対馬市議会議長波田政和様。

厳原測候所を存続させ、機能拡充を求める意見書（案）、厳原測候所は、壱岐・対馬の自然現象を24時間体制で監視し、注意報・警報や気象情報などの防災気象情報を発表しています。こうした防災気象情報は、自然災害による被害を未然に防ぎ、島民の生命と財産を守る生命線です。また、漁業を初めとした基幹産業である農業・林業・運輸・観光等の興隆にも役立っています。このような厳原測候所が発表する防災気象情報は、農業、漁業従事者や島民にとって欠くことのできないものであり、これからもより一層のきめ細かい正確な情報の提供を望んでいるところであります。

このような中、平成18年度から5年間で測候所を原則廃止する方針が決定されました。これまでも気象庁は、全国に14カ所あった分担気象官署の予報業務の廃止を推し進めてきており、厳原測候所もその可能性が高まってきていると聞き及んでいます。さらに、今回の政府の方針によって、厳原測候所の廃止の可能性が浮上し、市としましては極めて遺憾と考えるところであります。

今までの壱岐・対馬の防災気象情報は、地元設置された厳原測候所が発表してきたからこそ、島民の期待にこたえた適時適切な発表ができたと考えています。厳原測候所で現在発表している防災気象情報が廃止されると、気象の変化が激しい離島にあって、漁船の安全操業のためのきめ細かな情報提供が得られなくなります。また、壱岐・対馬の防災機関や住民に適切な防災気象情報を提供し、解説を行う業務が大きく後退する恐れがあります。気象庁は、国の防災機関として、大都市と同等の手厚い施策をすべきであります。私たちは、的確で充実した防災気象情報を提供できるよう、厳原測候所を地域の「気象・防災センター」として、むしろ充実強化することが必要だと考えています。よって、政府においては、離島における自然災害から地域住民の生命と財産を守るため、以下の事項の実現に特段の御尽力を求めるものであります。

記。1、厳原測候所を存続させること。2、厳原測候所の防災気象情報を存続させること。3、

厳原測候所の予報官を増員するなど、地域の気象特性や産業に適したきめ細かな防災気象情報が提供できる体制にすること。以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。平成18年9月28日、長崎県対馬市議会。提出先は記述のとおりでございます。

続きまして、発議第13号、集配局の廃止再編計画に反対する意見書について、会議規則第14条の規定により、上記の議案を別紙のとおり提出します。平成18年9月28日、提出者、対馬市議会議員小川廣康、賛成者、同作元義文、賛成者、同大部初幸。対馬市議会議長波田政和様。

集配局の廃止再編計画に反対する意見書(案)、日本郵政公社は、2007年10月の完全民営化を前に、来年3月までに1,048の集配局を無集配局とする再編合理化を行うとし、早い局では、今年9月から実施しようとしている。無集配局とされる1,048の大半は、離島や中山間地、過疎地の郵便局であり、地域住民の日常生活に必要な郵便局の集配や金融サービスなど、生活基盤サービスを提供するにとどまらず、安心・安全なまちづくりに貢献するとともに地域住民の交流の場としても活用されている。地域から若者が減少し、高齢化が急速に進むもとで、地域の郵便局の存在はますます重要となっている。

採算性のみを重視したこの合理化計画が実施されると、郵便物の配達にとどまらず、貯金や保険、「ひまわりサービス」など現在の郵便局サービスが低下することとなり、住民の不安が高まっている。また、郵便局機能の縮小は、郵便局員や家族の減少にもつながり、地域経済に与える打撃は極めて大きく、地域の過疎化はもちろん、地域破壊につながることも懸念される。

このような地域の実情と住民の声を無視した無計画で唐突な統廃合計画は、非現実的、非合理的であり、真の行政改革にも逆行するものである。また、民営化すれば、「サービスがよくなる」「サービスは低下させない」などの国会答弁にも反するものであり、到底認めることができない。よって、政府においては、地域住民の合意と納得を得ないもとで集配局廃止が行われることがないように、以下の事項の実現に特段の御尽力を求めるものであります。

記。1、地域住民の合意と納得を得ない集配局の廃止再編は行わないこと。2、離島や僻地、中山間地の郵便局を維持し、現在の集配局機能を存続すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。平成18年9月28日、長崎県対馬市議会。提出先は記述のとおりでございます。よろしく御賛同のほどお願い申し上げます。

議長(波田 政和君) 厚生常任委員長、作元義文君。17番。

議員(17番 作元 義文君) 発議第14号、じん肺根絶を求める意見書について、会議規則第14条の規定により、下記の議案を別紙のとおり提出します。平成18年9月28日、提出者、対馬議会議員作元義文、賛成者、対馬議会議員小川廣康、賛成者、対馬市議会議員大部初幸。対馬市議会議長波田政和様。

じん肺根絶を求める意見書について（案）、じん肺は人類社会において最高にして最大の職業病であり、現在日本において被害者が最も多く発生している職業病であります。肺に吸収された粉塵による病変は次第に進行し、肺機能を低下させるとともに、気管支炎や気胸、結核、肺がん等多くの合併症を引き起こします。また、アスベスト（石綿）被爆者のじん肺も大きな社会問題になり、政府、自治体、企業もその対策に追われました。じん肺そのものの治療法はなく、死に至ることからも罹患者とその家族を苦しめる悲惨な病気です。アスベスト被爆者に多発する中皮腫は、発症後、短期間で死に至る恐ろしい病気として日本列島を震撼させました。

じん肺発生の職場は、金属鉱山、炭鉱、造船、トンネル、建設産業などの作業現場であり、いずれも日本経済の高度成長に貢献した基幹産業の職場です。また、アスベストは、加工しやすく便利な素材として国民生活の至るところで使用されてきました。現在、日本社会において、じん肺は、経済成長の負の遺産と言えます。じん肺予防を目的にしたじん肺法制定後46年になろうとしている今日、なお、年間1,000人余りのじん肺重症患者（労災補償対象者）が発生している現実にあります。政府関係機関は、それら産業に発生しているじん肺問題の解決のために、じん肺加害企業、業界に対する適切な指導を含む対策を講じるよう要望します。同時に、早期に確実にじん肺を根絶するために、粉塵測定の義務づけと曝露時間の制限を盛り込んだ法改正を含む諸対策を実施することを要請するものです。また、本年7月に、東京地裁、熊本地裁で国の規制権限不行使を違法としたトンネルじん肺訴訟の判断に従い、じん肺防止策を講じていただくことも要請いたします。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出いたします。平成18年9月28日、長崎県対馬市議会。提出先は下記に記述のとおりであります。

議長（波田 政和君） これから、各案に対する一括質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから発議第12号に対する討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから発議第12号、巖原測候所を存続させ、機能拡充を求める意見書についてを採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、発議第12号は原案のとおり可決されました。

これから発議第13号に対する討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから発議第13号、集配局の廃止再編計画に反対する意見書についてを採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、発議第13号は原案のとおり可決しました。

これから発議第14号に対する討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから発議第14号、じん肺根絶を求める意見書についてを採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、発議第14号は原案のとおり可決されました。

暫時休憩します。5分間休憩します。

午後2時14分休憩

.....
午後2時19分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

追加日程第4 . 発議第15号

議長（波田 政和君） 追加日程第4、発議第15号、対馬市議会運営委員の辞任勧告決議についてを議題とします。

地方自治法第117号の規定により、宮原五男君の退場を求めます。（「議長、ちょっと時間もらえますか」と呼ぶ者あり）休憩でよろしいですか。（「いや本会議で。退場する前に皆様方に謝罪を。よろしいですか」と呼ぶ者あり）はい。許可します。

議員（11番 宮原 五男君） 9月21日の全協の中でありますが、私、11番議員、宮原五男は、議会人としてのモラルに欠けた行動をとったことを、議会はじめ理事者皆様、島民の皆様方に深く陳謝いたしたいと思ひます。

今後、私も議会人としてのモラルなり勉強を精進しまして、私自身も自分の性格というものを

必死に変える努力をしてみましたが、まだ不徳のいたすところでございます。今後、議会人として精進しまして、より一層の議会人となるよう頑張っていきたいと思っております。このたびはどうか皆様方に対して迷惑をかけました。よろしく申し上げます。

〔宮原 五男君 退場〕

議長（波田 政和君） 本案について、提出者の提案理由説明を求めます。2番、永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） 発議第15号につきまして、提案理由を御説明いたします。

平成18年9月28日、対馬議会議長波田政和様、提出者、対馬市議会議員永留邦次、賛成者、対馬市議会議員初村久藏、同扇作工門、同大浦孝司、同阿比留光雄。

対馬市議会運営委員会委員の辞任勧告決議について、上記の議案を別紙のとおり、会議規則第14条の規定により提出をいたします。

対馬市議会運営委員会委員の辞任勧告決議（案）について、本議会は、対馬市議会運営委員宮原五男君に対し、次の理由により議会運営委員の辞任を勧告することを決議する。

理由、平成18年9月21日、第3回対馬市議会定例会本会議終了後の全員協議会において、議長波田政和君と議会運営委員長の宮原五男君との間に生じた議員としてあるまじき行為は、神聖なる議会議場で常軌を逸脱した振る舞いである。たとえ全員協議会と言えども、だれ一人として理解しがたく、住民の代表たる議員として許されざる行為である。そもそも議会は、住民の代表である議員をもって構成し、その権威と秩序の維持、及び議員としての品位の保持を強く求められているところである。それぞれが最もこれを意識し、住民の代表者たるにふさわしい議員であることを自覚し、行動しなければならないことは当然のことであり、地方自治法でも会議規則においても規制されているところでもあります。このようなことを考えあわせるとき、両君の係る行為はいかなる理由、弁明がされようとも正当化されず、現在の置かれた職責に自覚がないことを意味するものである。よって、本日限りで議会運営委員を辞任すべきものと勧告するものであります。以上、決議する。平成18年9月28日、対馬市議会。

こういう形で同僚議員に対して辞職を勧告をするということを、非常に忍びなく断腸の思いであります。しかし、議会秩序、あるいは議員の品位、こういったものを維持していくためには、どうしてもこういう提案が必要であろうというふうに考えております。どうぞ全会一致で可決をしていただきますようお願いをいたします。

議長（波田 政和君） これから質疑を行います。3番、小宮教義君。

議員（3番 小宮 教義君） 1点お尋ねいたします。

この理由書の中で、上から2番目ほどのところに「議会運営委員長宮原」という活字と、それと一番下の方に「議会運営委員」という2つの文字があるわけですが、宮原議員は委員長をされておられるのか、それとも委員としておられるのかをお尋ねいたします。

議長（波田 政和君） 2番、永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） お答えいたします。

これは「議会運営委員長の宮原五男君」というこの記載の仕方、そして最後の段階の「議会運営委員」というような「長」を除いて記載をいたしておりますが、要するに、議会運営委員はその互選で委員長となるわけでございますので、こういうあらし方になろうかと思えます。

議長（波田 政和君） 3番、小宮教義君。

議員（3番 小宮 教義君） 委員長をやめるという場合には、例えばその委員を、各3つの常任委員会がございますが、委員をやめてほかのところに行く場合には議会の議決が要るわけですが、委員長をやめるといときは、議会運営委員会に諮って委員長が副委員長にやめますよと、そしてやめた後、ただ単なる委員になって、そしてやめるときにはこういうふうな形に出るわけでございますが、その辺の御理解はどのようにいたしております。

議長（波田 政和君） 2番、永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） ここで議会運営委員を辞任すべきものと勧告をするということになりますと、これが現在の委員長である宮原議員が辞任をされるということになりますと、当然委員長もやめるといことになるわけでございますので、本人が辞職して初めて今小宮議員が言われるそういう手続になってこようかと思っております。

議長（波田 政和君） よろしいですか。19番、島居邦嗣君。

議員（19番 島居 邦嗣君） 一つお伺いいたします。

私たちの会派としては、この議運の委員長は、6月議会から言っているとおり、全協で決まったことを守ってもらえば、6月議会からもうその職はないということで理解しているんですが、その点から考えたら、勧告決議案じゃなくて懲罰委員会、暴力ざたを起こしたとか器物破損をしたとかそういうことになれば、懲罰委員会じゃないかと私は思うんですが、その点のとらえ方はどういうとらえ方をされてあるか。

議長（波田 政和君） 2番、永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） まず、最初の御質問でございますが、6月段階からその協議会でやめると、やめろとかいうそういう話があったことを私も承知をいたしております。しかし、その前の段階から議会運営委員会としての報告がございました。これは2年間、来年の5月いっぱいまでは、今の職責にそれぞれが職責で全うしていこうではないかというそういう話を私は記憶をいたしておるところでございますので、ただいかんせん、本人が辞任をしない限りは、そこら辺は全協でいろいろ議論をしてもむだなことだろうと思っております。要するに、そこら辺は本人の自覚であろうというふうに考えております。

それからもう1点、その懲罰というようなそういうことでございますが、これも具体的に懲罰

というような形でありますと、これは法的にいろいろ段階がございますね。最悪の場合には、議員職を失わせしめるというふうなそういう法的な拘束力もあるわけでございますが、今回、私が考えましたことは、そこまで至らない、要するにそこまでの暴力的な行為ではなかったというふうな判断の中から、この辞任勧告決議でよろしいのではないかなというふうなそういう考え方で提出をいたしております。

議長（波田 政和君） 3番 済みません。ちょっと置きます。19番。

議員（19番 島居 邦嗣君） そしたら、自分の考え方ということになれば、この勧告決議案もそれだけのことでないんですよ。そしたら、自分に任せるのが筋じゃないかと私は思うんですが。その前回の話があってそれも自分の出さによいかんと、全協の守りを守らんでそれを何もせんでもいいと、自分の意思に任せると、今度もそちらを任せたらどうでしょうか。

議長（波田 政和君） 2番、永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） 本来、こういったものを出す前に、やはり議場の中でそういうことがあったわけですから、それぞれが自発的に辞任なり、やはりそういうやっぱり判断が必要だろうと思っておりますが、しかし、そこまでは至りませんので、ただ私は、この提案理由の中に書いておりますように、やはりその議会としての権威とか、あるいは秩序の維持とか、あるいは品位の保持、やはりここら辺の問題については、全員に注意喚起をする意味においても、このことは必要ではなからうかなというふうに考えております。

議長（波田 政和君） 3番、小宮教義君。

議員（3番 小宮 教義君） 本当、議会は神聖な場でございますから大事にせんといかんと思っておりますが、ここに書いてあるように、「神聖なる議会議場において常軌を逸する」ということですから、振る舞ったちゅうことですよね。どういう状態で振る舞ったのか。たしか何か物を投げたちゅう話でございましたが、どういう状態で物を投げてどういう状態になって逸脱をしたのか、事細かく、詳細、そのときの行動なり発言なりを御説明をお願いします。

議長（波田 政和君） そしたら明確にもう一度だけお願いしますね。

議員（2番 永留 邦次君） お答えをいたします。

皆さんの前であった行為でございますので、事細かくその説明をする必要はなからうかというふうに思っております。それでその見た光景をそれぞれがまた受けとめ方も違うかと思っておりますが……（「ここは議会ですよ」と呼ぶ者あり）何。（「皆さんにわかるように」と呼ぶ者あり）わかるように説明してるじゃん。皆さんが見ておるわけですから、その説明はする必要はないというふうに思っております。

議長（波田 政和君） ではもうよろしいんじゃないですか。

ほかにどなたかございませんか。6番、小宮政利君。

議員（6番 小宮 政利君） 私もその日はちょっと病欠で欠席をしております、今の話を聞いておりますと、本当にどういう状態だったのか全く把握しておりませんので、先ほど3番議員も言われましたように、どういう状態かをもう一度、事詳しく提案者にお願いをしたいと思いません。

議長（波田 政和君） 18番、黒岩美俊君。

議員（18番 黒岩 美俊君） 今、6番議員の小宮議員から、そのような申し出があっていますが、私もちょっと午前中は出席して、午後はちょっと急用で早退したわけで、事情は全くわからないわけですから、その点も2番議員、一つ詳しく説明してください。

議長（波田 政和君） それでは、提出者の責任のもとということで、再度よろしくお願ひします。2番、永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） それでは、くしくも欠席をされてあったということですが、しかしこの場内で起こったことは、やっぱり逐一会派のそういう会議、そういうような中で十分お話は聞かれてあろうかと思っております。そのとおりでございますので、その程度で御勘弁をいただきたいと思ひます。

議長（波田 政和君） 議長から一言よろしいでしょうか。今、詳細をちゅう話があつていますが、けれども、どうですかね、それだけでは欠席してある方が納得できないちゅうことなんですけど、要するに委員長を辞職するんだと、勧告するんだという以上は、やっぱりそれなりのものがなければ、一人の役職を持った人が要するに辞職するかせんかの瀬戸際なんですよね。だからそこら辺で私からもお願ひですけども、もしそれ以上の説明がなされるかなされないかだけ答えてください。2番、永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） それ以上の説明が必要でしょうか。（「わかつておりませんよ」と呼ぶ者あり）私はもう大多数の圧倒的多数の議員の目前で起こったことですから、それはもうその必要はないと思ひます。（「議長、休憩をお願いします」と呼ぶ者あり）

議長（波田 政和君） 休憩します。

午後2時34分休憩

.....
午後2時40分再開

議長（波田 政和君） それでは、再開します。

提出者と質問者のやり取りが十分じゃないところもあったかと思ひますけれども、進行させていただきます。

それでは、確認の意味で、質疑はもうございませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） それでは、討論を行いたいと思いますが、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） これで討論を終わります。

これから発議第15号、対馬市議会運営委員の辞任勧告決議についてを採決します。この採決は起立によって行います。本案は、原案のとおり……（「投票」と呼ぶ者あり）それでは投票の声がかかりましたので。ただいまの議長の起立の宣告に対し、無記名投票でよろしいのでしょうか。無記名投票による採決の要求がありました。会議規則第70条第2項の規定により、3人以上の賛成者が必要であります。無記名投票採決を求める方の起立を願います。

〔賛成者起立〕

議長（波田 政和君） 起立が3人以上であります。要求は成立しました。したがって、発議第15号は無記名投票で行います。

議場出入り口を封鎖します。

〔議場閉鎖〕

議長（波田 政和君） ただいまの出席議員は22人です。

投票箱を点検します。職員は議員に向かって投票箱を見せ、異状のない旨を議長に報告してください。

〔投票箱点検〕

議長（波田 政和君） 投票箱は異状なしと認めます。

投票用紙を配付します。

〔投票用紙配付〕

議長（波田 政和君） 投票用紙の配付漏れはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 配付漏れなしと認めます。

念のために申し上げます。本件に賛成の方は賛成と、反対の方は反対と記載し、1番議員より順次投票願います。

〔議員投票〕

.....

1番	小西 明範議員	2番	永留 邦次議員
3番	小宮 教義議員	4番	阿比留光雄議員
5番	三山 幸男議員	6番	小宮 政利議員
7番	初村 久藏議員	8番	吉見 優子議員
9番	糸瀬 一彦議員	10番	桐谷 徹議員

12番	大浦 孝司議員	14番	大部 初幸議員
15番	兵頭 榮議員	16番	上野洋次郎議員
17番	作元 義文議員	18番	黒岩 美俊議員
19番	島居 邦嗣議員	20番	武本 哲勇議員
21番	中原 康博議員	22番	桐谷 正義議員
24番	扇 作工門議員	25番	畑島 孝吉議員

.....
議長（波田 政和君） 投票漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 投票漏れなしと認めます。投票を終了します。

議場の出入り口を開いてください。

〔議場開鎖〕

議長（波田 政和君） 開票を行います。会議規則第31条第2項の規定によって、立会人に作元義文君、及び黒岩美俊君を指名します。両議員の立ち会いをお願いします。

〔開票〕

議長（波田 政和君） 後ろはちょっと私語を慎んでもらいたいと思いますが。

投票結果を報告します。

投票総数22票、これは先ほどの出席議員数に符合しております。そのうち、有効投票21票、無効投票1票、有効投票中、賛成17票、反対4票。したがって、発議第15号は原案のとおり可決されました。

暫時休憩します。3時5分から再開します。

午後2時52分休憩

.....
午後3時05分再開

副議長（畑島 孝吉君） 再開いたします。

議員（11番 宮原 五男君） 議長、11番、よろしいですかね。

副議長（畑島 孝吉君） 宮原議員、本会議中がよいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）発言を許します。

議員（11番 宮原 五男君） このたび私の議会運営委員会として、委員の辞任勧告決議案が動議で提出されまして、裁定が下りまして、可決という裁定が下ったわけでございます。私自身も先ほど話しましたとおり、この裁定を真摯に受けとめまして、早急に議会運営委員会の委員としての進退の処遇を明らかにしたいと思います。どうもいろいろ迷惑をかけました。

追加日程第5・発議第16号

副議長（畑島 孝吉君） 追加日程第5、発議第16号、対馬市議会議長の不信任決議についてを議題とします。

地方自治法第117号の規定により、波田政和君の退場を求めます。

〔波田 政和君 退場〕

副議長（畑島 孝吉君） 本案について、提出者の提案理由の説明を求めます。永留邦次君。

議員（2番 永留 邦次君） 発議第16号につきまして、引き続き御提案申し上げます。

平成18年9月28日、対馬市議会議長波田政和様。提出者、対馬市議会議員永留邦次、賛成者、対馬市議会議員初村久藏、同扇作工門、同大浦孝司、同阿比留光雄。

対馬市議会議長の不信任決議について、上記の議案を別紙のとおり、会議規則第14条の規定により提出します。

対馬市議会議長の不信任決議案、本議会は、対馬市議会議長波田政和君に対し、次の理由により信任しないことを議決する。理由であります。平成18年9月21日、第3回対馬市議会定例会本会議終了後の全員協議会において、議長波田政和君と議会運営委員長の宮原五男君との間に生じた議員としてのあるまじき行為は、神聖なる議会議場で常軌を逸脱した振る舞いである。そもそも議会は、住民の代表である議員をもって構成し、その権威と秩序の維持、及び議員としての品位の保持を強く求められているところであります。それぞれが最もこれを意識し、住民の代表たるにふさわしい議員であることを自覚し、行動しなければならないことは当然のことです。地方自治法でも会議規則においても規制をされているところであります。

このようなことを考えあわせるとき、両君の係る行為はいかなる理由、弁明がされようとも正当化されず、現在の置かれた職責に自覚がないことを意味するものであります。よって、議長不信任とするものであります。以上、決議する。平成18年9月28日、対馬市議会。よろしくお願いたします。

副議長（畑島 孝吉君） これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

副議長（畑島 孝吉君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

副議長（畑島 孝吉君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから発議第16号、対馬市議会議長の不信任決議についてを採決します。この採決は起立によって行います。（「投票」と呼ぶ者あり）ただいまの副議長の起立の宣告に対し、無記名投

票による採決の要求がありました。会議規則第70条第2項の規定により、3人以上の賛成者が必要であります。無記名投票採決を求める方は起立を願います。

〔賛成者起立〕

副議長（畑島 孝吉君） はい。よろしゅうございます。起立3人以上であり、要求は成立しました。したがって、発議第16号は無記名投票で行います。

議場の出入り口を閉じます。

〔議場閉鎖〕

副議長（畑島 孝吉君） ただいまの出席議員は22人であります。

投票箱を点検します。職員は議員に向かって投票箱を見せ、異状ない旨を議長に報告してください。

〔投票箱点検〕

副議長（畑島 孝吉君） 異状なしと認めます。

投票用紙を配付します。

〔投票用紙配付〕

副議長（畑島 孝吉君） 暫時休憩します。

午後3時15分休憩

.....
午後3時15分再開

副議長（畑島 孝吉君） 再開いたします。

投票用紙の配付漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

副議長（畑島 孝吉君） 配付漏れなしと認めます。

念のために申し上げます。本件に賛成の方は賛成、反対の方は反対と記載し、1番議員より順次投票願います。

〔議員投票〕

.....

1番	小西 明範議員	2番	永留 邦次議員
3番	小宮 教義議員	4番	阿比留光雄議員
5番	三山 幸男議員	6番	小宮 政利議員
7番	初村 久藏議員	8番	吉見 優子議員
9番	糸瀬 一彦議員	10番	桐谷 徹議員
11番	宮原 五男議員	12番	大浦 孝司議員

14番	大部 初幸議員	15番	兵頭 榮議員
16番	上野洋次郎議員	17番	作元 義文議員
18番	黒岩 美俊議員	19番	島居 邦嗣議員
20番	武本 哲勇議員	21番	中原 康博議員
22番	桐谷 正義議員	24番	扇 作工門議員

副議長（畑島 孝吉君） 念を入れて申し上げます。投票漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

副議長（畑島 孝吉君） 投票漏れなしと認めます。投票を終了します。

議場の出入り口を開きます。

〔議場開鎖〕

副議長（畑島 孝吉君） 開票を行います。会議規則第31条第2項の規定によって、立会人に島居邦嗣君及び武本哲勇君を指名します。両議員の立ち会い、お願いします。

〔開票〕

副議長（畑島 孝吉君） 暫時休憩します。

午後3時22分休憩

午後3時22分再開

副議長（畑島 孝吉君） 再開いたします。

投票結果を報告します。

投票総数22票、これは先ほどの出席議員数に符合しております。そのうち、有効投票19票、無効投票3票、有効投票中、賛成11票、反対8票。したがって、発議第16号は原案のとおり可決されました。

暫時休憩いたします。

午後3時23分休憩

午後3時24分再開

議長（波田 政和君） 再開します。

お諮りします。本会議における議決の結果、条項、字句、数字、その他において整理を有するものであるのではないかと思慮されます。その整理権を会議規則第43条の規定によって、議長に委任願います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（波田 政和君） 異議なしと認めます。したがって、整理権を議長に委任することに決定しました。

議長（波田 政和君） 以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

市長よりあいさつの申し出がっておりますので、お受けします。市長。

市長（松村 良幸君） 閉会に当たりまして、一言お礼のごあいさつを申し上げたいと思います。

本定例会におきましては、19日から本日までの10日間の長きにわたりまして、慎重に御審議をいただき、御提案申し上げましたすべての議案につきまして、御決定、御承認を賜りました。衷心より厚く御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

議決いただきました案件につきましては、適正な事務処理に努めまして、速やかに行政に反映できますよう努力をしてみたいと思います。

今、対馬市にとりまして、喫緊の課題であります企業誘致、あるいは一次産業の振興と観光振興につきましては、早速、対馬市一般職の任期付職員の採用等に関する条例を生かしつつ、全力で取り組んでまいり所存でございます。

また、御理解いただきました特別顧問等設置の制度の取り上げに当たりまして、これもまた、本市といたしましては、国境離島であるがゆえに、国際的にも地理的環境からいたしましても難題難問が山積をいたしております。そういった意味でも、外交も含め国際交流というこういったものを含めまして、専門的な立場からの御指導、御助言をいただけるよう努力をしてみたいと考えております。

エネルギー対策の分野におきましても、原油高の現況はもう皆さん、御承知のとおりであります。将来特にこのバイオマスということで、対馬島での今取り組んでいるものを、島内でのエネルギーができるようなそういった今緊急模索をしておりますが、非常に可能性が高いと判断をいたしております。こういった点でもアドバイザーをお願いをしたく考えておりますので、議員各位におかれましても、どうか御理解の上、特段の御配慮、御支援方をよろしくをお願いいたします。

次に、御案内とお知らせについて申し上げます。

まさにと言うよりも、そうですね、既に御案内を申し上げていることと存じますが、来る10月7日（土曜日）でございますが、対馬市交流センター落成式を予定をいたしております。議員職員には何かと御多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、御出席をいただきますよう重ねてお願いを申し上げます。

また、これは報告でございますが、環境省の野生生物保護センターの方から、ツシマヤマメコノ分散飼育についての報告がございましたので、この場をお借りいたしましてお知らせをいたし

ます。

なお、このことにつきましては、ツシマヤマネコの島内自然団体でありますツシマヤマネコを守る会、ツシマヤマネコ応援団、こういったところからもこの話に賛同されていることを聞き及んでおります。その点、申し添えておきます。

最後になりましたが、議員皆様の御健勝と御活躍を祈念をいたしまして、閉会のあいさつにかえさせていただきます。どうもありがとうございました。

議長（波田 政和君） 11番。

議員（11番 宮原 五男君） 市長にちょっとお話がありまして、私、もしかしたら議会運営委員長が最後になるかもしれませんので、ここでちょっと。運営委員会であった話をちょっと。

この間、出席の方には話して聞いてあると思いますけれども、「ちんぐ音楽祭」で不祥事が起こったということが新聞に出てたということで、その中で、市政方針の中で市長からの謝罪の言葉が出なかったと。やはり国際交流の中の学生の不祥事、それに対して市長の見解を聞きたいということになっておりましたので、できましたらここでそれに対しての見解をお願いしたいんですが。（「本会議でやるんですか。本会議でしたらいいですか」と呼ぶ者あり）本会議で。

議長（波田 政和君） わかりました。もう本会議できょうは終了しますので、市長、答弁、よろしくをお願いします。

市長（松村 良幸君） もうすべて責任で言えば、責任のないことは一つもないわけでございますので、この前、報告をいたしましたとおりでございます。

具体的に説明をしたがいんですか。陳謝はいたしますが、市長は陳謝がないじゃないかということで、委員会でお話があることも聞いております。（「陳謝もありますが、その言葉がちょっとあれだったということで。市政方針の中で」と呼ぶ者あり）あれは開会のあいさつの中で。（「開会のね」と呼ぶ者あり）閉会中の報告で。だから報告にとどめるものだと思っておりましたから、さらっと最後に幾つものの中の一つだったと思いますがね。最後に「ちんぐ音楽祭」も無事に終わりましたということですね。それが無事じゃないじゃないかということですか。（「そうそう。御意見がありましたので。ちょっと」と呼ぶ者あり）無事じゃないと、一つの物事をするにはいろんなことが起こるわけですが、これはもうだれしもよく御承知と思います。

そういう中で、市も実行委員会等がありますが、市も密接な関連をいたしておりますので、その後、終わった後、音楽祭は音楽祭、それは加害者と被害者と第一義的にはこういったことであります。市がその第一義的な当事者じゃございませんし、あるいは実行委員会もしかりであります。公に話すことでしたから、私はそういったことで「ちんぐ音楽祭」も無事終わりましたということですが。そういった中で、音楽祭の関連ではありますが、ボランティアの人がもう10何回ですかね、100人、あるいは100何十人というこれはボランティアが動いた音楽祭でござ

いますが、韓国の方からもボランティア参加をしております。日本の方からももちろんそうなんです。そういう中で、会議が終了した後の出来事であります。

そして、私的に、実行委員会といたしましては、会議が終わったからホテルの宿舎まで送り届けたということでこれで終わっております。ただ、あとそういった事件が起こりましたから、私どもも密接に関係もありますし、韓日交流協会の方からも事務局も来ておりましたし、あるいは領事館からの話もありましたし、親御さんらもそこに来ておりました。当然私どもとしましては、起こった出来事に対して対馬の市長として、対馬でこういったことが起こりまして遺憾に思いますということでいろいろお話をいたしました。よって、その後、人のアドバイス等もいただきながら、国際問題にならないように、実行委員会の会長であります外林会長をはじめ、会長、副会長、役員の皆さん、あるいは関係者の皆さん、そういった人らがいろいろ協議をしながら御理解を得るようにしております。最終的にお帰りになるときは空港まで送って行きました。言葉もいただきました。出会いが非常にこういった形の出会いになりましたが、対馬は非常にいいところですねと、私も仕事を終えたら、親御さんの話です。ぜひ対馬に住んでみたいような気がいたします。本当にいいところです。今度お会いするときは笑って話ができるように、一日も早く私どももこの状況から脱しまして、親子ともども再度いい気持ちで対馬を訪れたいと思いますという円満解決がなったとこのように思っております。

結果的には、いろんな人の 本当にいろんな人のおかげで無事、わざわざソウルまで行くことなく、対馬の中で滞在が1週間か10日ぐらいあったんでしょ、その範囲の中で無事解決ができましたので、「ちんぐ音楽祭」とは関連はありながら、「ちんぐ音楽祭」外の出来事として思っておりましたので、閉会中の市長の報告の中で、皆さんすべて同じようにさらっと流してこういうことがありましたということでございますので、考え方がいろいろありましようが、ひとつ報告にとどめることでしたので、音楽祭は無事に終わりましたということだったんですが、音楽祭外の時間外のこととございまして、本当にその点では遺憾に思います。

こういったことで、国際交流とかそういったことが損なわれないように、いろんな配慮をしながら、皆さんの配慮の上に、また当事者間でも円満に解決ができたということでございますので、改めて詳細を報告いたしまして、遺憾の意を表することで御理解を賜りたいと思います。

議長（波田 政和君） 閉会に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

9月19日に開会いたしました平成18年第3回定例会は、10日間の会期中で、各議案等終始熱心に御審議いただき、本定例会が滞りなく閉会することができましたが、議会人としてのモラルに欠けた行動を起こし、議員皆様をはじめ、市民の皆様方の期待を裏切ることとなり深く私は反省をしております。不信任を真摯に受けとめ、市民の皆様方に負託を受けた議会人として、今後のあり方を十分検討して前へ進みたいと思っております。

また、議員各位はもとより、市長はじめ市幹部職員の皆様の御協力を衷心よりお礼を申し上げます。また、審議の過程で出されました貴重な意見が、今後の行政運営に十分反映されることを期待いたします。

季節も紅葉の時期となり朝晩寒さを感じるようになりました。どうぞ健康には十分留意され、さらなる市政発展のため御尽力を賜りますようお願い申し上げまして、閉会のあいさつとさせていただきます。

会議を閉じます。平成18年第3回対馬市議会定例会を閉会します。大変お疲れさまでした。

午後3時38分閉会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

議 長 波田 政和

副 議 長 畑島 孝吉

署名議員 兵頭 榮

署名議員 上野洋次郎